平成 18 年度　大阪湾広域廃棄物処理場整備事業

海生生物育成調査

報 告 書

平成 19 年 3 月

（財）ひょうご環境創造協会

目　次

第１章　調査概要
１．調査目的 ---- 1
２．調査実施日 ---- 1
３．調査場所 ---- 1
４．調査内容 ---- 3
５．調査方法 ---- 4

第２章　春季調査結果
１．調査実施日 ---- 6
２．水質調査
(1) 一般観測 ---- 6
(2) 機器測定 ---- 8
３．生物調査
(1) 目視観察 ---- 16
(2) 枠取り採取及び分析 ---- 36

第３章　夏季調査結果
１．調査実施日 ---- 40
２．水質調査
(1) 一般観測 ---- 40
(2) 機器測定 ---- 42
３．生物調査
(1) 目視観察 ---- 50
(2) 枠取り採取及び分析 ---- 75

第４章　秋季調査結果
１．調査実施日 ---- 79
２．水質調査
(1) 一般観測 ---- 79
(2) 機器測定 ---- 81
３．生物調査
(1) 目視観察 ---- 89
(2) 枠取り採取及び分析 ---- 112

第５章　冬季調査結果
１．調査実施日 ---------- 116
２．水質調査
(1) 一般観測 ---------- 116
(2) 機器測定 ---------- 118
３．生物調査
(1) 目視観察 ---------- 126
(2) 枠取り採取及び分析 ---------- 147

第６章　考 察 ---------- 151

資料編
・枠取り分析結果
・写真集

第１章　調査概要

１．調査目的

本調査は、神戸沖、尼崎沖、大阪沖、泉大津沖の各処分場において、潜水による生物の目視観察及び枠取り採取を実施し、海生生物の生息状況、神戸沖処分場及び大阪沖処分場に導入した緩傾斜式石積み護岸が有する「海生生物の生息環境の保全・創造効果」を検討することを目的とする。

２．調査実施日

(1) 春季調査　　平成１８年　５月２７日～平成１８年　６月　４日
(2) 夏季調査　　平成１８年　８月　３日～平成１８年　８月　６日
(3) 秋季調査　　平成１８年１１月１０日～平成１８年１１月１８日
(4) 冬季調査　　平成１９年　２月　１日～平成１９年　２月　８日

３．調査場所

(1) 神戸沖処分場

調査地点は、傾斜構造を有する４地点（Ａ－１～４）、直立構造を有する２地点（Ａ－５、６）の計６点に設定した。（図１－３－１）

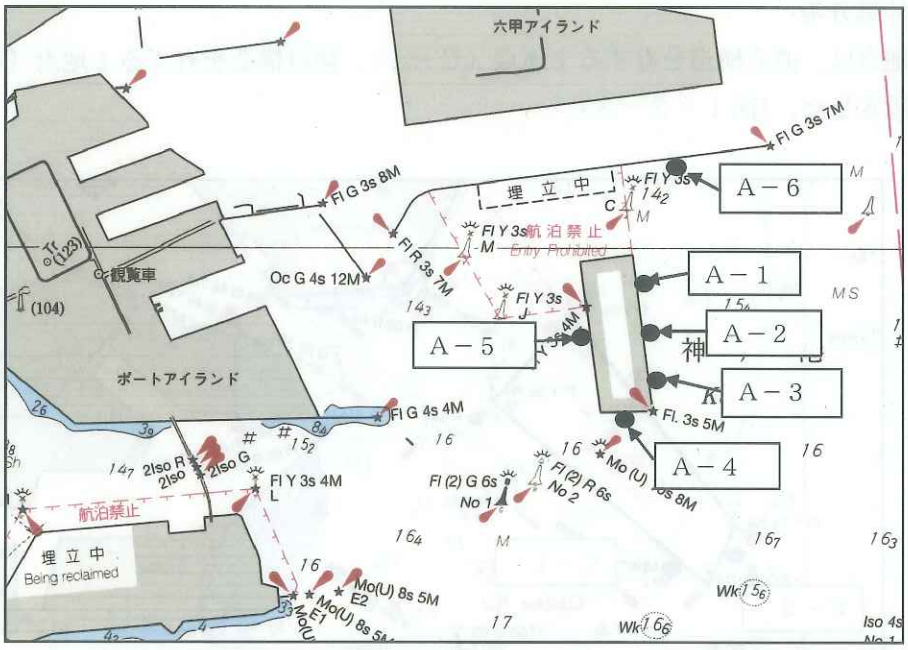

図１－３－１　神戸沖処分場調査地点

(2) 尼崎沖処分場

調査地点は、直立構造を有する４地点（Ｂ－１～４）に設定した。（図１－３－２）

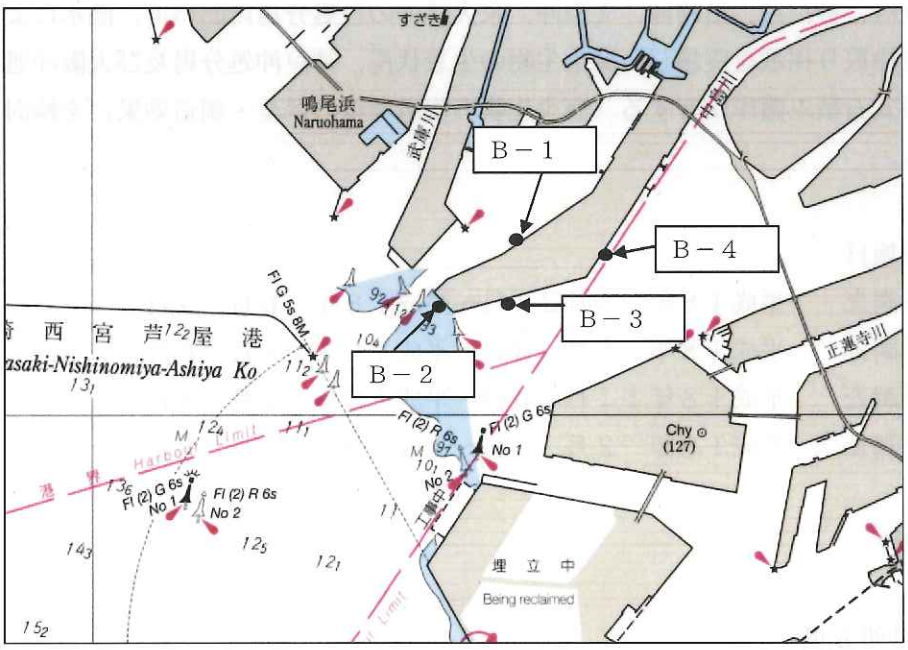

図１－３－２　尼崎沖処分場調査地点

(3) 大阪沖処分場

調査地点は、直立構造を有する１地点（Ｃ－１）、傾斜構造を有する１地点（Ｃ－２）の計２点に設定した。（図１－３－３）

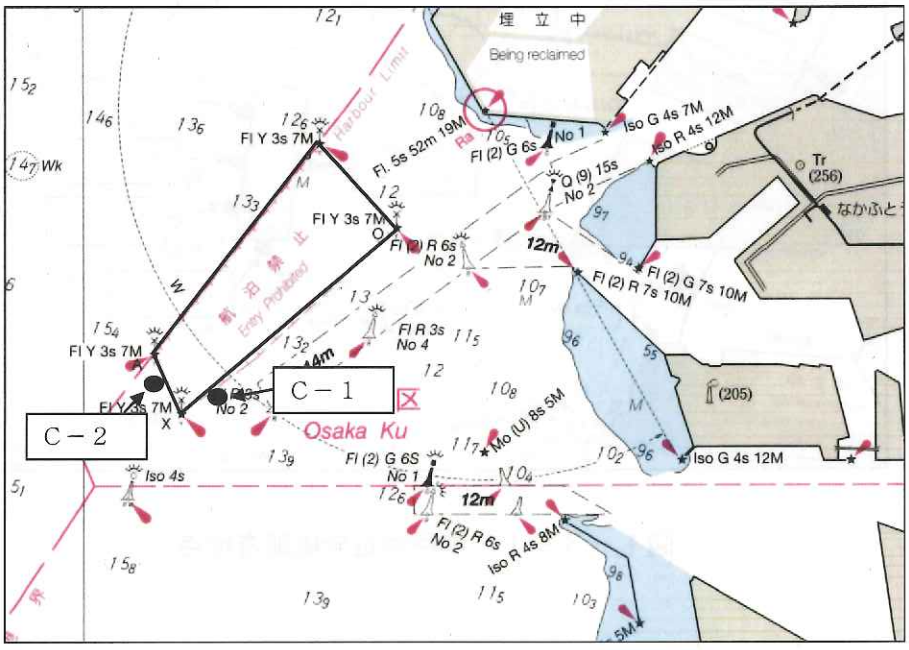

図１－３－３　大阪沖処分場調査地点

(4) 泉大津沖処分場

調査地点は、直立構造を有する２地点（Ｄ－１、３）、傾斜構造を有する２地点（Ｄ－２、４）の計４点に設定した。（図１－３－４）

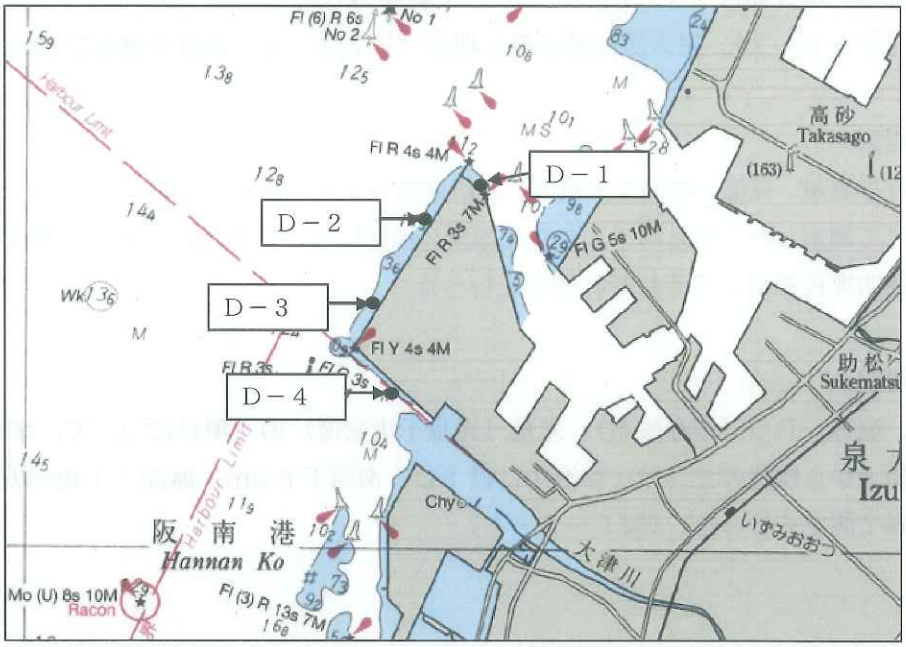

図１－３－４　泉大津沖処分場調査地点

４．調査内容

調査内容は、各調査地点における水質環境を把握するための水質調査（一般観測・機器測定）、生物の分布状況を把握するための生物調査（目視観察・枠取り採取及び分析）である。

調査内容及び項目を表１－４－１に示した。

表１－４－１　調査内容及び項目

調査内容		調査項目	調査方法	数量
水質	一般観測	天候・雲量・気温 風向・風速・風浪階級 水色・透明度	目視観測・機器観測	９地点 （Ａ－２、４、６） （Ｂ－２、４） （Ｃ－１、２） （Ｄ－２、４）
	機器測定	水温・塩分・ＤＯ・光量	機器観測（海面下 0.5m、以深１ｍ間隔）	
生物	目視観察	植物（種類・被度） 動物（種類・個体数・被度） 魚類（種類・個体数）	目視観察・写真撮影 ビデオ撮影	15 地点 （Ａ－１～５） （Ｂ－１～４） （Ｃ－１～２） （Ｄ－１～４）
	枠取り採取及び分析	植物（種類・湿重量） 動物（種類・個体数・湿重量）	枠取り採取・写真撮影 室内分析	４地点 （Ａ－２）（Ｂ－２） （Ｃ－２）（Ｄ－２）

5．調査方法

⑴ 水質調査

神戸沖処分場３地点（Ａ－２、４、６）、尼崎沖処分場２地点（Ｂ－２、４）、大阪沖処分場２地点（Ｃ－１、２）、泉大津沖処分場２地点（Ｂ－２、４）の計９地点において行った。

① 一般観測

天候及び雲量、気温、風向及び風速、風浪階級、水色、透明度を船上からの目視観測及び機器観測にて測定した。気温はアスマン乾湿計、風速はビラム通風計、水色は標準色カード、透明度は透明度板を用いてそれぞれ測定を行った。

② 機器測定

水温、塩分、ＤＯ（溶存酸素）、光量（光量子束密度）の４項目について、水質測定器を使用し、船上から機器のセンサーを海中に投下し、海面下0.5m、海面下1.0m以深については１m間隔で測定を行った。（図１－５－１）

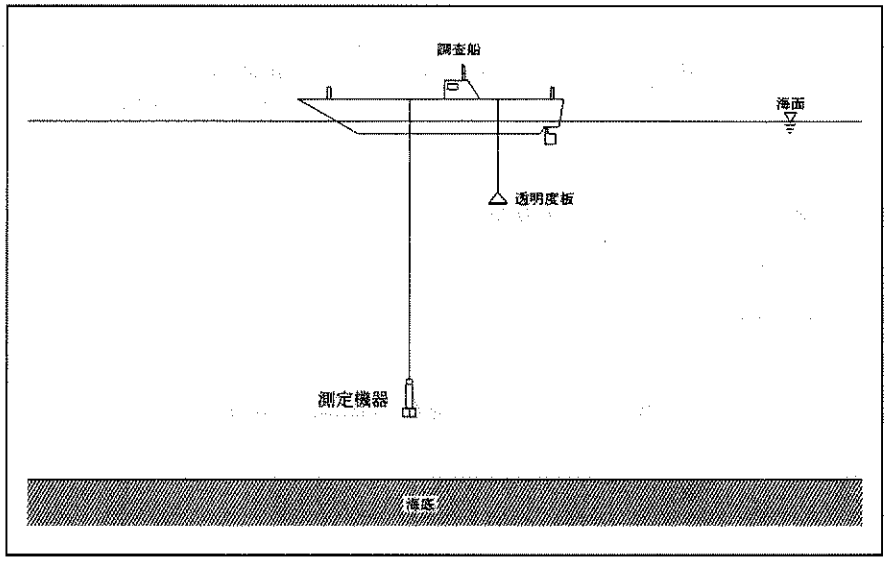

図１－５－１　　機器測定状況

(2) 生物調査

① 目視観察

神戸沖処分場５地点（Ａ－１～５）、尼崎沖処分場４地点（Ｂ－１～４）、大阪沖処分場２地点（Ｃ－１、２）、泉大津沖処分場４地点（Ｂ－１～４）の計 15 地点において、50×50cm の方形枠を用い、平均海面＋１ｍより海底面まで１ｍごとに植物（種類、被度）、動物（種類、個体数、被度）の潜水目視観察を行い、写真撮影を行った。また、護岸周辺の魚類（種類、個体数、大きさ）を潜水目視観察し、基質の表記は表１－５－１の類型区分に従った。

② 枠取り採取及び分析

神戸沖処分場１地点（Ａ－２）、尼崎沖処分場１地点（Ｂ－２）、大阪沖処分場１地点（Ｃ－２）、泉大津沖処分場１地点（Ｂ－２）の計４地点において、上層（平均海面±０ｍ）、中層（平均海面－２ｍ）、下層（平均海面－４ｍ）の３層において潜水により 50×50cm 枠内の付着生物を採取し、10％ホルマリン溶液で固定して持ち帰り、１mm ふるい上に残った生物の種類、個体数（動物のみ）、湿重量の分析を行った。

海藻分類の門及び綱の配列順序は、千原編「藻類多様性の生物学」（1997）、目以下のカテゴリーについては、吉田･吉永･中嶋「日本産海藻目録」（2000）に従い、動物分類の門及び綱の配列順序は、文部省「学術用語集（動物学編）」（1991）、目以下のカテゴリーについては、原則として「新日本動物図鑑（上･中･下）」（1982）に従った。

表１－５－１　基質の類型区分表

記号	区分の基準
B　(ブロック)	―
R　(岩盤)	―
S　(転石)	等身大以上
Pl　(巨礫)	等身大～大人の頭
Pm　(大礫)	大人の頭～こぶし大
Ps　(小礫)	こぶし大～米粒大
Sd　(砂)	米粒大以下～粒子が認められる程度
Md　(砂)	粒子が認められない

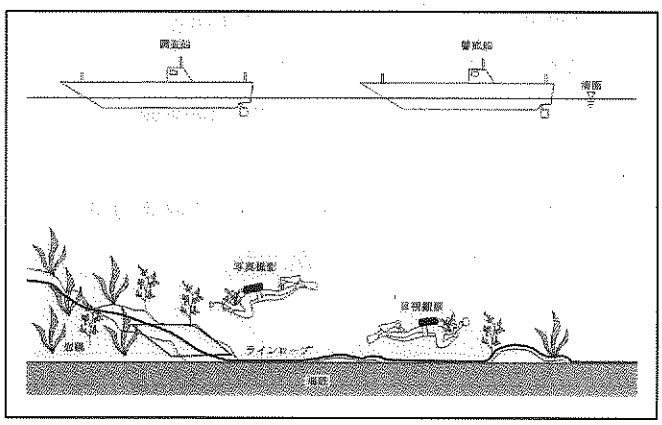

図１－５－２　潜水作業状況

第２章　春季調査結果

１．調査実施日

神戸沖処分場　　平成１８年　５月２８日
尼崎沖処分場　　平成１８年　５月２７日
大阪沖処分場　　平成１８年　６月　３日
泉大津沖処分場　平成１８年　６月　４日

２．水質調査

(1) 一般観測

一般観測結果を表２－１－１に示した。

① 天気・雲量・気温

A．神戸沖では天気は晴、雲量は２～７、気温は 19.9～21.5℃であった。
B．尼崎沖では天気はくもり、雲量は９、気温は 19.4～22.8℃であった。
C．大阪沖では天気は晴、雲量は７、気温は 23.1～25.9℃であった。
D．泉大津沖では天気は晴のちくもり、雲量は７～10、気温は 24.0～25.0℃であった。

② 風浪階級・風向・風速

A．神戸沖では風浪階級は１、風速は 2.4～3.3m/ｓ、風向は南西であった。
B．尼崎沖では風浪階級は１～２、風速は 0.7～7.0m/ｓ、風向は東北東から東南東であった。
C．大阪沖では風浪階級は１、風速は 4.3～4.5m/ｓ、風向は北東であった。
D．泉大津沖では風浪階級は１、風速は 1.9～2.5m/ｓ、風向は南西であった。

③ 透明度・水色

A．神戸沖では透明度は 2.4～2.6m、水色はすべての調査地点でボトルグリーンであった。
B．尼崎沖では透明度は 2.1～3.5m、水色は調査地点Ｂ－２でフォレストグリーン、調査地点Ｂ－４でボトルグリーンであった。
C．大阪沖では透明度は 2.5～3.0m、水色は調査地点Ｃ－１でオリーブグリーン、調査地点Ｃ－２でボトルグリーンであった。
D．泉大津沖では透明度は 3.9～7.1m、水色は調査地点Ｄ－２でフォレストグリーン、調査地点Ｄ－４でボトルグリーンであった。

表２－１－１　一般観測結果

神戸沖 （５月28日）	調査地点	Ａ－２	Ａ－４	Ａ－６
	調査時間	9：46～10：08	10：26～10：59	8：37～9：29
	天気・雲量	晴・2	晴・7	晴・6
	風浪階級	1	1	1
	気温	21.5℃	19.9℃	20.4℃
	風速・風向	2.4m/ｓ・南西	2.7m/ｓ・南西	3.3m/ｓ・南西
	水深	16.3m	16.5m	14.4m
	透明度	2.6m	2.6m	2.4m
	水色	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.6
尼崎沖 （５月27日）	調査地点	Ｂ－２	Ｂ－４	
	調査時間	10:30～11:40	8:30～9:40	
	天気・雲量	くもり・9	くもり・9	
	風浪階級	1	2	
	気温	22.8℃	19.4℃	
	風速・風向	0.7m/ｓ・東南東	7.0m/ｓ・東北東	
	水深	6.5m	6.4m	
	透明度	3.5m	2.1m	
	水色	ﾌｫﾚｽﾄｸﾞﾘｰﾝ 9G2.5/4.5	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.6	
大阪沖 （６月３日）	調査地点	Ｃ－１	Ｃ－２	
	調査時間	9：00～10：20	10：35～12：00	
	天気・雲量	晴・7	晴・7	
	風浪階級	1	1	
	気温	23.1℃	25.9℃	
	風速・風向	4.5m/ｓ・北東	4.3m/ｓ・北東	
	水深	13.0m	13.5m	
	透明度	2.5m	3.0m	
	水色	ｵﾘｰﾌﾞｸﾞﾘｰﾝ 3GY3.5/5.0	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.6	
泉大津沖 （６月４日）	調査地点	Ｄ－２	Ｄ－４	
	調査時間	11：32～12：09	14：10～14：32	
	天気・雲量	晴・7	くもり・10	
	風浪階級	1	1	
	気温	24.0℃	25.0℃	
	風速・風向	1.9m/ｓ・南西	2.5m/ｓ・南西	
	水深	12.7m	14.9m	
	透明度	7.1m	3.9m	
	水色	ﾌｫﾚｽﾄｸﾞﾘｰﾝ 9G2.5/4.5	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.6	

(2) 機器測定

機器測定結果の概要を表２－１－２、図２－１－１、鉛直分布を図２－１－２に示した。

① 水温

A．神戸沖では水温は 13.8～18.4℃の範囲を示した。調査地点Ａ－４の表面で他の地点よりもやや高った。調査地点Ａ－２では水深－4.0～6.0mで１℃程度、調査地点Ａ－６では水深－6.0～8.0mで１℃程度、調査地点Ａ－４では水深－0.5～2.0mで２℃程度変化し、他の水深帯では海底に近づくにつれて緩やかに低くなった。

B．尼崎沖では水温は 14.5～17.0℃の範囲を示した。調査地点Ｂ－２では水深－1.0～3.0m、調査地点Ｂ－４では水深±0.0～－1.0mで２℃程度変化し、他の水深帯では海底に近づくにつれて緩やかに低くなった。

C．大阪沖では水温は 16.3～19.7℃の範囲を示した。調査地点Ｃ－１では水深－1.0～3.0mで１℃程度、調査地点Ｃ－２では水深－1.0～3.0mで２℃程度変化し、他の水深帯では海底に近づくにつれて緩やかに低くなった。

D．泉大津沖では水温は 15.4～20.5℃の範囲を示した。調査地点Ｄ－２では水深－1.0～3.0mで３℃程度、調査地点Ｄ－４では水深－1.0～4.0mで４℃程度変化し、他の水深帯では海底に近づくにつれて緩やかに低くなった。

② 塩分

A．神戸沖では塩分は 26.2～32.1 の範囲を示した。調査地点Ａ－２では水深－4.0～6.0mで４程度、調査地点Ａ－４では水深－0.5～2.0mで４、水深－6.0～8.0mで３程度、調査地点Ａ－６では水深－1.0～2.0mで２、水深－6.0～8.0mで３程度変化し、その変化層以外の値はほぼ一様であった。

B．尼崎沖では塩分は 19.6～31.4 の範囲を示した。調査地点Ｂ－２では水深－1.0～4.0mで５程度、調査地点Ｂ－４では水深±0.0～－1.0mで 12 程度変化し、その変化層以外の値はほぼ一様であった。

C．大阪沖では塩分は 26.4～32.0 の範囲を示した。調査地点Ｃ－１では水深－1.0～3.0mで４程度変化し、水深－4.0～7.0mで１程度緩やかに変化し、その変化層以外の値はほぼ一様であった。調査地点Ｃ－２では水深－1.0～4.0mで５程度変化し、その変化層以外の値はほぼ一様であった。

D．泉大津沖では塩分は 28.9～32.0 の範囲を示した。調査地点Ｄ－２では水深－1.0～－4.0mで１程度、調査地点Ｄ－４では水深－1.0～4.0mで２程度緩やかに変化し、その変化層以外の値はほぼ一様であった。

③ ＤＯ

Ａ．神戸沖ではＤＯは 0.8～12.1mg/L の範囲を示した。全調査地点とも海底に近づくにつれて値は緩やかに低くなった。

Ｂ．尼崎沖ではＤＯは 3.2～7.2 mg/L の範囲を示した。全調査地点とも海底に近づくにつれて値は緩やかに低くなった。

Ｃ．大阪沖ではＤＯは 4.5～12.9 mg/L の範囲を示した。調査地点Ｃ－１では水深－2.0～3.0ｍで３mg/L 程度、調査地点Ｃ－２では水深－1.0～2.0ｍで４mg/L 程度変化し、その変化点以外の水深帯では海底に近づくにつれて値は緩やかに低くなった。

Ｄ．泉大津沖ではＤＯは 1.1～9.7 mg/L の範囲を示した。調査地点Ｄ－２では表層から水深－2.0ｍにかけて中層より低い値を示し、調査地点Ｄ－４では表層から－4.0ｍにかけて中層より低い値を示した。他の水深帯では海底に近づくにつれて値は穏やかに低くなった。

④ 光量

Ａ．神戸沖では光量子束密度は 0.6～1,294.7μE/㎡/sec の範囲を示した。相対光量は調査地点Ａ－４の表層が他の調査地点よりも低かった。調査地点Ａ－２、６では水深±0.0～0.1ｍで大きく減少した。他の水深帯については海底に近づくにつれて値は緩やかに低くなった。

Ｂ．尼崎沖では光量子束密度は 17.1～905.9μE/㎡/sec の範囲を示した。相対光量は調査地点Ｂ－２では水深±0.0～0.5m、調査地点Ｂ－４では水深－0.5～1.0ｍで大きく減少し、他の水深帯については海底に近づくにつれて値は緩やかに低くなった。

Ｃ．大阪沖では光量子束密度は 9.9～1390.2μE/㎡/sec の範囲を示した。相対光量は調査地点Ｃ－１では水深±0.0～－1.0m、調査地点Ｃ－２では水深－0.5～1.0ｍで大きく変化し、他の水深帯では海底に近づくにつれて値は緩やかに低くなった。

Ｄ．泉大津沖では光量子束密度は 2.0～742.5μE/㎡/sec の範囲を示した。相対光量は調査地点Ｄ－２では他の調査地点とは違い、水深－4.0ｍまで 20％以上あった。調査地点Ｄ－４では海底に近づくにつれて値は緩やかに低くなった。

表２－１－２　水質測定結果概要表

調査地点＼項目(単位)		水温 (℃)	塩分 (－)	ＤＯ (mg/L)	相対光量 (%)	光量子束密度 (μE/m²/sec)
神戸沖	Ａ－２	13.8 ～16.8	28.5 ～32.1	0.8 ～10.1	0.1 ～62.4	2.3 ～1294.7
	Ａ－４	15.2 ～18.4	26.2 ～31.9	1.8 ～12.1	0.0 ～26.5	0.6 ～ 339.0
	Ａ－６	14.0 ～16.7	28.3 ～32.1	2.0 ～ 9.9	0.1 ～58.9	1.5 ～1197.3
尼崎沖	Ｂ－２	14.5 ～16.5	26.3 ～31.4	3.2 ～ 7.2	4.7 ～54.6	78.3 ～ 905.9
	Ｂ－４	14.7 ～17.0	19.6 ～31.3	4.2 ～ 7.1	2.0 ～54.7	17.1 ～ 470.5
大阪沖	Ｃ－１	16.3 ～19.3	26.4 ～31.9	4.5 ～12.6	0.5 ～73.5	9.9 ～1390.2
	Ｃ－２	16.9 ～19.7	26.6 ～32.0	6.5 ～12.9	1.3 ～58.2	28.3 ～1221.2
泉大津沖	Ｄ－２	15.4 ～19.8	30.9 ～32.0	2.8 ～ 7.5	5.4 ～63.2	63.8 ～ 742.5
	Ｄ－４	15.4 ～20.5	28.9 ～31.9	1.1 ～ 9.7	0.4 ～51.0	2.0 ～ 284.8

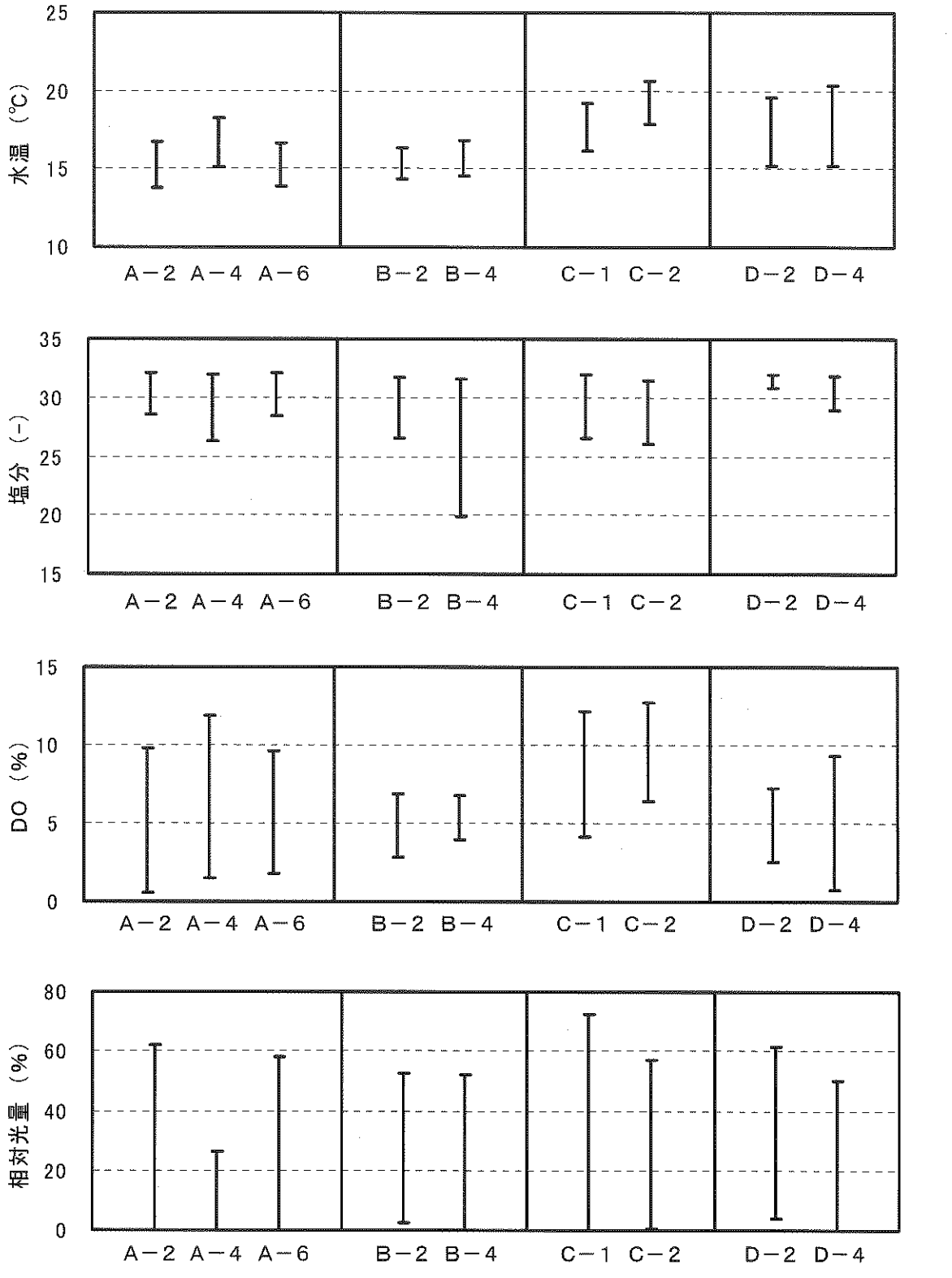

図２－１－１　水質測定結果概要図

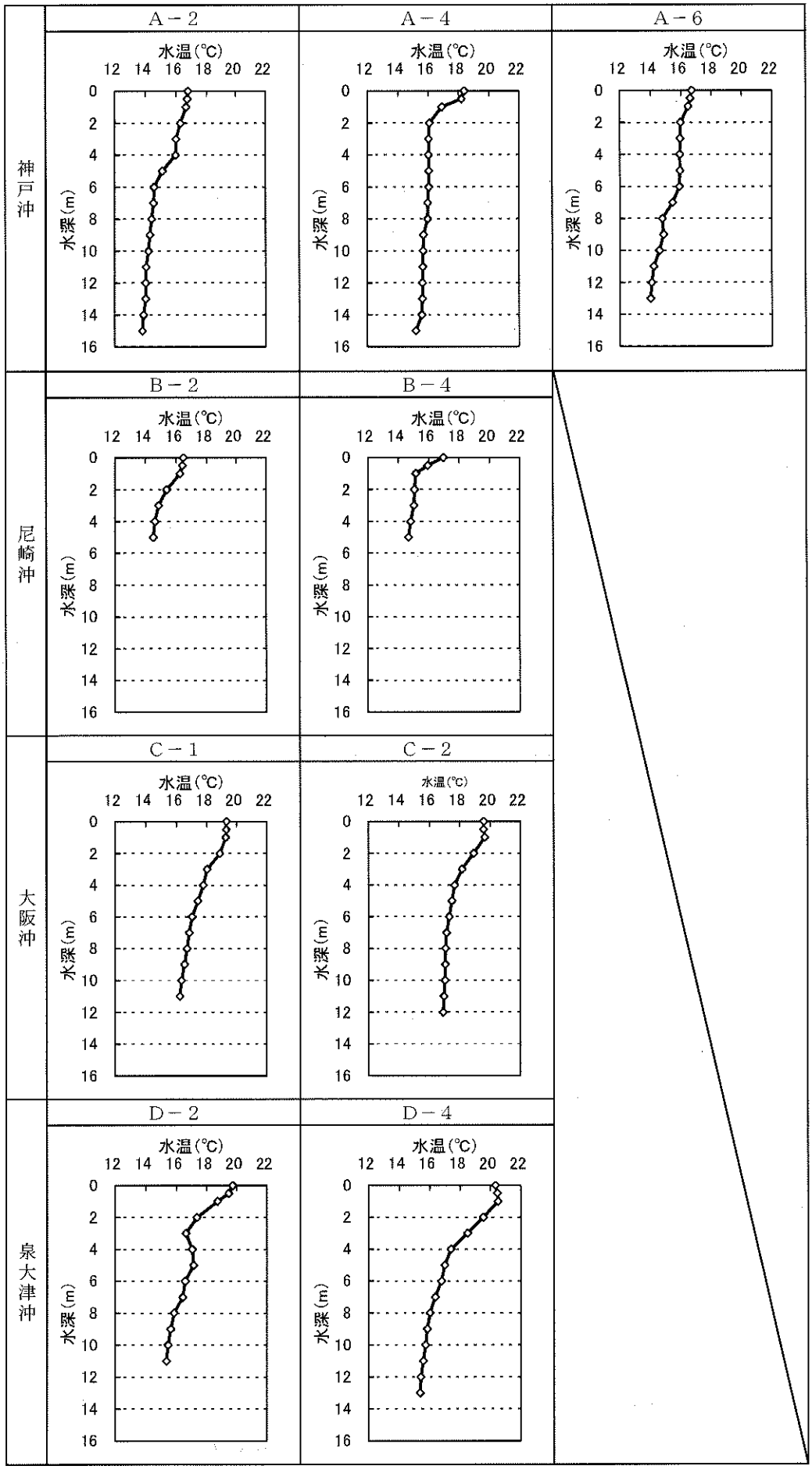

図２－１－２（１）　鉛直分布図（水温）

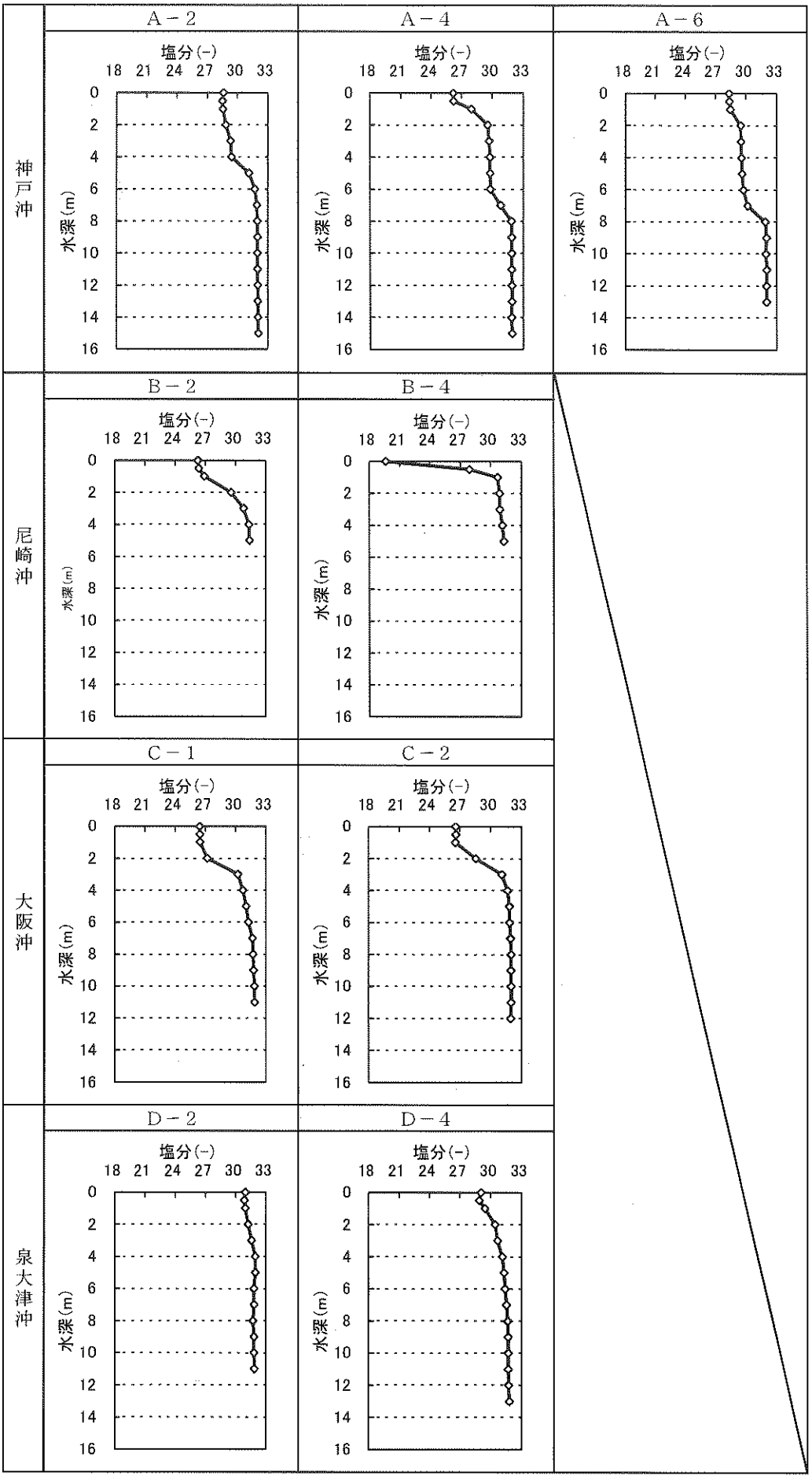

図２－１－２（２）　鉛直分布図（塩分）

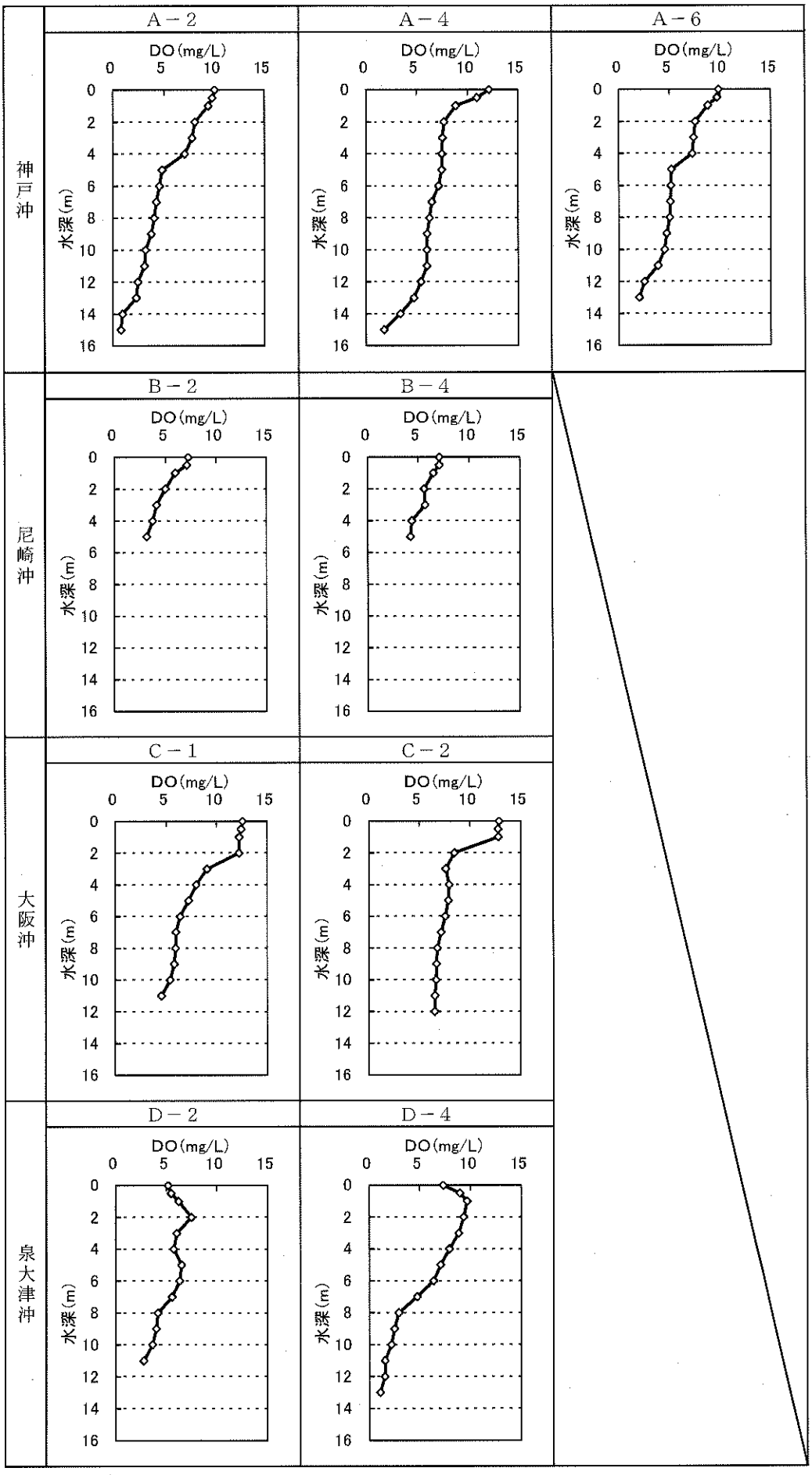

図２－１－２（３）　鉛直分布図（ＤＯ）

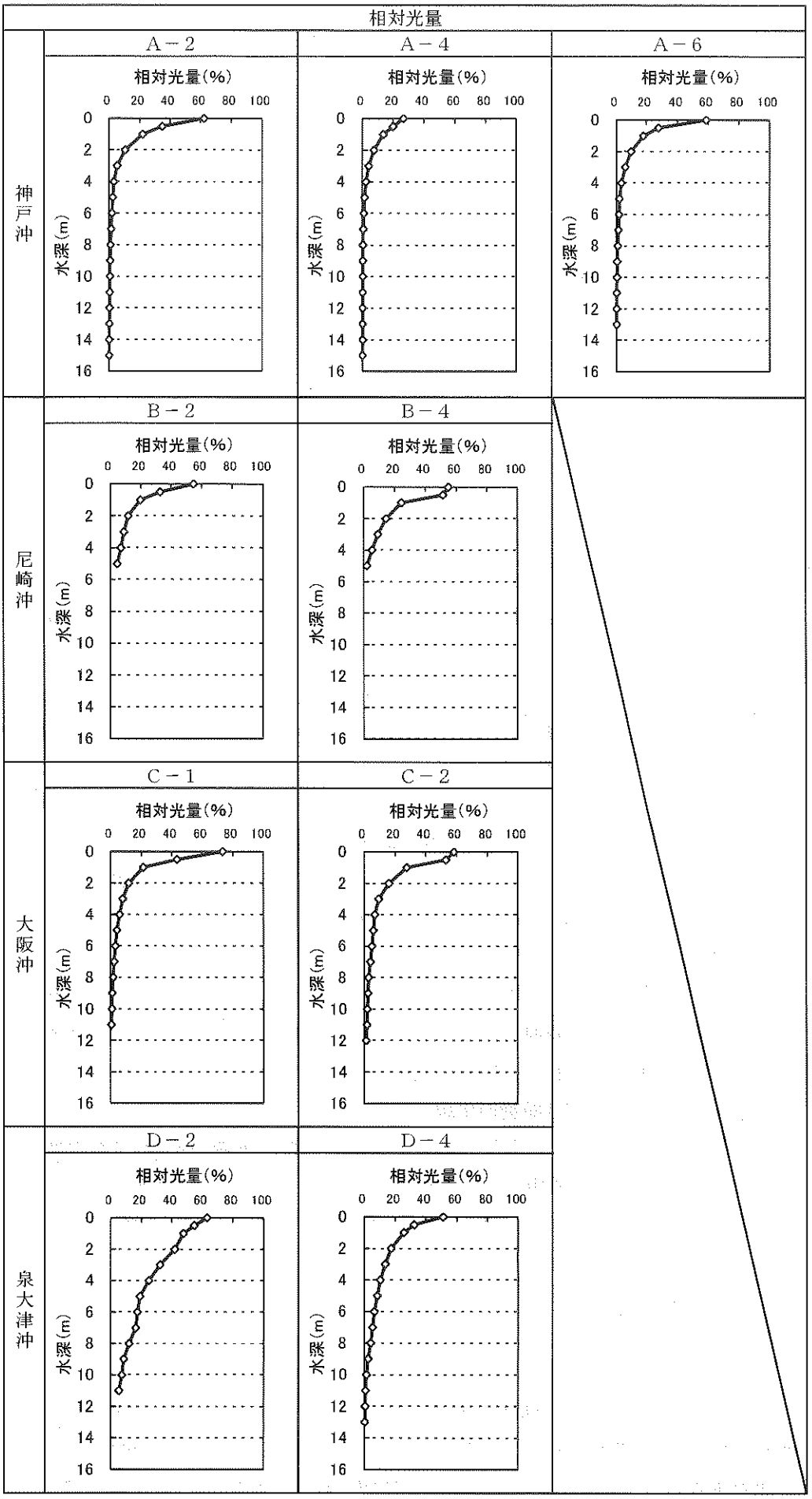

図２－１－２（４）　鉛直分布図（相対光量）

3．生物調査

(1) 目視観察

植物の目視観察の結果を表２－２－１、動物の目視観察の結果を表２－２－２、魚類の目視観察の結果を表２－２－３に示した。

① 植物

A．神戸沖処分場

調査地点Ａ－１では、16 種類の植物が確認された。水深±0.0m以浅では緑藻綱のアオノリ属、アオサ属が 70～80％、水深－2.0～3.0mでは藻場構成種の褐藻綱のタマハハキモクが 70～80％、水深－6.0mでは紅藻綱のススカケベニが 90％と多くみられた。種類数が多かったのは水深－3.0～5.0mで６～８種類であった。水深－10.0m以深では植物の出現はなかった。

調査地点Ａ－２では、16 種類の植物が確認された。水深＋1.0mでは緑藻綱のアオノリ属が 80％、水深±0.0～－4.0mの広い範囲で緑藻綱のアオサ属が 60～70％、水深－5.0～6.0mでは紅藻綱のススカケベニが 90％と多くみられた。藻場構成種の褐藻綱のタマハハキモクは水深－2.0mで 20％確認された。種類数が多かったのは水深－2.0mで 10 種類であった。水深－10.0mまで植物は確認された。

調査地点Ａ－３では、12 種類の植物が確認された。水深±0.0～4.0mまで緑藻綱のアオサ属が 20～40％、水深－1.0～2.0mまで紅藻綱のフダラクが 30～50％、水深－6.0～7.0mまで紅藻綱のススカケベニが 80％と多くみられた。藻場構成種の褐藻綱のタマハハキモクは水深－2.0～3.0mで 10％確認された。種類数が多かったのは水深－3.0～5.0mで５種類であった。水深－10.0mまで植物は確認された。

調査地点Ａ－４では、13 種類の植物が確認された。水深－1.0mで紅藻綱のフダラクが 50％、水深－2.0mで紅藻綱のイギス科が 50％、水深－4.0～5.0mでは紅藻綱のベニスナゴが 50～80％と多くみられた。種類数が多かったのは水深－1.0～5.0mで５～６種類であった。水深－8.0m以深では植物の出現はなかった。

調査地点Ａ－５では、８種類の植物が確認された。水深－4.0mで緑藻綱のアオサ属が 30％、水深－5.0mで紅藻綱のイギス科が 20％と多くみられた。藻場構成種の褐藻綱のシダモクが水深－6.0mでわずかに確認された。種類数が多かったのは水深－4.0mで６種類であった。水深－9.0m以深では植物の出現はなかった。

B．尼崎沖処分場

調査地点Ｂ－１、Ｂ－２では植物は確認されなかった。

調査地点Ｂ－３では、２種類の植物が確認された。水深±0.0mで緑藻綱のアオノリ属、水深－1.0mで藍藻綱がわずかに確認された。水深－2.0m以深では植物の出現はなかった。

調査地点Ｂ－４では、３種類の植物が確認された。水深±0.0mで緑藻綱のアオノリ属が 10％、水深－2.0mで珪藻綱が 15％、水深－3.0mで紅藻綱のイギス科がわずかにみられた。水深－4.0m以深では植物の出現はなかった。

C．大阪沖処分場

調査地点Ｃ－１では、８種類の植物が確認された。水深－1.0m～4.0mの広い範囲で緑藻綱のアオサ属が35～70％、水深－6.0mで紅藻綱のイギス科が35％と多くみられた。藻場構成種の褐藻綱のタマハハキモクが水深－3.0mで５％確認された。種類数が多かったのは水深－3.0m、－6.0mで４種類であった。水深－10.0mまで植物は確認された。

調査地点Ｃ－２では、15種類の植物が確認された。水深±0.0mで緑藻綱のアオノリ属が75％、水深－2.0～3.0mで緑藻綱のアオサ属が65～80％、水深－8.0mで褐藻綱のシオミドロ科が 40％と多くみられた。種類数が多かったのは水深－3.0～5.0mで５～６種類であった。水深－10.0mまで植物は確認された。

D．泉大津沖処分場

調査地点Ｄ－１では、６種類の植物が確認された。水深＋1.0mで緑藻綱のアオノリ属が20％、水深－1.0mで緑藻綱のアオサ属が20％と多く確認された。種類数が多かったのは水深－1.0mで５種類であった。水深－7.0m以深では植物の出現はなかった。

調査地点Ｄ－２では、12 種類の植物が確認された。水深－1.0～2.0mで紅藻綱のフダラクが40～60％、水深－3.0mで紅藻綱のイギス科が50％、水深－5.0～6.0mで紅藻綱のタオヤギソウが 50％と多く出現した。種類数が多かったのは水深－1.0～3.0mで６～７種類であった。水深－13.0m以深では植物の出現はなかった。

調査地点Ｄ－３では、11 種類の植物が確認された。水深－7.0～9.0mで紅藻綱のイギス科が50～80％と多くみられた。種類数が多かったのは水深－1.0mで８種類であった。水深－13.0m以深では植物の出現はなかった。

調査地点Ｄ－４では、６種類の植物が確認された。水深－2.0～5.0mで藻場構成種の褐藻綱のワカメが30～80％、水深－4.0～8.0mで紅藻綱のイギス科が30～40％と多くみられた。種類数が多かったのは水深－1.0～3.0mで４種類であった。水深－12.0m以深では植物の出現はなかった。

表２－２－１（１）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－１）

平成18年5月28日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
緑藻綱	アオノリ属	80	10										
	アオサ属		70	20	+	10	10						
	シオグサ属		+										
褐藻綱	タマハハキモク			5	80	70							
紅藻綱	アマノリ属	+	+										
	フダラク			40	5	10	+						
	ススカケベニ					+	+	40	90	40	10	+	
	イギス科					+	+	20	10	10	+	+	
	ベニスナゴ					+	50	30					
	ツノマタ属						+	+					
	ムカデノリ属						+	+					
	マクサ						+						
	イワノカワ科							+	+				
	タオヤギソウ								+				
藍藻綱	－	+											
珪藻綱	－	+											
出現種類数(16)		4	4	3	3	6	8	6	4	2	2	2	－

注：数値は被度（％）を示し，＋は５％未満を示す。

表２－２－１（２）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－２）

平成18年5月28日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
緑藻綱	アオノリ属	80	20	+									
	アオサ属		60	60	60	70	60	+					
褐藻綱	カヤモノリ		+										
	タマハハキモク				20								
紅藻綱	アマノリ属	+											
	フダラク		+	30	+	+							
	イトグサ属				+								
	オキツノリ				+								
	ツノマタ属				+								
	ムカデノリ属				+	+	+						
	ベニスナゴ				+	+							
	ツノマタ属				+								
	イギス科				+	10	10	10	10	10	10	+	
	ススカケベニ					10	20	90	90	40	10	+	+
	イワノカワ科						+						
珪藻綱	－		+										
出現種類数(16)		2	5	3	10	6	5	3	2	2	2	2	1

注：数値は被度（％）を示し，＋は５％未満を示す。

表２－２－１（３）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－３）

平成18年5月28日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
緑藻綱	アオサ属	+	20	40	20	40	30	+					
	アオノリ属	30	30										
	シオグサ属		+										
褐藻綱	タマハハキモク				10	10							
紅藻綱	アマノリ属	+											
	イトグサ属			+									
	フダラク			50	30	20	10	+					
	イギス科				+	10	10	10	10	20	20	+	+
	ベニスナゴ					+	20	20					
	ススカケベニ						+	10	80	80	20	+	
	イワノカワ科								+	+	+		
珪藻綱	珪藻綱		+										
出現種類数(12)		3	4	3	4	5	5	5	3	3	3	2	1

注：数値は被度（％）を示し，＋は５％未満を示す。

表２－２－１（４）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－４）

平成18年5月28日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	砂，小礫
緑藻綱	シオグサ属		+	+									
	アオサ属		+	10	+	+							
	アオノリ属			+	+								
褐藻綱	フクロノリ					+							
紅藻綱	フダラク			50	20	40	30						
	イギス科			10	50	10	+	+	+				
	ツノマタ属			+	+	+							
	ベニスナゴ					+	50	80					
	カバノリ						+		+				
	サビ亜科						+	+					
	ススカケベニ						+	20	+	+			
	イワノカワ科							+	+	+			
藍藻綱	藍藻綱		+										
出現種類数（13）		－	3	6	5	6	6	5	4	2	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表２－２－１（５）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－５）

平成18年5月28日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂，大礫
緑藻綱	アオサ属			+			30	+					
褐藻綱	フクロノリ						+						
	シダモク								+				
紅藻綱	ススカケベニ					+	10	10	+				
	ベニスナゴ					+	+						
	イギス科						10	20	+	+	+		
	フダラク						10						
	イワノカワ科								+				
出現種類数（8）		－	－	1	－	2	6	3	4	1	1	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表２－２－１（６）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－１）

平成18年5月27日

観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7
水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン，泥
出現なし							

表２－２－１（７）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－２）

平成18年5月27日

観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9
水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
出現なし									

表２－２－１（８）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－３）

平成18年5月27日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオノリ属		+								
藍藻綱	藍藻綱			+							
出現種類数(2)		－	1	1	－	－	－	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表２－２－１（９）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－４）

平成18年5月27日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
緑藻綱	アオノリ属		10						
紅藻綱	イギス科					+			
珪藻綱	珪藻綱				15				
出現種類数(3)		－	1	－	1	1	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表２－２－１（10）　植物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－１）

平成18年6月3日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
水深（m）		+1	0	1	2	3	3	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		10	55	40	35	70	60	40	10	5	+			
褐藻綱	タマハハキモク						5								
	シオミドロ科											15	10	5	
紅藻綱	サビ亜科			+	+	+	+	+							
	イワノカワ科						+	+							
	イギス科							+	5	25	35	5	10	+	+
	ススカケベニ										5				
	ダジア科										+				
出現種類数(8)		－	1	2	2	2	4	4	2	2	4	3	2	2	1

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表２－２－１（11）　植物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－２）

平成18年6月3日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオノリ属		75	5									
	アオサ属				65	80	20	25	+	+			
褐藻綱	タマハハキモク					+							
	アカモク						5						
	フクロノリ						+						
	シオミドロ科									+	40	10	+
紅藻綱	イトグサ属			+									
	ベニスナゴ					5							
	サビ亜科					+							
	イワノカワ科					+							
	イギス科					+	15	5	+				
	ダジア科						5	+	5	5			
	フダラク							10					
	ススカケベニ							+	10		+		
藍藻綱	藍藻綱		+										
出現種類数(15)		－	2	2	1	6	5	5	4	3	2	1	1

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表２－２－１（12）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－１）

平成18年6月4日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥
緑藻綱	アオノリ属	20	+	+										
	アオサ属		+	20	+	+	+							
	シオグサ属			+										
	ミル			+										
紅藻綱	イギス科			+	+									
藍藻綱	藍藻綱				+	+	+	+	+					
出現種類数(6)		1	2	5	3	2	2	1	1	－	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表２－２－１（13）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－２）

平成18年6月4日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオノリ属		5	10	+											
	アオサ属		+	+	+	+	+									
	シオグサ属		10	+	+											
紅藻綱	フダラク		10	40	60	20	30									
	イトグサ属		+	20	+											
	イギス科			+	+	50	20	10	10	50	60	30	30	10	+	
	ムカデノリ				+	+										
	タオヤギソウ					+	+	50	50	10	+					
	カバノリ					+	+	20	30	+	+					
	マクサ							+	+							
	ススカケベニ									+	+	+				
藍藻綱	藍藻綱	+														
出現種類数(12)		1	5	6	7	6	5	4	4	4	4	2	1	1	1	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表２－２－１（14）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－３）

平成18年6月4日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオサ属		+	+	+											
	アオノリ属		+	+												
	シオグサ属		+													
	ミル			+												
	ハネモ属			+	+											
褐藻綱	ワカメ			5	5		+									
紅藻綱	フダラク			5												
	イギス科			+	+	+	+	+	+	80	80	50	20	10	+	
	タオヤギソウ						+	+								
	ベニスナゴ									+						
藍藻綱	藍藻綱		+	+	+	10	10	10	10							
出現種類数(11)		－	4	8	5	2	4	3	2	2	1	1	1	1	1	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表２－２－１（15）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－４）

平成18年6月4日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
基質		ケーソン	ケーソン	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫,大礫	大礫	大礫	大礫	泥
緑藻綱	アオサ属		10	+	10	+	+	+											
	アオノリ属		+	+	+	+													
	シオグサ属		+	+															
	ミル								+										
褐藻綱	ワカメ			+	40	30	80	40	10										
紅藻綱	イギス科				10	20	30	30	40	40	40	20	10	+					
出現種類数(6)		－	3	4	4	4	3	3	3	1	1	1	1	1	－	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

② 動物

A．神戸沖処分場

調査地点Ａ－１では、17 種類の動物が確認された。被度をみると水深＋1.0mで節足動物門のイワフジツボ、水深－3.0～4.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～20％と多くみられた。触手動物門のコケムシ綱と脊索動物のホヤ綱（群体性）が被度５％未満と少ないものの広範囲で出現した。個体数をみると水深±0.0～－2.0mで軟体動物門のイボニシが３～７個体と多く、棘皮動物門のキヒトデが水深－1.0～9.0mと広範囲にみられた。種類数が多かったのは水深－1.0mで８個体であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点Ａ－２では、23 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 10％、水深－1.0～4.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～30％と多くみられた。触手動物門のアミコケムシ科が被度５％未満と少ないものの水深－4.0m以深の広範囲で出現した。個体数をみると水深－4.0～7.0mで棘皮動物門のキヒトデが３～８個体と多く、同じ動物門のイトマキヒトデが水深－2.0～10.0mと広範囲にみられた。種類数が多かったのは水深－1.0m、－6.0mで８種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点Ａ－３では、20 種類の動物が確認された。被度をみると水深＋1.0mで節足動物門のイワフジツボが 20％、水深－2.0～3.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10％と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のタマキビが 13 個体、水深－6.0～8.0mで棘皮動物門のキヒトデが３～８個体と多く、同じ動物門のイトマキヒトデが水深－4.0～10.0mと広範囲にみられた。種類数が多かったのは水深－2.0～4.0mで６種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点Ａ－４では、18 種類の動物が確認された。被度をみると水深＋1.0m～水深±0.0mで節足動物門のイワフジツボが 10～20％、水深±0.0～－1.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 20～70％、水深－2.0～3.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～20％と多くみられた。触手動物門のコケムシ綱が被度５％未満と少ないものの水深－1.0～6.0mの広範囲にみられた。個体数をみると水深±0.0mで軟体動物門のカラマツガイが 12 個体、水深－1.0mで軟体動物門のレイシガイが 21 個体と多く、棘皮動物門のキヒトデが水深－4.0～9.0mと広範囲にみられた。種類数が多かったのは水深±0.0～－1.0mで６～７種類であった。水深－10.0m以深で動物の出現はなかった。

調査地点Ａ－５では、19 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～－1.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 30～90％、水深－1.0～3.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 70～95％、水深－4.0～8.0mで節足動物門のサンカクフジツボが 10～30％と多くみられた。脊索動物門のユウレイボヤ属が被度５％と少ないものの水深－2.0～9.0mと広範囲にみられた。個体数をみると水深－5.0mで軟体動物門のウミフクロウが５個体、水深－4.0～8.0mで棘皮動物門のキヒトデが３～17 個体と多く確認された。種類数が多かったのは水深－4.0～6.0mで７種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

B．尼崎沖処分場

調査地点Ｂ－１では、15 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～4.0mで軟体動物門のムラサキイガイが15～100％、水深－3.0～5.0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が40～90％と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のタマキビが15個体、水深－2.0mで棘皮動物門のキヒトデが21個体と多くみられた。種類数が多かったのは水深－4.0mで９種類であった。水深－5.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｂ－２では、15 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～－3.0mで軟体動物門のムラサキイガイが50～100％、水深－5.0～7.0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 30～95％と多くみられた。環形動物門のカンザシゴカイ科が被度５％未満と少ないものの、水深－2.0～5.0mの広い範囲で確認された。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のタマキビが36個体、水深－2.0～3.0mで棘皮動物門のキヒトデが24～29個体と多くみられた。種類数が多かったのは水深－4.0～5.0mで７種類であった。水深－7.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｂ－３では、19 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0m～－4.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 35～100％、水深－4.0～7.0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 20～90％と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のタマキビが４個体、水深－5.0～6.0mで棘皮動物門のキヒトデが２～４個体と多くみられた。種類数が多かったのは水深－4.0～6.0mで７～８個体であった。水深－8.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｂ－４では、17 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～－1.0mで節足動物門の *Balanus* spp. が55～60％、水深－1.0～2.0mで軟体動物門のムラサキイガイが20％、水深－4.0～5.0mで刺胞動物のコケムシ綱が25～50％、同じ水深帯で環形動物門の多毛綱（泥巣）が 20～70％と多くみられた。環形動物門のカンザシゴカイ科が５％以下と少ないものの水深－1.0～6.0mと広範囲にみられた。個体数をみると水深－4.0mで軟体動物門のキヒトデが７個体、水深－6.0mで棘皮動物門のキヒトデが多くみられた。種類数が多かったのは水深－3.0～5.0mで７～８種類であった。水深－6.0mまで動物は出現した。

C．大阪沖処分場

調査地点Ｃ－１では、22 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 50％、水深－1.0～3.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 60～100％と多くみられた。環形動物門の多毛綱（泥巣）が 15％以下と少ないものの水深－3.0～10.0mと広範囲にみられた。個体数をみると水深±0.0mで軟体動物門のカラマツガイが11個体、同じ動物門のタマキビが68個体と多く出現した。種類数が多かったのは水深－4.0mで８種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｃ－２では、16 種類の動物が確認された。被度をみると水深－1.0mで軟体動物門のムラサキイガイが85％、水深－3.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が40％と多くみられた。個体数では－2.0mで軟体動物門のムギガイが４個体、棘皮動物門のキヒトデが個体数は少ないものの水深－2.0～10.0mと広範囲でみられた。種類数が多かったのは水深－9.0mで６種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

D．泉大津沖処分場

調査地点Ｄ－１では、28 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～－1.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 20～60%、水深－1.0～5.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 20～80%、水深－4.0～9.0mで触手動物門のコケムシ綱が 20～40%、水深－7.0～10.0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 20～70%と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のアラレタマキビが 65 個体、水深－1.0mで軟体動物門のレイシガイが 14 個体、水深－11.0mで棘皮動物門のキヒトデが 16 個体と多く出現した。種類数が多かったのは水深±0.0～－4.0mで９～10 種類であった。水深－11.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｄ－２では、22 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～－4.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 20～60%、水深－10.0～11.0mで触手動物門のアミコケムシ科が 20%と多くみられた。触手動物門のコケムシ綱が 10%以下と少ないものの水深－2.0～12.0mと広範囲で確認された。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のアラレタマキビが 43 個体、同じ動物門のカモガイが 29 個体、水深±0.0mで軟体動物門のイボニシが 16 個体、水深－3.0～12.0mの広範囲で棘皮動物門のイトマキヒトデが３～12 個体、水深－2.0～12.0mの広範囲で同じ動物門のキヒトデが２～15 個体と多くみられた。種類数が多かったのは水深－4.0～5.0mで８種類であった。水深－13.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｄ－３では、28 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～－2.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 20～70%、水深－1.0～5.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 30～80%、水深－6.0～12.0mで同じ動物門の多毛綱（泥巣）が 20～50%と多くみられた。脊索動物門のシロボヤとホヤ綱（群体性）が 10%以下と少ないものの水深－1.0～12.0mと広範囲に出現した。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のアラレタマキビが 232 個体、水深±0.0mで軟体動物門のユキノカサガイ科が 11 個体、水深－2.0mで棘皮動物門のキヒトデが 19 個体と多くみられた。また、キヒトデは水深－1.0～13.0mと広範囲に出現した。種類数が多かったのは水深－5.0mで 13 種類であった。水深－13.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｄ－４では、27 種類の動物が確認された。被度を見ると水深±0.0～－2.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 40～90%と多く、環形動物門の多毛綱（泥巣）と脊索動物門のユウレイボヤ属が 10%以下と少ないものの広範囲で確認された。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のアラレタマキビが 326 個体、水深±0.0mで軟体動物門のイボニシが 11 個体、水深－4.0mで軟体動物門のウミフクロウが 11 個体、水深－2.0～12.0mで棘皮動物のキヒトデが４～13 個体と多くみられた。種類数が多かったのは水深－3.0～5.0mで９～12 種類であった。水深－16.0 以深で動物の出現はなかった。

表２－２－２（１）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－１）

平成18年5月28日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
腔腸動物	シオガマサンゴ								+	+	+	+	
環形動物	カンザシゴカイ科			+	+	10	20	+	+				
触手動物	コケムシ綱			+	+	+	+	+	+	+	+	+	
	アミコケムシ科							+			+	+	+
軟体動物	アラレタマキビ	(3)											
	イボニシ	(1)	(3)		(7)								
	カラマツガイ	(1)											
	ムラサキイガイ		+	20									
	コシダカガンガラ			(1)									
	レイシガイ			(4)	(2)								
	ムギガイ			(6)		(3)							
	ウミフクロウ					(1)		(1)	(1)				
節足動物	イワフジツボ	10											
	ヤドカリ科						(1)						
棘皮動物	キヒトデ			(1)			(1)	(3)	(2)			(1)	
	イトマキヒトデ					(1)		(1)	(1)		(1)		
脊索動物	ホヤ綱（群体性）			+	+	+	+	+					
出現種類数(17)		4	2	8	5	6	5	7	6	2	4	4	1

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表２－２－２（２）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－２）

平成18年5月28日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
腔腸動物	ヒドロ虫綱		+	+									
	シオガマサンゴ									+	+	+	+
環形動物	カンザシゴカイ科			10	30	10	10	+	+				
触手動物	コケムシ綱			+					+				
	アミコケムシ科						+	+	+	+	+	+	+
軟体動物	ケガキ	+											
	カラマツガイ	(1)											
	タマキビ	(3)											
	ムラサキイガイ		10	+									
	イボニシ		(1)	(1)									
	コシダカガンガラ			(1)	(1)								
	レイシガイ			(2)	(1)								
	ウミフクロウ				(1)			(1)					
	ムギガイ								(3)				
節足動物	イワフジツボ	+											
	ヤドカリ科				(1)		(1)		(1)				
	サンカクフジツボ						+	+					
棘皮動物	イトマキヒトデ				(1)	(1)	(1)	(1)		(2)	(2)		(1)
	サンショウウニ						(2)						
	キヒトデ						(3)	(8)	(4)	(3)	(1)	(2)	(1)
	マナマコ							(1)	(1)				
脊索動物	ホヤ綱（群体性）			+									
	エボヤ								+			+	
出現種類数(23)		4	3	8	6	2	7	7	8	4	4	4	4

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表２－２－２（３）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－３）

平成18年5月28日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
腔腸動物	ヒドロ虫綱		+										
	シオガマサンゴ									+	+	+	+
環形動物	カンザシゴカイ科			+	10	10	+	+	1				
触手動物	コケムシ綱				1	1							
	アミコケムシ科									+	+	+	1
軟体動物	タマキビ	(13)											
	イボニシ	(1)	(4)	(3)									
	ヒザラガイ		(1)										
	ケガキ		+										
	コシダカガンガラ				(5)	(1)							
	ウミフクロウ					(2)							
	レイシガイ					(4)	(2)						
	ムギガイ					(4)	(2)						
節足動物	イワフジツボ	20											
	サンカクフジツボ			+	+		+						
	ヤドカリ科				(3)								
棘皮動物	キヒトデ						(1)	(1)	(3)	(8)	(7)		
	イトマキヒトデ						(1)		(1)	(2)	(1)	(2)	(1)
	マナマコ								(1)				
脊索動物	ホヤ綱（群体性）				+								
出現種類数(20)		3	4	3	6	6	6	2	4	4	4	3	3

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表２－２－２（４）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－４）

平成18年5月28日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	砂，小礫
腔腸動物	タテジマイソギンチャク		(1)	(1)									
	ヒドロ虫綱			+									
	シオガマサンゴ								+	+	+	+	
環形動物	カンザシゴカイ科			+	10	20	+						
触手動物	コケムシ綱			+	+	+	+	+	1				
軟体動物	アラレタマキビ	(8)											
	ムラサキイガイ		70	20									
	ケガキ		+										
	レイシガイ		(1)	(21)	(2)								
	ユキノカサガイ科		(1)										
	キクノハナガイ		(1)										
	カラマツガイ		(12)										
	コシダカガンガラ						(1)	(4)					
節足動物	イワフジツボ	20	10										
	ヤドカリ科				(1)	(3)	(1)						
棘皮動物	キヒトデ						(2)		(2)	(3)	(2)	(3)	
	イトマキヒトデ								(1)				
脊索動物	ホヤ綱（群体性）			+	10	+							
出現種類数(18)		2	7	6	5	4	5	2	4	2	2	2	—

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表２－２－２（５）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－５）

平成18年5月28日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂，大礫
腔腸動物	ヒドロ虫綱			+									
	タテジマイソギンチャク			+									
環形動物	カンザシゴカイ科			70	95	90	+						
軟体動物	アラレタマキビ	(3)											
	レイシガイ					(1)							
	イボニシ		(2)										
	ウミフクロウ					(1)	(3)	(5)	(2)				
	カラマツガイ		(1)										
	ムラサキイガイ		90	30									
節足動物	イワフジツボ		5										
	サンカクフジツボ						10	20	30	20	10	+	+
	アカフジツボ								+				
棘皮動物	イトマキヒトデ							(1)					
	キヒトデ						(7)	(9)	(3)	(12)	(17)	(14)	(1)
	サンショウウニ							(1)	(1)			(1)	
	マナマコ							(1)	(1)				
脊索動物	エボヤ						+			+		+	
	ホヤ綱（群体性）			+	+	+	5						
	ユウレイボヤ属				+	+	+	+	+	+	+	+	
出現種類数(19)		1	4	5	3	5	7	7	7	4	3	5	2

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表２－２－２（６）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－１）

平成18年5月27日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン，泥
海綿動物	尋常海綿綱					+	+	+
刺胞動物	ヒドロ虫綱				5	+		
	タテジマイソギンチャク		(5)	+				
環形動物	カンザシゴカイ科		+		+		20	+
	多毛綱（泥巣）				5	40	90	90
触手動物	コケムシ綱						+	+
軟体動物	タマキビ	(15)						
	ウミフクロウ						(2)	
	ムラサキイガイ		45	100	100	85	15	+
	マガキ		10					
	キヌマトイガイ				(6)		(5)	
節足動物	*Balanus* spp.		+					
棘皮動物	キヒトデ				(21)		(5)	
脊索動物	カタユウレイボヤ					+	+	10
	エボヤ					+		+
出現種類数(15)		1	5	2	6	6	9	7

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表２－２－２（７）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－２）

平成18年5月27日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
海綿動物	尋常海綿綱					+	+			
腔腸動物	タテジマイソギンチャク		+							
環形動物	カンザシゴカイ科				+	+	+	+		
	多毛綱（泥巣）						+	30	95	40
触手動物	コケムシ綱						+			
軟体動物	タマキビ	(36)								
	マガキ		15							
	ムラサキイガイ		50	100	95	100	10			
	イボニシ		(5)							
	キヌマトイガイ							(4)		
棘皮動物	キヒトデ				(24)	(29)		(3)	(5)	(4)
脊索動物	エボヤ					+	+	+		
	シロボヤ					+				
	カタユウレイボヤ						+	+		
－	卵塊							+		
出現種類数(15)		1	4	1	3	6	7	7	2	2

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表２－２－２（８）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－３）

平成18年5月27日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
海綿動物	尋常海綿綱						+	+		5	
腔腸動物	ヒドロ虫綱						+	+		+	
	タテジマイソギンチャク			5	5	+					
	Anthopleura sp.					+		+		+	+
環形動物	ミズヒキゴカイ								+		
	カンザシゴカイ科				+		+	+	+		
	多毛綱（泥巣）						65	90	75	20	+
触手動物	コケムシ綱								+	+	
軟体動物	タマキビ	(4)									
	レイシガイ					(1)					
	ムラサキイガイ		35	70	90	100	50	5			
	コウロエンカワヒバリガイ		+								
	マガキ		10								
節足動物	イワフジツボ		+								
	Balanus spp.			10	+						
棘皮動物	キヒトデ					(1)		(2)	(4)		
脊索動物	カタユウレイボヤ						+	+	5		
	シロボヤ								+		
	エボヤ						+				
出現種類数(19)		1	4	3	4	5	7	8	7	5	2

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表２－２－２（９）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－４）

平成18年5月27日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
海綿動物	尋常海綿綱						+	+	
腔腸動物	タテジマイソギンチャク		+	5	5				
	ヒドロ虫綱					+	+	+	
環形動物	カンザシゴカイ科			+	+	5	+	+	+
	多毛綱（泥巣）					15	70	20	10
触手動物	コケムシ綱					+	25	50	
軟体動物	コウロエンカワヒバリガイ		15	+					
	ムラサキイガイ		+	20	20	5	+		
	イボニシ				(1)				
	イワホリガイ科					(2)			
	ムギガイ					(3)			
	キヌマトイガイ						(7)		
	シマメノウフネガイ								(3)
節足動物	*Balanus* spp.		55	60	5				
棘皮動物	キヒトデ								(4)
脊索動物	カタユウレイボヤ						5	+	5
－	卵塊							+	+
出現種類数(17)		－	4	5	5	7	8	7	6

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表２－２－２（10）　動物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－１）

平成18年6月3日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
水深（m）		+1	0	1	2	3	3	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物	尋常海綿綱				30	+	+	+	+						
腔腸動物	ヒドロ虫綱														+
環形動物	カンザシゴカイ科			70	95	100	100	60	5	+	+				
	多毛綱（泥巣）						+	+	+	5	5	5	15	10	+
	ウズマキゴカイ科							+	+	+	+				
触手動物	コケムシ綱								+	+	+	+	5	5	5
軟体動物	ムラサキイガイ		50												
	カラマツガイ		(11)												
	タマキビ		(68)												
	マガキ		+												
	イボニシ		(1)												
	レイシガイ			(1)											
	ウミフクロウ					(1)	(1)		(1)				(1)		
	ムギガイ								(8)						
	ナミマガシワ													(1)	
節足動物	イワフジツボ		+												
棘皮動物	キヒトデ							(2)	(1)	(1)		(2)			
	マナマコ									(1)					
脊索動物	エボヤ			+	+			+							
	ホヤ綱（群体性）			+	20	+	+	+							
	カタユウレイボヤ												+		+
－	卵塊		+												
出現種類数(22)		－	7	4	4	4	5	7	8	6	4	3	4	3	4

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表２－２－２（11）　動物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－２）

平成18年6月3日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
腔腸動物	ヒドロ虫綱											+	+
	シオガマサンゴ												+
環形動物	ウズマキゴカイ科				+	+	+	+		+		+	
	カンザシゴカイ科					40	5	5	+	+			
	多毛綱（泥巣）						+				5	+	+
触手動物	コケムシ綱				+							+	
軟体動物	ムラサキイガイ			85									
	ムギガイ				(4)								
節足動物	*Balanus* sp.		+										
	サンカクフジツボ					+	+						
棘皮動物	キヒトデ				(1)				(1)		(1)	(1)	(1)
	サンショウウニ					(1)							
脊索動物	ホヤ綱（群体性）					+				+			
	エボヤ							+					
	カタユウレイボヤ										+	+	
－	卵塊							+	+				(1)
出現種類数(16)		－	1	1	4	5	4	4	3	3	3	6	5

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表２－２－２（12）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－１）

平成18年6月4日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥
腔腸動物	タテジマイソギンチャク		＋											
	ヒドロ虫綱			＋	10	＋	10	10	＋					
環形動物	カンザシゴカイ科			50	60	80	60	20	＋	＋	＋	＋	＋	
	ミズヒキゴカイ科					＋								
	多毛綱（泥巣）								＋	20	30	40	70	
触手動物	コケムシ綱			＋	10	10	20	20	30	40	30	30	＋	
	フサコケムシ科			＋	＋	＋	＋							
	アミコケムシ科										＋	＋	＋	
軟体動物	アラレタマキビ	(65)												
	レイシガイ		(5)	(14)										
	カラマツガイ		(7)											
	ケガキ		10											
	ミドリイガイ		＋											
	ムラサキイガイ		60	20	＋									
	イボニシ		(4)											
	ユキノカサガイ科		(3)											
	シマメノウフネガイ							＋	＋	＋				
	ウミフクロウ													(1)
節足動物	イワフジツボ	＋	10											
	ヨーロッパフジツボ		＋											
	サンカクフジツボ				＋	＋								
	ヤドカリ科				(1)									
棘皮動物	キヒトデ					(4)	(3)	(5)	(8)	(3)		(1)	(3)	(16)
	イトマキヒトデ						(2)	(1)		(1)	(2)		(1)	
脊索動物	シロボヤ			＋	＋	＋	＋							
	ホヤ綱（群体性）			10	10	10	＋							
	エボヤ			＋			＋				＋		＋	
	ユウレイボヤ属				＋	＋	5	5	＋	＋	＋			
出現種類数(28)		2	10	9	10	10	10	7	7	7	7	5	7	2

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表２－２－２（13）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－２）

平成18年6月4日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
腔腸動物	タテジマイソギンチャク		＋													
	ヒドロ虫綱			10	＋	＋	＋									
	シオガマサンゴ												＋	＋	＋	
環形動物	カンザシゴカイ科				＋	＋	＋	＋								
	多毛綱（泥巣）								＋	＋	＋	10	10	＋		
触手動物	コケムシ綱				＋	＋	＋	10	＋	＋	＋	＋	10	＋	＋	
	アミコケムシ科							＋	＋	10	5	10	20	20	10	
軟体動物	アラレタマキビ	(43)														
	ユキノカサガイ科	(3)														
	カモガイ	(29)														
	ヒザラガイ		(3)													
	カラマツガイ		(4)													
	イボニシ		(16)													
	ムラサキイガイ		60	30	50	20	40	＋								
	レイシガイ		(3)													
	コシダカガンガラ						(4)	(2)								
	シマメノウフネガイ						＋									
	ウミフクロウ							(2)	(4)							
節足動物	イワフジツボ	＋														
	ヤドカリ科					(1)										
棘皮動物	イトマキヒトデ				(1)	(7)	(8)	(3)	(12)	(5)	(4)	(8)	(11)	(6)	(4)	
	キヒトデ				(3)	(15)	(6)	(4)	(7)	(2)	(7)	(6)	(14)	(4)	(7)	(1)
出現種類数(22)		4	6	2	6	7	8	8	6	5	5	5	6	6	5	1

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表２－２－２（14）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－３）

平成18年6月4日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
腔腸動物	タテジマイソギンチャク		+													
	ヒドロ虫綱			+	5	+	+	+								
	シオガマサンゴ												+	+	+	
環形動物	カンザシゴカイ科			40	50	80	40	30	+	+	+					
	多毛綱（泥巣）						+	10	50	20	20	20	30	40	40	
触手動物	フサコケムシ科				+	+	+	+								
	コケムシ綱					+	10	20	+							
	アミコケムシ科								30	+	5	10	20	20	10	
軟体動物	アラレタマキビ	(232)														
	ユキノカサガイ科		(11)													
	カラマツガイ		(6)													
	ヒザラガイ		(4)													
	キクノハナガイ		(4)													
	イボニシ		(3)													
	ムラサキイガイ		70	50	20	10	+				+		+			
	ケガキ		+													
	レイシガイ			(6)	(2)											
	ウミフクロウ							(2)	(6)	(3)	(4)	(1)	(5)	(4)	(6)	
	シマメノウフネガイ												+			
節足動物	イワフジツボ	+	10													
棘皮動物	キヒトデ			(9)	(19)	(2)	(4)	(2)	(3)	(4)	(5)	(2)	(4)	(2)	(3)	(1)
	サンショウウニ							(6)				(1)	(1)	(1)	(2)	
	イトマキヒトデ							(4)		(1)	(1)					
	マナマコ									(2)		(1)				
脊索動物	シロボヤ			+	+	+	+	+	+	+	+	5	+			
	ホヤ綱（群体性）			+	10	10	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
	ユウレイボヤ属				+	+	+	+	+	+						
	エボヤ						+	+	+		+					
出現種類数(28)		2	9	7	9	9	11	13	10	10	10	8	10	7	7	1

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表２－２－２（15）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－４）

平成18年6月4日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	基質	ケーソン	ケーソン	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫	大礫	大礫	大礫	泥
腔腸動物	ヒドロ虫綱			+	+	+													
	タテジマイソギンチャク		+																
	チギレイソギンチャク			+															
	シオガマサンゴ												+	+	+	+	+	+	
環形動物	カンザシゴカイ科				20	+	+	+											
	多毛綱（泥巣）					+	+	+	+	+	+	+	10	+	+	+	+	+	
触手動物	フサコケムシ科					+													
	コケムシ綱				+	+	5	+											
軟体動物	ヒメケハダヒザラガイ		(3)																
	アラレタマキビ	(326)																	
	シマメノウフネガイ									+	+								
	イボニシ		(11)																
	ウミフクロウ					(1)	(11)	(5)	(3)	(2)	(4)	(6)	(5)	(1)	(2)	(3)			
	カラマツガイ		(7)																
	ムラサキイガイ		50	90	40														
	ケガキ		+																
	キクザルガイ科						+	+											
	ユキノカサガイ科		(5)																
節足動物	イワフジツボ	+	20																
棘皮動物	イトマキヒトデ						(9)	(6)		(3)									
	キヒトデ			(2)	(13)	(5)	(12)	(7)	(4)	(5)	(12)	(13)	(9)	(7)	(9)	(2)	(3)	(5)	
	サンショウウニ							(1)	(2)			(2)	(4)	(3)	(9)	(1)	(2)		
	マナマコ							(1)											
脊索動物	シロボヤ				+	+	+	+	+										
	エボヤ													+					
	ホヤ綱（群体性）				+	+	10	20	5	10	5	10	+						
	ユウレイボヤ属						+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+		
出現種類数(27)		2	8	4	7	9	10	12	7	7	6	6	7	7	6	6	5	3	−

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

③魚類

A．神戸沖処分場

調査地点Ａ－１では８種類の魚類が確認された。水深－2.0m～4.0mで最も種類数が多く、個体数ではメバルが最も多かった。水深－8.0m以深で数個体のアカオビシマハゼが確認されたのみであった。

調査地点Ａ－２では２種類の魚類が確認された。個体数ではメバルが水深±0.0～－2.0mで最も多かった。水深－6.0m以深で魚類は確認されなかった。

調査地点Ａ－３では４種類の魚類が確認された。水深－2.0m～4.0mで最も種類数が多く、個体数ではメバルが水深±0.0～－2.0mで最も多かった。水深－8.0m以深でメバルが確認された。

調査地点Ａ－４では４種類の魚類が確認された。水深－2.0～6.0mでメバル、アイナメ、ササノハベラと３種類が確認された。水深－6.0m以深で魚類は確認されなかった。

調査地点Ａ－５では３種類の魚類が確認された。水深－2.0～8.0mでメバル、アナハゼ、アイナメが数個体確認されたのみで、水深－8.0m以深で魚類は確認されなかった。

B．尼崎沖処分場

調査地点Ｂ－１では水深－4.0m～5.0mでカレイ科が多く確認された。

調査地点Ｂ－２では２種類の魚類が確認された。水深±0.0m～－4.0mで魚類の出現はなく、水深－4.0m～7.0mでアナハゼとクジメが数個体確認されたのみであった。

調査地点Ｂ－３では魚類は確認されなかった。

調査地点Ｂ－４では２種類の魚類が確認された。水深－2.0～6.0mのブロックの部分でメバルとアイナメが数個体確認されたのみで、水深－6.0m以深で魚類は確認されなかった。

C．大阪沖処分場

調査地点Ｃ－１では２種類の魚類が確認された。水深－4.0～6.0mでメバルとクジメが数個体確認されたのみで、水深±0.0m～－4.0m、水深－6.0m以深で魚類は確認されなかった。

調査地点Ｃ－２では、５種類の魚類が確認された。水深－4.0～6.0mでスズメダイ、メバル及びチャガラが多く確認された。水深±0.0m～－4.0m、水深－6.0m以深で魚類は確認されなかった。

D．泉大津沖処分場

調査地点Ｄ－１では３種類の魚類が確認された。水深±0.0～－2.0mでアナハゼが数個体、水深－10.0m～11.0mでマハゼとアイナメが数個体確認されたのみで、水深－0.2m～10.0mで魚類は確認されなかった。

調査地点Ｄ－２では２種類の魚類が確認された。個体数ではメバルが水深－2.0～6.0mで多かった。水深±0.0m～－2.0m、水深－10.0m以深で魚類は確認されなかった。

調査地点Ｄ－３では４種類の魚類とアオリイカが確認された。水深±0.0～－2.0mと水深－6.0m～12.0mで種類数、個体数共に多かった。水深－2.0m～6.0m、水深－12.0m以深で魚類は確認されなかった。

調査地点Ｄ－４では、３種類の魚類が確認された。－2.0m～8.0mでメバルが多かった。水深±0.0m～－2.0m、－10.0m以深で魚類は確認されなかった。

表２－２－３（１）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－１）

平成18年5月28日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、砂、小礫
魚類	メバル(3～18)	r	c	r	r	
	アナハゼ(5～7)	r	r			
	ボラ(25～30)		r			
	コモンフグ(10～12)		r			
	クロダイ(20～30)		r			
	ササノハベラ(12～18)			r	rr	
	アイナメ(12～15)			rr	rr	
	アカオビシマハゼ(3～4)					r
出現種類数(8)		2	5	3	3	1

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表２－２－３（２）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－２）

平成18年5月28日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、砂、小礫
魚類	アナハゼ(5～7)	r				
	メバル(3～15)	c	r	rr		
出現種類数(2)		2	1	1	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表２－２－３（３）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－３）

平成18年5月28日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、砂、小礫
魚類	アナハゼ(5～7)	r				
	メバル(3～18)	c	r			r
	アイナメ(10～15)		r	rr		
	キュウセン(12～15)		r			
出現種類数(4)		1	3	1	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表２－２－３（４）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－４）

平成18年5月28日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック、砂、小礫
魚類	アナハゼ(5～7)	rr				
	ササノハベラ(15)		rr			
	メバル(3～12)		r	r		
	アイナメ(12)			rr		
出現種類数(4)		1	2	2	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表２－２－３（５）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－５）

平成18年5月28日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ケーソン	ケーソン、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、砂、大礫
魚類	メバル(8～12)		r			
	アナハゼ(5～7)		r			
	アイナメ(12～15)		rr	rr	rr	
出現種類数(3)		－	3	1	1	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表２－２－３（６）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－１）

平成18年5月27日

水深（m）		0～2	2～4	4～5
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン，泥
魚類	カレイ科(4～5)			c
出現種類数(1)		－	－	－

注：rr＝１～２個体，r＝３～10個体，c＝11～50個体，cc＝51個体以上を
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表２－２－３（７）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－２）

平成18年5月27日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～7
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン，巨礫	巨礫
魚類	アナハゼ(10)			rr	rr
	クジメ(12)				rr
出現種類数(2)		－	－	1	2

注：rr＝１～２個体，r＝３～10個体，c＝11～50個体，cc＝51個体以上を
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表２－２－３（８）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－３）

平成18年5月27日

水深（m）	0～2	2～4	4～6	6～8
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン，巨礫
出現なし				

表２－２－３（９）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－４）

平成18年5月27日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック，砂，小礫
魚類	メバル(3～12)		r	r		
	アイナメ(12)			rr		
出現種類数(2)		－	1	2	－	－

注：rr＝１～２個体，r＝３～10個体，c＝11～50個体，cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表２－２－３（10）　魚類の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－１）

平成18年6月3日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10
基質		ケーソン	ケーソン，巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
魚類	メバル(3～4)			c		
	クジメ(10)			rr		
出現種類数(2)		－	－	2	－	－

注：rr＝１～２個体，r＝３～10個体，c＝11～50個体，cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表２－２－３（11）　魚類の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－２）

平成18年6月3日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～9
基質		ブロック	ブロック，巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
魚類	アナハゼ(5)			rr		
	スズメダイ(10～12)			c		
	メバル(3～4)			c		
	キュウセン(20～22)			rr		
	チャガラ(7～8)			c		
出現種類数(5)		－	－	5	－	－

注：rr＝１～２個体，r＝３～10個体，c＝11～50個体，cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表２－２－３（12）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－１）

平成18年6月4日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～11
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
魚類	アナハゼ(6)	rr					
	マハゼ(15)						rr
	アイナメ(10)						rr
出現種類数(3)		1	－	－	－	－	2

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表２－２－３（13）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－２）

平成18年6月4日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～13
基質		ブロック	ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、泥
魚類	メバル(5～7)		c	c				
	アイナメ(12～15)				r	rr		
出現種類数(2)		－	1	1	1	1	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表２－２－３（14）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－３）

平成18年6月4日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～13
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、泥
魚類	イソギンポ(4)	rr						
	アイナメ(12～15)	rr			r	r	r	
	アナハゼ(10)	rr						
	メバル(5～7)				c	c	r	
その他	アオリイカ(25)				rr			
出現種類数(5)		3	－	－	3	2	2	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表２－２－３（15）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－４）

平成18年6月4日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16
基質		ケーソン、ブロック	ブロック	ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫、大礫	巨礫、大礫	大礫、泥
魚類	メバル(5～7)		c	c	c	r			
	アナハゼ(10)			rr					
	アイナメ(12～15)				r				
出現種類数(3)		－	1	2	2	1	－	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

(2) 枠取り採取及び分析

生物の分布状況を定量的に把握するため、枠取り採集を行い、生物試料の種類、個体数（動物のみ）及び湿重量の分析を行った。植物の枠取り分析結果を表２－２－４、動物の枠取り分析結果を表２－２－５に示した。

① 植物

A．神戸沖処分場（A－２）

上層では７種類が出現し、総湿重量 89.86ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のアオノリ属が 86.40ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

中層では 13 種類が出現し、総湿重量 370.57ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のアナアオサが 219.83ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では 10 種類が出現し、総湿重量 148.51ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のススカケベニが 67.89ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

B．尼崎沖処分場（B－２）

上層では１種類が出現し、総湿重量は 0.01ｇ未満/0.25 ㎡であり、出現したのは緑藻綱のアオノリ属のみであった。

中層では２種類が出現し、総湿重量 0.01ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のイトグサ属が 0.01ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では１種類が出現し、総湿重量は 0.01ｇ未満/0.25 ㎡であり、出現したのは紅藻綱のイトグサ属のみであった。

C．大阪沖処分場（C－２）

上層では５種類が出現し、総湿重量は 23.35ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のアオノリ属が 16.34ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

中層では４種類が出現し、総湿重量 277.28ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のアナアオサが 277.27ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では 10 種類が出現し、総湿重量は 84.17ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のアナアオサが 67.22ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

D．泉大津沖処分場（D－２）

上層では６種類が出現し、総湿重量は 0.90ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のイトグサ属が 0.58ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

中層では８種類が出現し、総湿重量 184.38ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のベニスナゴが 152.24ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では９種類が出現し、総湿重量は 70.71ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のベニスナゴが 28.59ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

表２－２－４　枠取り分析結果(植物)

調査地点(調査日)	層		上 (M.W.L. ±0.0m)		中 (M.W.L. −2.0m)		下 (M.W.L. −4.0m)	
神戸沖 A−2 (5月28日)	出現種類数		7		13		10	
	総湿重量 (g/0.25m²)		89.86		370.57		148.51	
	優占種	第１位	ｱｵﾉﾘ属	86.40 (96)	ｱﾅｱｵｻ	219.83 (59)	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	67.89 (46)
		第２位	ｱｵｻ属	3.28 (4)	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ	98.45 (27)	ﾌﾀﾞﾗｸ	27.72 (19)
		第３位	ｼｵｸﾞｻ属	0.09 (−)	ﾂﾙﾂﾙ	21.01 (6)	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	18.47 (12)
尼崎沖 B−2 (5月27日)	出現種類数		1		2		1	
	総湿重量 (g/0.25m²)		+		0.01		+	
	優占種	第１位	ｱｵﾉﾘ属	+ (100)	ｲﾄｸﾞｻ属	0.01 (100)	ｲﾄｸﾞｻ属	0.01 (100)
		第２位	−		ｲｷﾞｽ属	+ (−)	−	
		第３位	−		−		−	
大阪沖 C−2 (6月3日)	出現種類数		5		4		10	
	総湿重量 (g/0.25m²)		23.35		277.28		84.17	
	優占種	第１位	ｱｵﾉﾘ属	0.55 (42)	ｱﾅｱｵｻ	277.27 (100)	ｱﾅｱｵｻ	67.22 (80)
		第２位	ｱｵｻ属	0.33 (25)	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	0.01 (−)	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ	10.06 (12)
		第３位	ｵｰｼﾞｭｲﾈﾗ属 Lyngbya sp.	+ (−) + (−)	ｱｵﾉﾘ属 ｲﾄｸﾞｻ属	+ (−) + (−)	ｹｲｷﾞｽ	3.68 (4)
泉大津沖 D−2 (6月4日)	出現種類数		6		8		9	
	総湿重量 (g/0.25m²)		0.90		184.38		70.71	
	優占種	第１位	ｲﾄｸﾞｻ属	0.58 (64)	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	152.24 (83)	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	28.59 (40)
		第２位	ｱｵｻ属	0.16 (18)	ﾂﾙﾂﾙ	17.27 (9)	ﾌﾀﾞﾗｸ	23.01 (33)
		第３位	ｲｷﾞｽ科	0.13 (14)	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	4.85 (3)	ｲﾄｸﾞｻ属	5.27 (7)

注）表中の＋は0.01g未満を示す。また、（ ）内の数値は総量に対する占有率を示し、−は１％未満を示す。

② 動物

A．神戸沖処分場（A－2）

上層では20種類が出現し、総個体数2,663個体/0.25㎡、総湿重量22.55g/0.25㎡であった。軟体動物門のムラサキイガイが種類別個体数、種類別湿重量共に最も多く、2,400個体/0.25㎡、12.12g/0.25㎡であった。

中層では50種類が出現し、総個体数25,675個体/0.25㎡、総湿重量104.08g/0.25㎡であった。種類別個体数では節足動物門のマルエラワレカラが23,680個体/0.25㎡、種類別湿重では棘皮動物門のイトマキヒトデが39.41g/0.25㎡と最も多かった。

下層では49種類が出現し、総個体数2,255個体/0.25㎡、総湿重量157.37g/0.25㎡であった。種類別個体数では節足動物門のオサテワレカラが745個体/0.25㎡、種類別湿重では棘皮動物門のマナマコが82.54g/0.25㎡と最も多かった。

B．尼崎沖処分場（B－2）

上層では29種類が出現し、総個体数1,278個体/0.25㎡、総湿重量2,037.19g/0.25㎡であった。種類別個体数では節足動物門のモクズヨコエビ属が448個体/0.25㎡、種類別湿重では軟体動物門のマガキが1,984.24g/0.25㎡と最も多かった。

中層では35種類が出現し、総個体数7,292個体/0.25㎡、総湿重量4,286.34g/0.25㎡であった。軟体動物門のムラサキイガイが種類別個体数、種類別湿重量共に最も多く、6,604個体/0.25㎡、4,206.72g/0.25㎡であった。

下層では42種類が出現し、総個体数7,430個体/0.25㎡、総湿重量1,644.83g/0.25㎡であった。軟体動物門のムラサキイガイが種類別個体数、種類別湿重量共に最も多く、4,608個体/0.25㎡、1,460.48g/0.25㎡であった。

C．大阪沖処分場（C－2）

上層では9種類が出現し、総個体数266個体/0.25㎡、総湿重量1.31g/0.25㎡であった。節足動物門のユスリカ科幼虫が種類別個体数、種類別湿重量共に最も多く、184 個体/0.25㎡、0.55g/0.25㎡であった。

中層では34種類が出現し、総個体数11,417個体/0.25㎡、総湿重量407.90g/0.25㎡であった。軟体動物門のムラサキイガイが種類別個体数、種類別湿重量共に最も多く、9,281個体/0.25㎡、367.36g/0.25㎡であった。

下層では52種類が出現し、総個体数1,576個体/0.25㎡、総湿重量35.03g/0.25㎡であった。種類別個体数では節足動物門のマルエラワレカラが316個体/0.25㎡、種類別湿重では環形動物門の *Nicolea* sp. が28.07g/0.25㎡と最も多かった。

D．泉大津沖処分場（D－2）

上層では22種類が出現し、総個体数11,602個体/0.25㎡、総湿重量1,826.12g/0.25㎡であった。軟体動物門のムラサキイガイが種類別個体数、種類別湿重量共に最も多く、9,168個体/0.25㎡、1,758.72g/0.25㎡であった。

中層では36種類が出現し、総個体数18,709個体/0.25㎡、総湿重量3,389.78g/0.25㎡

であった。軟体動物門のムラサキイガイが種類別個体数、種類別湿重量共に最も多く、14,669個体/0.25㎡、3,165.69g/0.25㎡であった。

下層では46種類が出現し、総個体数638個体/0.25㎡、総湿重量3,758.90g/0.25㎡であった。軟体動物門のムラサキイガイが種類別個体数、種類別湿重量共に最も多く、245個体/0.25㎡、3,576.01g/0.25㎡であった。

表2－2－5　枠取り分析結果(動物)

調査地点(調査日)	層		上 (M.W.L. ±0.0m)		中 (M.W.L. −2.0m)		下 (M.W.L. −4.0m)	
神戸沖 A－2 (5月28日)	出現種類数(種類)		20		50		49	
	総個体数(個体/0.25㎡)		2,663		25,675		2,255	
	総湿重量(g/0.25㎡)		22.55		104.08		157.37	
	個体数からみた優占種	第1位	ムラサキイガイ 2,400	(90)	マルエラワレカラ 23,680	(92)	オサテワレカラ 745	(33)
		第2位	ユスリカ科幼虫 104	(4)	*Bodecaceria* sp. 990	(4)	マルエラワレカラ 505	(22)
		第3位	タマキビ 56	(2)	ムギガイ 296	(1)	ムギガイ 306	(14)
	湿重量からみた優占種	第1位	ムラサキイガイ 12.12	(54)	イトマキヒトデ 39.41	(38)	マナマコ 82.54	(52)
		第2位	イボニシ 6.29	(28)	エゾカサネカンザシ 19.85	(19)	イトマキヒトデ 34.43	(22)
		第3位	卵塊 1.31	(6)	ムギガイ 13.48	(13)	ムギガイ 11.43	(7)
尼崎沖 B－2 (5月27日)	出現種類数(種類)		29		35		42	
	総個体数(個体/0.25㎡)		1,278		7,292		7,430	
	総湿重量(g/0.25㎡)		2,037.19		4,286.34		1,644.83	
	個体数からみた優占種	第1位	モクズヨコエビ属 448	(35)	ムラサキイガイ 6,604	(91)	ムラサキイガイ 4,608	(62)
		第2位	マガキ 163	(13)	キヌマトイガイ 422	(6)	キヌマトイガイ 1,024	(14)
		第3位	シロマダラシリス 138	(11)	マサゴゴカイ 100	(1)	*Phoronis* sp. 502	(7)
	湿重量からみた優占種	第1位	マガキ 1,984.24	(97)	ムラサキイガイ 4,206.72	(98)	ムラサキイガイ 1,460.48	(89)
		第2位	コウロエンカワヒバリガイ 19.29	(1)	キヒトデ 56.02	(1)	エボヤ 78.05	(5)
		第3位	イソガニ 7.12	(+)	マサゴゴカイ 9.01	(+)	キヌマトイガイ 47.36	(3)
大阪沖 C－2 (6月3日)	出現種類数(種類)		9		34		52	
	総個体数(個体/0.25㎡)		266		11,417		1,576	
	総湿重量(g/0.25㎡)		1.31		407.90		35.03	
	個体数からみた優占種	第1位	ユスリカ科幼虫 184	(69)	ムラサキイガイ 9,281	(81)	マルエラワレカラ 316	(20)
		第2位	マルエラワレカラ 35	(13)	キヌマトイガイ 976	(9)	アリアケドロクダムシ 316	(20)
		第3位	ムラサキイガイ 31	(12)	ムギガイ 432	(4)	*Nicolea* sp. 232	(15)
	湿重量からみた優占種	第1位	ユスリカ科幼虫 0.55	(42)	ムラサキイガイ 367.36	(90)	*Nicolea* sp. 28.07	(80)
		第2位	ムラサキイガイ 0.33	(25)	ムギガイ 20.96	(5)	マサゴゴカイ 1.22	(3)
		第3位	マルエラワレカラ 0.30	(23)	キヌマトイガイ 7.20	(2)	ムギガイ 0.74	(2)
泉大津沖 D－2 (6月4日)	出現種類数(種類)		22		36		46	
	総個体数(個体/0.25㎡)		11,602		18,709		638	
	総湿重量(g/0.25㎡)		1,826.12		3,389.78		3,758.90	
	個体数からみた優占種	第1位	ムラサキイガイ 9,168	(79)	ムラサキイガイ 14,669	(78)	ムラサキイガイ 245	(38)
		第2位	キヌマトイガイ 2,208	(19)	キヌマトイガイ 3,754	(20)	ムギガイ 88	(14)
		第3位	マルエラワレカラ 154	(1)	マルエラワレカラ 94	(1)	ミズヒキゴカイ 58	(9)
	湿重量からみた優占種	第1位	ムラサキイガイ 1,758.72	(96)	ムラサキイガイ 3,165.69	(93)	ムラサキイガイ 3,576.01	(95)
		第2位	キヌマトイガイ 52.80	(3)	キヌマトイガイ 100.32	(3)	イトマキヒトデ 135.62	(4)
		第3位	カラマツガイ 5.15	(+)	イトマキヒトデ 99.47	(3)	コシタカガンガラ 12.32	(+)

注)（ ）内の数値は総量に対する占有率を示し、＋は1％未満を示す。

第３章　夏季調査結果

１．調査実施日

神戸沖処分場　　平成１８年　８月６日
尼崎沖処分場　　平成１８年　８月３日
大阪沖処分場　　平成１８年　８月５日
泉大津沖処分場　平成１８年　８月４日

２．水質調査

(1) 一般観測

一般観測結果を表３－１－１に示した。

① 天気・雲量・気温

A．神戸沖では天気は晴、雲量は３～５、気温は31.2～32.5℃であった。
B．尼崎沖では天気は晴、雲量は３～４、気温は30.5～32.3℃であった。
C．大阪沖では天気は晴、雲量は３～４、気温は30.1～33.0℃であった。
D．泉大津沖では天気は快晴、雲量は０、気温は31.5～34.2℃であった。

② 風浪階級・風向・風速

A．神戸沖では風浪階級は１、風速は0.0～1.6m/ｓ、風向は南西であった。
B．尼崎沖では風浪階級は１、風速は0.8～1.4m/ｓ、風向は南西であった。
C．大阪沖では風浪階級は１、風速は2.4～3.4m/ｓ、風向は南西であった。
D．泉大津沖では風浪階級は１、風速は4.0～4.7m/ｓ、風向は北西から西であった。

③ 透明度・水色

A．神戸沖では透明度は 2.4～5.9m、水色は調査地点Ａ－２でボトルグリーン、調査地点Ａ－４、６でフォレストグリーンであった。
B．尼崎沖では透明度は 1.5～1.6m、水色は調査地点Ｂ－２でオリーブグリーン、調査地点Ｂ－４でブロンズであった。
C．大阪沖では透明度は 2.9～5.8m、水色は調査地点Ｃ－１でオリーブグリーン、調査地点Ｃ－２でボトルグリーンであった。
D．泉大津沖では透明度は 1.6～6.3m、水色は調査地点Ｄ－２、Ｄ－４ともにボトルグリーンであった。

表３－１－１　一般観測結果

神戸沖（８月６日）	調査地点	Ａ－２	Ａ－４	Ａ－６
	調査時間	９：45～10：11	９：07～９：27	８：16～８：45
	天気・雲量	晴・５	晴・３	晴・４
	気温	32.5℃	31.2℃	31.2℃
	風浪階級	１	１	１
	風速・風向	1.6m/ｓ・南西	0.0m/ｓ・－	0.0m/ｓ・－
	透明度	2.4m	5.9m	5.2m
	水色	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	ﾌｫﾚｽﾄｸﾞﾘｰﾝ 9G2.5/4.5	ﾌｫﾚｽﾄｸﾞﾘｰﾝ 9G2.5/4.5
	水深	14.5m	16.5m	13.5m
尼崎沖（８月３日）	調査地点	Ｂ－２	Ｂ－４	
	調査時間	10：15～11：20	９：04～９：26	
	天気・雲量	晴・４	晴・３	
	気温	32.3℃	30.5℃	
	風浪階級	１	１	
	風速・風向	0.8m/ｓ・南西	1.4m/ｓ・南西	
	透明度	1.6m	1.5m	
	水色	ｵﾘｰﾌﾞｸﾞﾘｰﾝ 3GY3.5/5.0	ﾌﾞﾛﾝｽﾞ 5Y4.0/5.5	
	水深	5.9m	6.2m	
大阪沖（８月５日）	調査地点	Ｃ－１	Ｃ－２	
	調査時間	９：15～10：13	10：20～11：50	
	天気・雲量	晴・３	晴・４	
	気温	30.1℃	33.0℃	
	風浪階級	１	１	
	風速・風向	2.4m/ｓ・南西	3.4m/ｓ・南西	
	透明度	2.9m	5.8m	
	水色	ｵﾘｰﾌﾞｸﾞﾘｰﾝ 3GY3.5/5.0	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	
	水深	14.0m	14.5m	
泉大津沖（８月４日）	調査地点	Ｄ－２	Ｄ－４	
	調査時間	10：47～11：30	10：00～10：37	
	天気・雲量	快晴・０	快晴・０	
	気温	34.2℃	31.5℃	
	風浪階級	１	１	
	風速・風向	4.0m/ｓ・西	4.7m/ｓ・北西	
	透明度	6.3m	1.6m	
	水色	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	
	水深	12.2m	14.9m	

(2) 機器測定

機器測定結果の概要を表３－１－２、図３－１－１、鉛直分布図を図３－１－２に示した。

① 水温

A．神戸沖では水温は 21.8～28.2℃の範囲を示した。調査地点Ａ－２では水深－2.0～4.0ｍで３℃程度、調査地点Ａ－６では水深－5.0～6.0ｍで２℃程度変化し、他の水深帯では海底に近づくにつれて徐々に低くなった。調査地点Ａ－４では水深－2.0～9.0ｍと深くなるにつれて徐々に低くなり、水深－9.0ｍ以深から海底まではほぼ一様であった。

B．尼崎沖では水温は 23.6～28.5℃の範囲を示した。調査地点Ｂ－２では水深－0.5～2.0ｍ、－3.0～5.0ｍで２℃程度、調査地点Ｂ－４では水深－1.0～3.0ｍで２℃程度変化した。

C．大阪沖では水温は 22.6～28.8℃の範囲を示した。調査地点Ｃ－１では水深－5.0～7.0ｍ、調査地点Ｃ－２では水深－6.0～8.0ｍで２℃程度変化し、他の水深帯では海底に近づくにつれて徐々に低くなった。

D．泉大津沖では水温は 22.7～28.9℃の範囲を示した。調査地点Ｄ－２では水深－1.0～3.0ｍ、－7.0～10.0ｍで２℃程度、調査地点Ｄ－４では水深－1.0～3.0ｍ、－8.0～10.0ｍで２℃程度変化し、他の水深帯では海底に近づくにつれて徐々に低くなった。

② 塩分

A．神戸沖では塩分は 20.5～31.6 の範囲を示した。調査地点Ａ－２では水深－2.0～4.0ｍで６程度、調査地点Ａ－４では水深－2.0～3.0ｍで３程度、調査地点Ａ－６では水深－5.0～6.0ｍで３程度変化し、他の水深帯では海底に近づくにつれて徐々に高くなった。調査地点Ａ－４では水深－10.0ｍ以深で値はほぼ一様であった。

B．尼崎沖では塩分は 13.5～29.0 の範囲を示した。調査地点Ｂ－２では水深－1.0～4.0ｍで 12 程度、調査地点Ｂ－４では水深－1.0～3.0ｍで９程度変化し、他の水深帯では海底に近づくにつれて徐々に高くなった。

C．大阪沖では塩分は 18.8～31.6 の範囲を示した。調査地点Ｃ－１では水深－1.0～3.0ｍで４程度変化し、水深－5.0～7.0ｍで３程度、調査地点Ｃ－２では水深－1.0～4.0ｍで６程度、水深－6.0～8.0ｍで３程度変化した。どちらの調査地点においても水深－8.0ｍ以深で値はほぼ一様であった。

D．泉大津沖では塩分は 24.6～31.4 の範囲を示した。調査地点Ｄ－２では水深－1.0～3.0ｍで４程度、調査地点Ｄ－４では水深－0.5～2.0ｍで４程度変化し、その変化層以外の値はほぼ一様であった。

③ ＤＯ

Ａ．神戸沖ではＤＯは 0.0～5.2mg/L の範囲を示した。調査地点Ａ－２では水深－2.0～4.0ｍで３mg/L、水深－6.0～7.0ｍで２mg/L 程度、調査地点Ａ－４では水深－2.0～6.0ｍで３mg/L 程度、調査地点Ａ－６では水深－1.0～4.0ｍで２mg/L 程度変化し、他の水深帯では海底に近づくにつれて値は徐々に低くなった。調査地点Ａ－２では水深－7.0m以深、調査地点Ａ－４では水深－8.0m以深、調査地点Ａ－６では水深－10.0m以深で値は０を示した。

Ｂ．尼崎沖ではＤＯは 0.2～9.5mg/L の範囲を示した。調査地点Ｂ－２では水深－1.0～2.0ｍで４mg/L、調査地点Ｂ－４では水深－0.5～3.0ｍで８mg/L 程度変化し、その他の水深帯については、海底が近づくにつれて値は徐々に低くなった。

Ｃ．大阪沖ではＤＯは 0.1～6.9 mg/L の範囲を示した。調査地点Ｃ－１では水深－1.0～4.0ｍで４mg/L 程度、調査地点Ｃ－２では－6.0～7.0ｍで１mg/L 程度変化し、他の水深帯では海底に近づくにつれて徐々に低くなった。

Ｄ．泉大津沖ではＤＯは 0.0～6.9 mg/L の範囲を示した。調査地点Ｄ－２では表層から水深－1.0ｍにかけて中層より低い値を示し、水深－8.0～9.0ｍにかけて５mg/L 程度変化した。調査地点Ｄ－４では表層から水深－8.0ｍにかけて徐々に減少したが、水深－8.0～9.0ｍにかけて４mg/L 程度変化した。調査地点Ｄ－２では水深－10.0m以深、調査地点Ｄ－４では水深－9.0m以深で値は０を示した。

④ 光量

Ａ．神戸沖では光量子束密度は 0.4～959.7μE/㎡/sec の範囲を示した。相対光量は調査地点Ａ－２の表層が他の調査地点よりもやや低かったが、いずれの調査地点でも水深±0.0～－1.0ｍで大きく減少した。他の水深帯については海底に近づくにつれて値は徐々に低くなった。

Ｂ．尼崎沖では光量子束密度は 11.7～732.8μE/㎡/sec の範囲を示した。相対光量は調査地点Ｂ－２では水深－0.5～2.0m、調査地点Ｂ－４では水深±0.0～2.0ｍで大きく減少した。

Ｃ．大阪沖では光量子束密度は 0.7～1,148.7μE/㎡/sec の範囲を示した。相対光量は調査地点Ｃ－１では水深±0.0～1.0m、調査地点Ｃ－２では水深－0.5～3.0ｍで大きく減少し、他の水深帯では海底に近づくにつれて値は徐々に低くなった。

Ｄ．泉大津沖では光量子束密度は 0.8～781.6μE/㎡/sec の範囲を示した。相対光量は調査地点Ｄ－２では水深－2.0～3.0m、調査地点Ｄ－４では水深±0.0～－1.0ｍで大きく減少し、他の水深帯では海底に近づくにつれて値は徐々に低くなった。

表３－１－２　水質測定結果概要表

調査地点＼項目(単位)		水温 (℃)	塩分 (－)	ＤＯ (mg/L)	相対光量 (%)	光量子束密度 (μE/㎡/sec)
神戸沖	Ａ－２	22.0 ～28.2	20.5 ～31.5	0.0 ～ 5.2	0.1 ～52.8	2.0 ～ 824.1
	Ａ－４	21.8 ～27.4	22.5 ～31.6	0.0 ～ 3.9	0.0 ～67.5	0.4 ～ 959.7
	Ａ－６	22.4 ～27.4	22.3 ～31.4	0.0 ～ 4.2	0.5 ～67.8	4.8 ～ 707.1
尼崎沖	Ｂ－２	24.3 ～28.5	13.5 ～27.5	0.2 ～ 7.9	1.1 ～39.8	19.0 ～ 676.3
	Ｂ－４	23.6 ～28.1	15.5 ～29.0	0.4 ～ 9.5	1.5 ～95.2	11.7 ～ 732.8
大阪沖	Ｃ－１	22.6 ～28.4	18.8 ～31.6	0.1 ～ 6.9	0.0 ～82.7	0.7 ～1148.7
	Ｃ－２	22.7 ～28.8	20.5 ～31.6	0.3 ～ 5.6	0.3 ～65.3	5.8 ～1139.9
泉大津沖	Ｄ－２	23.3 ～28.9	25.0 ～31.4	0.0 ～ 6.9	0.8 ～39.1	12.3 ～ 631.8
	Ｄ－４	22.7 ～28.7	24.6 ～31.3	0.0 ～ 6.3	0.1 ～50.4	0.8 ～ 781.6

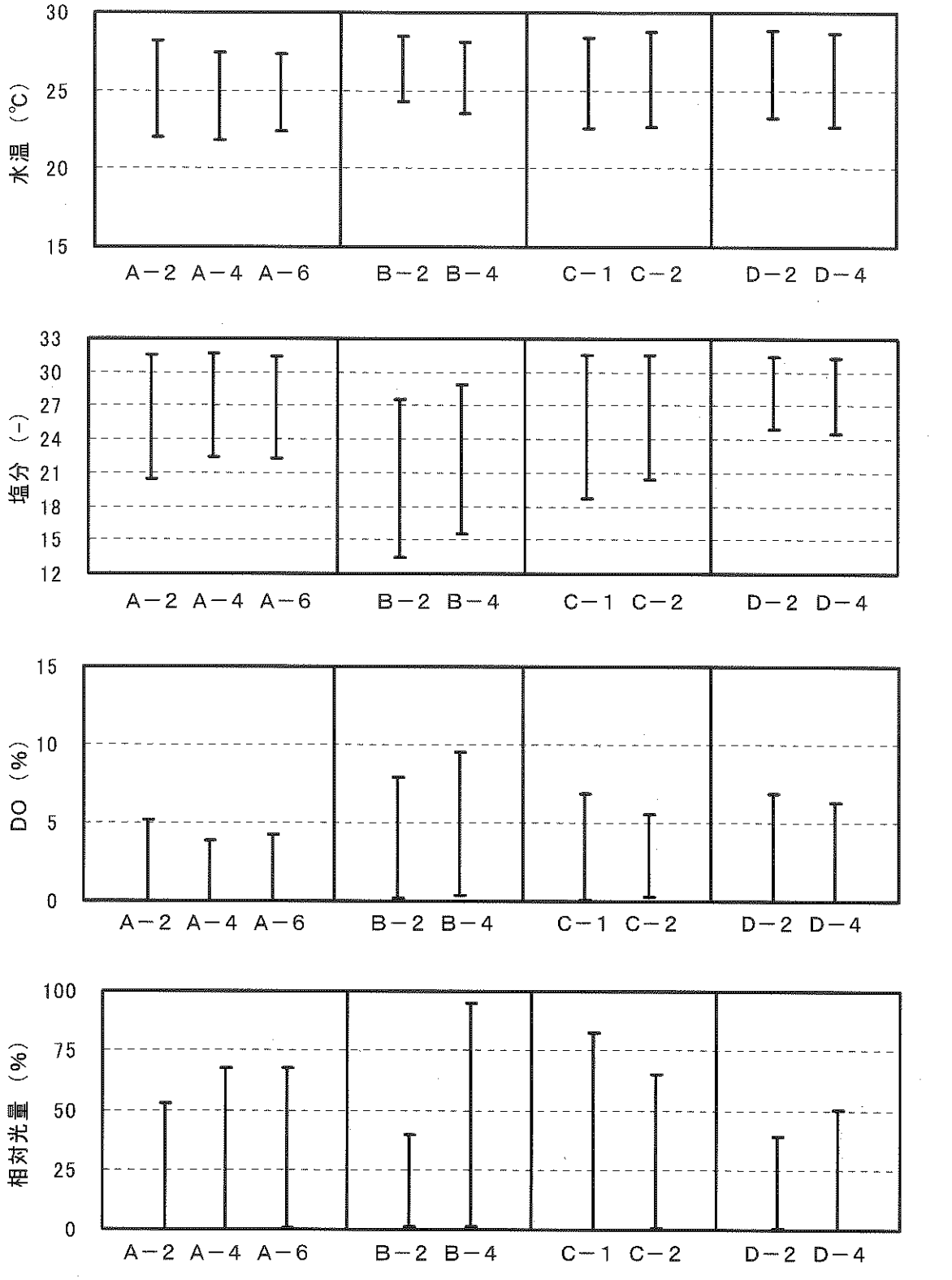

図３－１－１　水質測定結果概要図

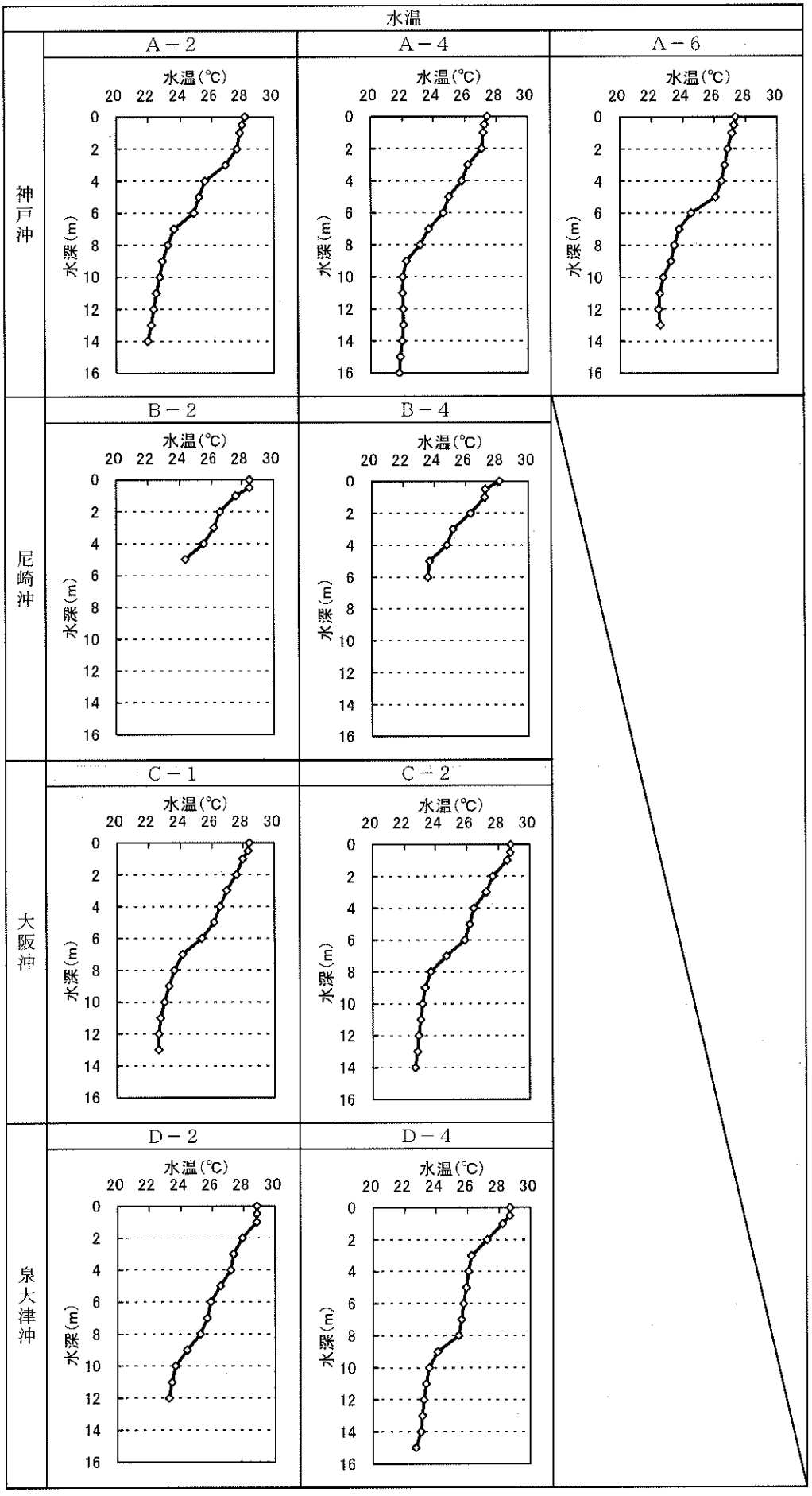

図３－１－２（１）　鉛直分布図（水温）

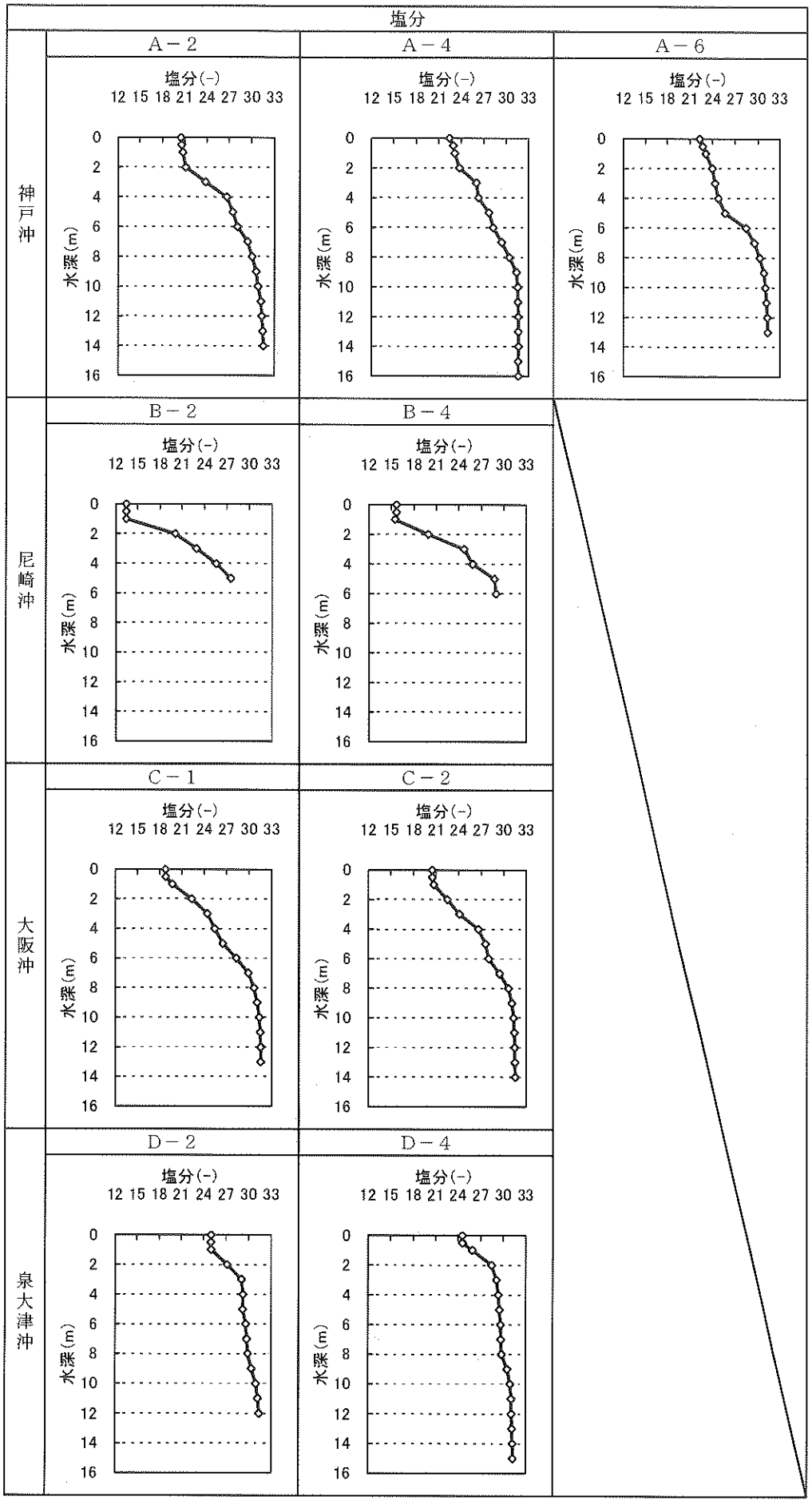

図３－１－２（２）　鉛直分布図（塩分）

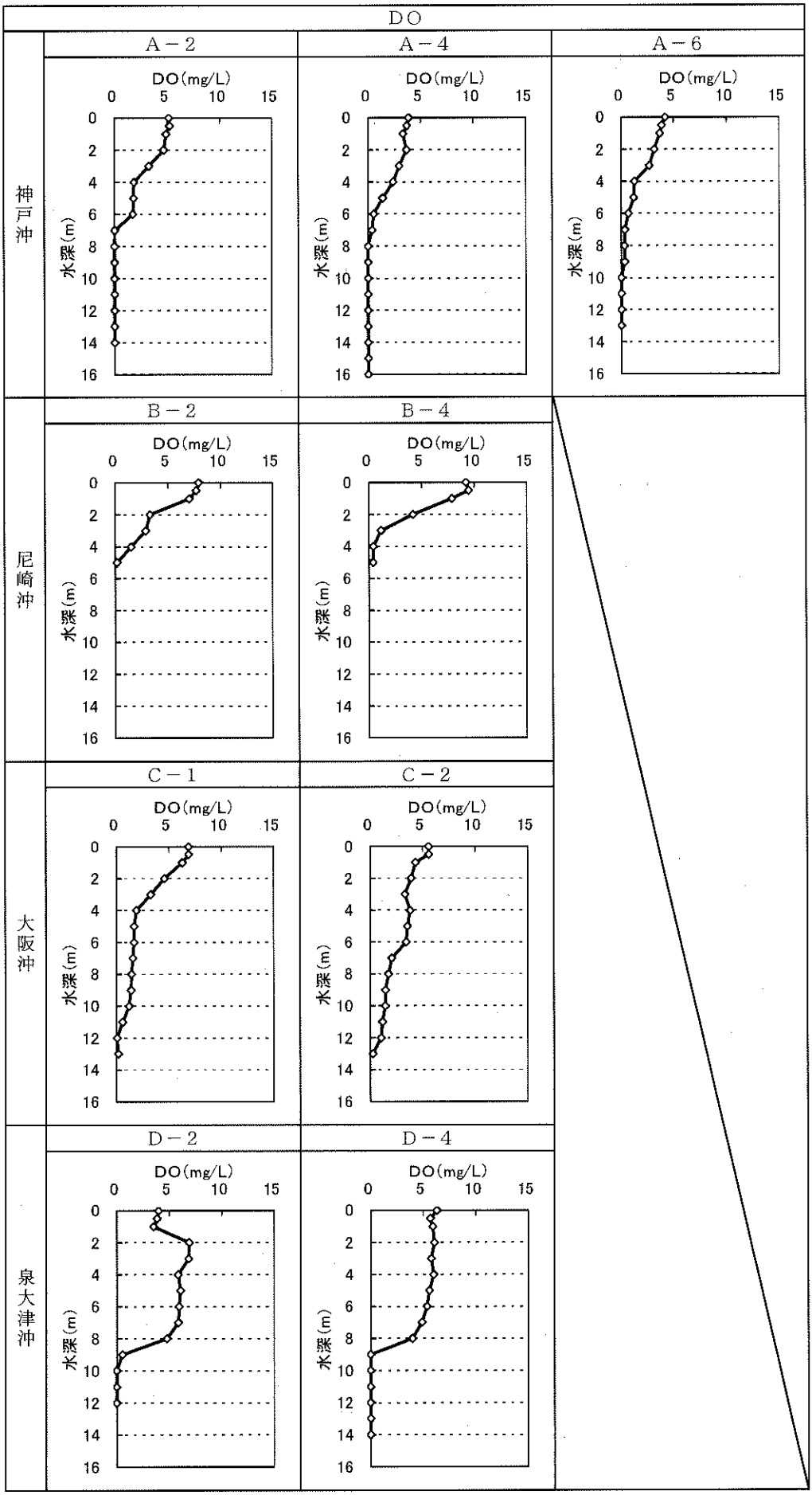

図３－１－２（３）　鉛直分布図（ＤＯ）

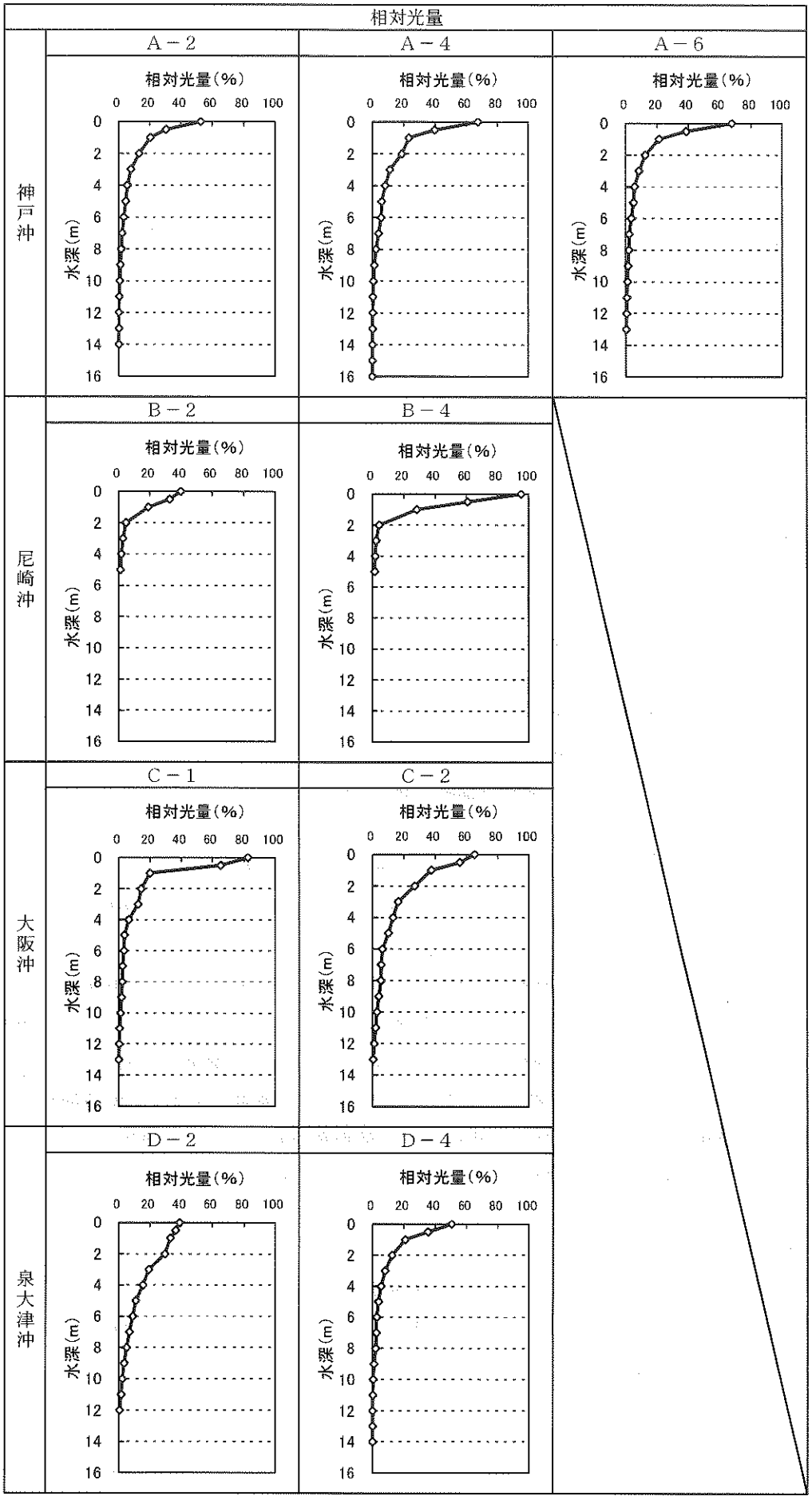

図３－１－２（４）　鉛直分布図（相対光量）

3．生物調査

(1) 目視観察

植物の目視観察の結果を表３－２－１、動物の目視観察の結果を表３－２－２、魚類の目視観察の結果を表３－２－３に示した。

① 植物

A．神戸沖処分場

調査地点Ａ－１では、９種類の植物が確認された。水深±0.0mでは緑藻綱のアオノリ属が30%、シオグサ属が20%、水深±0.0～3.0mでは珪藻綱が10～50%、水深－2.0～6.0mでは紅藻綱のイギス科が 10～60%と多くみられた。藻場構成種の褐藻綱のタマハハキモクは水深－2.0～3.0mで僅かに確認された。種類数が多かったのは水深－1.0～2.0mで５種類であった。水深－9.0mまで植物は出現した。

調査地点Ａ－２では、13 種類の植物が確認された。水深＋1.0～－1.0mでは緑藻綱のアオノリ属が20～60%、水深±0.0～－1.0mで珪藻綱が30～40%、水深－3.0～6.0mでは紅藻綱のイギス科が 20～60%と多くみられた。藻場構成種の褐藻綱のタマハハキモクは水深－2.0mで僅かに確認された。種類数が多かったのは水深－2.0～3.0mで８種類であった。水深－8.0mまで植物は出現した。

調査地点Ａ－３では、12 種類の植物が確認された。水深＋1.0～±0.0mまで緑藻綱のアオノリ属が20～30%、水深±0.0～－2.0mまで珪藻綱が30～50%、水深－3.0～6.0mまで紅藻綱のイギス科が 20～60%と多くみられた。藻場構成種の褐藻綱のタマハハキモクは水深－3.0mで僅かに確認された。種類数が多かったのは水深－1.0mで６種類であった。水深－9.0mまで植物は出現した。

調査地点Ａ－４では、11 種類の植物が確認された。水深－1.0mで珪藻綱が40%、緑藻綱のシオグサ属が20%、水深－2.0mで紅藻綱のフダラクが20%と多くみられた。種類数が多かったのは水深－5.0mで６種類であった。水深－6.0mまで植物は出現した。

調査地点Ａ－５では、３種類の植物が確認された。水深－4.0mで緑藻綱のアオサ属が20%、紅藻綱のフダラクが10%と出現した。種類数が多かったのは水深－4.0mで３種類であった。水深－7.0mまで植物は出現した。

B．尼崎沖処分場

調査地点Ｂ－１、Ｂ－２、Ｂ－４では植物は確認されなかった。

調査地点Ｂ－３では、１種類の植物が確認され、水深±0.0mで緑藻綱のアオノリ属が僅かに出現したのみであった。

C．大阪沖処分場

調査地点Ｃ－１では、８種類の植物が確認された。水深－3.0m～5.0mで緑藻綱のアオサ属が 15～35％、水深－8.0mで褐藻綱のシオミドロ科が 15％と多くみられた。藻場構成種の褐藻綱のタマハハキモクが水深－3.0mで僅かに確認された。種類数が多かったのは水深－3.0mで５種類であった。水深－9.0mまで植物は出現した。

調査地点Ｃ－２では８種類の植物が確認された。水深－1.0mで緑藻綱のアオノリ属が 75％、水深－2.0～3.0mで緑藻綱のアオサ属が 30～35％と多くみられた。種類数が多かったのは水深－4.0mで５種類であった。水深－9.0mまで植物は出現した。

D．泉大津沖処分場

調査地点Ｄ－１では、２種類の植物が確認された。水深－1.0mで緑藻綱のアオサ属、ミルが僅かに確認された。

調査地点Ｄ－２では、12 種類の植物が確認された。水深±0.0～－2.0mで緑藻綱のシオグサ属が 20％、水深－6.0mで紅藻綱のカバノリが 20％と多く出現した。種類数が多かったのは水深－1.0m、－3.0mで６種類であった。水深－8.0mまで植物は出現した。

調査地点Ｄ－３では、２種類の植物が確認された。水深－1.0mで緑藻綱のアオサ属、アオノリ属が僅かに確認された。

調査地点Ｄ－４では、７種類の植物が確認された。水深±0.0mで緑藻綱のアオノリ属が 30％、±0.0～－1.0mで緑藻綱のシオグサ属が 20～40％と多くみられた。水深－5.0mで藻場構成種の褐藻綱のワカメが僅かに確認された。種類数が多かったのは水深±0.0m、－2.0mで４種類であった。水深－6.0mまで植物は出現した。

表３－２－１（１）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－１）

平成18年8月6日

No		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
緑藻綱	アオノリ属	10	30										
	シオグサ属		20	20	+								
	アオサ属		+	+	+	+							
褐藻綱	タマハハキモク				5	+							
紅藻綱	イギス科			+	10	10	30	60	20	+	+	+	
	ツノマタ属			+			+						
	ススカケベニ							+	5	10	+		
	イワノカワ科								+	+		+	
珪藻綱	－		50	20	30	10	+						
出現種類数(9)		1	4	5	5	4	3	2	3	3	2	2	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表３－２－１（２）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－２）

平成18年8月6日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
緑藻綱	アオノリ属	60	30	20	+								
	アオサ属		+	+	+	+	+						
	シオグサ属		+	+	20	+	10						
褐藻綱	タマハハキモク				+								
紅藻綱	ツノマタ属			+	5	+	+						
	イギス科				+	20	60	20	20	+	+		
	マクサ					+	+						
	オキツノリ					+							
	ベニスナゴ					+	+						
	ススカケベニ							10	10	10	+		
	イワノカワ科							+	+				
藍藻綱	－	+	+	+	+								
珪藻綱	－		40	30	20	+							
出現種類数(13)		2	5	6	8	8	6	3	3	2	2	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表３－２－１（３）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－３）

平成18年8月6日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
緑藻綱	アオノリ属	20	30	+									
	アオサ属		10	+	+	+	+						
	シオグサ属			30	+								
褐藻綱	タマハハキモク					+							
紅藻綱	ツノマタ属		+	5	+		+						
	イギス科					20	30	60	20	10	+		
	ベニスナゴ						+	+					
	フダラク							+					
	ススカケベニ								10	10	+	+	
	イワノカワ科								+				
藍藻綱	－			5	+								
珪藻綱	－		50	30	50	+	+						
出現種類数(12)		1	4	6	5	4	5	3	3	2	2	1	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表３－２－１（４）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－４）

平成18年8月6日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	砂, 小礫
緑藻綱	シオグサ属		+	20	+	+							
	アオノリ属		+										
	アオサ属			+									
紅藻綱	フダラク			+	20	10	5	+					
	ツノマタ属				+	+							
	イギス科					+	10	10	+				
	ベニスナゴ						+	+					
	サビ亜科						+	10	+				
	ススカケベニ							+	+				
	イワノカワ科							+	+				
珪藻綱	珪藻綱			40	+	+							
出現種類数(11)		−	2	4	4	5	4	6	4	−	−	−	−

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表３－２－１（５）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－５）

平成18年8月6日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂, 大礫
緑藻綱	アオサ属			+			20						
紅藻綱	フダラク						10						
	イワノカワ科						+	+	+	+			
出現種類数(3)		−	−	1	−	−	3	1	1	1	−	−	−

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表３－２－１（６）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－１）

平成18年8月3日

観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8
水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
出現なし								

表３－２－１（７）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－２）

平成18年8月3日

観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9
水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
出現なし									

表３－２－１（８）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－３）

平成18年8月3日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオノリ属		+								
出現種類数(1)		－	1	－	－	－	－	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表３－２－１（９）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－４）

平成18年8月3日

観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8
水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
出現なし								

表３－２－１（10）　植物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－１）

平成18年8月5日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
水深（m）		+1	0	1	2	3			4	5	6	7	8	9	10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		+	+	15	+	25	35	25	15	5				
	アオノリ属		+		10										
	シオグサ属							+							
褐藻綱	タマハハキモク							+							
	シオミドロ科												15	+	
紅藻綱	イギス科						+	+	5	+	+		+		
	フダラク							+							
	ススカケベニ											+			
出現種類数(8)		−	2	1	2	1	2	5	2	2	2	1	2	1	−

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。

表３－２－１（11）　植物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－２）

平成18年8月5日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		20	+	35	30	10	5					
	アオノリ属		+	75									
	シオグサ属				+		+						
褐藻綱	タマハハキモク						+						
紅藻綱	イギス科					15	+	5	+	+			
	ススカケベニ					+	+	+	+			+	
	イワノカワ科								+				
藍藻綱	−	+	10										
出現種類数(8)		1	3	2	2	3	5	3	3	1	−	1	−

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。

表３－２－１（12）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－１）

平成18年8月4日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥
緑藻綱	アオサ属			+										
	ミル			+										
出現種類数(2)		－	－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表３－２－１（13）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－２）

平成18年8月4日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオノリ属		10	+												
	シオグサ属		20	20	20	+										
	アオサ属			+												
紅藻綱	フダラク		+	+												
	イギス科		+	+	+	10	+	+	10	+						
	タオヤギソウ					+				+						
	ベニスナゴ					+	5	+	+							
	カバノリ					+	+	10	20	+	+					
	マクサ							+	+	+						
	イワノカワ科								+							
	ススカケベニ									+	+					
珪藻綱	珪藻綱			+	+	+	+	+								
出現種類数(12)		－	4	6	3	6	4	5	5	5	2	－	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表３－２－１（14）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－３）

平成18年8月4日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオサ属		+													
	アオノリ属		+													
出現種類数(2)		－	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表３－２－１（15）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－４）

平成18年8月4日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
基質		ケーソン	ケーソン	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫, 大礫	大礫	大礫	大礫	泥
緑藻綱	アオサ属		+	+	+	+	+												
	アオノリ属		30																
	シオグサ属		20	40	10	+	+												
	ミル								+										
褐藻綱	ワカメ							+											
紅藻綱	イギス科		+	+	+	10	10	10	10										
	フダラク				+														
出現種類数(7)		－	4	3	4	3	3	2	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

② 動物

A. 神戸沖処分場

調査地点A－1では、18種類の動物が確認された。被度をみると水深＋1.0mで節足動物門のイワフジツボが80%、水深－1.0～4.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が10～30%と多くみられた。触手動物門のコケムシ綱が被度5%未満と少ないものの水深－1.0～9.0mと広範囲で出現した。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のタマキビが160個体、水深±0.0mで軟体動物門のイボニシが11個体、水深－8.0mで棘皮動物門のキヒトデが12個体と多くみられた。種類数が多かったのは水深－6.0mで9個体であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点A－2では、22種類の動物が確認された。被度をみると水深＋1.0mで節足動物門のイワフジツボが20%、水深－1.0～2.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が30～40%、水深－3.0～7.0mで腔腸動物門のヒドロ虫綱が 10～30%と多くみられた。触手動物門のアミコケムシ科が被度5%未満と少ないものの水深－4.0m以深の広範囲で出現した。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のタマキビが27個体、水深－1.0～6.0mで節足動物門のヤドカリ科が2～12 個体と多く出現し、棘皮動物門のイトマキヒトデとキヒトデが水深－4.0m以深の広い範囲でみられた。種類数が多かったのは水深－4.0mで11種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点A－3では、19種類の動物が確認された。被度をみると水深＋1.0mで節足動物門のイワフジツボが80%、水深－1.0～4.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が20～40%、水深－2.0～4.0mで腔腸動物門のヒドロ虫綱が 20～30%と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のタマキビが7個体、水深－8.0～9.0mで棘皮動物門のキヒトデが6～12個体と多く、同じ動物門のイトマキヒトデが水深－4.0～10.0mと広範囲にみられた。種類数が多かったのは水深－5.0mで8種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点A－4では、21 種類の動物が確認された。被度をみると水深＋1.0m～±0.0mで節足動物門のイワフジツボが 30～90%、水深±0.0mで軟体動物門のムラサキイガイが60%、水深－1.0～5.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 20～70%、水深－2.0～5.0mで腔腸動物のヒドロ虫綱が10～40%と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のアラレタマキビが156個体、同じ動物門のタマキビが21個体、水深－10.0mで棘皮動物門のイトマキヒトデが8個体と多くみられた。種類数が多かったのは水深±0.0mで7種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点A－5では、27 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～－1.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 50～90%、水深－1.0～3.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が40～90%、水深－4.0～7.0mで腔腸動物門のヒドロ虫綱が20～60%と多くみられた。個体数をみると水深－1.0～4.0mで軟体動物門のレイシガイが3～7個体、水深－5.0～9.0mで棘皮動物門のキヒトデが9～41個体、同じ動物門のクモヒトデが4～27個体と多く確認された。種類数が多かったのは水深－4.0mで16種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

B．尼崎沖処分場

調査地点Ｂ－１では、14 種類の動物が確認された。被度をみると水深－1.0～4.0mで軟体動物門のムラサキイガイが15～100%、水深－3.0～6.0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が10～60%、水深－4.0～5.0mで原索動物門のユウレイボヤ属が20～25%と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のタマキビが56個体、水深－5.0mでキヒトデが２個体みられた。種類数が多かったのは水深－5.0mで８種類であった。水深－6.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｂ－２では、20 種類の動物が確認された。被度をみると水深－1.0～4.0mで軟体動物門のムラサキイガイが35～100%、水深－5.0～6.0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が30～35%と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のタマキビが15個体、水深－6.0mで棘皮動物門のキヒトデが７個体と多くみられた。種類数が多かったのは水深－4.0mで９種類であった。水深－7.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｂ－３では、11 種類の動物が確認された。被度をみると水深－2.0～4.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 60～95%、水深－4.0～8.0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が10～50%と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のタマキビが32個体と多くみられた。種類数が多かったのは水深－4.0mで８種類であった。水深－8.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｂ－４では、14 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0m、水深－2.0～4.0mで軟体動物門のムラサキイガイが15～65%、水深－4.0～6.0mで腔腸動物門のチギレイソギンチャクが５～25%、同じ水深帯で環形動物門の多毛綱（泥巣）が 25～85%と多くみられた。個体数をみると水深－1.0mで軟体動物門のキヌマトイガイ、水深－3.0mと－6.0mで軟体動物門のシマメノウフネガイが僅かに確認されたのみであった。種類数が多かったのは水深－3.0mで６種類であった。水深－6.0mまで動物は出現した。

C．大阪沖処分場

調査地点Ｃ－１では、23 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～－1.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 40～60%、水深－2.0～4.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が55～95%、水深－2.0mで原索動物門のホヤ綱（群体性）が30%と多くみられた。個体数をみると水深±0.0mで軟体動物門のタマキビが45個体、水深－1.0mで同じ動物門のカラマツガイが６個体、水深－6.0mで棘皮動物門のキヒトデが５個体と多く出現した。種類数が多かったのは水深－2.0mで７種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｃ－２では、16 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～2.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 15～50%、水深－3.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が20%と多くみられた。個体数では水深－4.0～8.0mで軟体動物門のナミマガシワとシマメノウフネガイ、水深－2.0～3.0m、－8.0～10.0mで棘皮動物門のキヒトデとマナマコ、サンショウウニが僅かに出現した。種類数が多かったのは水深－3.0mで７種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

D．泉大津沖処分場

調査地点Ｄ－１では、23 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～－3.0ｍで軟体動物門のムラサキイガイが 10～80％、水深－1.0～4.0ｍで腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 10～30％、水深－1.0～8.0ｍで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～80％、水深－5.0～10.0ｍで触手動物門のコケムシ綱が 10～60％と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0ｍで軟体動物門のアラレタマキビが 120 個体、水深－1.0ｍで軟体動物門のレイシガイが９個体と多く出現した。種類数が多かったのは水深－2.0ｍで９種類であった。水深－11.0ｍまで動物は出現した。

調査地点Ｄ－２では、25 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～－4.0ｍで軟体動物門のムラサキイガイが 20～70％、水深－7.0～9.0ｍで触手動物門のアミコケムシ科が 10～20％と多くみられた。同じ動物門のコケムシ綱が５％未満～20％と少ないものの水深－3.0～12.0ｍと広範囲で確認された。個体数をみると水深＋1.0ｍで軟体動物門のアラレタマキビが 91 個体、水深±0.0ｍで軟体動物門のイボニシが 44 個体、水深－3.0～12.0ｍの広範囲で棘皮動物門のイトマキヒトデが２～31 個体、水深－3.0～11.0ｍの広範囲で同じ動物門のキヒトデが３～39 個体と多くみられた。種類数が多かったのは水深－3.0～4.0ｍで９種類であった。水深－12.0ｍまで動物は出現した。

調査地点Ｄ－３では、26 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～－2.0ｍで軟体動物門のムラサキイガイが 50～100％、水深－2.0～5.0ｍで環形動物門のカンザシゴカイ科が 30～80％、水深－5.0～6.0ｍ、－9.0～12.0ｍで同じ動物門の多毛綱（泥巣）が 20～80％と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0ｍで軟体動物門のタマキビが 140 個体、水深±0.0ｍで軟体動物門のイボニシが 11 個体、水深－7.0～8.0ｍで棘皮動物門のキヒトデが４～７個体と多くみられた。種類数が多かったのは水深－7.0ｍで９種類であった。水深－12.0ｍまで動物は出現した。

調査地点Ｄ－４では、24 種類の動物が確認された。被度を見ると水深±0.0～－2.0ｍで軟体動物門のムラサキイガイが 40％、水深－2.0～3.0ｍで環形動物門のカンザシゴカイ科が 20～30％、水深－3.0ｍで原索動物のユウレイボヤ属が 30％、水深－5.0～6.0ｍで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 10～30％と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0ｍで軟体動物門のアラレタマキビが 180 個体、水深－3.0～6.0ｍで棘皮動物門のサンショウウニが１～14 個体、水深－4.0～13.0ｍの広範囲で棘皮動物門のキヒトデが１～６個体と多くみられた。種類数が多かったのは水深－4.0～5.0ｍで 11 種類であった。水深－15.0ｍまで動物は出現した。

表３－２－２（１）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－１）

平成18年8月6日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
腔腸動物	ヒドロ虫綱				+	20	10	+	10	+			
	シオガマサンゴ								+		+	+	
環形動物	カンザシゴカイ科		+	30	10	10	10	+	+				
触手動物	コケムシ綱			+	+	+	+	+	+	+	+	+	
	アミコケムシ科							+	+				
軟体動物	タマキビ	(160)											
	イボニシ		(11)	(1)									
	レイシガイ			(7)				(3)					
節足動物	イワフジツボ	80											
	ヤドカリ科							(6)	(1)				
棘皮動物	サンショウウニ						(1)						
	キヒトデ								(4)	(3)	(12)	(1)	(3)
	マナマコ								(2)				
	イトマキヒトデ									(1)	(1)		
	クモヒトデ										(2)		
	モミジガイ												(4)
原索動物	ホヤ綱（群体性）							+	+				
	エボヤ							+		+			
出現種類数(18)		2	2	4	3	3	4	8	9	5	5	3	2

注：数値は被度（%）を示し、＋は５%未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表３－２－２（２）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－２）

平成18年8月6日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
腔腸動物	ヒドロ虫綱				+	30	10	20	10	10	+		
	シオガマサンゴ										+	+	
環形動物	カンザシゴカイ科			30	40	+	10	+	+				
触手動物	コケムシ綱				+	+	+	+	+				
	アミコケムシ科						+	+	+	+	+	+	
軟体動物	ケガキ	+											
	タマキビ	(27)											
	イボニシ		(2)										
	ムラサキイガイ		+										
	コシダカガンガラ				(1)	(2)		(4)	(2)				
	レイシガイ				(4)	(2)	(3)						
	アカニシ						(2)		(1)				
	ムギガイ						(8)						
	イタボガキ科							+					
	カゴメガイ										(1)		
節足動物	イワフジツボ	20	+										
	ヤドカリ科			(4)	(3)	(6)	(2)	(12)	(9)				
	ワタリガニ科							(1)					
棘皮動物	イトマキヒトデ						(6)	(1)		(4)		(1)	(13)
	キヒトデ						(6)		(1)	(3)	(7)	(6)	(2)
	マナマコ						(2)			(1)			
原索動物	ホヤ綱（群体性）							+					
出現種類数(22)		3	3	2	6	6	11	10	8	5	5	4	2

注：数値は被度（%）を示し、＋は５%未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表３－２－２（３）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－３）

平成18年8月6日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂,小礫
腔腸動物	ヒドロ虫綱			+	30	30	20	5	+				
	シオガマサンゴ									+		+	
環形動物	カンザシゴカイ科			20	20	40	20	5	+	+			
触手動物	コケムシ綱							+	+	+			
	アミコケムシ科										+	+	
軟体動物	タマキビ	(7)											
	ケガキ		+										
	キクノハナガイ		(1)										
	レイシガイ				(4)			(3)					
	ムギガイ					(4)	(2)						
	コシダカガンガラ						(1)	(1)					
	キクザルガイ科							+					
節足動物	イワフジツボ	80											
	ヤドカリ科			(6)				(2)					
棘皮動物	イトマキヒトデ						(1)	(1)	(6)	(3)	(1)	(2)	(1)
	キヒトデ									(1)	(12)	(6)	(1)
	モミジガイ												(1)
原索動物	ホヤ綱（群体性）				+								
	ホヤ綱（単体性）					+			+				
出現種類数（19）		2	2	3	4	4	5	8	5	5	3	4	3

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表３－２－２（４）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－４）

平成18年8月6日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	砂,小礫
腔腸動物	タテジマイソギンチャク			+									
	ヒドロ虫綱			+	10	40	40	30	+	+			
	シオガマサンゴ							+	+	+	+		
環形動物	カンザシゴカイ科			20	70	30	40	20	+				
	多毛綱（泥巣）										10	+	
触手動物	コケムシ綱				10	+							
軟体動物	アラレタマキビ	(156)											
	タマキビ	(21)											
	イボニシ		(1)										
	レイシガイ		(1)		(1)								
	ムラサキイガイ		60										
	カモガイ		(1)										
	ケガキ		+										
	コシダカガンガラ							(2)					
節足動物	イワフジツボ	90	30										
	ヨーロッパフジツボ		+										
	ヤドカリ科							(1)					
	サンカクフジツボ								+	+			
棘皮動物	キヒトデ					(1)			(1)				
	イトマキヒトデ												(8)
原索動物	ホヤ綱（群体性）			+	+								
出現種類数（21）		3	7	4	5	4	2	5	5	3	2	1	1

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表３－２－２（５）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－５）

平成18年8月6日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂，大礫
腔腸動物	ヒドロ虫綱		+	30	+	+	60	40	30	20	+		
	イソギンチャク目			+									
	チギレイソギンチャク						+						
環形動物	カンザシゴカイ科			40	90	90	+						
	多毛綱（泥巣）										+	+	
軟体動物	ムラサキイガイ		90	50	10								
	イボニシ		(2)	(4)	(1)								
	カラマツガイ		(1)										
	レイシガイ			(3)	(7)	(5)	(3)						
	シマメノウフネガイ						+						
	コシダカガンガラ						(6)						
	ムギガイ							(3)					
節足動物	イワフジツボ		+										
	ヨーロッパフジツボ			+									
	ワタリガニ科						(1)						
	サンカクフジツボ						+	10	+	+			
	アカフジツボ						+		+				
棘皮動物	キヒトデ					(2)	(2)	(25)	(36)	(41)	(26)	(9)	
	ムラサキウニ						(1)						
	サンショウウニ						(1)	(1)	(2)	(2)	(1)		
	イトマキヒトデ						(6)	(6)	(4)				
	クモヒトデ							(6)	(4)	(7)	(5)	(27)	
	マナマコ							(1)					
原索動物	シロボヤ					+	+						
	ホヤ綱（群体性）						+						
	エボヤ						+						
	ユウレイボヤ属							+	+	+	+	+	+
	出現種類数(27)	－	5	7	5	5	16	9	8	6	6	4	1

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表３－２－２（６）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－１）

平成18年8月3日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
腔腸動物	タテジマイソギンチャク		+						
	チギレイシギンチャク				+	20	+	+	+
環形動物	多毛綱（泥巣）					10	60	50	10
	カンザシゴカイ科					+	5	+	+
	ミズヒキゴカイ						+	+	+
触手動物	コケムシ綱							+	
軟体動物	タマキビ	(56)							
	ムラサキイガイ		+	15	100	100	20	5	
	マガキ		+						
節足動物	イワフジツボ		+						
	Balanus spp.			+	15	+			
棘皮動物	キヒトデ							(2)	
原索動物	ユウレイボヤ属						25	20	+
	エボヤ								+
出現種類数(14)		1	4	2	3	5	6	8	6

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表３－２－２（７）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－２）

平成18年8月3日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
海綿動物	海綿動物門						+			+
腔腸動物	チギレイソギンチャク				+	10	5			
	ヒドロ虫綱						+		+	+
	シオガマサンゴ									+
環形動物	カンザシゴカイ科						+	+		
	多毛綱（泥巣）							30	35	5
	ミズヒキゴカイ							+		
軟体動物	タマキビ	(15)								
	マガキ		25							
	ムラサキイガイ		+	35	100	100	50			
	イボニシ		(2)							
	シマメノウフネガイ								+	
節足動物	*Balanus* spp.		5	5	20	+				
	イワフジツボ		+							
棘皮動物	キヒトデ					(1)	(1)		(7)	
	イトマキヒトデ								(2)	
原索動物	エボヤ						+	+		+
	ユウレイボヤ属						+	+		
	シロボヤ						+			
	ホヤ綱（単体性）							+		
出現種類数(20)		1	5	2	3	4	9	6	5	5

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表３－２－２（８）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－３）

平成18年8月3日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
腔腸動物	ヒドロ虫綱					+	+	+			
	チギレイソギンチャク						10	15	5	+	+
	Anthopleura sp.									+	5
環形動物	カンザシゴカイ科						+		+		
	多毛綱（泥巣）						40	50	45	35	10
	ミズヒキゴカイ						+	+			
軟体動物	タマキビ	(32)									
	ムラサキイガイ		15	+	95	95	60	+			
節足動物	*Balanus* spp.		5	10	+	+					
原索動物	ユウレイボヤ属						5	15	+		
	シロボヤ						+				
出現種類数(11)		1	2	2	2	3	8	6	4	3	3

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表３－２－２（９）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－４）

平成18年8月3日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
腔腸動物	タテジマフジツボ		+	10					
	ヒドロ虫綱					+	+	+	+
	チギレイソギンチャク						25	20	5
環形動物	カンザシゴカイ科			+	5	+			
	多毛綱（泥巣）						25	80	85
	ミズヒキゴカイ					+			
軟体動物	ムラサキイガイ		20	+	15	65	35		
	コウロエンカワヒバリガイ		+						
	キヌマトイガイ			(2)					
	シマメノウフネガイ					(2)			(1)
節足動物	イワフジツボ		+						
	Balanus spp.		+	15	5				
原索動物	ホヤ綱（群体性）					+			
	ユウレイボヤ属							+	+
出現種類数(14)		−	5	5	3	6	4	4	5

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表３－２－２（10）　動物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－１）

平成18年8月5日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
水深（m）		+1	0	1	2	3	3	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物	海綿動物門					+		5	5					+	
腔腸動物	タテジマイソギンチャク			+											
	ヒドロ虫綱			+	5				+	10		+			
	チギレイソギンチャク				+	+	+				+				
	シオガマサンゴ										+				
環形動物	カンザシゴカイ科				85	95	70	55	65	+	+				
	ウズマキゴカイ科						+	+			+				
触手動物	コケムシ綱			+								+	+	+	+
軟体動物	タマキビ		(45)												
	マガキ		+												
	ムラサキイガイ		60	40			+								
	カラマツガイ		(2)	(6)											
	レイシガイ				(1)			(1)							
	ナミマガシワ									(2)					(1)
節足動物	イワフジツボ		+												
	Balanus sp.		+	+											
棘皮動物	キヒトデ				(1)	(1)	(1)				(5)		(1)	(1)	(2)
	サンショウウニ									(1)					
原索動物	エボヤ				+	+									
	ホヤ綱（群体性）				30		+	+	5	+	+	+		+	
	ホヤ綱（単体性）							+							
	ユウレイボヤ属												+	+	+
	マボヤ														(1)
出現種類数(23)		－	6	6	7	5	6	6	4	5	6	3	3	5	5

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表３－２－２（11）　動物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－２）

平成18年8月5日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物	海綿動物門				+	+							
腔腸動物	ヒドロ虫綱					10	+	+	5	+	+		
環形動物	カンザシゴカイ科				+	20	+	+	+		+	+	
	ウズマキゴカイ科					+	+	+	+		+	+	+
	多毛綱（泥巣）						+	+	+	+			
触手動物	コケムシ綱				+					+			
軟体動物	ムラサキイガイ		40	15	50	+							
	ナミマガシワ						(2)	(1)					
	シマメノウフネガイ								(1)	(1)	(1)		
節足動物	*Balanus* sp.			+									
棘皮動物	キヒトデ				(1)							(1)	(1)
	マナマコ					(1)							
	サンショウウニ										(1)	(1)	
原索動物	ホヤ綱（群体性）				+	+	+						
	エボヤ										+		
	ユウレイボヤ属											+	+
出現種類数(16)		－	1	2	6	7	6	5	5	4	6	5	3

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表３－２－２（12）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－１）

平成18年8月4日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥
腔腸動物	タテジマイソギンチャク		+		+									
	ヒドロ虫綱		+	+	+			+						
	チギレイソギンチャク			10	20	30	20	5	+	+	+			
環形動物	カンザシゴカイ科			10	20	60	70	80	60	20	20	+	+	
	多毛綱（泥果）							+	10	20	20	10	10	
触手動物	フサコケムシ科			+	+	10	10							
	コケムシ綱				+	+	+	10	30	50	50	60	40	
	アミコケムシ科								+	+	+	+	+	
軟体動物	アラレタマキビ	(120)												
	ケガキ		10											
	ムラサキイガイ		60	80	70	10	+							
	イボニシ		(6)	(3)										
	ユキノカサガイ科		(7)											
	レイシガイ			(9)										
	ウミフクロウ										(1)			
節足動物	イワフジツボ	+	20											
	ヨーロッパフジツボ		+											
棘皮動物	イトマキヒトデ							(1)						
	キヒトデ								(4)					(1)
原索動物	シロボヤ				+	+								
	ホヤ綱（群体ボヤ）				+	+	+	+						
	エボヤ						+			+			+	
	ユウレイボヤ属							+	+	+	+	+	+	
出現種類数(23)		2	8	7	9	7	7	8	7	7	7	5	6	1

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表３－２－２（13）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－２）

平成18年8月4日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
腔腸動物	タテジマイソギンチャク		+													
	ヒドロ虫綱		+	10	+	+	+									
	チギレイソギンチャク			+												
	シオガマサンゴ										+	+	+	+	+	
環形動物	カンザシゴカイ科			10	+	10	+	+								
	ミズヒキゴカイ科					+	+									
	多毛綱（泥果）											+	+	+	+	
触手動物	コケムシ綱					+	+	20	10	5	5	5	+	+	+	
	アミコケムシ科								+	10	10	20	+	+	+	
軟体動物	アラレタマキビ	(91)														
	ユキノカサガイ科	(6)														
	カモガイ	(4)														
	ヨメガカサ	(2)														
	ベッコウガサ	(1)														
	カラマツガイ	(3)														
	ケガキ	+														
	イボニシ		(44)													
	ムラサキイガイ		70	30	40	20	20									
	コシダカガンガラ					(5)	(1)	(1)	(2)							
	シマメノウフネガイ						+		+	+	+					
節足動物	イワフジツボ	+														
	サンカクフジツボ								+	+	+					
棘皮動物	イトマキヒトデ					(31)	(11)	(23)	(6)	(19)	(6)	(8)	(11)	(4)	(2)	
	キヒトデ					(6)	(3)	(39)	(5)	(17)	(21)	(6)	(4)	(6)		
	サンショウウニ					(1)						(2)	(1)			
出現種類数(25)		8	4	4	3	9	9	5	7	6	7	7	7	6	5	−

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表３－２－２（14）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－３）

平成18年8月4日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
腔腸動物	タテジマイソギンチャク		+													
	ヒドロ虫綱		10	20	10	+	+									
	チギレイソギンチャク			+	10	+	+	+								
	シオガマサンゴ												+	+	+	
環形動物	カンザシゴカイ科			+	30	70	80	40	+	+						
	多毛綱（泥巣）						+	40	50	+	+	20	60	80	80	
	ミズヒキゴカイ科									+	+					
触手動物	フサコケムシ科				20	20	20	+								
	コケムシ綱							+	+							
	アミコケムシ科								+	+	+	+	+			
軟体動物	アラレタマキビ	(140)														
	カラマツガイ		(6)													
	キクノハナガイ		(1)													
	イボニシ		(11)													
	ムラサキイガイ		50	100	60	+	+									
	ケガキ		+													
	レイシガイ				(1)											
節足動物	イワフジツボ	+	10													
	ヨーロッパフジツボ			+												
棘皮動物	サンショウウニ									(1)	(3)					
	イトマキヒトデ									(2)	(1)	(3)		(1)		
	キヒトデ									(4)	(7)	(2)	(1)			
原索動物	ホヤ綱（群体性）				+	10	+	+	+							
	ユウレイボヤ属							+		+						
	エボヤ								+							
	シロボヤ									+	+	+	+	+		
出現種類数(26)		2	8	5	7	6	7	7	6	9	7	5	5	4	2	—

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す

表３－２－２（15）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－４）

平成18年8月4日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	基質	ケーソン	ケーソン	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、大礫	大礫	大礫	大礫	泥
腔腸動物	タテジマイソギンチャク		+																
	チギレイソギンチャク			5	10	5	+	+	+										
	ヒドロ虫綱						20												
	シオガマサンゴ									+	+	+	+	+	+	+	+	+	
環形動物	カンザシゴカイ科			+	20	30	+	+											
	多毛綱（泥巣）					+	+	10	30	+	+	+							
触手動物	コケムシ綱						+	+											
軟体動物	アラレタマキビ	(180)																	
	イボニシ		(1)																
	ケガキ		+																
	ムラサキイガイ		40	40	40	5													
	レイシガイ			(1)															
	キクザルガイ科						+	+											
	イタボガキ科						+	10	10										
	シマメノウフネガイ									+	+	+	+	+					
	アカニシ										(1)								
節足動物	イワフジツボ	5	+																
	ヨーロッパフジツボ		+																
棘皮動物	サンショウウニ					(2)	(5)	(14)	(1)		(1)								
	キヒトデ						(2)	(1)	(1)	(1)	(6)	(4)	(3)	(4)	(2)	(1)		(1)	
	イトマキヒトデ										(4)	(5)	(1)		(1)		(1)		
原索動物	シロボヤ				+	+	+	+	+	+	+	+	+						
	ユウレイボヤ属				+	30	+	+	+	+	+	+	+	+	+				
	ホヤ綱（群体性）							+	+										
出現種類数(24)		2	6	4	5	7	11	11	8	6	9	7	6	4	4	2	2	2	—

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

③ 魚類

A．神戸沖処分場

調査地点Ａ－１では19種類の魚類が確認された。種類数では水深－2.0～4.0mで13種類と多く、個体数ではメジナ、アイナメ、キュウセン、スズメダイ、ハゼ科が多かった。水深－4.0m以深でハゼ科が多く確認された。

調査地点Ａ－２では21種類の魚類とマダコが確認された。種類数では水深－2.0～4.0mで18種類と多く、個体数ではメジナ、クロダイ、キュウセン、ハゼ科が多かった。水深－6.0m以深でハゼ科が多く確認された。

調査地点Ａ－３では14種類の魚類とマダコが確認された。種類数では水深－2.0～4.0mで11種類と多く、個体数ではメジナ、メバルが多かった。水深－8.0m以深でメバルとボラが数個体確認された。

調査地点Ａ－４では18種類の魚類が確認された。種類数では水深－2.0～4.0mで14種類と多く、個体数ではメジナ、スズメダイ、クロダイ、メバル、アイナメが多かった。水深－6.0m以深ではハゼ科が数個体確認されたのみで、水深－8.0m以深で魚類は確認されなかった。

調査地点Ａ－５では９種類の魚類とマダコが確認された。種類数では水深－2.0～4.0mで８種類と多く、個体数ではマアジ、クロダイ、ウミタナゴが多かった。水深－6.0m以深ではハゼ科が数個体確認されたのみで、水深－8.0m以深で魚類は確認されなかった。

B．尼崎沖処分場

調査地点Ｂ－１、Ｂ－４では魚類は確認されなかった。

調査地点Ｂ－２では２種類の魚類が確認された。水深±0.0～－4.0mで魚類の出現はなく、水深－4.0～7.0mでメバルとクロダイが数個体確認されたのみであった。

調査地点Ｂ－３では水深±0.0～－4.0mで魚類の出現はなく、水深－4.0～8.0mでクロダイ１種類のみが数個体確認されたのみであった。

C．大阪沖処分場

調査地点Ｃ－１では14種類の魚類が確認された。種類数では水深－4.0～6.0mで11種類と多く、個体数ではスズメダイ、メバル、チャガラ、メジナ、スズキが多かった。水深－6.0m以深でスズメダイが確認されたのみで、水深－8.0m以深で魚類は確認されなかった。

調査地点Ｃ－２では、11 種類の魚類が確認された。種類数では水深－2.0～4.0mで９種類と多く、個体数ではメジナ、チャガラ、メバル、スズメダイが多かった。水深－8.0m以深で魚類は確認されなかった。

D．泉大津沖処分場

調査地点Ｄ－１では４種類の魚類が確認された。種類数では水深－8.0～10.0mで３種類と多く、個体数ではネズッポ科が多かった。水深±0.0～－4.0mで魚類は確認されなかった。

調査地点Ｄ－２では８種類の魚類が確認された。種類数では水深－4.0～6.0mで７種類と多く、個体数ではメバルが多かった。水深±0.0～－2.0m、水深－8.0m以深で魚類は確認

されなかった。

調査地点Ｄ－３では７種類の魚類が確認された。種類数では水深－6.0～8.0ｍで６種類と多く、個体数ではメバルが多かった。水深±0.0～－2.0ｍ、水深－10.0ｍ以深で魚類は確認されなかった。

調査地点Ｄ－４では、10 種類の魚類が確認された。種類数では水深－6.0～8.0ｍで６種類と多く、個体数ではメバル、マアジが多かった。－10.0ｍ以深で魚類は確認されなかった。

表３－２－３（１）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－１）

平成18年8月6日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、砂、小礫
魚類	アサヒアナハゼ(12)	rr	rr			
	クサフグ(5)	rr				
	メジナ(15～25)	cc	cc			
	アイナメ(15～30)	r	c	r		
	ウミタナゴ(10～15)	r	r			
	ササノハベラ(15～20)		r			
	キュウセン(15～20)		cc	cc		
	メバル(3～18)		r	r		
	ニジギンポ(5)		rr			
	スズキ(40～50)		r			
	ボラ(50)		rr			
	スズメダイ(7～10)		c	r		
	コモンフグ(10～15)		r			
	クロダイ(20～30)		r	r		
	コブダイ(20)			rr		
	ムラソイ(18)			rr		
	カサゴ(5～20)			r		
	ハゼ科(3～10)			c	cc	c
	マコガレイ(12)			rr		
出現種類数(19)		5	13	10	1	1

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表３－２－３（２）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－２）

平成18年8月6日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、砂、小礫
魚類	メジナ(15～25)	cc	cc			
	ナベカ(3)	rr				
	アイナメ(15～25)	rr	r	rr		
	クロダイ(15～30)	r	c	r		
	イシダイ(15)		rr			
	クジメ(15～18)		r			
	ムラソイ(15～20)		r			
	メバル(5～20)		r	r		
	ササノハベラ(15～20)		rr	rr		
	キチヌ(30)		rr			
	スズメダイ(8～10)		r			
	カワハギ(6～10)		r			
	ウミタナゴ(5～15)		r			
	キュウセン(12～20)		c	r		
	カサゴ(8～20)		r			
	マコガレイ(10～12)		rr	rr		
	ボラ(30～35)		r			
	コモンフグ(15)		rr			
	シマイサキ(18)		rr			
	ハゼ科(3～10)			r	c	r
	スズキ(20～35)			r		
その他	マダコ(15)			r		
出現種類数(22)		4	18	9	1	1

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表３－２－３（３）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－３）

平成18年8月6日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ブロック	ブロック，巨礫	巨礫	巨礫	巨礫，砂，小礫
魚類	カワハギ(7～10)	rr	rr			
	メジナ(10～25)	cc	cc			
	イシダイ(20)		rr			
	コモンフグ(15)		rr			
	カサゴ(8～20)		r	r	rr	
	ウミタナゴ(5～15)		r	r		
	クロダイ(25～35)		r	r		
	ササノハベラ(15～18)		r	r	rr	
	アイナメ(15～25)		r	r	r	
	メバル(3～20)		r	cc	r	r
	ハゼ科(8～10)			r		
	クジメ(15～20)			r		
	シマイサキ(20)			rr		
	ボラ(40)					rr
その他	マダコ(10～20)		r	rr		
出現種類数(15)		2	11	10	4	2

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表３－２－３（４）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－４）

平成18年8月6日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック，砂，小礫
魚類	ボラ(35)	rr				
	アサヒアナハゼ(10)	rr				
	メジナ(8～25)	c	cc			
	キュウセン(15～18)	r	r	r		
	ウミタナゴ(5～8)	r	r			
	ウマヅラハギ(25)	rr				
	スズメダイ(8～10)	c	c	r		
	クロダイ(30～40)	r	c			
	コモンフグ(12～15)	rr	r			
	ササノハベラ(15～18)	r	rr			
	メバル(3～15)	r	c	r		
	アイナメ(15～25)	r	c	r		
	イシダイ(15～25)	r	r			
	コブダイ(30)		rr			
	スズキ(50)		r			
	クジメ(15～20)		rr			
	カサゴ(12～20)		r	rr		
	ハゼ科(2～4)			r	r	
出現種類数(18)		13	14	6	1	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表３－２－３（５）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－５）

平成18年8月6日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ケーソン	ケーソン，巨礫	巨礫	巨礫	巨礫，砂，大礫
魚類	ナベカ(3)	rr				
	アイナメ(12～25)	rr	r	rr		
	クロダイ(30～40)	c	c	r		
	マアジ（7～10）		cc			
	メバル(3～20)		r	r		
	イシダイ(10～12)		r			
	キュウセン(12～18)		r	rr		
	ウミタナゴ(8～12)		c			
	ハゼ科(4～6)			r	r	
その他	マダコ(15)		rr			
出現種類数(10)		3	8	5	1	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表３－２－３（６）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－１）

平成18年8月3日

水深（m）	0～2	2～4	4～6
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン，泥
出現なし			

表３－２－３（７）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－２）

平成18年8月3日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～7
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン，巨礫	巨礫
魚類	メバル（8）			rr	rr
	クロダイ（30）				rr
出現種類数（2）		－	－	1	2

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を
（）内の数値は全長（cm）を示す。

表３－２－３（８）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－３）

平成18年8月3日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン，巨礫
魚類	クロダイ（35～38）			r	r
出現種類数（1）		－	－	1	1

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を
（）内の数値は全長（cm）を示す。

表３－２－３（９）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－４）

平成18年8月3日

水深（m）	0～2	2～4	4～6
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン，泥
出現なし			

表３－２－３（10）　魚類の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－１）

平成18年8月5日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10
基質		ケーソン	ケーソン 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
魚類	スズメダイ（7～8）		c	c	c	
	メバル（7～9）			cc		
	ウミタナゴ（10～12）			r		
	キュウセン（18）			rr		
	ボラ（35～50）		r			
	クジメ（14～17）			r		
	チャガラ（3）			c		
	イシダイ（26）			rr		
	メジナ（13～18）			c		
	クロダイ（24）			rr		
	カサゴ（14）			rr		
	イサキ（14）		r			
	スズキ（40～50）		c			
	コブダイ（12）			rr		
出現種類数（14）		－	4	11	1	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長（cm）を示す。

表３－２－３（11）　魚類の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－２）

平成18年8月5日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～9
基質		ブロック	ブロック 巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
魚類	ボラ（40～45）		r			
	カワハギ（7）		rr			
	イサキ（14）		r			
	イシダイ（17）		r			
	キュウセン（17）		rr			
	クジメ（13～17）		r	r		
	メジナ（13～15）		c	c		
	ウミタナゴ（8～12）		r	r		
	チャガラ（3）		c	c		
	メバル（7～10）			c	c	
	スズメダイ（8～12）			cc	cc	
出現種類数（11）		－	9	6	2	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長（cm）を示す。

表３－２－３（12）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－１）

平成18年8月4日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～11
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン，泥
魚類	クロダイ（25）			rr			
	カサゴ（15～18）				rr	rr	
	メバル（8～12）				rr	r	
	ネズッポ科（5～8）					c	r
出現種類数（4）		－	－	1	2	3	1

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長（cm）を示す。

表３－２－３（13）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－２）

平成18年8月4日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～13
基質		ブロック	ブロック	ブロック，巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫，泥
魚類	ボラ（30）		r					
	クロダイ（20～35）		rr	r				
	キチヌ（20～25）			rr	rr			
	メジナ（18～20）			r	r			
	ウミタナゴ（12～15）			r				
	アサヒアナハゼ（10）			rr				
	メバル（5～10）			c	c			
	アイナメ（10～15）			rr	rr			
出現種類数（8）		－	2	7	4	－	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長（cm）を示す。

表３－２－３（14）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－３）

平成18年8月4日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～13
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン，巨礫	巨礫	巨礫	巨礫，泥
魚類	ササノハベラ（10～15）		rr		rr			
	アナハゼ（10）			rr				
	ウミタナゴ（8～12）				r			
	クロダイ（18～30）				r			
	マアジ（7～10）				r	r		
	アイナメ（15～20）				r			
	メバル（5～12）				c	r		
出現種類数（7）		－	1	1	6	2	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長（cm）を示す。

表３－２－３（15）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－４）

平成18年8月4日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16
基質		ケーソン，ブロック	ブロック	ブロック	ブロック，巨礫	巨礫	巨礫，大礫	巨礫，大礫	大礫，泥
魚類	クロダイ（20～30）	rr			r				
	ボラ（40）	rr							
	メバル（8～12）		r	r	c				
	アサヒアナハゼ（8～12）			rr	r				
	イシダイ（12）			rr					
	ウミタナゴ（10～18）			r					
	ササノハベラ（12）			rr					
	ウマヅラハギ（20）				rr				
	マアジ（5～7）				c				
	アイナメ（12～15）				r	rr			
出現種類数（10）		2	1	5	6	1	－	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長（cm）を示す。

(2) 枠取り採取及び分析

植物の枠取り分析結果を表３－２－４、動物の枠取り分析結果を表３－２－５に示した。

① 植物

A．神戸沖処分場（A－２）

上層では６種類が出現し、総湿重量 12.88ｇ/0.25 ㎡であり、藍藻綱の *Lyngbya* sp. が 12.18ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

中層では８種類が出現し、総湿重量 3.72ｇ/0.25 ㎡であり、褐藻綱のタマハハキモクが 1.58ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では５種類が出現し、総湿重量 1.37ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のベニスナゴが 1.19ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

B．尼崎沖処分場（B－２）

上層、下層では植物の出現はなかった。

中層では緑藻綱のアオノリ属が１種類のみ出現したが、総湿重量 0.01ｇ未満/0.25 ㎡であった。

C．大阪沖処分場（C－２）

上層では５種類が出現し、総湿重量は 33.91ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のボタンアオサが 24.96ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

中層では３種類が出現し、総湿重量 7.47ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のアナアオサが 7.45ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では５種類が出現し、総湿重量は 186.59ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のアナアオサが 186.42ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

D．泉大津沖処分場（D－２）

上層では６種類が出現し、総湿重量は 1.33ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のオキツノリが 0.84ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

中層では６種類が出現し、総湿重量は 2.29ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のムカデノリが 2.06ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では４種類が出現し、総湿重量は 3.67ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のベニスナゴが 3.05ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

表３－２－４　枠取り分析結果(植物)

調査地点(調査日)	層		上 (M.W.L.±0.0m)			中 (M.W.L.－2.0m)			下 (M.W.L.－4.0m)		
神戸沖 Ａ－２ (8月6日)	出現種類数		6			8			5		
	総湿重量 (g/0.25㎡)		12.88			3.72			1.37		
	優占種	第１位	*Lyngbya* sp.	12.18	(95)	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ	1.58	(42)	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	1.19	(87)
		第２位	ｼｵｸﾞｻ属	0.66	(5)	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	0.82	(22)	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	0.14	(10)
		第３位	ｱｵｻ属	0.02	(+)	ｱﾅｱｵｻ	0.66	(18)	ﾂﾉﾏﾀ属	0.03	(2)
尼崎沖 Ｂ－２ (8月3日)	出現種類数		0			1			0		
	総湿重量 (g/0.25㎡)		0.00			+			0.00		
	優占種	第１位	－			ｱｵﾉﾘ属	+	(100)	－		
		第２位	－			－			－		
		第３位	－			－			－		
大阪沖 Ｃ－２ (8月5日)	出現種類数		5			3			5		
	総湿重量 (g/0.25㎡)		33.91			7.47			186.59		
	優占種	第１位	ﾎﾞﾀﾝｱｵｻ	24.96	(74)	ｱﾅｱｵｻ	7.45	(100)	ｱﾅｱｵｻ	186.42	(100)
		第２位	ｱｵﾉﾘ属	6.24	(18)	ｼｵｸﾞｻ属	0.02	(+)	ｲｷﾞｽ属	0.12	(+)
		第３位	ｱﾅｱｵｻ	2.51	(7)	ｲｷﾞｽ属	+	(+)	ｼｵｸﾞｻ属	0.03	(+)
泉大津沖 Ｄ－２ (8月4日)	出現種類数		6			6			4		
	総湿重量 (g/0.25㎡)		1.33			2.29			3.67		
	優占種	第１位	ｵｷﾂﾉﾘ	0.84	(63)	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	2.06	(83)	ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ	3.05	(83)
		第２位	ｲﾄｸﾞｻ属	0.24	(18)	ﾂﾉﾏﾀ属	0.20	(9)	ｲｷﾞｽ科	0.56	(15)
		第３位	ｼｵｸﾞｻ属	0.18	(14)	ｲｷﾞｽ科	0.02	(3)	ｷﾇｲﾄﾌｸﾛｶﾞｻﾈ	0.06	(2)

注）優占種名の各数値は湿重量を示し、＋は0.01g未満を示す。
　　また、（ ）内の数値は総量に対する占有率を示し、＋は１％未満を示す。

② 動物

A．神戸沖処分場（A－2）

上層では11種類が出現し、総個体数8,061個体/0.25㎡、総湿重量52.78g/0.25㎡であった。節足動物門のイワフジツボが個体数、湿重量ともに最も多く、5,925個体/0.25㎡、28.44g/0.25㎡であった。

中層では41種類が出現し、総個体数9,055個体/0.25㎡、総湿重量50.82g/0.25㎡であった。環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが個体数、湿重量ともに最も多く、6,567個体/0.25㎡、33.90g/0.25㎡であった。

下層では54種類が出現し、総個体数1,556個体/0.25㎡、総湿重量32.28g/0.25㎡であった。個体数では軟体動物門のキヌマトイガイが573個体/0.25㎡、湿重量では環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが9.64g/0.25㎡と最も多かった。

B．尼崎沖処分場（B－2）

上層では17種類が出現し、総個体数1,047個体/0.25㎡、総湿重量1,162.13g/0.25㎡であった。個体数では節足動物門のモクズヨコエビ属が320個体/0.25㎡、湿重量では軟体動物門のマガキが1,136.05g/0.25㎡と最も多かった。

中層では23種類が出現し、総個体数94,399個体/0.25㎡、総湿重量22,781.35g/0.25㎡であった。軟体動物門のムラサキイガイが個体数、湿重量ともに最も多く、50,176個体/0.25㎡、22,558.72g/0.25㎡であった。

下層では49種類が出現し、総個体数49,597個体/0.25㎡、総湿重量6,697.06g/0.25㎡であった。軟体動物門のムラサキイガイが個体数、湿重量ともに最も多く、44,033個体/0.25㎡、6,502.41g/0.25㎡であった。

C．大阪沖処分場（C－2）

上層では27種類が出現し、総個体数75,769個体/0.25㎡、総湿重量3,464.86g/0.25㎡であった。軟体動物門のムラサキイガイが個体数、湿重量ともに最も多く、72,193個体/0.25㎡、3,440.64g/0.25㎡であった。

中層では52種類が出現し、総個体数66,235個体/0.25㎡、総湿重量2,539.24g/0.25㎡であった。軟体動物門のムラサキイガイが個体数、湿重量ともに最も多く、64,035個体/0.25㎡、2,524.34g/0.25㎡であった。

下層では50種類が出現し、総個体数3,206個体/0.25㎡、総湿重量57.79g/0.25㎡であった。環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが個体数、湿重量ともに最も多く、811個体/0.25㎡、20.92g/0.25㎡であった。

D．泉大津沖処分場（D－2）

上層では34種類が出現し、総個体数24,915個体/0.25㎡、総湿重量872.03g/0.25㎡であった。軟体動物門のムラサキイガイが個体数、湿重量ともに最も多く、22,016個体/0.25㎡、885.04g/0.25㎡であった。

中層では43種類が出現し、総個体数83,136個体/0.25㎡、総湿重量4,304.21g/0.25㎡

であった。軟体動物門のムラサキイガイが個体数、湿重量ともに最も多く、78,848個体/0.25㎡、4,259.84g/0.25㎡であった。

下層では53種類が出現し、総個体数5,051個体/0.25㎡、総湿重量1,178.47g/0.25㎡であった。軟体動物門のムラサキイガイが個体数、湿重量ともに最も多く、4,443個体/0.25㎡、1,026.88g/0.25㎡であった。

表3－2－5　枠取り分析結果(動物)

調査地点(調査日)	層		上 (M.W.L. ±0.0m)		中 (M.W.L. −2.0m)		下 (M.W.L. −4.0m)	
神戸沖 A−2 (8月6日)	出現種類数(種類)		11		41		54	
	総個体数(個体/0.25㎡)		8,061		9,055		1,556	
	総湿重量(g/0.25㎡)		52.78		50.82		32.28	
	個体数からみた優占種	第1位	イワフジツボ	5,925 (74)	エゾカサネカンザシゴカイ	6,567 (73)	キヌマトイガイ	573 (37)
		第2位	ヨーロッパフジツボ	1,676 (21)	*Dodecaceria* sp.	1,984 (22)	エゾカサネカンザシゴカイ	241 (15)
		第3位	ユスリカ科幼虫	279 (3)	マルエラワレカラ	137 (2)	ドロクダムシ属	157 (10)
	湿重量からみた優占種	第1位	イワフジツボ	28.44 (54)	エゾカサネカンザシゴカイ	33.90 (67)	エゾカサネカンザシゴカイ	9.64 (30)
		第2位	ヨーロッパフジツボ	21.94 (42)	コシダカガンガラ	7.88 (16)	コシダカガンガラ	8.25 (26)
		第3位	タテジマフジツボ	1.28 (2)	*Dodecaceria* sp.	3.20 (6)	キヌマトイガイ	5.15 (16)
尼崎沖 B−2 (8月3日)	出現種類数(種類)		17		23		49	
	総個体数(個体/0.25㎡)		1,047		94,399		49,597	
	総湿重量(g/0.25㎡)		1,162.13		22,781.35		6,697.06	
	個体数からみた優占種	第1位	モクズヨコエビ属	320 (31)	ムラサキイガイ	50,176 (53)	ムラサキイガイ	44,033 (89)
		第2位	アシナガゴカイ	194 (19)	ヨーロッパフジツボ	33,843 (36)	イソギンチャク目	1,548 (3)
		第3位	コウロエンカワヒバイリガイ	140 (13)	メリタヨコエビ属	4,861 (5)	ムギガイ	917 (2)
	湿重量からみた優占種	第1位	マガキ	1,136.05 (98)	ムラサキイガイ	22,558.72 (99)	ムラサキイガイ	6,502.41 (97)
		第2位	コウロエンカワヒバイリガイ	8.07 (1)	ヨーロッパフジツボ	174.73 (1)	エボヤ	77.72 (1)
		第3位	イソガニ	5.43 (+)	イソギンチャク目	21.42 (+)	キヌマトイガイ	26.35 (+)
大阪沖 C−2 (8月5日)	出現種類数(種類)		27		52		50	
	総個体数(個体/0.25㎡)		75,769		66,235		3,206	
	総湿重量(g/0.25㎡)		3,464.86		2,539.24		57.79	
	個体数からみた優占種	第1位	ムラサキイガイ	72,193 (95)	ムラサキイガイ	64,035 (97)	エゾカサネカンザシゴカイ	811 (25)
		第2位	イワフジツボ	1,501 (2)	メリタヨコエビ属	557 (1)	*Poydora* sp.	705 (22)
		第3位	ユスリカ科幼虫	1,118 (1)	キヌマトイガイ	367 (1)	アリアケドロソコムシ	267 (8)
	湿重量からみた優占種	第1位	ムラサキイガイ	3,440.64 (99)	ムラサキイガイ	2,524.34 (99)	エゾカサネカンザシゴカイ	20.92 (36)
		第2位	イワフジツボ	12.52 (+)	キヌマトイガイ 多岐腸目	3.05 (+)	マサゴゴカイ	5.61 (10)
		第3位	ユスリカ科幼虫	3.11 (+)	ムギガイ	1.44 (+)	シマメノウフネガイ	3.87 (7)
泉大津沖 D−2 (8月4日)	出現種類数(種類)		34		43		53	
	総個体数(個体/0.25㎡)		24,915		83,136		5,051	
	総湿重量(g/0.25㎡)		872.03		4,304.21		1,178.47	
	個体数からみた優占種	第1位	ムラサキイガイ	22,016 (88)	ムラサキイガイ	78,848 (95)	ムラサキイガイ	4,443 (88)
		第2位	マルエラワレカラ	1,018 (4)	キヌマトイガイ	1,061 (1)	ムギガイ	99 (2)
		第3位	ヒゲナガヨコエビ属	933 (4)	ミズヒキゴカイ	686 (1)	イソギンチャク目	62 (1)
	湿重量からみた優占種	第1位	ムラサキイガイ	855.04 (98)	ムラサキイガイ	4,259.84 (99)	ムラサキイガイ	1,026.88 (87)
		第2位	レイシガイ	8.08 (1)	キヌマトイガイ	26.73 (1)	イトマキヒトデ	95.06 (8)
		第3位	ヒゲナガヨコエビ属	1.58 (+)	イトマキヒトデ	3.03 (+)	キヒトデ	29.71 (3)

注)（ ）内の数値は総量に対する占有率を示し、＋は1％未満を示す。

第４章　秋季調査結果

１．調査実施日

神戸沖処分場　　平成 18 年 11 月 18 日
尼崎沖処分場　　平成 18 年 11 月 13 日
大阪沖処分場　　平成 18 年 11 月 11 日
泉大津沖処分場　平成 18 年 11 月 10 日

２．水質調査

(1) 一般観測

一般観測結果を表４－１－１に示した。

① 天気・雲量・気温

A．神戸沖では天気はくもり、雲量は９～10、気温は 12.8～13.1℃であった。
B．尼崎沖では天気は晴、雲量は３～４、気温は 12.1～14.3℃であった。
C．大阪沖では天気は雨、雲量は 10、気温は 16.5～16.8℃であった。
D．泉大津沖では天気は晴のちくもり、雲量は１～７、気温は 19.0～22.7℃であった。

② 風浪階級・風向・風速

A．神戸沖では風浪階級は１～２、風速は 3.4～4.9m/ｓ、風向は東北東であった。
B．尼崎沖では風浪階級は１、風速は 1.7～2.1m/ｓ、風向は北東であった。
C．大阪沖では風浪階級は１、風速は 1.4～2.2m/ｓ、風向は南西から西南西であった。
D．泉大津沖では風浪階級は１、風速は 0.0～2.5m/ｓ、風向は西北西であった。

③ 透明度・水色

A．神戸沖では透明度は 2.3～2.6m、水色は調査地点Ａ－２、４、６すべてで黒緑であった。
B．尼崎沖では透明度は 2.7～3.4m、水色は調査地点Ｂ－２、４ともにボトルグリーンであった。
C．大阪沖では透明度は 3.8～4.1m、水色は調査地点Ｃ－１、２ともにフォレストグリーンであった。
D．泉大津沖では透明度は 2.6～4.1m、水色は調査地点Ｄ－２、４ともにボトルグリーンであった。

表４－１－１　一般観測結果

神戸沖 (11月18日)	調査地点	Ａ－２	Ａ－４	Ａ－６
	調査時間	8：22～8：59	9:14～9:43	10：05～10：33
	天気・雲量	くもり・9	くもり・9	くもり・10
	気温	13.1℃	12.8℃	12.8℃
	風浪階級	2	1	1
	風速・風向	4.9m/ｓ・東北東	3.6m/ｓ・東北東	3.4m/ｓ・東北東
	透明度	2.6m	2.5m	2.3m
	水色	黒緑 3G2.0/1.5	黒緑 3G2.0/1.5	黒緑 3G2.0/1.5
	水深	15.5m	16.5m	13.5m
尼崎沖 (11月13日)	調査地点	Ｂ－２	Ｂ－４	
	調査時間	9：59～11：05	8：37～9：05	
	天気・雲量	晴・4	晴・3	
	気温	14.3℃	12.1℃	
	風浪階級	1	1	
	風速・風向	1.7m/ｓ・北東	2.1m/ｓ・北東	
	透明度	3.4m	2.7m	
	水色	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	
	水深	7.1m	7.0m	
大阪沖 (11月11日)	調査地点	Ｃ－１	Ｃ－２	
	調査時間	11：51～12：04	10：30～10：50	
	天気・雲量	雨・10	雨・10	
	気温	16.5℃	16.8℃	
	風浪階級	1	1	
	風速・風向	1.4m/ｓ・南西	2.2m/ｓ・西南西	
	透明度	3.8m	4.1m	
	水色	ﾌｫﾚｽﾄｸﾞﾘｰﾝ 9G2.5/4.5	ﾌｫﾚｽﾄｸﾞﾘｰﾝ 9G2.5/4.5	
	水深	13.3m	13.5m	
泉大津沖 (11月10日)	調査地点	Ｄ－２	Ｄ－４	
	調査時間	12：40～13：10	8：58～9：30	
	天気・雲量	くもり・7	晴・1	
	気温	22.7℃	19.0℃	
	風浪階級	1	1	
	風速・風向	2.5m/ｓ・西北西	0.0m/ｓ・－	
	透明度	4.1m	2.6m	
	水色	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	
	水深	13.0m	16.0m	

(2) 機器測定

機器測定結果の概要を表４－１－２、図４－１－１、鉛直分布図を図４－１－２に示した。

① 水温

A．神戸沖では水温は 16.9～20.4℃の範囲を示した。調査地点Ａ－２では水深－6.0～7.0ｍ、調査地点Ａ－６では水深－7.0～8.0ｍで１℃程度高くなる変化があり、他の水深帯では海底に近づくにつれて徐々に高くなった。調査地点Ａ－４では表層で少し低い値を示したが、深くなるにつれて徐々に高くなった。各調査地点で表層から底層にかけて３℃程度変化がみられた。

B．尼崎沖では水温は 17.2～20.9℃の範囲を示した。調査地点Ｂ－２では水深－1.0～3.0ｍで２℃程度、調査地点Ｂ－４では水深±0.0～－2.0ｍで３℃程度高くなる変化があった。水深－2.0ｍ以深から海底まではほぼ一様であった。

C．大阪沖では水温は 20.3～21.0℃の範囲を示した。調査地点Ｃ－１、Ｃ－２ともに水深が深くなるにつれて徐々に高くなったが、表層と底層で大きな差はなかった。

D．泉大津沖では水温は 20.3～20.8℃の範囲を示した。調査地点Ｄ－４の表層では少し低い値を示したが、調査地点Ｄ－２、Ｄ－４ともに海底までほぼ一様の値であった。

② 塩分

A．神戸沖では塩分は 27.8～32.1の範囲を示した。調査地点Ａ－２では水深－6.0～7.0ｍで１程度、調査地点Ａ－６では水深－3.0～4.0ｍで１程度、水深－7.0～8.0ｍで２程度高くなる変化があった。調査地点Ａ－４では水深が深くなるにつれて値は高くなった。表層と底層で調査地点Ａ－２、Ａ－４では３程度、Ａ－６では４程度の差があった。

B．尼崎沖では塩分は 15.3～31.6 の範囲を示した。調査地点Ｂ－２では水深－1.0～2.0ｍで３程度、調査地点Ｂ－４では水深±0.0～－1.0ｍで 15 程度高くなる変化があった。調査地点Ｂ－２では水深－2.0ｍ以深、Ｂ－４では水深－1.0ｍ以深で値はほぼ一様であった。

C．大阪沖では塩分は 30.1～30.9 の範囲を示した。調査地点Ｃ－１、Ｃ－２ともに水深が深くなるにつれて徐々に高くなったが、表層と底層で大きな差はなかった。

D．泉大津沖では塩分は 31.7～32.1の範囲を示した。水深帯によって大きな変化はなく、調査地点Ｄ－２、Ｄ－４ともに海底までほぼ一様の値であった。

③ ＤＯ

Ａ．神戸沖ではＤＯは3.7～8.1mg/Lの範囲を示した。調査地点Ａ－６では水深－8.0～9.0ｍで２mg/L 程度低くなる変化があったが、調査地点Ａ－２、Ａ－４では水深が深くなるにつれて徐々に値は低くなった。表層と底層で調査地点Ａ－２、Ａ－４で３mg/L 程度、Ａ－６で４mg/L 程度の差がみられた。また、調査地点を比較すると、調査地点Ａ－６の底層は他の調査地点よりもやや低い値であった。

Ｂ．尼崎沖ではＤＯは2.3～4.8mg/Lの範囲を示した。調査地点Ｂ－４では水深－1.0～2.0ｍで２mg/L 程度低くなる変化があり、調査地点Ｂ－２では水深が深くなるにつれて値は低くなったが、いずれの地点も水深－2.0m以深から海底にかけて値はほぼ一様であった。また、調査地点を比較すると、調査地点Ｂ－４はＢ－２よりもやや低い値であった。

Ｃ．大阪沖ではＤＯは4.2～5.1mg/Lの範囲を示した。調査地点Ｃ－１、Ｃ－２ともに表層から海底にかけて値はほぼ一様で、各調査地点ともほぼ同じ値を示した。

Ｄ．泉大津沖ではＤＯは5.7～6.5mg/Lの範囲を示した。調査地点Ｄ－２、Ｄ－４ともに表層から海底にかけて値はほぼ一様で、各調査地点ともほぼ同じ値を示した。

④ 光量

Ａ．神戸沖では光量子束密度は0.4～203.0μE/㎡/secの範囲を示した。相対光量は調査地点Ａ－６の表層が他の調査地点よりもやや低かった。調査地点Ａ－２、Ａ－４では水深±0.0～－0.5ｍで大きく減少した。値は水深が深くなるにつれて低くなり、調査地点Ａ－２では水深－8.0m、調査地点Ａ－４では水深－7.0m、調査地点Ａ－６では水深－6.0ｍで１％以下を示した。

Ｂ．尼崎沖では光量子束密度は13.2～575.6μE/㎡/secの範囲を示した。相対光量は調査地点Ｂ－２、Ｂ－４ともに水深±0.0～－0.5ｍで大きく減少した。値は水深が深くなるにつれて低くなったが、各調査地点ともに海底の水深－6.0mにおいても１％以上の値を示した。

Ｃ．大阪沖では光量子束密度は1.0～132.1μE/㎡/secの範囲を示した。相対光量は調査地点Ｃ－１、Ｃ－２ともに水深－1.0～2.0ｍで大きく減少した。値は水深が深くなるにつれて低くなったが、各調査地点ともに海底の水深－12.0mにおいても１％以上の値を示した。

Ｄ．泉大津沖では光量子束密度は0.4～1,207.8μE/㎡/secの範囲を示した。相対光量は調査地点Ｄ－２では水深±0.0～－0.5m、調査地点Ｄ－４では水深－0.5～1.0ｍで大きく減少した。調査地点間で比較すると調査地点Ｄ－４の表層で低い値を示した。値は水深が深くなるにつれて低くなり、調査地点Ｄ－２では水深－10.0m、調査地点Ｄ－４では水深－9.0ｍで１％以下の値を示した。

表４－１－２　水質測定結果概要表

調査地点＼項目(単位)		水温 (℃)	塩分 (－)	DO (mg/L)	相対光量 (%)	光量子束密度 (μE/m²/sec)
神戸沖	A－2	16.9 ～19.9	29.1 ～31.8	5.5 ～ 8.1	0.3 ～87.9	0.5 ～ 150.4
	A－4	16.9 ～19.7	29.4 ～31.9	5.0 ～ 7.9	0.1 ～72.3	0.4 ～ 203.0
	A－6	17.2 ～20.4	27.8 ～32.1	3.7 ～ 7.5	0.2 ～53.3	0.4 ～ 95.5
尼崎沖	B－2	19.2 ～20.7	26.9 ～31.6	3.7 ～ 4.8	1.2 ～51.5	13.2 ～ 575.6
	B－4	17.2 ～20.9	15.3 ～31.6	2.3 ～ 4.2	2.8 ～41.7	19.7 ～ 292.9
大阪沖	C－1	20.4 ～20.9	30.1 ～31.9	4.2 ～ 5.1	0.0 ～75.5	1.8 ～ 132.1
	C－2	20.3 ～21.0	30.1 ～31.9	4.3 ～ 4.8	0.0 ～90.5	1.0 ～ 60.8
泉大津沖	D－2	20.7 ～20.8	31.7 ～31.9	5.7 ～ 6.5	0.0 ～89.2	4.2 ～1207.8
	D－4	20.3 ～20.7	31.9 ～32.1	5.7 ～ 6.0	0.0 ～55.4	0.4 ～ 503.9

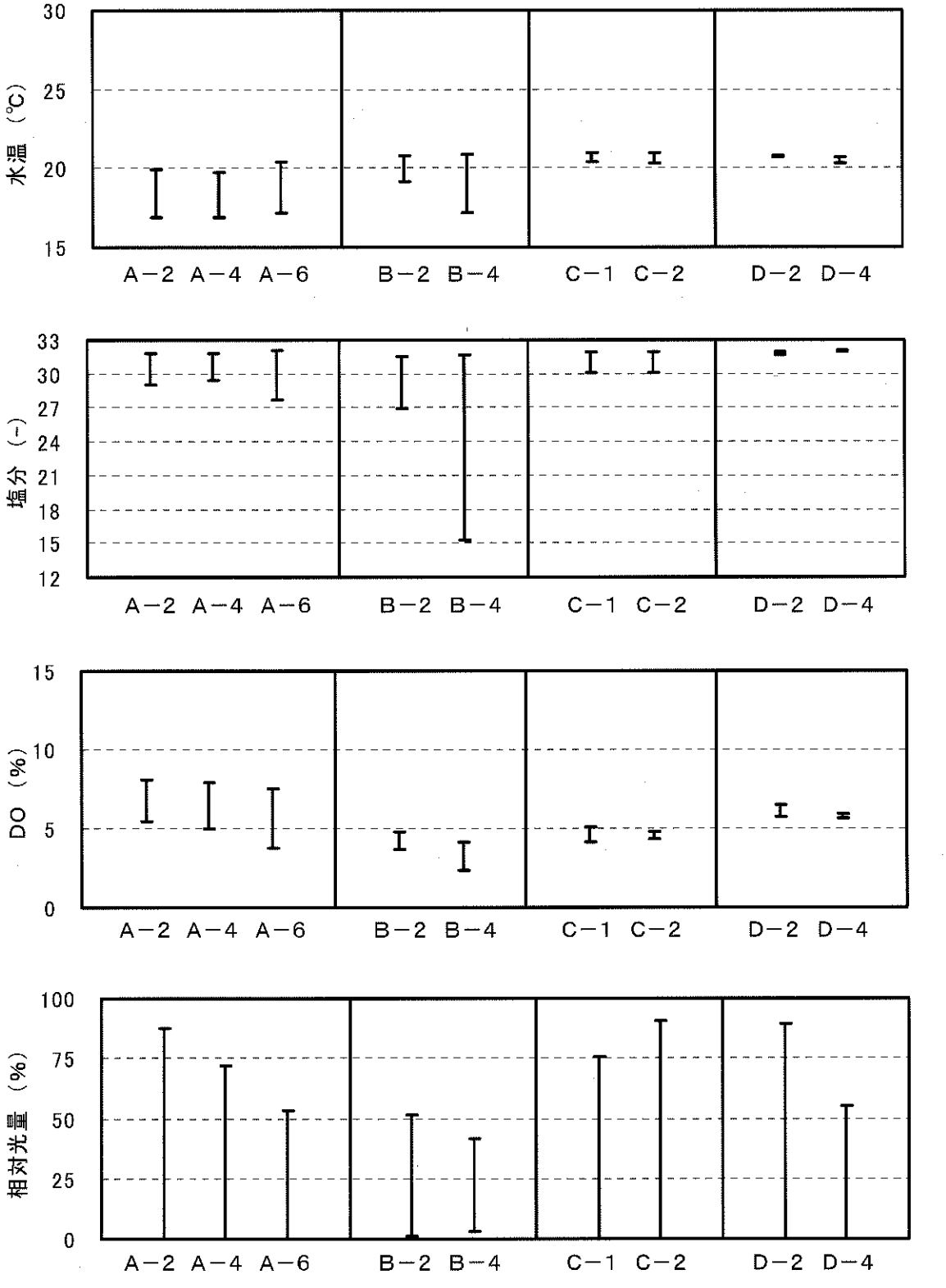

図４－１－１　水質測定結果概要図

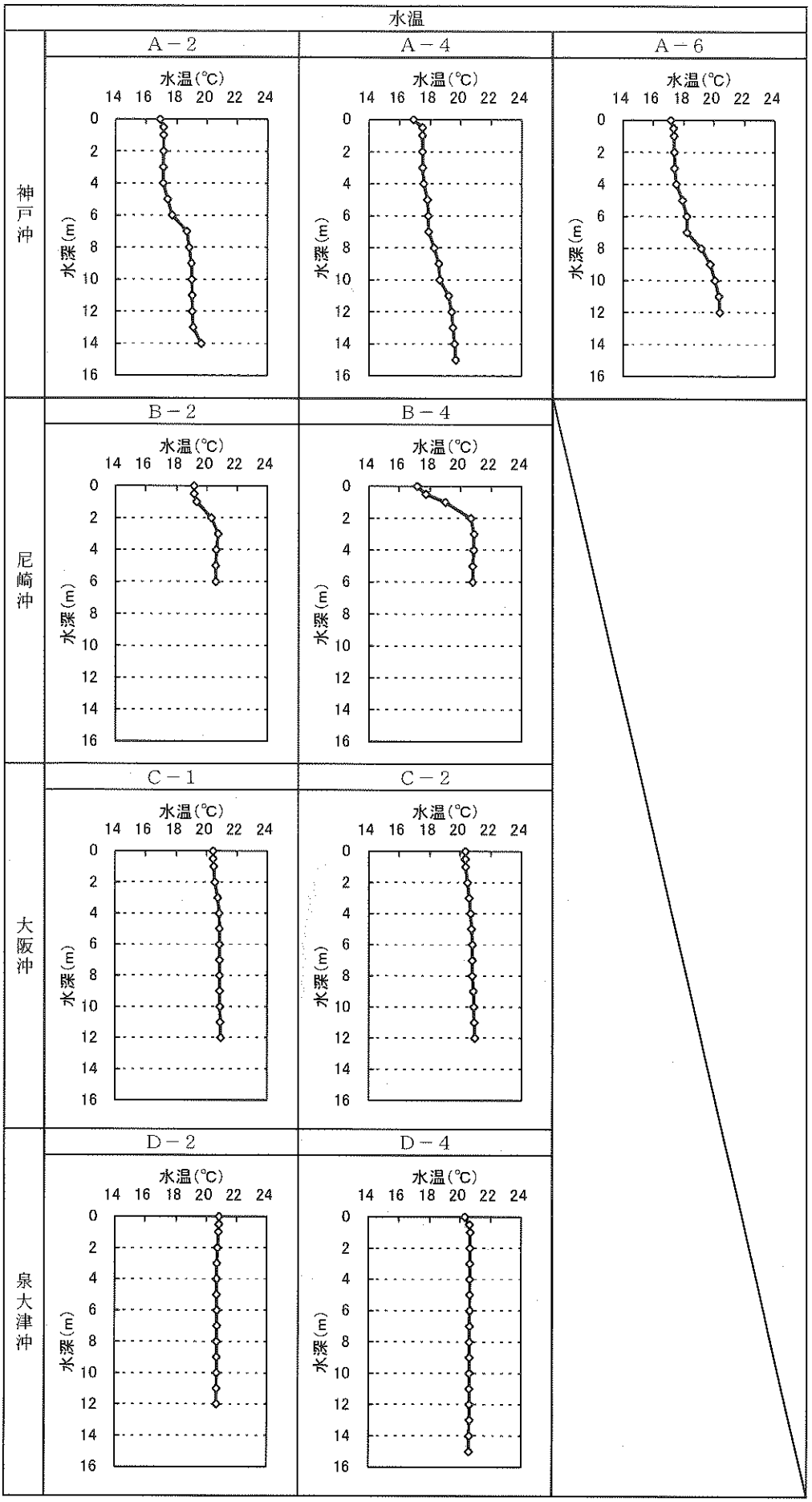

図４－１－２（１）　鉛直分布図（水温）

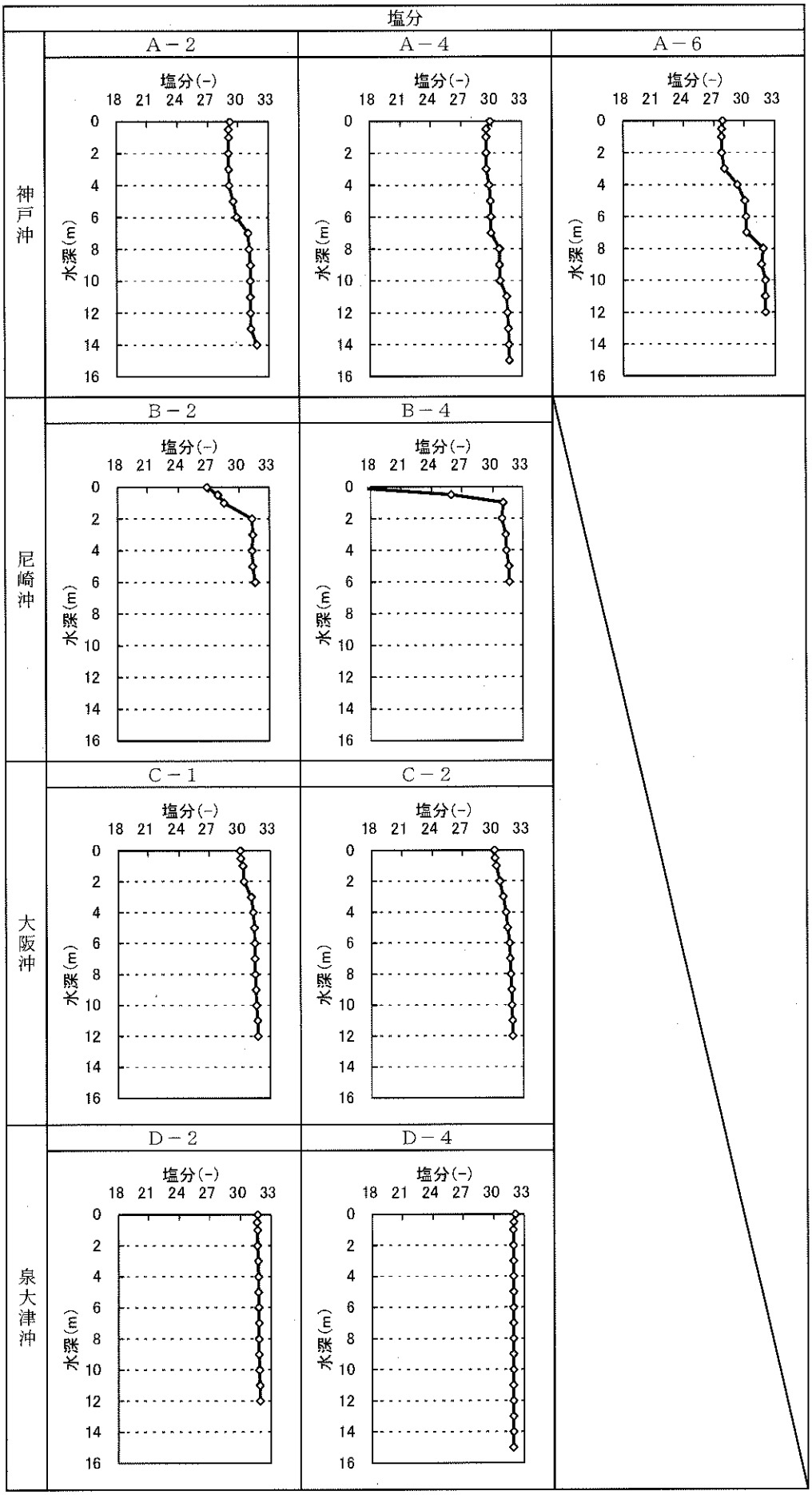

図４－１－２（２）　鉛直分布図（塩分）

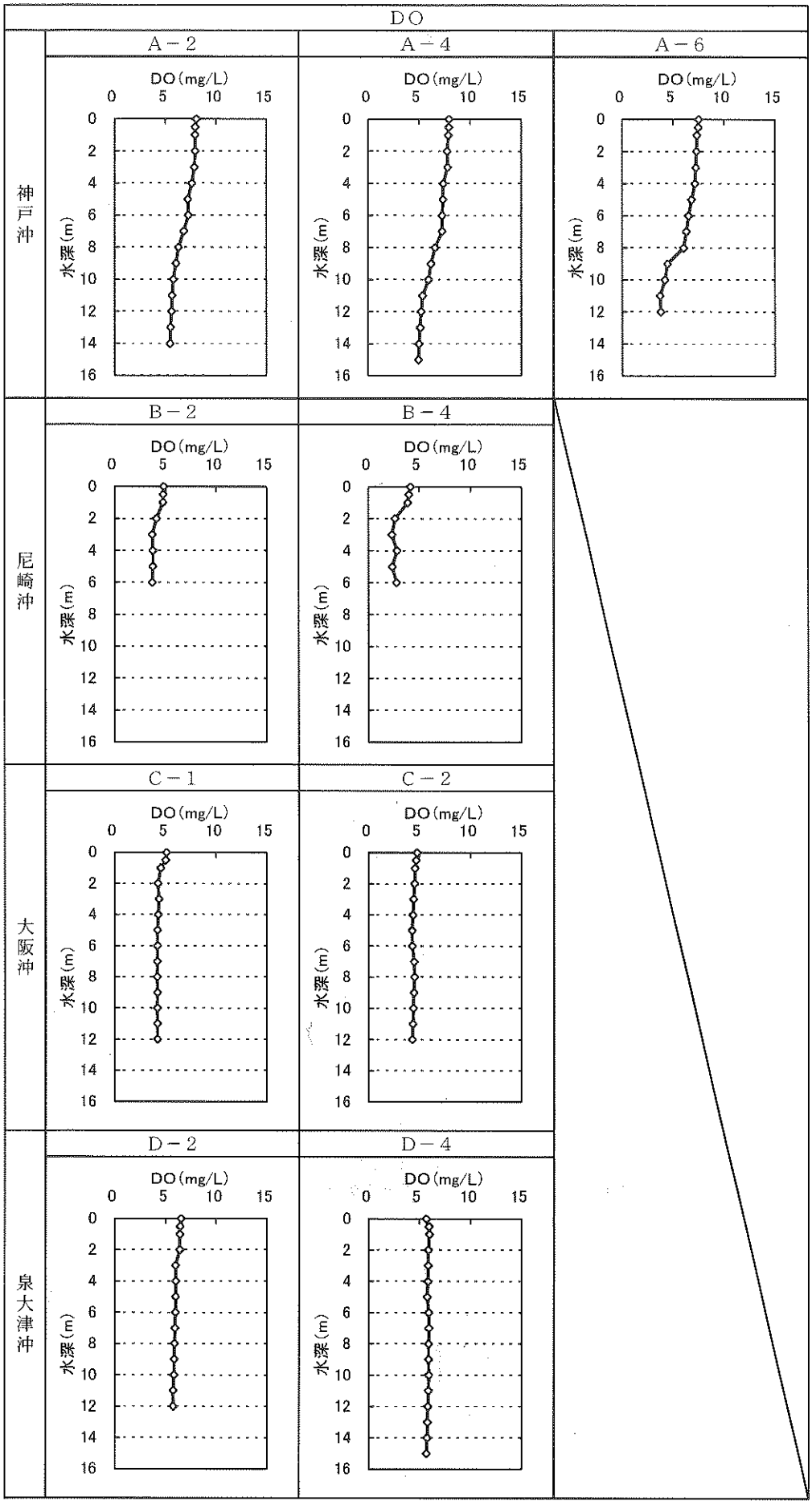

図４－１－２（３）　鉛直分布図（ＤＯ）

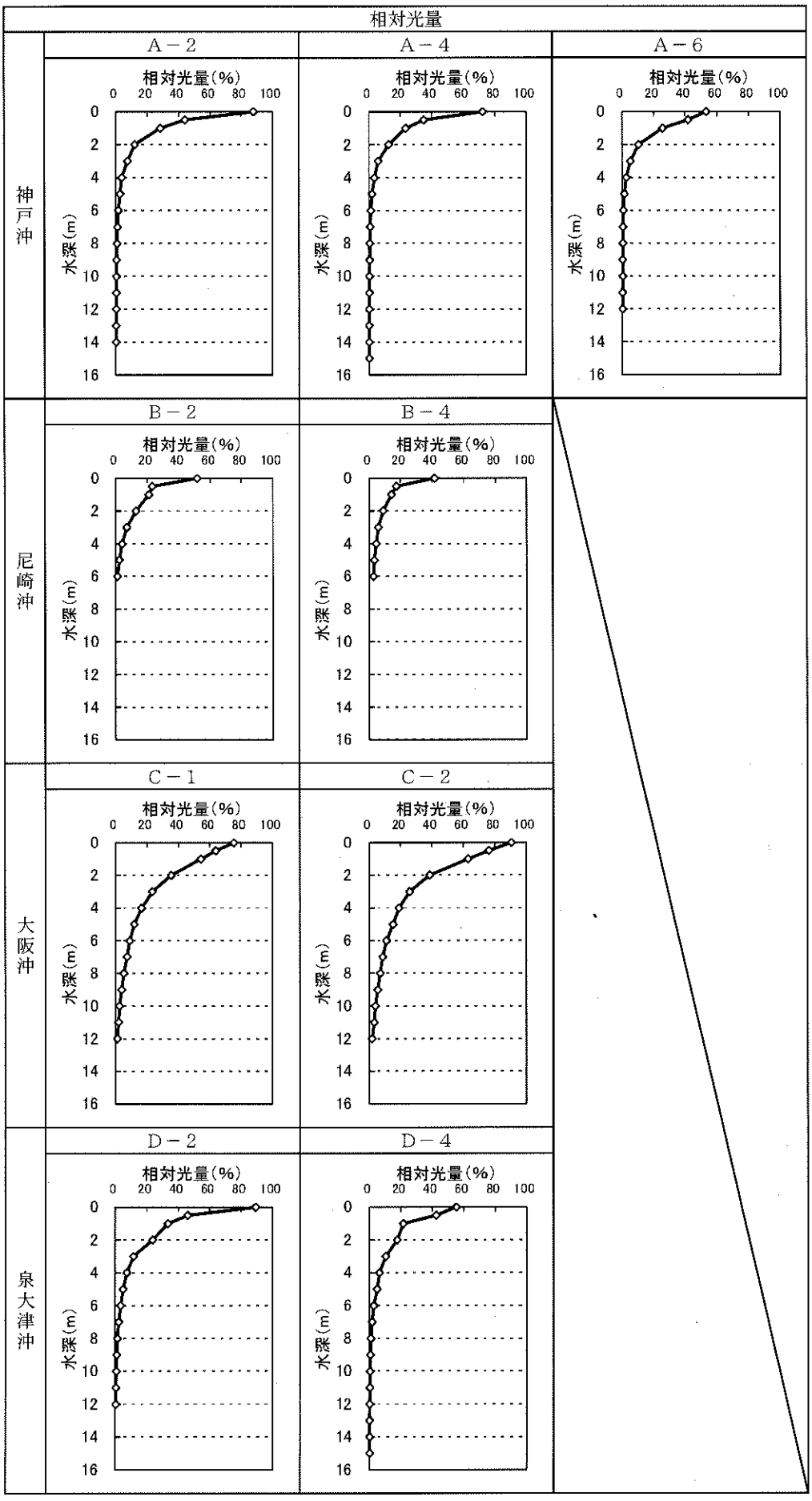

図４－１－２（４）　鉛直分布図（相対光量）

3．生物調査

(1) 目視観察

植物の目視観察の結果を表４－２－１、動物の目視観察の結果を表４－２－２、魚類の目視観察の結果を表４－２－３に示した。

① 植物

Ａ．神戸沖処分場

調査地点Ａ－１では、10 種類の植物が確認された。水深＋1.0～－2.0mでは緑藻綱のアオサ属が 10～90%、水深－1.0～2.0mでは藻場構成種である褐藻綱のタマハハキモクが 10～30%、水深－2.0～4.0mでは紅藻綱のイギス科が 10%と多くみられた。種類数が多かったのは水深－3.0mで５種類であった。水深－6.0mまで植物は出現した。

調査地点Ａ－２では、11 種類の植物が確認された。水深＋1.0～－1.0mでは緑藻綱のアオサ属が 40～70%、水深－1.0mで紅藻綱のフダラクが 10%、水深－2.0～6.0mでは紅藻綱のイギス科が 10～20%と多くみられた。藻場構成種の褐藻綱のタマハハキモクが水深－2.0～3.0mで僅かに確認された。種類数が多かったのは水深－2.0mで８種類であった。水深－8.0mまで植物は出現した。

調査地点Ａ－３では、９種類の植物が確認された。水深＋1.0～－1.0mでは緑藻綱のアオサ属が 50～90%、水深－1.0mで紅藻綱のフダラクが 10%、水深－4.0～5.0mでは紅藻綱のイギス科が 10%と多くみられた。藻場構成種の褐藻綱のタマハハキモクが水深－2.0～4.0mで僅かに確認された。種類数が多かったのは水深－2.0～3.0mで５種類であった。水深－6.0mまで植物は出現した。

調査地点Ａ－４では、９種類の植物が確認された。水深±0.0～－1.0mで緑藻綱のアオサ属が 5～10%、水深±0.0mで紅藻綱のフダラクが 10%と多くみられた。種類数が多かったのは水深－1.0mで５種類であった。水深－6.0mまで植物は出現した。

調査地点Ａ－５では、６種類の植物が確認された。水深±0.0mで緑藻綱のアオサ属が 10%、水深－5.0～6.0mで紅藻綱のイギス科が 10～20%と多く出現した。種類数が多かったのは水深－4.0～5.0mで４種類であった。水深－7.0mまで植物は出現した。

Ｂ．尼崎沖処分場

調査地点Ｂ－１では植物は確認されなかった。

調査地点Ｂ－２では、２種類の植物が確認された。水深－1.0mで緑藻綱のシオグサ属、水深－3.0mで紅藻綱のイギス科が僅かに出現したのみであった。水深－3.0mまで植物は出現した。

調査地点Ｂ－３では、３種類の植物が確認された。水深±0.0～－1.0mで緑藻綱のアオノリ属、水深－2.0mで緑藻綱のシオグサ属、水深－2.0～3.0mで紅藻綱のイギス科が僅かに出現したのみであった。水深－3.0mまで植物は出現した。

調査地点Ｂ－４では、１種類の植物が確認され、水深－2.0～3.0mで紅藻綱のイギス科が僅かに出現したのみであった。水深－3.0mまで植物は出現した。

C．大阪沖処分場

調査地点Ｃ－１では、９種類の植物が確認された。水深±0.0mで緑藻綱のアオサ属が35％、水深－3.0mで藻場構成種である褐藻綱のシダモクが15％、タマハハキモクが５％、水深－1.0mで珪藻綱が10％と多くみられた。種類数が多かったのは水深－3.0mで６種類であった。水深－4.0mまで植物は出現した。

調査地点Ｃ－２では 10 種類の植物が確認された。水深±0.0mで緑藻綱のアオサ属が20％、藍藻綱が25％、水深－4.0mで紅藻綱のススカケベニが10％と多くみられた。種類数が多かったのは水深－6.0mで５種類であった。水深－10.0mまで植物は出現した。

D．泉大津沖処分場

調査地点Ｄ－１では、１種類の植物が確認され、水深±0.0～－1.0mで緑藻綱のアオサ属が僅かに確認されたのみであった。

調査地点Ｄ－２では、12種類の植物が確認された。水深±0.0で藍藻綱が10％、水深－1.0mで緑藻綱のシオグサ属が10％、水深－1.0mと－3.0mで紅藻綱のイギス科が10％と多くみられた。種類数が多かったのは水深±0.0mで９種類であった。水深－9.0mまで植物は出現した。

調査地点Ｄ－３では、６種類の植物が確認された。水深±0.0mで紅藻綱のイギス科が20％と多くみられた。種類数が多かったのは水深±0.0mで４種類であったが、植物が出現したのは水深－1.0mまででであった。

調査地点Ｄ－４では、６種類の植物が確認された。水深±0.0mで緑藻綱のアオサ属が10％、水深±0.0～－3.0mで緑藻綱のシオグサ属が10～30％、水深±0.0～－1.0mで紅藻綱のイギス科が10％、水深±0.0～－4.0mで珪藻綱が10～20％と多くみられた。種類数が多かったのは水深±0.0mで５種類であった。水深－8.0mまで植物は出現した。

表４－２－１（１）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－１）

平成18年11月18日

No		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
緑藻綱	アオサ属	70	90	70	10	+	+						
	アオノリ属		+										
褐藻綱	タマハハキモク			10	30								
紅藻綱	フダラク			+	+	+							
	イギス科			+	10	10	10	+	+				
	ツノマタ属					+							
	マクサ					+	+	+					
	オバクサ						+	+					
	イワノカワ科								+				
藍藻綱	－	+											
出現種類数（10）		2	2	4	4	5	4	3	2	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表４－２－１（２）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－２）

平成18年11月18日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
緑藻綱	アオノリ属	+											
	アオサ属	40	70	40	+	+							
	シオグサ属				+								
褐藻綱	タマハハキモク				+	+							
紅藻綱	フダラク		+	10	+								
	ムカデノリ科			+	+	+							
	ツノマタ属			+	+	+	+						
	イギス科				10	10	20	10	10	+	+		
	オキツノリ				+	+							
	イワノカワ科							+					
藍藻綱	－	+											
出現種類数（11）		3	2	4	8	6	2	2	1	1	1	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表４－２－１（３）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－３）

平成18年11月18日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
緑藻綱	アオノリ属	+											
	アオサ属	90	90	50	+	+							
	シオグサ属			+									
褐藻綱	タマハハキモク				+	+	+						
紅藻綱	テングサ科		+										
	フダラク			10	+	+							
	コスジフシツナギ			+									
	ツノマタ属				+	+	+						
	イギス科				+	+	10	10	+				
出現種類数（9）		2	2	4	5	5	3	1	1	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表４－２－１（４）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－４）

平成18年11月18日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	砂，小礫
緑藻綱	アオサ属		10	5									
	シオグサ属				+								
褐藻綱	フクロノリ			+									
紅藻綱	フダラク		10	+	+	+							
	ツノマタ属			+	+								
	イギス科			+	+	+	+	+					
	サビ亜科						+	+					
	カバノリ							+	+				
	イワノカワ科							+					
出現種類数(9)		－	2	5	4	2	2	4	1	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表４－２－１（５）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－５）

平成18年11月18日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂，大礫
緑藻綱	アオサ属		10				+	+					
	アオノリ属		+										
	ハネモ属			+									
紅藻綱	イギス科				+	+	+	10	20	+			
	カバノリ						+	+					
	イワノカワ科						+	+					
出現種類数(6)		－	2	1	1	1	4	4	1	1	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表４－２－１（６）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－１）

平成18年11月13日

観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8
水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン，泥
出現なし								

表４－２－１（７）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－２）

平成18年11月13日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
緑藻綱	シオグサ属			+						
紅藻綱	イギス科					+				
出現種類数(2)		－	－	1	－	1	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表４－２－１（８）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－３）

平成18年11月13日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオノリ属		+	+							
	シオグサ属				+						
紅藻綱	イギス科				+	+					
出現種類数(3)		－	1	1	2	1	－	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表４－２－１（９）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－４）

平成18年11月13日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン，泥
紅藻綱	イギス科				+	+			
出現種類数(1)		－	－	－	1	1	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表４－２－１（10）　植物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－１）

平成18年11月11日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
水深（m）		+1	0	1	2		3		4	5	6	7	8	9	10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		35	+		+	+								
	アオノリ属			+											
	シオグサ属						+	+							
褐藻綱	シダモク						15	+							
	タマハハキモク						5	+	+						
紅藻綱	ススカケベニ				+										
	イギス科					+	+		+						
	フダラク						+	+							
珪藻綱	－			10		+									
出現種類数(9)		－	1	3	1	3	6	4	2	－	－	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表４－２－１（11）　植物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－２）

平成18年11月11日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		20										
	アオノリ属		+	+									
	シオグサ属			+	+	+	+						
褐藻綱	タマハハキモク					+			+				
	アカモク							5	+	+			
紅藻綱	イギス科				+	+	+		+	+			
	フダラク					5							
	ススカケベニ						10	+	+				
	イワノカワ科						5		+	+	+		+
藍藻綱	－		25										
出現種類数(10)		－	3	2	2	4	4	2	5	3	1	－	1

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表４－２－１（12）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－１）

平成18年11月10日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥
緑藻綱	アオサ属		+	+										
出現種類数(1)		－	1	1	…	…	－	－	－	－	…	－	－	－

注：数値は被度（%）を示し、＋は５%未満を示す。

表４－２－１（13）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－２）

平成18年11月10日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオノリ属		+													
	シオグサ属		+	10	+											
	ミル		+													
	アオサ属		+													
紅藻綱	フダラク		+													
	ツノマタ属		+													
	ムカデノリ属		+													
	イギス科			10	+	10	+		+	+	+	+				
	カバノリ				+	+	+	+	+	+						
	ススカケベニ								+							
藍藻綱	－	+	10	+	+											
珪藻綱	－		+													
出現種類数(12)		1	9	3	4	2	2	1	3	2	1	1	－	－	…	…

注：数値は被度（%）を示し、＋は５%未満を示す。

表４－２－１（14）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－３）

平成18年11月10日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオサ属		+													
	シオグサ属		+													
	アオノリ属		+													
	ミル			+												
紅藻綱	イギス科		20	+												
藍藻綱	－	+														
出現種類数(6)		1	4	2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	…

注：数値は被度（%）を示し、＋は５%未満を示す。

表４－２－１（15）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－４）

平成18年11月10日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
基質		ケーソン	ケーソン	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫 大礫	大礫	大礫	大礫	泥
緑藻綱	アオサ属		10																
	アオノリ属		+	+															
	シオグサ属		30	10	10	10	+												
紅藻綱	イギス科		10	10	+	+	+			+	+								
藍藻綱	－						+	+	+										
珪藻綱	－		20	10	10	10	10	+	+										
出現種類数(6)		－	5	4	3	3	4	2	2	1	1	－	－	－	…	－	－	－	…

注：数値は被度（%）を示し、＋は５%未満を示す。

② 動物

A．神戸沖処分場

調査地点Ａ－１では、15 種類の動物が確認された。被度をみると水深＋1.0mで節足動物門のイワフジツボが 10％、水深－1.0～6.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～80％、水深－8.0～9.0mで多毛綱（泥巣）が 10～30％と多くみられた。個体数をみると水深－1.0～9.0mの広範囲で棘皮動物門のキヒトデとイトマキヒトデがみられ、水深－8.0mでは一枠にヒトデが合計８個体と多く確認された。種類数が多かったのは水深－1.0mと－3.0mで７種類であった。水深－9.0mまで動物は出現した。

調査地点Ａ－２では、19 種類の動物が確認された。被度をみると水深＋1.0～±0.0mで節足動物門のイワフジツボが 10～30％、水深－1.0mで腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 10％、水深－1.0～5.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～70％と多くみられた。個体数をみると水深－4.0mで軟体動物門のレイシガイが 12 個体、水深－2.0～9.0mの広範囲で棘皮動物門のイトマキヒトデとキヒトデがみられ、水深－4.0mと－8.0mでは一枠にヒトデが合計８個体と多く確認された。種類数が多かったのは水深－1.0mで７種類であった。水深－9.0mまで動物は出現した。

調査地点Ａ－３では、14 種類の動物が確認された。被度をみると水深＋1.0mで節足動物門のイワフジツボが 10％、水深－1.0～4.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 40～90％、水深－9.0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 10％と多くみられた。個体数をみると水深－1.0mで軟体動物門のイボニシが４個体、水深－2.0mで軟体動物門のレイシガイが６個体、水深－5.0～6.0mで棘皮動物門のイトマキヒトデが４～７個体と多くみられた。種類数が多かったのは水深－1.0mで８種類であった。水深－9.0mまで動物は出現した。

調査地点Ａ－４では、24 種類の動物が確認された。被度をみると水深＋1.0m～±0.0mで節足動物門のイワフジツボが 10～30％、水深－1.0～3.0mで腔腸動物門のチギレイソギンチャクが５～10％、水深－1.0～7.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～90％、水深－2.0mで節足動物門のサンカクフジツボが 10％と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0～±0.0mで軟体動物門が多くみられ、特にアラレタマキビ、イボニシ、レイシガイが多く確認された。種類数が多かったのは水深±0.0mで９種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点Ａ－５では、27 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 70％、節足動物門のイワフジツボが 10％、水深－1.0～3.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 90～95％、水深－3.0mで腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 10％と多くみられた。個体数をみると水深±0.0mで軟体動物門のイボニシが８個体、水深－4.0～10.0mの広範囲で棘皮動物門のキヒトデが確認された。種類数が多かったのは水深－4.0mで 11 種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

B．尼崎沖処分場

調査地点Ｂ－１では、16 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0. 0mでは軟体動物門のマガキが 15%、水深－1. 0mでは軟体動物門のコウロエンカワヒバリガイが 50%、水深－1. 0～2. 0mで軟体動物門のムラサキイガイが 15～35%、ミドリイガイが５～25%、節足動物門の *Balanus* spp. が 10～25%、水深－2. 0～6. 0mで環形物門の多毛綱（泥巣）が 10～60%と多くみられた。種類数が多かったのは水深－1. 0mと－2. 0mで８種類であった。水深－6. 0mまで動物は出現した。

調査地点Ｂ－２では、21 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0. 0mで軟体動物門のマガキが 15%、水深±0. 0～－1. 0mで軟体動物門のコウロエンカワヒバリガイが 20～55%、水深－1. 0mで軟体動物門のミドリイガイが 35%、水深－2. 0～3. 0mで節足動物門の *Balanus* spp. が 30～40%、水深－4. 0～5. 0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 15～30%、水深－4. 0～7. 0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 35～85%と多くみられた。個体数をみると水深＋1. 0mで軟体動物門のタマキビが 43 個体と多く確認された。種類数が多かったのは水深－3. 0mで８種類であり、水深－7. 0mまで動物は出現した。

調査地点Ｂ－３では、18 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0. 0mで軟体動物門のコウロエンカワヒバリガイが 50%、水深－1. 0～3. 0mで節足動物門の *Balanus* spp. が 15～45%、水深－2. 0～6. 0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 25～40%と多くみられた。個体数をみると水深－1. 0mで軟体動物門のムギガイ、水深－5. 0mで軟体動物門のレイシガイが数個体確認されたのみであった。種類数が多かったのは水深－1. 0mと－5. 0mで８種類であった。水深－8. 0mまで動物は出現した。

調査地点Ｂ－４では、15 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0. 0mで軟体動物門のコウロエンカワヒバリガイが 45%、ミドリイガイが 30%、水深－1. 0～3. 0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 60～90%、水深－2. 0～6. 0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 10～90%と多くみられた。個体数をみると水深－2. 0mで軟体動物門のイボニシが僅かに確認されたのみであった。種類数が多かったのは水深－2. 0mで９種類であった。水深－6. 0mまで動物は出現した。

C．大阪沖処分場

調査地点Ｃ－１では、25 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0. 0mで節足動物門のタテジマフジツボが 40%、水深－1. 0～5. 0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 50～100%、水深－3. 0～7. 0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 5～55%と多くみられた。個体数では水深＋1. 0mで軟体動物門のタマキビが５個体、－7. 0mで軟体動物門のシマメノウフネガイが４個体みられ、他の種類は数個体僅かに出現した。種類数が多かったのは水深－2. 0mで 10 種類であった。水深－10. 0mまで動物は出現した。

調査地点Ｃ－２では、24 種類の動物が確認された。被度をみると水深－2. 0～5. 0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～90%、水深－5. 0～8. 0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 10～40%と多くみられた。個体数では水深＋1. 0mで軟体動物門のタマキビ、水深－4. 0mでキヒトデが３個体みられ、他の種類は数個体僅かに出現した。種類数が多かったのは水深－1. 0mで 12 種類であった。水深－10. 0mまで動物は出現した。

D．泉大津沖処分場

調査地点Ｄ－１では、17 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0 で軟体動物門のケガキが 20%、水深±0.0～－2.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 70～90%、水深－1.0～5.0mで腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 10～20%、水深－1.0～8.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～80%、水深－6.0～10.0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 40～80%、水深－4.0～8.0mで原索動物門のユウレイボヤ属が 10～20%と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のアラレタマキビが 220 個体と多くみられた他、浅い水深帯で軟体動物門が数個体観察された。種類数が多かったのは水深－1.0mで９種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｄ－２では、22 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0mで触手動物門のコケムシ綱が 20%、水深－1.0～12.0mの広範囲で環形動物門の多毛綱（泥巣）が 20～70%、水深－1.0～3.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10%、水深－3.0～5.0mで節足動物門のサンカクフジツボが 10%と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門の出現が多く、アラレタマキビが 18 個体、カモガイが 12 個体と観察され、水深－2.0～11.0mの広範囲に棘皮動物門のイトマキヒトデが１～８個体と多く観察された。種類数が多かったのは水深＋1.0mで７種類であった。水深－12.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｄ－３では、19 種類の動物が確認された。被度をみると水深－1.0～3.0mで腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 20%、水深－1.0～4.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～80%、水深－1.0～2.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 10～30%、水深－4.0～11.0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 10～80%と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のアラレタマキビが 260 個体と多く観察されたが、他には軟体動物門のカラマツガイ、レイシガイ、棘皮動物門のイトマキヒトデが数個体確認されたのみであった。種類数が多かったのは水深－6.0mで９種類であった。水深－12.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｄ－４では、18 種類の動物が確認された。被度を見ると水深＋1.0mで節足動物門のイワフジツボが 10%、水深－2.0～4.0mで腔腸動物門のチギレイソギンチャクと環形動物門のカンザシゴカイ科が 10%、水深－3.0～4.0mで腔腸動物門のヒドロ虫綱が 10～20%、水深－4.0～5.0mで軟体動物門のイタボガキ科が 10%、水深－7.0～9.0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 10%と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のアラレタマキビが 76 個体と多く観察された他、軟体動物門のカラマツガイ、タマキビ、イボニシが数個体確認された。種類数が多かったのは水深－5.0mで８種類であった。水深－11.0mまで動物は出現した。

表４－２－２（１）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－１）

平成18年11月18日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク	+		+									
	チギレイソギンチャク			+	+	+							
	シオガマサンゴ								+		+		
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	10	10	80	70	10	10	+	+		
	多毛綱（泥巣）									+	10	30	
触手動物門	フサコケムシ科					+							
軟体動物門	イボニシ		(3)	(1)									
	キクノハナガイ		(2)										
	レイシガイ				(1)			(1)					
	ナミマガシワ					+							
節足動物門	イワフジツボ	10	+										
	ヤドカリ科			(3)	(2)	(1)							
	サンカクフジツボ							+	+				
棘皮動物門	キヒトデ			(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)	(4)	(3)	(1)	
	イトマキヒトデ			(1)		(1)	(3)	(6)	(2)	(3)	(5)	(1)	
出現種類数(15)		2	4	7	5	7	3	5	5	4	5	3	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表４－２－２（２）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－２）

平成18年11月18日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
腔腸動物門	ヒドロ虫綱		+										
	チギレイソギンチャク			10	+	+							
環形動物門	カンザシゴカイ科			30	70	20	20	10	+				
	多毛綱（泥巣）										+	+	
触手動物門	フサコケムシ科			+									
軟体動物門	ケガキ	+											
	タマキビ	(1)											
	カラマツガイ	(1)											
	イボニシ	(1)	(4)	(1)									
	レイシガイ			(2)		(2)	(12)	(1)					
	アカニシ								(1)				
	トゲアメフラシ										(1)	(1)	
節足動物門	イワフジツボ	30	10										
	ヤドカリ科		(3)	(6)	(5)	(4)							
	サンカクフジツボ			+			+	+	+	+			
棘皮動物門	イトマキヒトデ				(4)	(4)	(5)	(3)	(3)	(4)	(6)		
	キヒトデ					(2)	(3)	(2)	(4)		(2)	(1)	
	サンショウウニ						(1)			(1)			
原索動物門	シロボヤ							+					
出現種類数(19)		5	4	7	4	6	6	6	5	3	4	3	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表４－２－２（３）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－３）

平成18年11月18日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
腔腸動物門	チギレイソギンチャク			+	+	+				+			
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	40	90	60	60	+	+	+			
	多毛綱（泥巣）								+	+	+	10	
触手動物門	フサコケムシ科			+	+								
	コケムシ綱							+					
軟体動物門	ケガキ		+										
	イボニシ		(1)	(4)									
	レイシガイ			(1)	(6)				(1)				
	トゲアメフラシ										(1)		
節足動物門	イワフジツボ	10	+										
	ヤドカリ科			(2)	(2)								
	サンカクフジツボ			+									
棘皮動物門	イトマキヒトデ						(1)	(7)	(4)				
原索動物門	ホヤ綱（群体性）			+									
出現種類数(14)		1	4	8	5	2	2	3	4	3	2	1	－

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表４－２－２（４）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－４）

平成18年11月18日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	砂，小礫
腔腸動物門	チギレイソギンチャク		+	10	10	5	+	+	+	+			
	タテジマイソギンチャク			+									
	ヒドロ虫綱					+							
	シオガマサンゴ									+			
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	90	70	90	50	10	10	10	+		
	多毛綱（泥巣）						+	+	+	+	+	+	+
触手動物門	コケムシ綱		+										
	フサコケムシ科			+									
軟体動物門	カモガイ	(1)											
	マツバガイ	(1)											
	ユキノカサガイ科	(4)											
	アラレタマキビ	(8)											
	イボニシ	(9)	(4)										
	レイシガイ		(9)										
	ムラサキイガイ		+										
	ミドリイガイ		+										
	ケガキ		+										
	カゴメガイ								(1)				
節足動物門	イワフジツボ	30	10										
	サンカクフジツボ			+	10	+							
	ヤドカリ科			(1)									
棘皮動物門	イトマキヒトデ						(1)	(1)					
原索動物門	マメイタボヤ属			+									
	シロボヤ					+							
出現種類数(24)		6	9	7	3	5	4	4	4	4	2	1	1

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表４－２－２（５）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－５）

平成18年11月18日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂，大礫
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+										
	イソギンチャク目			+									
	チギレイソギンチャク					10	+	+					
	ヒドロ虫綱						+	+					
環形動物門	カンザシゴカイ科			90	95	90	+	+	+				
	多毛綱（泥巣）								+	+	+	+	+
軟体動物門	アラレタマキビ	(4)											
	ムラサキイガイ		70	+									
	ケガキ		+										
	イボニシ		(8)										
	カラマツガイ		(2)										
	ヒメケハダヒザラガイ		(1)										
	ミドリイガイ			+	+								
	裸鰓目				(1)								
	レイシガイ					(1)	(1)	(1)	(1)				
	シマメノウフネガイ						+	+	+	+			
	コシダカガンガラ						(5)	(1)					
	トゲアメフラシ											(1)	
節足動物門	イワフジツボ		10										
	ヨーロッパフジツボ			+									
	サンカクフジツボ						+	+					
棘皮動物門	キヒトデ						(6)	(7)	(8)	(1)	(2)	(1)	(1)
	サンショウウニ						(1)						
	イトマキヒトデ						(1)	(1)					
原索動物門	ホヤ綱（群体性）			+	+		+	+	+				
	シロボヤ								+	+	+	+	
	ユウレイボヤ属										+	+	
	出現種類数(27)	1	7	6	4	3	11	10	7	4	4	5	2

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表４－２－２（６）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－１）

平成18年11月13日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		10	+					
	チギレイソギンチャク			10	5	+	+	+	
	ヒドロ虫綱					+	+	+	
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	+	5	15	15	+
	多毛綱（泥巣）				10	40	55	60	50
	ミズヒキゴカイ							+	
軟体動物門	マガキ		15						
	コウロエンカワヒバリガイ		5	50					
	イワホリガイ科		+						
	ムラサキイガイ			15	35	+			
	ミドリイガイ			25	5				
節足動物門	イワフジツボ		+						
	Balanus spp.			10	25				
原索動物門	マンハッタンボヤ			+	+	+	+	+	
	カタユウレイボヤ				+		+	+	+
	スチエラ科						+		
出現種類数(16)		－	5	8	8	6	7	7	3

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表４－２－２（７）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－２）

平成18年11月13日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+	+						
	ヒドロ虫綱		+	+		+	+	+		
	チギレイソギンチャク			+	10	+	15	+	+	
	シオガマサンゴ									
	Anthopleura sp.									
環形動物門	カンザシゴカイ科				5	5	30	15	+	+
	多毛綱（泥巣）					5	35	60	85	35
触手動物門	コケムシ綱				5					
軟体動物門	タマキビ	(43)								
	コウロエンカワヒバリガイ		20	55						
	マガキ		15							
	イボニシ		(4)							
	ミドリイガイ			35						
	ムラサキイガイ			+						
	シマメノウフネガイ								(1)	
	キヌマトイガイ									+
節足動物門	*Balanus* spp.		+	5	30	40				
棘皮動物門	ヒトデ									(1)
原索動物門	スチエラ科				+	+	+	5		
	マンハッタンボヤ				+	10	15	5		
	カタユウレイボヤ				+	+	+	+	+	
出現種類数(21)		1	6	7	7	8	7	7	5	4

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表４－２－２（８）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－３）

平成18年11月13日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+	5							
	チギレイソギンチャク				10	+	+	+	+	+	+
	ヒドロ虫綱						5	5	+		
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	10	+	+	+	+		
	多毛綱（泥巣）				35	40	30	40	25	+	+
	ミズヒキゴカイ						+	+	+		
触手動物門	コケムシ綱				5	15					
軟体動物門	コウロエンカワヒバリガイ		50	+							
	ムラサキイガイ		+	+							
	ミドリイガイ		+	+	+	+					
	ムギガイ			(2)							
	キヌマトイガイ						+	+			
	レイシガイ							(1)			
節足動物門	*Balanus* spp.		+	45	15	20					
	タテジマフジツボ		+								
原索動物門	スチエラ科			+							
	マンハッタンボヤ				5	5			+		
	カタユウレイボヤ						+	+	+		
出現種類数(18)		－	6	8	7	7	7	8	7	2	2

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表４－２－２（９）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－４）

平成18年11月13日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+	+	+				
	チギレイソギンチャク				10	15	+	+	+
	ヒドロ虫綱							+	
環形動物門	カンザシゴカイ科			90	60	60	+	+	+
	多毛綱（泥巣）				10	35	70	85	90
	ミズヒキゴカイ						+	+	
触手動物門	コケムシ綱				+				
軟体動物門	コウロエンカワヒバリガイ		45	5					
	ムラサキイガイ		+						
	ミドリイガイ		30						
	マガキ		+	+	+	+			
	イボニシ				(1)				
節足動物門	*Balanus* spp.		+	10	5	+	+	+	
	タテジマフジツボ		+	10	5	+	+	+	
原索動物門	カタユウレイボヤ					+			
出現種類数(15)		－	7	6	9	7	6	7	3

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表４－２－２（10）　動物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－１）

平成18年11月11日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
水深（m）		+1	0	1	2	3			4	5	6	7	8	9	10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	海綿動物門			+	+	5	+	+		+	+			+	
腔腸動物門	*Anthopleura* sp.			+											
	ヒドロ虫綱			+											
	チギレイソギンチャク						+	+	+						
	シオガマサンゴ												+		
環形動物門	カンザシゴカイ科			50	100	100	95	100	100	90	+	+	+	+	
	多毛綱（泥巣）					+	30	5	15	55	25	20	+	+	+
触手動物門	コケムシ綱			+	+	+									
軟体動物門	タマキビ	(5)													
	マガキ		5												
	キクノハナガイ		(1)												
	カラマツガイ		(1)												
	ムラサキイガイ			+	5	+	5								
	ミドリイガイ			+	+										
	レイシガイ				(2)										
	シマメノウフネガイ									(1)	(1)	(4)	(2)		
節足動物門	タテジマフジツボ		40												
	サンカクフジツボ								+	5	+	+			
棘皮動物門	キヒトデ						(1)								
	サンショウウニ								+	+					
原索動物門	スチエラ科			5	+	+	+	+	+	+					
	ホヤ綱（群体性）			+	5	+	+	+	+						
	カタユウレイボヤ				+	+									
	エボヤ							+	+						
—	卵塊				+										
出現種類数(25)		1	4	9	10	8	8	7	8	7	5	4	4	3	1

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表４－２－２（11）　動物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－２）

平成18年11月11日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	海綿動物門				10	5		+					
腔腸動物門	チギレイソギンチャク			+	+		+	+	+	+			
	タテジマイソギンチャク			+									
	ヒドロ虫綱			+									
	シオガマサンゴ										+		
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	40	90	85	10	+	+	+	+	+
	ウズマキゴカイ科				+		+	+					
	多毛綱（泥巣）					+	5	40	30	10	10	+	+
	ミズヒキゴカイ						+						
触手動物門	コケムシ綱			+	+								
軟体動物門	タマキビ	(3)											
	ムラサキイガイ			5									
	マガキ		+										
	レイシガイ					(1)	(1)						
	ミドリイガイ			+									
	コシダカガンガラ						(1)						
	シマメノウフネガイ										(1)		
節足動物門	*Balanus* spp.			+									
	サンカクフジツボ			+	+	+	+	+	+	+	+		
	アカフジツボ			+	+								
棘皮動物門	キヒトデ				(1)		(3)						
	サンショウウニ						(1)					(1)	
原索動物門	スチエラ科			+		+							
	ホヤ綱（群体性）			+	5	+		+					
出現種類数(24)		1	1	12	9	7	10	7	4	4	5	3	2

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表４－２－２（12）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－１）

平成18年11月10日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	水深（m）	11	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+											
	ヒドロ虫綱		+	+	+									
	チギレイソギンチャク			20	20	10	10	20	+	+	+			
環形動物門	カンザシゴカイ科			10	10	80	70	60	40	20	10	+	+	
	多毛綱（泥巣）							+	40	40	50	80	80	
触手動物門	コケムシ綱										+	+		
軟体動物門	アラレタマキビ	(220)												
	タマキビ	(3)												
	ケガキ		20											
	ムラサキイガイ		70	80	90	+	+							
	ミドリイガイ		+	5	+	+	+							
	イボニシ		(2)											
	レイシガイ			(2)										
節足動物門	イワフジツボ	+	5											
原索動物門	シロボヤ			+	+	5	5	+	+	+				
	ホヤ綱（群体性）			+	+									
	ユウレイボヤ属			+	+	5	10	20	20	20	10	+	+	
出現種類数(17)		3	7	9	8	6	6	5	5	5	5	4	3	−

注：数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す
（）内の数値は個体数を示す

表４－２－２（13）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－２）

平成18年11月10日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	水深（m）	11	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
海綿動物門	海綿動物門		+													
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+	+												
	ヒドロ虫綱			+	+	+	+									
	チギレイソギンチャク			+	+											
	シオガマサンゴ										+		+	+	+	
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	10	10	10	+	+								
	多毛綱（泥巣）			60	60	40	50	50	40	60	70	50	50	40	20	
触手動物門	コケムシ綱		20													
	フサコケムシ科			+												
	アミコケムシ科								+	+	+	+	+	+	+	
軟体動物門	アラレタマキビ	(18)														
	ユキノカサガイ科	(4)														
	マツバガイ	(3)														
	カモガイ	(12)														
	ケガキ	+														
	イボニシ	(1)	(4)													
	ナミマガシワ						+									
	シマメノウフネガイ							+	+	+	+	+				
節足動物門	イワフジツボ	+														
	サンカクフジツボ				+	10	10	10	+	+	+					
棘皮動物門	イトマキヒトデ				(1)	(2)	(1)	(5)	(6)	(2)	(3)	(2)		(1)		
原索動物門	シロボヤ							+								
出現種類数(22)		7	5	6	6	5	6	6	5	5	6	4	3	4	3	−

注：数値は被度（%）を示し、＋は5%未満を示す
（）内の数値は個体数を示す

表４－２－２（14）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－３）

平成18年11月10日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+													
	チギレイソギンチャク		+	20	20	20	5	+	+	+						
	シオガマサンゴ										+	+	+	+		
環形動物門	カンザシゴカイ科			30	60	80	10	+	+							
	多毛綱（泥巣）					+	60	80	40	30	20	20	10	10	+	
触手動物門	コケムシ綱		10					+	20							
	アミコケムシ科								+		+	+	+	+		
軟体動物門	アラレタマキビ	(260)														
	カラマツガイ	(6)														
	ムラサキイガイ		+	30	10		+									
	ミドリイガイ			+	+											
	レイシガイ							(1)	(1)							
	シマメノウフネガイ								+	+	+	+				
	キクザルガイ科									+						
節足動物門	イワフジツボ	+	+													
	サンカクフジツボ			+	+					10	+	+				
棘皮動物門	イトマキヒトデ									(1)						
原索動物門	ユウレイボヤ属		+	+	+	+	+	+	+							
	シロボヤ		+	+	+	5	5	+	+	+						
出現種類数(19)		3	7	7	7	5	6	7	9	7	5	5	3	3	1	−

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表４－２－２（15）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－４）

平成18年11月10日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	基質	ケーソン	ケーソン	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫,大礫	大礫	大礫	大礫	泥
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+																
	チギレイソギンチャク		+	+	10	10	10	+	+										
	ヒドロ虫綱		+	+	+	10	20	+											
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	+	10	10	10	+	+	+									
	多毛綱（泥巣）						+	+	+	10	10	10	+	+					
触手動物門	コケムシ綱									+		+							
軟体動物門	アラレタマキビ	(76)																	
	カラマツガイ	(1)																	
	タマキビ	(5)																	
	イボニシ	(6)	(2)																
	ケガキ		+																
	イタボガキ科					+	10	10	+										
	シマメノウフネガイ							+		+	+	+	+						
	キクザルガイ科							+		+	+								
節足動物門	イワフジツボ	10	+																
	サンカクフジツボ									+	+	+							
原索動物門	シロボヤ					+	+												
	ホヤ綱（群体性）							+	+										
出現種類数(18)		5	7	3	3	5	6	8	5	6	4	4	2	1	−	−	−	−	−

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

③ 魚類

A．神戸沖処分場

調査地点Ａ－１では２種類の魚類が確認された。水深－2.0～4.0mでアイナメとメバルが数個体確認されたのみであった。

調査地点Ａ－２では２種類の魚類が確認された。水深－2.0～4.0mでクロダイが数個体、ウミタナゴが多く確認された。

調査地点Ａ－３では４種類の魚類が確認された。種類数では水深－2.0～4.0mと－4.0～6.0mで２種類ずつ確認され、個体数ではメバルが多かった。水深－6.0m以深ではイシダイが数個体確認されたのみで、水深－8.0m以深で魚類は確認されなかった。

調査地点Ａ－４では11種類の魚類が確認された。種類数では水深－2.0～4.0mで７種類と最も多く、個体数では水深－4.0～6.0mでメジナが多かった。水深－6.0m以深で魚類は確認されなかった。

調査地点Ａ－５では３種類の魚類とマダコが確認された。水深－2.0～4.0mでアイナメ、キュウセン、ウミタナゴが数個体確認された。水深－4.0m以深ではマダコが確認されたのみで、水深－4.0m以深で魚類は確認されなかった。

B．尼崎沖処分場

調査地点Ｂ－１、Ｂ－３、Ｂ－４では魚類は確認されなかった。

調査地点Ｂ－２では５種類の魚類が水深－4.0～6.0mでのみ確認され、個体数ではウミタナゴ、メジナ、クロダイが多かった。

C．大阪沖処分場

調査地点Ｃ－１では７種類の魚類が水深－2.0～4.0mでのみ確認され、個体数ではスズメダイ、メバル、ボラ、メジナが多かった。

調査地点Ｃ－２では、８種類の魚類が確認された。種類数では水深－2.0～4.0mで７種類と多く、個体数ではボラ、キュウセン、メジナ、メバル、スズメダイが多かった。水深±0.0～－2.0m、水深－8.0m以深で魚類は確認されなかった。

D．泉大津沖処分場

調査地点Ｄ－１では魚類は確認されなかった。

調査地点Ｄ－２では４種類の魚類が確認された。水深－4.0～6.0mでクロダイ、アカオビシマハゼ、メバル、ハゼ科が数個体確認されたのみであった。

調査地点Ｄ－３では７種類の魚類が水深－6.0～8.0mのみで確認され、個体数ではクロダイが多かった。

調査地点Ｄ－４では、６種類の魚類が確認された。種類数は水深ごとに１、２種類確認されたのみで、個体数ではマアジが多かった。－10.0m以深で魚類は確認されなかった。

表４－２－３（１）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－１）

平成18年11月18日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、砂、小礫
魚類	アイナメ(20)		r			
	メバル(12)		rr			
出現種類数(2)		－	2	－	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表４－２－３（２）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－２）

平成18年11月18日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、砂、小礫
魚類	クロダイ(25～30)		r			
	ウミタナゴ(15～20)		c			
出現種類数(2)		－	2	－	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表４－２－３（３）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－３）

平成18年11月18日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、砂、小礫
魚類	ウミタナゴ(15～20)		r			
	メバル(15～20)		r	c		
	キュウセン(20)			rr		
	イシダイ(20)				rr	
出現種類数(4)		－	2	2	1	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表４－２－３（４）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－４）

平成18年11月18日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック、砂、小礫
魚類	オヤビッチャ(10)	rr				
	ウミタナゴ(10～18)	r	r			
	メバル(10～18)	r	r	r		
	メジナ(15～25)		r	c		
	スズメダイ(8～12)		r			
	カワハギ(12)		rr			
	クロダイ(30～35)		rr			
	アイナメ(20～25)		r	rr		
	クジメ(20)			rr		
	ハゼ科(4)			r		
	ヒガンフグ(15)			rr		
出現種類数(11)		3	7	6	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表４－２－３（５）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－５）

平成18年11月18日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ケーソン	ケーソン、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、砂、大礫
魚類	アイナメ(20)		rr			
	キュウセン(5～8)		r			
	ウミタナゴ(20)		rr			
その他	マダコ（25）			rr		
出現種類数(4)		－	3	1	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表４－２－３（６）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－１）

平成18年11月13日

水深（m）	0～2	2～4	4～6
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
出現なし			

表４－２－３（７）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－２）

平成18年11月13日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～7
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン、巨礫	巨礫
魚類	イシダイ(17～20)			r	
	ウミタナゴ(14～17)			cc	
	メジナ(16～18)			cc	
	クロダイ(23～24)			cc	
	メジナ(5)			rr	
出現種類数(5)		－	－	5	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表４－２－３（８）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－３）

平成18年11月13日

水深（m）	0～2	2～4	4～6	6～8
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、巨礫
出現なし				

表４－２－３（９）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－４）

平成18年11月13日

水深（m）	0～2	2～4	4～6
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
出現なし			

表４－２－３（10）　魚類の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－１）

平成18年11月11日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10
基質		ケーソン	ケーソン、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
魚類	スズメダイ（10～12）		c			
	メバル（8～13）		c			
	ウミタナゴ（12）		rr			
	キュウセン（20～22）		r			
	ボラ（35～40）		c			
	メジナ（13～20）		c			
	クロダイ（18～20）		r			
出現種類数（7）		－	7	－	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長（cm）を示す。

表４－２－３（11）　魚類の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－２）

平成18年11月11日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～9
基質		ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
魚類	ボラ（35～40）		cc	cc		
	イシダイ（25）		rr			
	キュウセン（17～23）		c	c	c	
	メジナ（10～15）		c			
	ウミタナゴ（12～15）		r			
	メバル（8～12）		c			
	クロダイ（24）				rr	
	スズメダイ（12）		c			
出現種類数（8）		－	7	2	2	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長（cm）を示す。

表４－２－３（12）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－１）

平成18年11月10日

水深（m）	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～11
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
出現なし						

表４－２－３（13）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－２）

平成18年11月10日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～13
基質		ブロック	ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、泥
魚類	クロダイ(25)			rr				
	アカオビシマハゼ(3)			r				
	メバル(5～10)			r				
	ハゼ科(3)			r				
出現種類数(4)		－	－	4	－	－	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表４－２－３（14）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－３）

平成18年11月10日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～13
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、泥
魚類	スズキ(30～35)				r			
	ウミタナゴ(20)				rr			
	キチヌ(20～25)				r			
	クロダイ(20～40)				c			
	イシダイ(20～25)				r			
	アイナメ(30)				rr			
	メバル(12～15)				r			
出現種類数(7)		－	－	－	7	－	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表４－２－３（15）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－４）

平成18年11月10日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16
基質		ケーソン、ブロック	ブロック	ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫、大礫	巨礫、大礫	大礫、泥
魚類	ナベカ(4)	rr							
	ニジギンポ(3)		r						
	ウミタナゴ(15～20)		r						
	イシダイ(25)			rr					
	マアジ(12～15)				c				
	クロダイ(20～30)				r	rr			
出現種類数(6)		1	2	1	2	1	－	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

(2) 枠取り採取及び分析

植物の枠取り分析結果を表４－２－４、動物の枠取り分析結果を表４－２－５に示した。

① 植物

A．神戸沖処分場（A－２）

上層では９種類が出現し、総湿重量 43.80ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のアオサ属が 38.08ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

中層では８種類が出現し、総湿重量 19.99ｇ/0.25 ㎡であり、褐藻綱のタマハハキモクが 18.78ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では５種類が出現し、総湿重量 0.22ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のキヌイトフタツガサネが 0.12ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

B．尼崎沖処分場（B－２）

上層では５種類が出現し、総湿重量 0.64ｇ/0.25 ㎡であり、藍藻綱の *Lyngbya* sp. が 0.63ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

中層では３種類が出現し、総湿重量 0.17ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のキヌイトフタツガサネが 0.11ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では２種類が出現し、総湿重量 0.01ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のキヌイトフタツガサネが 0.01ｇ/0.25 ㎡であった。

C．大阪沖処分場（C－２）

上層では４種類が出現し、総湿重量は 25.78ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のボタンアオサが 17.07ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

中層では４種類が出現し、総湿重量は 0.69ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のアナアオサが 0.51ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では 10 種類が出現し、総湿重量は 15.13ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のススカケベニが 12.12ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

D．泉大津沖処分場（D－２）

上層では９種類が出現し、総湿重量は 2.77ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のイギス科が 1.62ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

中層では８種類が出現し、総湿重量 13.91ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のカバノリが 12.94ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では９種類が出現し、総湿重量は 0.39ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のカバノリが 0.20ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

表４－２－４　枠取り分析結果(植物)

調査地点(調査日)	層		上 (M.W.L. ±0.0m)			中 (M.W.L. −2.0m)			下 (M.W.L. −4.0m)		
神戸沖 A−2 (11月18日)	出現種類数		9			8			5		
	総湿重量 (g/0.25㎡)		43.80			19.99			0.22		
	優占種	第１位	ｱｵｻ属	38.08	(87)	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ	18.78	(94)	ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ	0.12	(55)
		第２位	*Lyngbya* sp.	4.92	(11)	ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ	0.66	(3)	ｼｵｸﾞｻ属	0.04	(18)
		第３位	ﾂﾉﾏﾀ属	0.52	(1)	ｱﾅｱｵｻ	0.29	(1)	ｱﾅｱｵｻ	0.03	(14)
尼崎沖 B−2 (11月13日)	出現種類数		5			3			2		
	総湿重量 (g/0.25㎡)		0.64			0.17			0.01		
	優占種	第１位	*Lyngbya* sp.	0.63	(98)	ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ	0.11	(65)	ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ	0.01	(100)
		第２位	ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ	0.01	(2)	ｼｵｸﾞｻ属	0.06	(35)	ｼｵｸﾞｻ属	＋	(＋)
		第３位	ｼｵｸﾞｻ属 ｲﾄｸﾞｻ属 珪藻綱	＋	(＋)	ｱｵﾉﾘ属	＋	(＋)	−		
大阪沖 C−2 (11月11日)	出現種類数		4			4			10		
	総湿重量 (g/0.25㎡)		25.78			0.69			15.13		
	優占種	第１位	ﾎﾞﾀﾝｱｵｻ	17.07	(66)	ｱﾅｱｵｻ	0.51	(74)	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	12.12	(80)
		第２位	ｱﾅｱｵｻ	8.64	(34)	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	0.16	(23)	ｱﾅｱｵｻ	1.67	(11)
		第３位	ｱｵﾉﾘ属	0.06	(＋)	ｼｵｸﾞｻ属	0.02	(3)	ｱｶﾓｸ	0.61	(4)
泉大津沖 D−5 (11月10日)	出現種類数		9			8			9		
	総湿重量 (g/0.25㎡)		2.77			13.91			0.39		
	優占種	第１位	ｲｷﾞｽ科	1.62	(58)	ｶﾊﾞﾉﾘ	12.94	(93)	ｶﾊﾞﾉﾘ	0.20	(51)
		第２位	ｲﾄｸﾞｻ属	1.03	(37)	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	0.64	(5)	ﾂﾉﾏﾀ属	0.12	(31)
		第３位	ﾂﾉﾏﾀ属	0.06	(2)	ｲｷﾞｽ科	0.16	(1)	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	0.04	(10)

注）優占種名の各数値は湿重量を示し、＋は0.01ｇ未満を示す。
　　また、（ ）内の数値は総量に対する占有率を示し、＋は1％未満を示す。

② 動物

A．神戸沖処分場（A－2）

上層では46種類が出現し、総個体数1,446個体/0.25㎡、総湿重量115.13g/0.25㎡であった。個体数では節足動物門のヒゲナガヨコエビ属が488個体/0.25㎡、湿重量は軟体動物門のイボニシが95.11g/0.25㎡と最も多かった。

中層では75種類が出現し、総個体数10,421個体/0.25㎡、総湿重量206.71g/0.25㎡であった。環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが個体数、湿重量ともに最も多く、4,116個体/0.25㎡、94.22g/0.25㎡であった。

下層では41種類が出現し、総個体数3,012個体/0.25㎡、総湿重量316.07g/0.25㎡であった。節足動物門のサンカクフジツボが個体数、湿重量ともに最も多く、2,616個体/0.25㎡、164.16g/0.25㎡であった。

B．尼崎沖処分場（B－2）

上層では38種類が出現し、総個体数568個体/0.25㎡、総湿重量462.05g/0.25㎡であった。個体数では軟体動物門のコウロエンカワヒバリが98個体/0.25㎡、湿重量では軟体動物門のマガキが434.36g/0.25㎡と最も多かった。

中層では32種類が出現し、総個体数4,757個体/0.25㎡、総湿重量613.65g/0.25㎡であった。個体数では軟体動物門のウスカラシオツガイが928個体/0.25㎡、湿重量では節足動物門のアメリカフジツボが426.64g/0.25㎡と最も多かった。

下層では42種類が出現し、総個体数7,348個体/0.25㎡、総湿重量393.02g/0.25㎡であった。個体数では軟体動物門のウスカラシオツガイが1,792個体/0.25㎡、湿重量では原索動物門のマンハッタンボヤが233.84g/0.25㎡と最も多かった。

C．大阪沖処分場（C－2）

上層では49種類が出現し、総個体数1,722個体/0.25㎡、総湿重量316.14g/0.25㎡であった。個体数では節足動物門のシリケンウミセミが391個体/0.25㎡、湿重量では軟体動物門のマガキが168.26g/0.25㎡と最も多かった。

中層では53種類が出現し、総個体数3,224個体/0.25㎡、総湿重量545.31g/0.25㎡であった。個体数では環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが2,048個体/0.25㎡、湿重量では軟体動物門のムラサキイガイが464.92g/0.25㎡と最も多かった。

下層では57種類が出現し、総個体数4,882個体/0.25㎡、総湿重量72.66g/0.25㎡であった。個体数では環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが2,592個体/0.25㎡、湿重量では節足動物門のサンカクフジツボが25.92g/0.25㎡と最も多かった。

D．泉大津沖処分場（D－2）

上層では49種類が出現し、総個体数8,090個体/0.25㎡、総湿重量53.76g/0.25㎡であった。個体数では節足動物門のクビナガワレカラが2,336個体/0.25㎡、湿重量では軟体動物門のウスカラシオツガイが25.45g/0.25㎡と最も多かった。

中層では67種類が出現し、総個体数4,789個体/0.25㎡、総湿重量91.47g/0.25㎡であ

った。節足動物門のサンカクフジツボが個体数、湿重量ともに最も多く、1,958個体/0.25㎡、30.91g/0.25㎡であった。

下層では57種類が出現し、総個体数1,405個体/0.25㎡、総湿重量107.58g/0.25㎡であった。個体数では環形動物門の*Polydora* sp.が576個体/0.25㎡、湿重量では棘皮動物門のイトマキヒトデが77.37g/0.25㎡と最も多かった。

表4－2－5　枠取り分析結果(動物)

調査地点(調査日)	層		上 (M.W.L.－0.0m)			中 (M.W.L.－2.0m)			下 (M.W.L.－4.0m)		
神戸沖 A－2 (11月18日)	出現種類数(種類)		46			75			41		
	総個体数(個体/0.25㎡)		1,446			10,421			3,012		
	総湿重量(g/0.25㎡)		115.13			206.71			316.07		
	個体数からみた優占種	第1位	ヒゲナガヨコエビ属	488	(34)	エゾカサネカンザシゴカイ	4,116	(39)	サンカクフジツボ	2,616	(87)
		第2位	マルエラワレカラ	218	(15)	*Dodecaceria* sp.	1,345	(13)	エゾカサネカンザシゴカイ	61	(2)
		第3位	ゼウクリ属	183	(13)	ゼウクリ属	986	(9)	トゲワレカラ	51	(2)
	湿重量からみた優占種	第1位	イボニシ	95.11	(83)	エゾカサネカンザシゴカイ	94.22	(46)	サンカクフジツボ	164.16	(52)
		第2位	レイシガイ	9.68	(8)	ムギガイ	16.32	(8)	イトマキヒトデ	140.04	(44)
		第3位	エゾカサネカンザシゴカイ	3.14	(3)	ミロクウロコムシ	10.35	(5)	レイシガイ	6.17	(2)
尼崎沖 B－2 (11月13日)	出現種類数(種類)		38			32			42		
	総個体数(個体/0.25㎡)		568			4,757			7,348		
	総湿重量(g/0.25㎡)		462.05			613.65			393.02		
	個体数からみた優占種	第1位	コウロエンカワヒバリ	98	(17)	ウスカラシオツガイ	928	(20)	ウスカラシオツガイ	1,792	(24)
		第2位	ドロクダムシ属	92	(16)	クビナガワレカラ	896	(19)	エゾカサネカンザシゴカイ	1,760	(24)
		第3位	ウスカラシオツガイ	65	(11)	ヨーロッパフジツボ	832	(17)	*Polydora* sp. ミズヒキゴカイ	448	(6)
	湿重量からみた優占種	第1位	マガキ	434.36	(94)	アメリカフジツボ	426.64	(70)	マンハッタンボヤ	233.84	(59)
		第2位	タテジマイソギンチャク	11.37	(2)	ウスカラシオツガイ	73.96	(12)	ウスカラシオツガイ	55.63	(14)
		第3位	イボニシ	6.12	(1)	ヨーロッパフジツボ	31.91	(5)	ムラサキイガイ	20.05	(5)
大阪沖 C－2 (11月11日)	出現種類数(種類)		49			53			57		
	総個体数(個体/0.25㎡)		1,722			3,224			4,882		
	総湿重量(g/0.25㎡)		316.14			545.31			72.66		
	個体数からみた優占種	第1位	シリケンウミセミ	391	(23)	エゾカサネカンザシゴカイ	2,048	(64)	エゾカサネカンザシゴカイ	2,592	(53)
		第2位	コウロエンカワヒバリ	388	(23)	ムラサキイガイ	372	(12)	サンカクフジツボ	1,056	(22)
		第3位	タテジマフジツボ	290	(17)	メリタヨコエビ属	158	(5)	*Polydora* sp.	576	(12)
	湿重量からみた優占種	第1位	マガキ	168.26	(53)	ムラサキイガイ	464.92	(85)	サンカクフジツボ	25.92	(36)
		第2位	タテジマフジツボ	61.20	(19)	エゾカサネカンザシゴカイ	48.16	(9)	エゾカサネカンザシゴカイ	24.00	(33)
		第3位	ムラサキイガイ	45.90	(15)	シロボヤモドキ	7.89	(1)	シマメノウフネガイ	4.23	(6)
泉大津沖 D－5 (11月10日)	出現種類数(種類)		49			67			57		
	総個体数(個体/0.25㎡)		8,090			4,789			1,405		
	総湿重量(g/0.25㎡)		53.76			91.47			107.58		
	個体数からみた優占種	第1位	クビナガワレカラ	2,336	(29)	サンカクフジツボ	1,958	(41)	*Polydora* sp.	576	(41)
		第2位	*Polydora* sp.	1,728	(21)	イソギンチャク目	1,097	(23)	サンカクフジツボ	261	(19)
		第3位	ウスカラシオツガイ	1,065	(13)	ウスカラシオツガイ	246	(5)	ウスカラシオツガイ	131	(9)
	湿重量からみた優占種	第1位	ウスカラシオツガイ	25.45	(47)	サンカクフジツボ	30.91	(34)	イトマキヒトデ	77.37	(72)
		第2位	*Sabella* sp.	6.55	(12)	イソギンチャク目	18.69	(20)	シマメノウフネガイ	14.32	(13)
		第3位	イソギンチャク目	3.31	(6)	キヒトデ	14.04	(15)	サンカクフジツボ	6.30	(6)

注) 優占種名の各数値は出現した値、( ) 内の数値は総量に対する占有率を示す。

第５章　調査結果

１．調査実施日

神戸沖処分場　　平成19年　２月４日
尼崎沖処分場　　平成19年　２月１日
大阪沖処分場　　平成19年　２月８日
泉大津沖処分場　平成19年　２月５日

(1) 一般観測

一般観測結果を表５－１－１に示した。

① 天気・雲量・気温

A．神戸沖では天気は晴、雲量は７、気温は7.9～8.4℃であった。
B．尼崎沖では天気は晴、雲量は６～７、気温は6.1～6.2℃であった。
C．大阪沖では天気は快晴のち晴、雲量は０～８、気温は5.2～6.2℃であった。
D．泉大津沖では天気は快晴、雲量は０～１、気温は4.6～11.3℃であった。

② 風浪階級・風向・風速

A．神戸沖では風浪階級は１～２、風速は4.5～9.8m/ｓ、風向は北であった。
B．尼崎沖では風浪階級は２、風速は3.9～8.2m/ｓ、風向は西北西であった。
C．大阪沖では風浪階級は１、風速は2.3～3.4m/ｓ、風向は東北東から北東であった。
D．泉大津沖では風浪階級は１、風速は2.0～3.4m/ｓ、風向は北東から北であった。

③ 透明度・水色

A．神戸沖では透明度は 6.9～7.0m、水色は調査地点Ａ－２、４、６すべてでボトルグリーンであった。
B．尼崎沖では透明度は 1.7～1.8m、水色は調査地点Ｂ－２、４ともにオリーブグリーンであった。
C．大阪沖では透明度は 6.2～6.3m、水色は調査地点Ｃ－１、２ともにボトルグリーンであった。
D．泉大津沖では透明度は 6.3～6.7m、水色は調査地点Ｄ－２、４ともにボトルグリーンであった。

表５－１－１　一般観測結果

神戸沖（２月４日）	調査地点	Ａ－２	Ａ－４	Ａ－６
	調査時間	9：10～9：41	8：25～9：05	9：50～10：21
	天気・雲量	晴・7	晴・7	晴・7
	気温	7.9℃	7.9℃	8.4℃
	風浪階級	2	1	1
	風速・風向	9.8m/ｓ・北	4.5m/ｓ・北	9.3m/ｓ・北
	透明度	7.0m	6.9m	7.0m
	水色	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5
	水深	15.5m	16.9m	13.7m
尼崎沖（２月１日）	調査地点	Ｂ－２	Ｂ－４	
	調査時間	10：50～11：10	10：10～10：41	
	天気・雲量	晴・6	晴・7	
	気温	6.1℃	6.2℃	
	風浪階級	2	2	
	風速・風向	8.2m/ｓ・西北西	3.9m/ｓ・西北西	
	透明度	1.8m	1.7m	
	水色	ｵﾘｰﾌﾞｸﾞﾘｰﾝ 3GY3.5/5.0	ｵﾘｰﾌﾞｸﾞﾘｰﾝ 3GY3.5/5.0	
	水深	10.2m	7.0m	
大阪沖（２月８日）	調査地点	Ｃ－１	Ｃ－２	
	調査時間	9：45～10：10	10:46～11:10	
	天気・雲量	快晴・0	晴・8	
	気温	5.2℃	6.2℃	
	風浪階級	1	1	
	風速・風向	3.4m/ｓ・東北東	2.3m/ｓ・北東	
	透明度	6.2m	6.3m	
	水色	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	
	水深	14.1m	12.4m	
泉大津沖（２月５日）	調査地点	Ｄ－２	Ｄ－４	
	調査時間	12：44～13：40	8：36～9：40	
	天気・雲量	快晴・1	快晴・0	
	気温	11.3℃	4.6℃	
	風浪階級	1	1	
	風速・風向	3.4m/ｓ・北	2.0m/ｓ・北東	
	透明度	6.3m	6.7m	
	水色	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	ﾎﾞﾄﾙｸﾞﾘｰﾝ 3G3.0/4.5	
	水深	12.0m	16.0m	

(2) 機器測定

機器測定結果の概要を表５－１－２、図５－１－１、鉛直分布図を図５－１－２に示した。

① 水温

A．神戸沖では水温は 10.7～11.1℃の範囲を示した。調査地点Ａ－２の底層では少し高い値を示したが、調査地点Ａ－２、Ａ－４、Ａ－６ともに海底までほぼ一様の値であった。

B．尼崎沖では水温は 10.1～11.4℃の範囲を示した。調査地点Ｂ－１、Ｂ－２ともに水深が深くなるにつれて徐々に高くなったが、表層と底層で大きな差はなかった。

C．大阪沖では水温は 10.1～11.2℃の範囲を示した。調査地点Ｃ－１、Ｃ－２ともに水深が深くなるにつれて徐々に高くなったが、表層と底層で大きな差はなかった。

D．泉大津沖では水温は 9.4～10.8℃の範囲を示した。調査地点Ｄ－４の表層では少し低い値を示し、水深－3.0～4.0ｍで変化があったが、調査地点Ｄ－２、Ｄ－４ともに海底までほぼ一様の値であった。

② 塩分

A．神戸沖では塩分は 31.4～32.1 の範囲を示した。水深帯によって大きな変化はなく、調査地点Ａ－２、Ａ－４，Ａ－６ともに海底までほぼ一様の値であった。

B．尼崎沖では塩分は 27.5～31.0 の範囲を示した。調査地点Ｂ－２、Ｂ－４ともに表層では低い値を示し、水深が深くなるにつれて値は徐々に高くなったが、底層でもやや低い値を示した。

C．大阪沖では塩分は 29.4～32.2 の範囲を示した。調査地点Ｃ－１、Ｃ－２ともに表層では低い値を示した。調査地点Ｃ－１では水深－2.0～3.0ｍ、Ｃ－２では水深－3.0～4.0ｍで 1.0 程度高くなる変化があったが、他の水深帯ではほぼ一様の値であった。

D．泉大津沖では塩分は 31.0～32.0 の範囲を示した。水深帯によって大きな変化はなく、調査地点Ｄ－２、Ｄ－４ともに海底までほぼ一様の値であった。

③ ＤＯ

Ａ．神戸沖ではＤＯは 8.5～10.9mg/L の範囲を示した。調査地点Ａ－２、Ａ－４、Ａ－６ともに表層ではやや高い値を示したが、水深－1.0mまでで 10.0mg/L 以下の値を示し、水深－1.0mから海底にかけて値はほぼ一様であった。

Ｂ．尼崎沖ではＤＯは 7.7～11.8mg/L の範囲を示した。調査地点Ｂ－２、Ｂ－４ともに表層で高い値を示したが、水深が深くなるにつれて値は徐々に低くなった。

Ｃ．大阪沖ではＤＯは 7.0～10.2mg/L の範囲を示した。調査地点Ｃ－１は水深－10.0mまで値はほぼ一様であったが、水深－10.0～11.0mにかけて 1.0mg/L 程度減少する変化があった。調査地点Ｃ－２は水深－2.0mまでほぼ一様であったが、水深－2.0m以下から海底にかけて値は徐々に低くなった。

Ｄ．泉大津沖ではＤＯは 9.7～12.2mg/L の範囲を示した。調査地点Ｄ－２では表層でやや高い値を示したが、水深－4.0mにかけて徐々に低くなり、それ以深では値はほぼ一様であった。調査地点Ｄ－４は表層から海底にかけて値はほぼ一様であった。

④ 光量

Ａ．神戸沖では光量子束密度は 3.0～293.4μE/㎡/sec の範囲を示した。相対光量は調査地点Ａ－２の表層が他の調査地点よりもやや低かった。値は水深が深くなるにつれて低くなったが、調査地点Ａ－２、Ａ－４、Ａ－６ともに海底においても１％以上を示した。

Ｂ．尼崎沖では光量子束密度は 1.6～641.3μE/㎡/sec の範囲を示した。相対光量は調査地点Ｂ－４の表層が調査地点Ｂ－２よりもやや低い値を示した。値は水深が深くなるにつれて低くなり、調査地点Ｂ－２では水深－5.0m、調査地点Ｂ－４では水深－4.0mで１％以下の値を示した。

Ｃ．大阪沖では光量子束密度は 3.3～715.7μE/㎡/sec の範囲を示した。相対光量は調査地点で差はみられなかった。値は水深が深くなるにつれて低くなったが、調査地点Ｃ－１では水深－11.0m、調査地点Ｃ－２では水深－12.0mで１％以下の値を示した。

Ｄ．泉大津沖では光量子束密度は 3.4～668.9μE/㎡/sec の範囲を示した。相対光量は調査地点Ｄ－４の表層が調査地点Ｄ－２よりもやや低い値を示した。値は水深が深くなるにつれて低くなり、調査地点Ｄ－２では水深－10.0m、調査地点Ｄ－４では水深－12.0mで１％以下の値を示した。

表５－１－２　水質測定結果概要表

調査地点＼項目(単位)		水温 (℃)	塩分 (－)	ＤＯ (mg/L)	相対光量 (%)	光量子束密度 (μE/m²/sec)
神戸沖	Ａ－２	10.7 ～11.0	31.4 ～32.0	9.1 ～10.7	2.1 ～49.7	5.0 ～ 120.2
	Ａ－４	10.8 ～11.0	31.7 ～32.1	8.9 ～10.9	1.2 ～78.3	3.0 ～ 198.7
	Ａ－６	10.8 ～11.1	31.6 ～32.0	8.5 ～10.4	4.8 ～77.1	18.3 ～ 293.4
尼崎沖	Ｂ－２	10.1 ～11.4	27.9 ～31.0	7.7 ～11.8	0.1 ～55.0	1.6 ～ 641.3
	Ｂ－４	10.6 ～11.3	27.5 ～30.2	9.5 ～10.9	0.1 ～37.6	1.6 ～ 402.6
大阪沖	Ｃ－１	10.1 ～11.2	29.4 ～32.2	7.0 ～10.1	0.3 ～65.9	3.3 ～ 715.7
	Ｃ－２	10.4 ～11.1	29.6 ～32.1	7.8 ～10.2	0.9 ～71.2	4.7 ～ 309.8
泉大津沖	Ｄ－２	10.1 ～10.8	31.0 ～32.0	9.7 ～12.2	0.9 ～59.1	10.4 ～ 668.9
	Ｄ－４	9.4 ～10.4	31.0 ～31.7	10.0 ～11.2	0.3 ～40.4	3.4 ～ 430.1

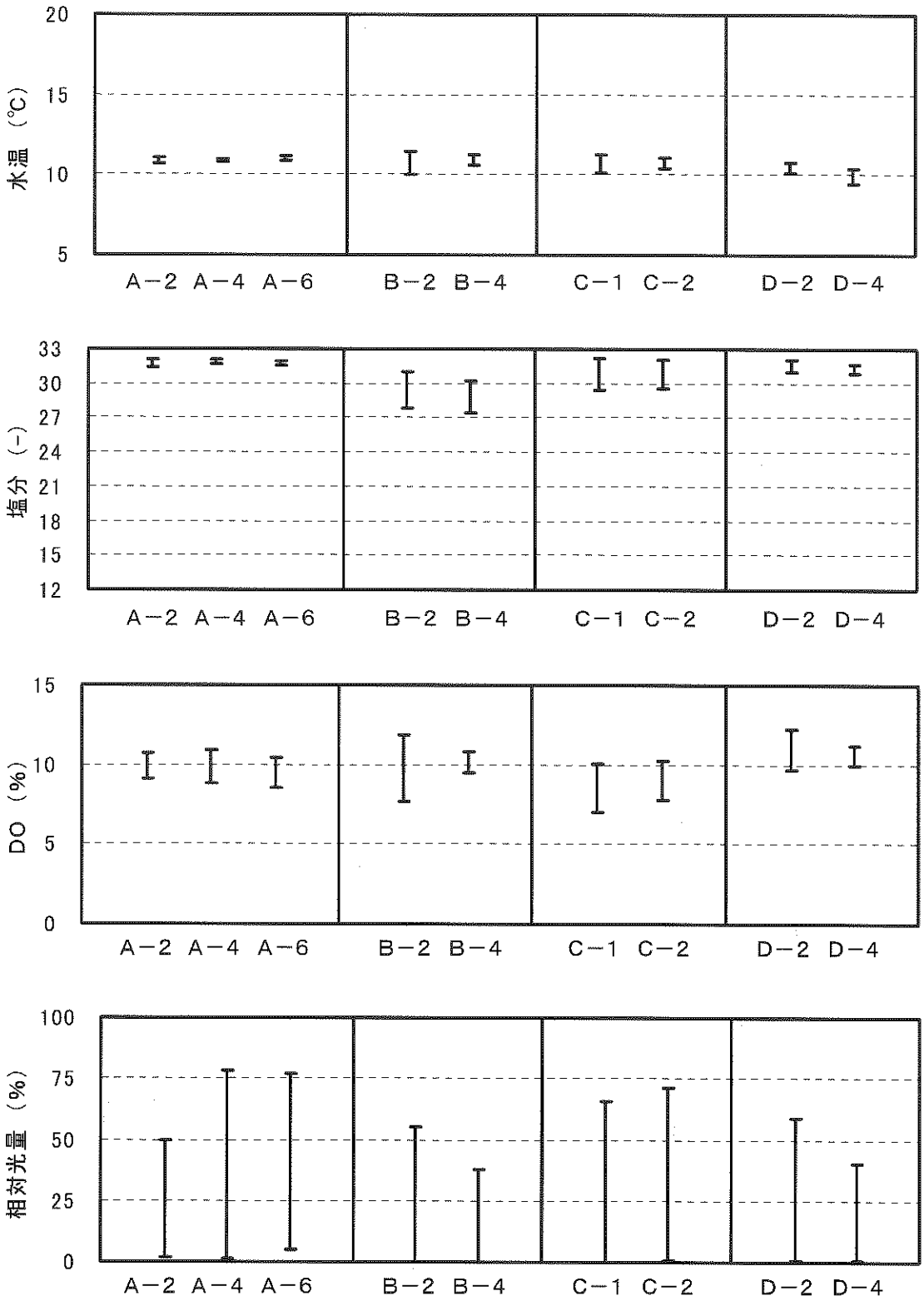

図５－１－１　水質測定結果概要図

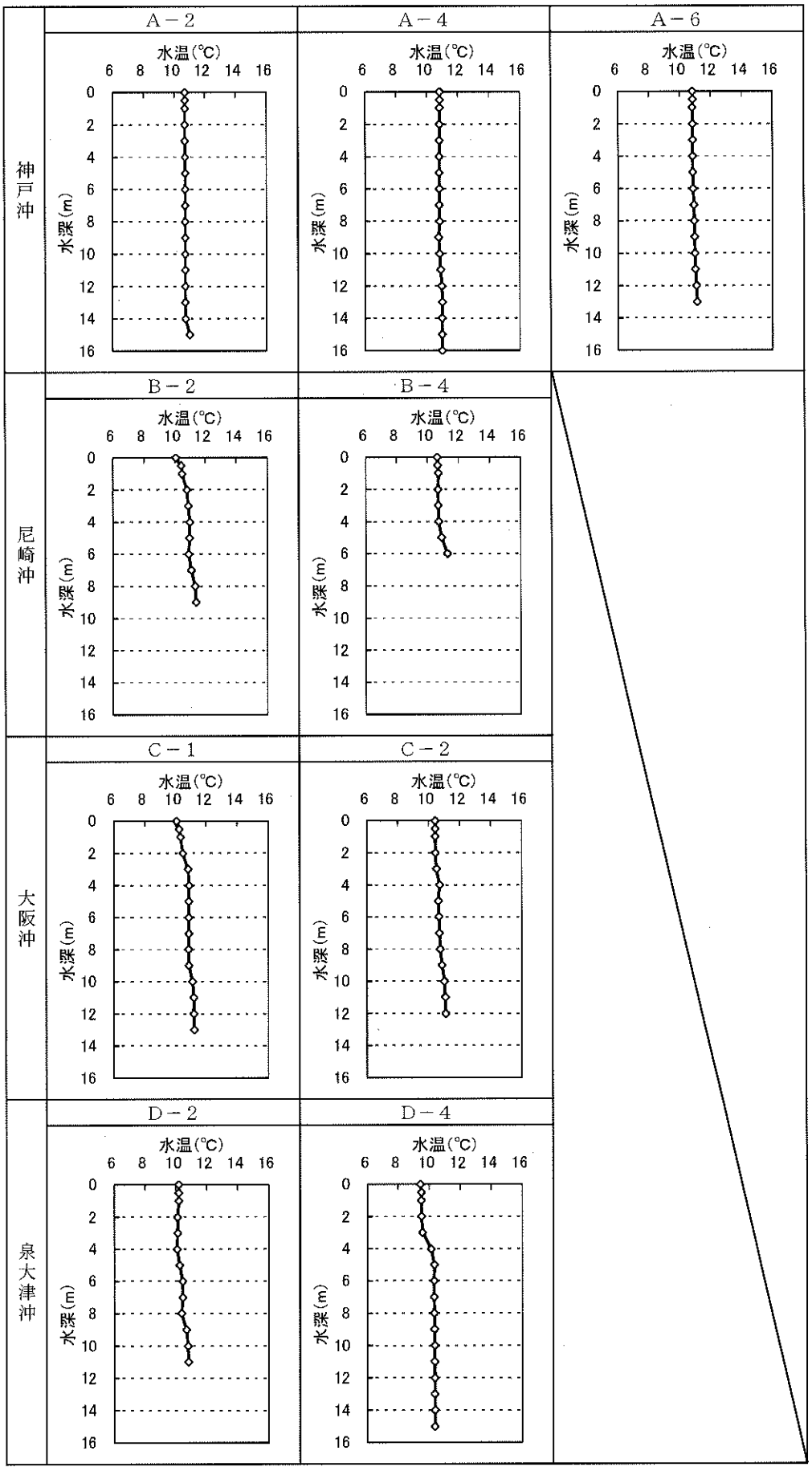

図５－１－２（１）　鉛直分布図（水温）

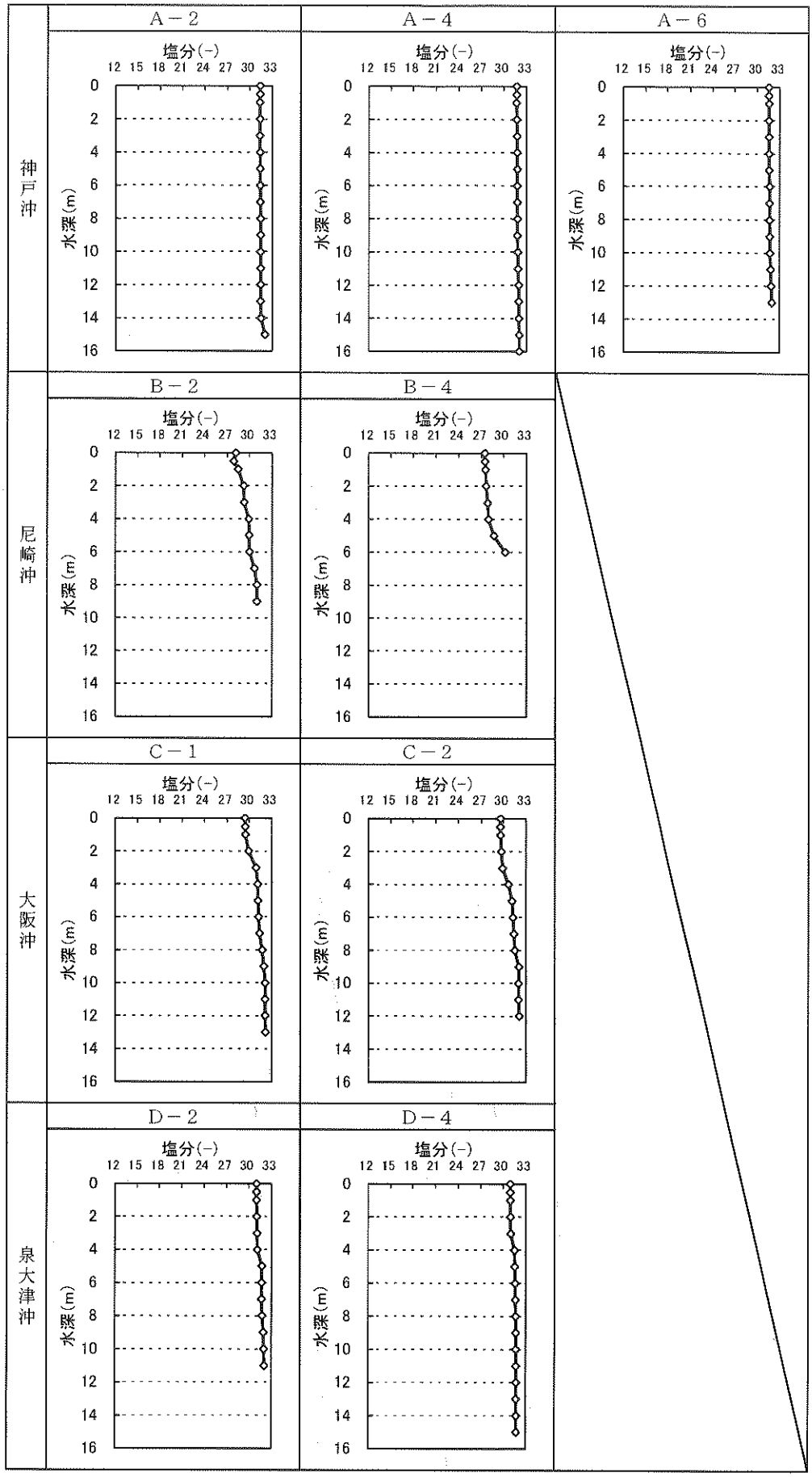

図５－１－２（２）　鉛直分布図（塩分）

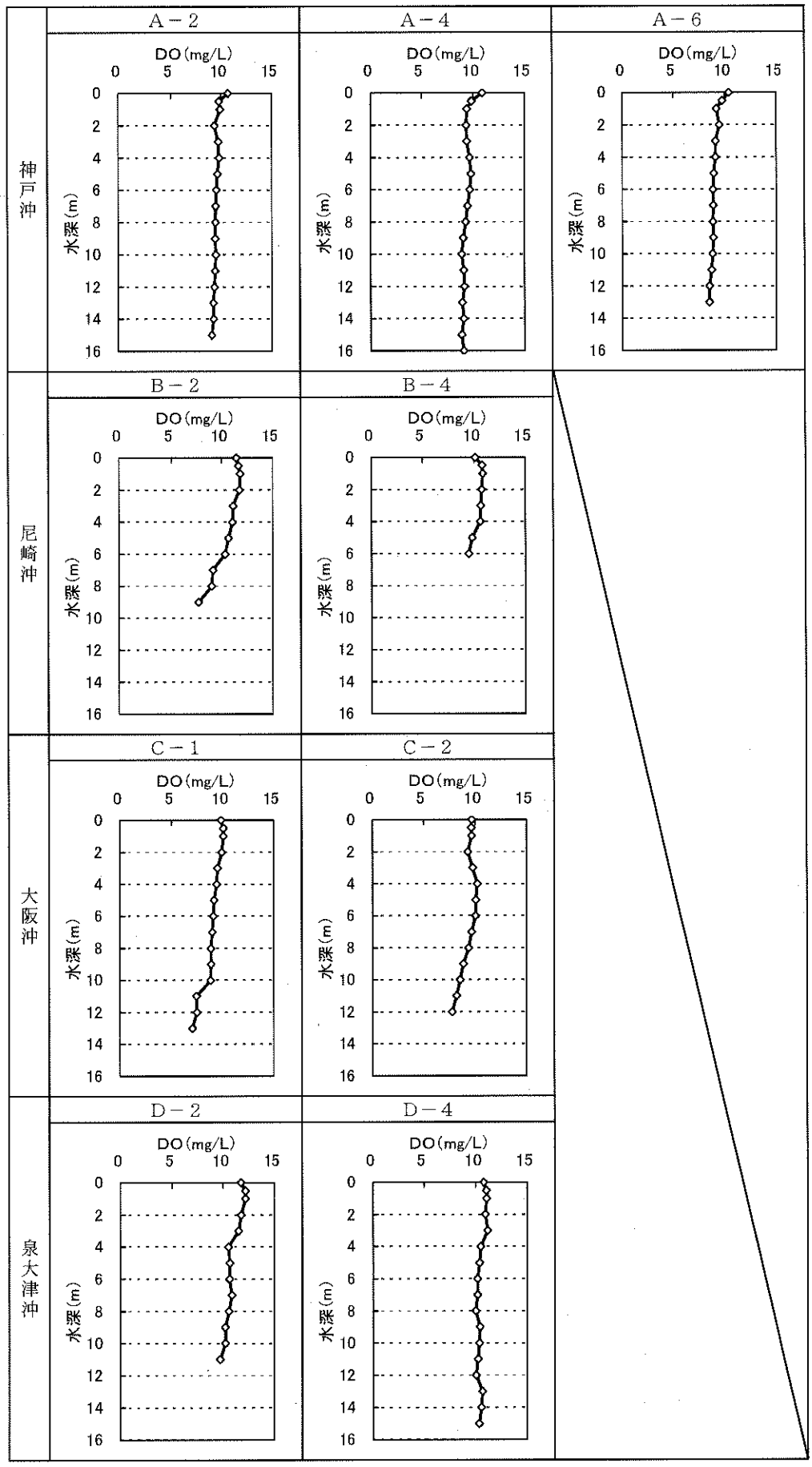

図５－１－２（３）　鉛直分布図（ＤＯ）

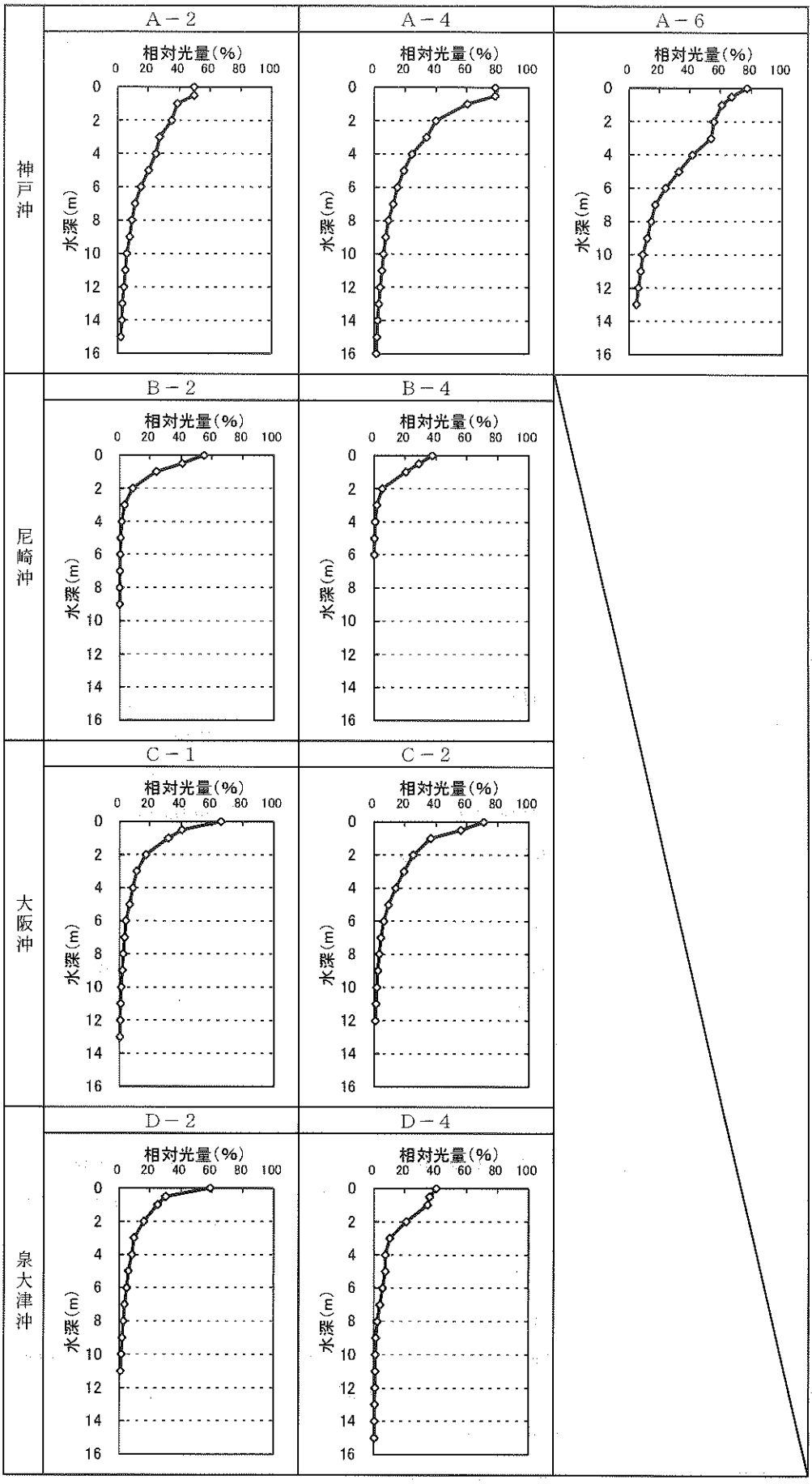

図５－１－２（４）　鉛直分布図（相対光量）

2．生物調査

(1) 目視観察

植物の目視観察の結果を表５－２－１、動物の目視観察の結果を表５－２－２、魚類の目視観察の結果を表５－２－３に示した。

① 植物

A．神戸沖処分場

調査地点Ａ－１では、17 種類の植物が確認された。水深＋1.0～－3.0mでは緑藻綱のアオサ属が 10～90％、水深－1.0～3.0mでは藻場構成種である褐藻綱のタマハハキモクが 10～60％、水深－2.0～5.0mでは紅藻綱のイトグサ属が 10～40％と多くみられた。種類数が多かったのは水深－5.0mで８種類であった。水深－9.0mまで植物は出現した。

調査地点Ａ－２では、13 種類の植物が確認された。水深＋1.0～－1.0mでは緑藻綱のアオサ属が 60～90％、水深－3.0～6.0mでは紅藻綱のイギス科が 10～30％と多くみられた。藻場構成種の褐藻綱のタマハハキモクが水深－2.0～3.0mで 5～20％確認された。種類数が多かったのは水深－3.0mで９種類であった。水深－7.0mまで植物は出現した。

調査地点Ａ－３では、13 種類の植物が確認された。水深＋1.0～－1.0mでは緑藻綱のアオサ属が 10～95％、水深－2.0～3.0mでは藻場構成種の褐藻綱のタマハハキモクが 20～30％、水深－4.0～8.0mでは紅藻綱のイギス科が 10～60％と多く確認された。種類数が多かったのは水深－4.0mで７種類であった。水深－9.0mまで植物は出現した。

調査地点Ａ－４では、16 種類の植物が確認された。水深±0.0mで緑藻綱のシオグサ属が 30％、水深－1.0～3.0mで紅藻綱のイトグサ属が 10～20％と多くみられた。種類数が多かったのは水深－1.0mで 10 種類であった。水深－7.0mまで植物は出現した。

調査地点Ａ－５では、12 種類の植物が確認された。水深－4.0mで紅藻綱のイトグサ属が 30％、水深－4.0～5.0mで紅藻綱のススカケベニが 10％と多く出現した。種類数が多かったのは水深－4.0mで７種類であった。水深－6.0mまで植物は出現した。

B．尼崎沖処分場

調査地点Ｂ－１では、３種類の植物が確認された。水深±0.0mで褐藻綱のカヤモノリ属が 10％、紅藻綱のアマノリが 20％と多くみられた。水深－6.0mまで植物は出現した。

調査地点Ｂ－２では、５種類の植物が確認された。水深－6.0mで紅藻綱のイギス科が 10％と多くみられたが、他の種類は僅かに出現したのみであった。水深－3.0mまで植物は出現した。水深－6.0mまで植物は出現した。

調査地点Ｂ－３では、４種類の植物が確認された。水深±0.0～－4.0mで植物はみられ、水深±0.0mで紅藻綱のアマノリ属が５％と出現したが、他の種類は僅かに出現したのみであった。水深－4.0mまで植物は出現した。

調査地点Ｂ－２では、４種類の植物が確認された。水深±0.0mで緑藻綱のアオノリ属が５％、紅藻綱のアマノリ続が 10％と多く出現したが、他の種類は僅かに出現したのみであった。水深－3.0mまで植物は出現した。

C．大阪沖処分場

調査地点Ｃ－１では、14 種類の植物が確認された。水深±0.0～－1.0m、－3.0mで緑藻綱のアオサ属が 15～60％、水深－3.0mで藻場構成種である褐藻綱のタマハハキモクが30％と多くみられ、水深－4.0mでタマハハキモク、水深－3.0mでシダモクが僅かに確認された。種類数が多かったのは水深±0.0m、－3.0m、－4.0mで６種類であった。水深－10.0mまで植物は出現した。

調査地点Ｃ－２では 18 種類の植物が確認された。水深±0.0～－1.0mで緑藻綱のボタンアオサが 40～75％、水深－1.0～3.0mで紅藻綱のフダラクが５～65％、水深－4.0～8.0mで紅藻綱のススカケベニが 10～25％と多くみられた。種類数が多かったのは水深－5.0mで９種類であった。水深－10.0mまで植物は出現した。

D．泉大津沖処分場

調査地点Ｄ－１では、１種類の植物が確認された。水深±0.0mで紅藻綱のアマノリ属が僅かに確認されたのみであった。

調査地点Ｄ－２では、16 種類の植物が確認された。水深±0.0～－3.0mで紅藻綱のイトグサ属が 10～30％、水深－2.0～8.0mで紅藻綱のイギス科が 10～60％と多く出現した。種類数が多かったのは水深±0.0mで 10 種類であった。水深－11.0mまで植物は出現した。

調査地点Ｄ－３では、11 種類の植物が確認された。水深±0.0mで緑藻綱のイトグサ属が 20％、水深－1.0～2.0mで珪藻綱が 10～20％、水深－7.0～8.0mで紅藻綱のイギス科が10～30％と多くみられたが、その他の種類は僅かに出現したのみであった。植物が出現したのは水深－12.0mまでで、深場に出現したのはイギス科のみであった。

調査地点Ｄ－４では、13 種類の植物が確認された。水深±0.0～4.0mで緑藻綱のイトグサ属が 10～30％、水深－1.0～6.0mで珪藻綱が 20～30％、水深－1.0～8.0mで紅藻綱のイギス科が５～50％、水深－2.0～4.0mで藻場構成種である褐藻綱のワカメが５～20％と多くみられた。種類数が多かったのは水深－4.0mで８種類であった。水深－9.0mまで植物は出現した。

表５－２－１（１）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－１）

平成19年2月4日

No		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂, 小礫
緑藻綱	アオサ属	90	90	70	20	10	+	+					
	シオグサ属		+	+									
	アオノリ属		+										
褐藻綱	カヤモノリ属		+										
	セイヨウハバノリ		+										
	タマハハキモク			40	60	10							
紅藻綱	アマノリ属	+	+										
	フダラク			10	+								
	コスジフシツナギ			+									
	ツノマタ属			+	+	+		+					
	イギス科				+	+	+	+	10	10	10	+	
	イトグサ属				10	40	10	10	+	+			
	ススカケベニ					+	5	10	+	+			
	マクサ					+	5	+					
	オバクサ						+	+					
	ムカデノリ属						+	+					
珪藻綱	－				+								
出現種類数(17)		2	6	6	7	7	7	8	3	3	1	1	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表５－２－１（２）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－２）

平成19年2月4日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂, 小礫
緑藻綱	アオノリ属	+											
	アオサ属	90	90	60	+	+	+	+					
褐藻綱	タマハハキモク				20	5							
紅藻綱	フダラク		+	20	+	+							
	イトグサ属		+	+	20	10	+						
	コスジフシツナギ		+	+									
	ムカデノリ科			+	+	10	+						
	ツノマタ属			+	+	+							
	イギス科				+	10	20	30	10	+			
	オキツノリ				+	+							
	ススカケベニ					10	10	+					
	サビ亜科						+						
	イワノカワ科						+	+					
出現種類数(13)		2	4	6	8	9	7	4	1	1	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表５－２－１（３）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－３）

平成19年2月4日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂, 小礫
緑藻綱	アオノリ属	+											
	アオサ属	95	90	10	+	+	+	+	+				
	ハネモ属						+						
褐藻綱	タマハハキモク				30	20							
紅藻綱	アマノリ属	+											
	コスジフシツナギ		+	+									
	フダラク		+	30	+	+	+						
	ツノマタ属			+			+						
	イトグサ属				10	40	+						
	シオグサ属				+								
	イギス科					+	60	30	10	10	10	+	
	ススカケベニ						20	10	+				
珪藻綱	－		+										
出現種類数(13)		3	4	4	5	5	7	3	3	1	1	1	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表５－２－１（４）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－４）

平成19年2月4日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	砂，小礫
緑藻綱	アオサ属		5	20	+								
	シオグサ属		30	+									
	アオノリ属			+									
褐藻綱	カヤモノリ属		10										
	セイヨウハバノリ		10										
	フクロノリ			+									
紅藻綱	アマノリ属		+										
	イトグサ属		+	20	10	10	+						
	コスジフシツナギ		+	10	+								
	ツノマタ属		+	+	+								
	カエルデグサ			+									
	フダラク			+	+								
	イギス科			+	+	+	+	+	+	+			
	ススカケベニ					+							
	サビ亜科						+						
	カバノリ							+					
	出現種類数(16)	－	8	10	6	3	3	2	1	1	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表５－２－１（５）　植物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－５）

平成19年2月4日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂，大礫
緑藻綱	アオサ属		5	+			+						
	シオグサ属		+										
	アオノリ属			+									
紅藻綱	アマノリ属		+										
	イトグサ属					+	30	+					
	ススカケベニ						10	10	+				
	サビ亜科						+	+					
	イギス科						+	+	+				
	カバノリ						+						
	イワノカワ科						+	+					
	マサゴシバリ							+	+				
珪藻綱	－		+										
	出現種類数(12)	－	4	2	－	1	7	6	3	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表５－２－１（６）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－１）

平成19年2月1日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
褐藻綱	カヤモノリ属		10						
紅藻綱	アマノリ		20						
珪藻綱	―							+	+
出現種類数(3)		―	2	―	―	―	―	1	1

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。

表５－２－１（７）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－２）

平成19年2月1日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
緑藻綱	シオグサ属		+							
	ハネモ				+	+			+	
紅藻綱	アマノリ属		+							
	イギス科				+	+			10	
	ススカケベニ								+	
出現種類数(5)		―	2	―	2	2	―	―	3	―

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。

表５－２－１（８）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－３）

平成19年2月1日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオノリ属		+								
	シオグサ属			+	+						
紅藻綱	アマノリ属		5	+							
	イギス科				+	+	+				
出現種類数(4)		―	2	2	2	1	1	―	―	―	―

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。

表５－２－１（９）　植物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－４）

平成19年2月1日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
緑藻綱	アオノリ属		5						
紅藻綱	アマノリ属		10						
	イギス科					+			
藍藻綱	―			5	+				
出現種類数(4)		―	2	1	1	1	―	―	―

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す。

表５－２－１（10）　植物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－１）

平成19年2月8日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
水深（m）		+1	0	1	2	3			4	5	6	7	8	9	10
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	アオサ属		60	25	+	15	15	25	+	+					
	アオノリ属		+	+											
	シオグサ属		+												
	ハネモ								+	+					
褐藻綱	セイヨウハバノリ		+	+											
	ウスカワマモ		+												
	フクロノリ					+									
	タマハハキモク						30	+	+						
	シダモク						+								
紅藻綱	アマノリ属		15												
	イトグサ属			5	+	15	10	10			15	20	30	10	
	イギス科				+			+	5	10	+	+	+	+	+
	ススカケベニ						5		10	+					
珪藻綱	－				+	15	5	+	20	15	15				
出現種類数(14)		－	6	4	4	4	6	5	6	5	3	2	2	2	1

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表５－２－１（11）　植物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－２）

平成19年2月8日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
緑藻綱	シオグサ属	+				+		+					
	アオノリ属	+	10										
	ボタンアオサ		75	40									
	アオサ属		5	15	10	15	+	+		+			
	ハネモ										+		
褐藻綱	ウスカワマモ		+										
	タマハハキモク					+	+	+					
	シダモク						15	5	+				
	フクロノリ						+	+					
紅藻綱	アマノリ属		+	+									
	イワノカワ科		5										
	フダラク			5	10	65							
	イトグサ属						+	5		+			
	イギス科				5	5	10	5	+	+	+	+	+
	ムカデノリ				+								
	ベニスナゴ					5							
	ススカケベニ					+	10	25	15	25	15	+	
	マクサ							+					
出現種類数(18)		2	6	4	4	7	7	9	3	4	3	2	1

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表５－２－１（12）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－１）

平成19年2月5日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥
紅藻綱	アマノリ属		+											
出現種類数(1)		－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表５－２－１（13）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－２）

平成19年2月5日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオノリ属		+	+	+											
	シオグサ属		10	5	+											
	ミル		+	+												
	アオサ属		+													
	ハネモ属				+		+									
褐藻綱	カヤモノリ属		+													
紅藻綱	フダラク		+	5	+	+	+									
	ツノマタ属		+													
	イトグサ属		10	10	10	30	+									
	アマノリ属		+													
	ムカデノリ属			+	10	+	+	+	+							
	イギス科			+	10	10	30	40	60	30	30	+	+	+		
	カバノリ					+	10	20	10	+						
	ススカケベニ						+	+	+	+						
	タオヤギソウ								+	+						
珪藻綱	－		20	10	10	+										
出現種類数(16)		－	10	8	8	6	7	4	5	4	1	1	1	1	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表５－２－１（14）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－３）

平成19年2月5日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
緑藻綱	アオサ属		+	+												
	シオグサ属		+													
	イトグサ属		20	+	+											
	アオノリ属		+	+												
	ハネモ属			+	+	+	+									
	ミル			+												
褐藻綱	カヤモノリ属		+													
	セイヨウハバノリ		+	+												
紅藻綱	アマノリ属		+													
	イギス科		10	+						30	10	+	+	+	+	
珪藻綱	－			20	10	+	+									
出現種類数(11)		－	8	8	3	2	2	－	－	1	1	1	1	1	1	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

表５－２－１（15）　植物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－４）

平成19年2月5日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
基質		ケーソン	ケーソン	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、大礫	大礫	大礫	大礫	泥
緑藻綱	アオサ属		10	+	+														
	アオノリ属		10	10	10	+	+												
	イトグサ属		10	30	10	10	10	+											
	シオグサ属		+																
	ハネモ属						+												
	ミル							+											
褐藻綱	カヤモノリ属		+																
	ワカメ			+	5	20	10	+											
	シオミドロ科						+	+											
紅藻綱	フダラク			+	+														
	イギス科			5	30	20	20	30	30	50	40	+							
藍藻綱	－						+	+	+										
珪藻綱	－			30	30	20	20	20	20										
出現種類数(13)		－	5	7	7	5	8	7	3	1	1	1	－	－	－	－	－	－	－

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。

② 動物

A．神戸沖処分場

調査地点A－1では、12 種類の動物が確認された。被度をみると水深－1.0～6.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～50%、水深－5.0～7.0mで節足動物門のサンカクフジツボが20～30%と多くみられた。個体数をみると水深－3.0～10.0mの広範囲で棘皮動物門のキヒトデとイトマキヒトデがみられ、水深－6.0、7.0mでは一枠にヒトデが合計6個体と多く確認された。種類数が多かったのは水深－5.0mで6個体であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点A－2では、14 種類の動物が確認された。被度をみると水深－1.0～5.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 20～70%と多くみられたが、イワフジツボ、サンカクフジツボ、ホヤ綱が僅かに確認された程度であった。個体数をみると水深－3.0～10.0mの広範囲で棘皮動物門のイトマキヒトデとキヒトデがみられ、同じ動物門のマナマコが個体数は少ないものの、水深－4.0～9.0mの広範囲に確認された。種類数が多かったのは水深－4.0、－6.0mで6種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点A－3では、18 種類の動物が確認された。被度をみると水深－1.0～6.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～80%と多くみられたが、他は個体数も被度も少なく、僅かに確認された程度であった。個体数をみると水深－2.0～10.0mで棘皮動物門のキヒトデ、イトマキヒトデが広範囲にみられ、多い水深帯では一枠に4個体確認された。種類数が多かったのは水深－2.0、7.0mで6種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点A－4では、20 種類の動物が確認された。被度をみると水深－1.0～5.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が10～90%、水深±0.0mで腔腸動物門のヒドロ虫綱が20%、原索動物門のホヤ綱が 10%と多くみられ、水深－4.0～9.0mで節足動物門のサンカクフジツボが被度は少ないものの、広範囲で確認された。個体数をみると水深＋1.0～－2.0mで軟体動物門が多くみられ、特にアラレタマキビが多く確認された。種類数が多かったのは水深±0.0mで7種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点A－5では、28 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 90%、水深－1.0～3.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 90～95%と多くみられ、水深－1.0～9.0mで原索動物門のホヤ綱が広範囲に確認された。個体数をみると水深－1.0～10.0mの広範囲で棘皮動物門のキヒトデがみられ、多い水深帯では一枠に9個体と多く確認された。種類数が多かったのは水深－1.0mで12種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

B．尼崎沖処分場

調査地点Ｂ－１では、17 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～－1.0mでは軟体動物門のコウロエンカワヒバリガイが 50～80%、水深－2.0mでは軟体動物門のムラサキイガイが 40%、水深－2.0～6.0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 10～75%、水深－2.0～3.0mで原索動物門のカタユウレイボヤが 30～35%と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のタマキビ、水深－4.0mで棘皮動物門のマナマコが確認された程度であった。種類数が多かったのは水深－2.0mで９種類であった。水深－6.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｂ－２では、20 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0mで軟体動物門のマガキが 20%、水深－1.0mで軟体動物門のコウロエンカワヒバリガイが 10%、同じ動物門のミドリイガイが 30%、水深－3.0～7.0mでは多毛綱（泥巣）が 10～40%と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のタマキビが確認されたのみであった。種類数が多かったのは水深－3.0～4.0mで９種類であり、水深－7.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｂ－３では、15 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～－1.0mで軟体動物門のコウロエンカワヒバリガイが 15～60%、水深－2.0～3.0mで腔腸動物門のチギレイソギンチャクが 15～20%、水深－2.0～6.0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 10～65%と多くみられた。種類数が多かったのは水深－2.0mで９種類であった。水深－8.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｂ－４では、17 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0mで軟体動物門のコウロエンカワヒバリガイが 45%、水深－1.0～2.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 65～95%、水深－4.0～6.0mで環形動物門の多毛綱（泥巣）が 60～70%と多くみられた。個体数をみると水深－5.0mで軟体動物門のシマメノウフネガイが僅かに確認されたのみであった。種類数が多かったのは水深－2.0mで９種類であった。水深－6.0mまで動物は出現した。

C．大阪沖処分場

調査地点Ｃ－１では、24 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0mで軟体動物門のマガキが 65%、同じ動物門のムラサキイガイが 10%、水深－1.0～4.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 65～100%と多くみられた。個体数をみると水深－3.0mまでで軟体動物門のムギガイやレイシガイ、水深－4.0m以下で棘皮動物門のマナマコやキヒトデが数個体みられた。種類数が多かったのは水深－1.0mで９種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｃ－２では、19 種類の動物が確認された。被度をみると水深－1.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 35%、コウロエンカワヒバリガイが 10%、水深－2.0～6.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～100%と多くみられた。個体数では水深－3.0m以浅で軟体動物門が数個体、水深－4.0m以深で棘皮動物門のキヒトデ、マナマコが数個体確認された。種類数が多かったのは水深－1.0mで７種類であった。水深－10.0mまで動物は出現した。

D．泉大津沖処分場

調査地点Ｄ－１では、21 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0 で軟体動物門のケガキが 20％、水深±0.0～－3.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 10～90％、環形動物門のカンザシゴカイ科が水深－3.0～5.0mで 20～50％、多毛綱（泥巣）が水深－5～10mで 10～20％、水深－3.0～8.0mで原索動物門のユウレイボヤ属が 10～50％と多くみられた。個体数をみると水深－3.0m以浅で軟体動物門が数個体、水深－5.0m以深では軟体動物門のウミフクロウと棘皮動物門のイトマキヒトデが数個体確認された。種類数が多かったのは水深－1.0mと－3.0mで 10 種類であった。水深－11.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｄ－２では、19 種類の動物が確認された。被度をみると水深－1.0～3.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～20％、水深－3.0～6.0mで節足動物門のサンカクフジツボが 10～20％、水深－7.0～10.0mの環形動物門の多毛綱（泥巣）が 10～20％と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門の出現が多く、水深－3.0～11.0mの広範囲に棘皮動物門のイトマキヒトデが観察された。種類数が多かったのは水深－4.0mと－7.0mで８種類であった。水深－12.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｄ－３では、21 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0～－1.0mで軟体動物門のムラサキイガイが 10～30％、水深－1.0～5.0mで環形動物門のカンザシゴカイ科が 10～80％と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のタマキビが 100 個体と多くみられたが、他には軟体動物門のカラマツガイ、キクノハナガイ、棘皮動物門のイトマキヒトデが数個体確認されたのみであった。種類数が多かったのは水深－5.0mで 10 種類であった。水深－12.0mまで動物は出現した。

調査地点Ｄ－４では、26 種類の動物が確認された。被度をみると水深±0.0mで軟体動物門のケガキが 30％、水深－3.0～4.0mで腔腸動物門のヒドロ虫綱が 10～20％と多くみられた。個体数をみると水深＋1.0mで軟体動物門のアラレタマキビが 110 個体と多くみられた他、軟体動物門が数種類、棘皮動物門のイトマキヒトデ、サンショウウニが確認された。種類数が多かったのは水深－5.0、7.0mで９種類であった。水深－15.0mまで動物は出現した。

表５－２－２（１）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－１）

平成19年2月4日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+										
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	10	30	30	50	20	10	+			
軟体動物門	キクノハナガイ		(1)										
	レイシガイ			(3)	(2)								
	コシダカガンガラ			(2)	(1)	(2)							
	ムギガイ			(3)	(6)	(12)							
節足動物門	イワフジツボ	5	+										
	ヤドカリ科				(1)	(2)	(6)	(6)		(1)	(1)	(1)	
	サンカクフジツボ							30	30	20	+		
棘皮動物門	イトマキヒトデ					(5)		(3)	(5)	(3)	(2)	(2)	
	キヒトデ						(2)	(4)	(6)	(6)	(2)	(2)	(1)
	マナマコ							(1)				(1)	(1)
出現種類数(12)		1	4	4	5	5	3	6	4	5	4	4	2

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表５－２－２（２）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－２）

平成19年2月4日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
環形動物門	カンザシゴカイ科			20	70	40	20	30	+				
軟体動物門	タマキビ	(1)											
	カラマツガイ	(1)	(2)										
	ユキノカサガイ科	(2)											
	ムギガイ			(3)							(10)	(2)	
	レイシガイ			(2)			(2)						
節足動物門	イワフジツボ	10	+										
	ヤドカリ科			(1)	(1)	(2)	(3)	(2)		(1)	(4)		
	サンカクフジツボ						+	+	+	+			
棘皮動物門	イトマキヒトデ					(1)	(3)	(4)	(3)	(1)		(2)	(1)
	マナマコ						(1)		(1)	(1)	(1)	(1)	
	キヒトデ							(3)	(1)	(1)	(2)		(1)
原索動物門	ホヤ綱（群体性）			+									
	エボヤ								+				
出現種類数(14)		4	2	5	2	3	6	5	6	5	4	3	2

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表５－２－２（３）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－３）

平成19年2月4日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
基質		ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	砂，小礫
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	50	80	30	10	20	10	+			
触手動物門	フサコケムシ科			+	+	+							
	アミコケムシ科										+	+	
軟体動物門	カラマツガイ	(1)											
	ケガキ		+										
	イボニシ		(3)										
	ムギガイ				(3)								
	アメフラシ				(1)								
	シマメノウフネガイ					+							
	レイシガイ							(1)					
節足動物門	イワフジツボ	+	+										
	ヤドカリ科			(1)	(4)	(3)			(1)	(1)	(3)		
	サンカクフジツボ							+	+	+	+	+	
棘皮動物門	イトマキヒトデ				(1)		(1)	(3)	(4)	(4)	(3)	(2)	
	キヒトデ							(1)	(1)		(2)	(1)	(1)
	マナマコ									(1)		(1)	
原索動物門	ホヤ綱（群体性）			5									
	エボヤ									+			
出現種類数(18)		2	4	4	6	4	2	5	5	6	5	5	1

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表５－２－２（４）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－４）

平成19年2月4日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	砂，小礫
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+										
	ヒドロ虫綱		20	+									
	ハナギンチャク科												+
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	20	90	70	60	10	+				
触手動物門	フサコケムシ科					+							
軟体動物門	カモガイ	(3)											
	アラレタマキビ	(60)											
	マツバガイ		(1)										
	ヨメガカサ		(4)										
	イボニシ			(1)									
	レイシガイ				(3)								
	ムギガイ				(6)				(28)	(12)	(5)		
節足動物門	イワフジツボ	+	+										
	ヤドカリ科			(2)		(6)			(1)	(1)	(1)		
	サンカクフジツボ						+	+	+	+	+	+	
棘皮動物門	イトマキヒトデ				(1)	(1)	(1)	(1)					
	マナマコ							(1)					
	キヒトデ							(3)	(3)			(3)	(2)
原索動物門	ホヤ綱（群体性）		10	+	+	+	+	+					
	ユウレイボヤ属				+								
	出現種類数(20)	3	7	5	6	5	4	6	5	3	3	2	2

注：数値は被度（%）を示し、+は5%未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表５－２－２（５）　動物の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－５）

平成19年2月4日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	大礫	砂，大礫
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+										
	イソギンチャク目			+									
	チギレイソギンチャク			+	+	+							
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	90	95	90	+	+	+				
触手動物門	コケムシ綱			+	+								
	アミコケムシ科											+	
軟体動物門	アラレタマキビ	(5)											
	ムラサキイガイ		90	+									
	ケガキ		+										
	イボニシ		(4)	(1)									
	カラマツガイ		(2)										
	ミドリイガイ		+	+									
	ユキノカサガイ科		(1)										
	レイシガイ		(2)	(3)	(8)								
	シマメノウフネガイ						+	+					
	コシダカガンガラ							(3)					
	ムギガイ							(12)					
節足動物門	イワフジツボ		+										
	サンカクフジツボ						+	+	+	+	+	+	
	ヤドカリ科										(1)		
棘皮動物門	キヒトデ			(2)	(4)	(2)	(5)	(4)	(7)	(4)	(5)	(9)	(4)
	イトマキヒトデ				(1)	(2)	(4)			(2)			
	マナマコ						(1)		(1)				
	サンショウウニ											(1)	
原索動物門	ホヤ綱（群体性）			+	5	10	+	10	20	+	10	+	
	シロボヤ			+	+	+		+					
	ユウレイボヤ属			+	+	+	+	+	+	+	+	+	
	エボヤ										+	+	
	出現種類数(28)	1	10	12	9	7	8	9	6	5	6	7	1

注：数値は被度（%）を示し、+は5%未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表５－２－２（６）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－１）

平成19年2月1日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
海綿動物門	－					+	+	5	
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+		+				
	チギレイソギンチャク			+	+		+	+	
	ヒドロ虫綱				5	+	+		
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	10	5	+	+	+
	多毛綱（泥巣）				10	50	75	65	55
軟体動物門	タマキビ	(28)							
	コウロエンカワヒバリガイ		50	80					
	マガキ		10						
	ミドリイガイ		+	15	10				
	ムラサキイガイ		+	5	40	+			
節足動物門	*Balanus* spp.			+					
棘皮動物門	マナマコ						(1)		
原索動物門	カタユウレイボヤ				30	35	5		
	スチエラ科				+	+	+		
	エボヤ							+	
－	卵塊							+	+
出現種類数（17）		1	5	6	9	7	8	6	3

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表５－２－２（７）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－２）

平成19年2月1日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
海綿動物門	－									+
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+	+	5					
	チギレイソギンチャク					+	5	5		
	Anthopleura sp.					+				
	ヒドロ虫綱									+
	シオガマサンゴ									
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	5	15	+	5	5		
	多毛綱（泥巣）					15	30	40	10	10
触手動物門	コケムシ綱				+					
軟体動物門	タマキビ	(26)								
	マガキ		20							
	コウロエンカワヒバリガイ		+	10						
	ミドリイガイ			30		+	+			
	ムラサキイガイ					+	+			
節足動物門	*Balanus* spp.			+						
原索動物門	スチエラ科				+	+	5	5		
	カタユウレイボヤ				+	5	5	+		
	マンハッタンボヤ					+	+			
	エボヤ						+			
－	卵塊							+		
出現種類数（20）		1	4	5	5	9	9	6	1	3

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表５－２－２（８）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－３）

平成19年2月1日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫
海綿動物門	－							20	5		
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク			+							
	チギレイソギンチャク				20	15	5	+	+	+	
	Anthopleura sp.				+						
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	+	+	+	+	+	+	
	多毛綱（泥巣）				10	60	65	50	40	+	+
触手動物門	コケムシ綱					5	10	+			
軟体動物門	コウロエンカワヒバリガイ		60	15	5						
	ミドリイガイ		+	+	+	+					
	シマメノウフネガイ							+			
節足動物門	*Balanus* spp.			+	+						
原索動物門	スチエラ科				+					+	+
	カタユウレイボヤ						+		+		
	マンハッタンボヤ						+				
－	卵塊				+						
出現種類数（15）		－	2	5	9	5	6	6	5	4	2

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表５－２－２（９）　動物の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－４）

平成19年2月1日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
海綿動物門	－								+
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+	5	10				
	チギレイソギンチャク				10	10	+		
	ヒドロ虫綱					+	+	+	
環形動物門	カンザシゴカイ科			65	95	+	+	+	
	多毛綱（泥巣）						60	65	70
触手動物門	コケムシ綱				5			+	+
軟体動物門	コウロエンカワヒバリガイ		45	15					
	マガキ				+				
	ミドリイガイ				+	+			
	ムラサキイガイ					5			
	シマメノウフネガイ							(1)	
節足動物門	*Balanus* spp.		5	+					
	タテジマフジツボ		+						
原索動物門	カタユウレイボヤ				+	5	+	+	+
	スチエラ科				+	+	+		
	マンハッタンボヤ				+				
出現種類数（17）		－	4	4	9	7	6	6	4

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表５－２－２（10）　動物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－１）

平成19年2月8日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
	水深（m）	+1	0	1	2		3		4	5	6	7	8	9	10
	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
海綿動物門	－						+		+				+		
腔腸動物門	*Anthopleura* sp.			+					+						
	ヒドロ虫綱			5							+	+		+	+
	シオガマサンゴ													+	
環形動物門	カンザシゴカイ科			65	100	100	95	100	85	+	+	+	+	+	
	多毛綱（泥巣）									+					
	ウズマキゴカイ									+	+	+	+		
触手動物門	コケムシ綱		5												
軟体動物門	タマキビ	(21)													
	マガキ		65												
	ムラサキイガイ		10												
	ムギガイ			(2)		(3)		(5)							
	レイシガイ			(2)	(2)	(4)									
	ナミマガシワ科								+						
節足動物門	イソガニ		(1)												
棘皮動物門	キンコ科					+									
	マナマコ								(2)					(1)	(2)
	キヒトデ									(1)			(1)	(2)	
	サンショウウニ														(1)
原索動物門	ホヤ綱（群体性）			+	+	+	+	+		+					
	スチエラ科			+											
	カタユウレイボヤ			+	+										
	エボヤ			+											
－	卵塊						+								
	出現種類数(24)	1	4	9	4	5	4	3	5	5	3	3	4	5	3

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表５－２－２（11）　動物の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－２）

平成19年2月8日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
腔腸動物門	*Anthopleura* sp.			+									
	シオガマサンゴ									+	+	+	
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	10	100	100	15	10	+	+	+	+
	多毛綱（泥巣）						+	+					
	ウズマキゴカイ											+	+
触手動物門	コケムシ綱			+									
軟体動物門	タマキビ	(2)											
	マガキ		+	+	+								
	ムラサキイガイ			35									
	ムギガイ			(4)									
	コウロエンカワヒバリガイ			10									
	レイシガイ							(4)					
	シマメノウフネガイ					(1)							
節足動物門	サンカクフジツボ							+	+				
棘皮動物門	イトマキキヒトデ				(1)								
	キヒトデ							(1)					(1)
	マナマコ								(1)			(2)	(3)
原索動物門	エボヤ				+								
－	卵塊						+						
	出現種類数(19)	1	1	7	4	2	3	5	3	2	2	4	4

注：数値は被度（％）を示し、＋は５％未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表５－２－２（12）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－１）

平成19年2月5日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	泥
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+											
	ミドロ虫綱		+	+	+	+								
	チギレイソギンチャク			+	+	+	+	+						
環形動物門	カンザシゴカイ科			5	5	50	40	20	+	+	+	+	+	
	多毛綱（泥巣）						+	10	20	10	10	10	10	
触手動物門	コケムシ綱										+	+		
軟体動物門	アラレタマキビ	(50)												
	ニザラガイ		(1)											
	タマキビ		(8)											
	ケガキ		20											
	ムラサキイガイ		80	90	60	10	+							
	ミドリイガイ		+	+	+	+	+	+	+					
	イボニシ		(9)	(3)										
	レイシガイ			(1)		(2)								
	ウミフクロウ							(4)	(2)	(1)				(1)
節足動物門	イワフジツボ		+											
棘皮動物門	イトマキヒトデ								(1)	(1)				
原索動物門	シロボヤ			+	+	10	10	10	+	+				
	ホヤ綱（群体性）			+	10	5	+	+	5	+	+	+	+	
	ユウレイボヤ属			+	+	20	50	20	20	50	10	+		
	エボヤ				+	+	+							
出現種類数(21)		1	9	10	9	10	9	8	8	7	5	5	3	1

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す．
（）内の数値は個体数を示す．

表５－２－２（13）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－２）

平成19年2月5日

	観察枠No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	水深（m）	+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
	基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
腔腸動物門	ミドロ虫綱			+												
	チギレイソギンチャク			+	+	+										
	シオガマサンゴ									+	+	+	+	+	+	
環形動物門	カンザシゴカイ科		+	10	10	20	+	+								
	多毛綱（泥巣）								+	10	20	20	10	+	+	
触手動物門	コケムシ綱						+	+	+	+						
	アミコケムシ科								+	+	+	+	10	5	+	
軟体動物門	アラレタマキビ	(12)														
	タマキビ	(3)														
	カラマツガイ	(4)														
	カモガイ	(2)														
	イボニシ		(1)													
	ムギガイ				(6)	(12)	(3)									
	コシダカガンガラ					(3)	(1)	(2)	(1)							
	シマメノウフネガイ						+	+	+	+	+					
節足動物門	イワフジツボ	+														
	ヤドカリ科				(3)		(1)	(5)		(4)						
	サンカクフジツボ				+	10	10	20	20	+	+					
棘皮動物門	イトマキヒトデ					(2)	(4)	(1)	(1)	(3)	(3)	(1)	(2)	(1)		
出現種類数(19)		5	2	3	5	6	8	7	7	8	6	4	4	4	3	-

注：数値は被度（%）を示し、＋は５％未満を示す．
（）内の数値は個体数を示す．

表５－２－２（14）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－３）

平成19年2月15日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	泥
腔腸動物門	タテジマイソギンチャク		+													
	ミドロ虫綱		5	5	5	+	+									
	チギレイソギンチャク			10	20	10	20	+	+							
	シオガマサンゴ										+		+			
環形動物門	カンザシゴカイ科			10	40	80	50	10	+							
	多毛綱（泥巣）						+	10	20	10	10	+	+	+	+	
触手動物門	フサコケムシ科					+	+	+								
	コケムシ綱							10	20	+	+	+				
	アミコケムシ科							+	+	+	10	10	10	+	+	
軟体動物門	アラレクマキビ	(100)														
	カラマツガイ		(9)													
	ムラサキイガイ		30	10	+											
	キクノハナガイ		(3)													
	ケガキ		+	+												
	ミドリイガイ				+											
節足動物門	イワフジツボ		10													
	サンカクフジツボ			+	+					+	+	+				
棘皮動物門	イトマキヒトデ							(2)		(11)	(4)	(1)				
原索動物門	シロボヤ			+	10	5	5	10	+	+	+	+	+	+	+	
	ホヤ綱（群体性）			10	+	+	+	+		+	+	+	+	+	+	
	ユウレイボヤ属				+	5	10	10	+							
出現種類数(21)		1	7	8	9	7	8	10	7	7	8	7	5	4	4	−

注：数値は被度（%）を示し、+は5%未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

表５－２－２（15）　動物の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－４）

平成19年2月5日

観察枠No.		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
水深（m）		+1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
基質		ケーソン	ケーソン	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫,大礫	大礫	大礫	大礫	泥
腔腸動物門	ミドロ虫綱		+	+	+	10	20	+											
	タテジマイソギンチャク		+																
	チギレイソギンチャク			+	+	+	+	+											
	シオガマサンゴ													+		+	+		
環形動物門	カンザシゴカイ科			+	10	10	+	+	+										
	ミズヒキゴカイ科						+	+	+	+	+								
	多毛綱（泥巣）							+	10	+	+	+	+	+					
触手動物門	コケムシ綱									+		+							
	アミコケムシ科											+	+	+	+	+			
軟体動物門	アラレタマキビ	(110)																	
	タマキビ	(5)																	
	イボニシ	(6)	(2)																
	カラマツガイ		(7)																
	ケガキ		30																
	イタボガキ科					+	10	10	+										
	シマメノウフネガイ							+		+	+	+	+						
	キクザルガイ科							+											
	レイシガイ								(1)										
	ツミフクロウ									(1)									
節足動物門	イワフジツボ	5	10																
	サンカクフジツボ									+	+	+							
棘皮動物門	イトマキヒトデ						(1)		(1)	(1)									
	サンショウウニ																	(1)	
原索動物門	シロボヤ			+	+					+	+	+	+	+	+	+	+		
	ホヤ綱（単体性）					+													
	ホヤ綱（群体性）					10	10	+	+	+	+	10	10	+					
出現種類数(26)		4	6	4	4	6	7	9	7	9	6	7	5	5	2	3	2	1	−

注：数値は被度（%）を示し、+は5%未満を示す。
（）内の数値は個体数を示す。

③ 魚類

A．神戸沖処分場

調査地点Ａ－１、Ａ－２、Ａ－４では魚類は確認されなかった。

調査地点Ａ－３では水深－2.0～4.0mでクロダイが数個体確認された。

調査地点Ａ－５ではメバルとマダコが確認され、水深－8.0m以深で数個体確認されたのみであった。

B．尼崎沖処分場

調査地点Ｂ－１、Ｂ－３、Ｂ－４では魚類は確認されなかった。

調査地点Ｂ－２では水深－4.0～6.0mでクロダイが数個体確認された。

C．大阪沖処分場

調査地点Ｃ－１ではでは水深－4.0～6.0mでクロダイが数個体確認された。

調査地点Ｃ－２では魚類は確認されなかった。

D．泉大津沖処分場

すべての調査地点において魚類は確認されなかった。

表５－２－３（１）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－１）

平成19年2月4日

水深（m）	0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質	ブロック	ブロック，巨礫	巨礫	巨礫	巨礫，砂，小礫
出現なし					

表５－２－３（２）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－２）

平成19年2月4日

水深（m）	0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック，砂，小礫
出現なし					

表５－２－３（３）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－３）

平成19年2月4日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ブロック	ブロック，巨礫	巨礫	巨礫	巨礫，砂，小礫
魚類	クロダイ(30)		rr			
出現種類数(1)		－	1	－	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表５－２－３（４）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－４）

平成19年2月4日

水深（m）	0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック	ブロック，砂，小礫
出現なし					

表５－２－３（５）　魚類の目視観察結果　神戸沖処分場（Ａ－５）

平成19年2月4日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～
基質		ケーソン	ケーソン，巨礫	巨礫	巨礫	巨礫，砂，大礫
魚類	メバル(15～18)					r
その他	マダコ(20)					rr
出現種類数(2)		－	－	－	－	2

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長(cm)を示す。

表５－２－３（６）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－１）

平成19年2月1日

水深（m）	0～2	2～4	4～6
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
出現なし			

表５－２－３（７）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－２）

平成19年 2月 1日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～7
基質		ケーソン	ケーソン	ケーソン、巨礫	巨礫
魚類	クロダイ（28～30）			r	
出現種類数（1）		－	－	1	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長（cm）を示す。

表５－２－３（８）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－３）

平成19年2月1日

水深（m）	0～2	2～4	4～6	6～8
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、巨礫
出現なし				

表５－２－３（９）　魚類の目視観察結果　尼崎沖処分場（Ｂ－４）

平成19年2月1日

水深（m）	0～2	2～4	4～6
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
出現なし			

表５－２－３（10）　魚類の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－１）

平成19年2月8日

水深（m）		0～2	2～4	4～6	6～8	8～10
基質		ケーソン	ケーソン、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
魚類	クロダイ（24～28）			r		
出現種類数（1）		－	－	1	－	－

注：rr＝１～２個体、r＝３～10個体、c＝11～50個体、cc＝51個体以上を示す。
（）内の数値は全長（cm）を示す。

表５－２－３（11）　魚類の目視観察結果　大阪沖処分場（Ｃ－２）

平成19年2月8日

水深（m）	0～2	2～4	4～6	6～8	8～9
基質	ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫
出現なし					

表５－２－３（12）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－１）

平成19年2月5日

水深（m）	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～11
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、泥
出現なし						

表５－２－３（13）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－２）

平成19年2月5日

水深（m）	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～13
基質	ブロック	ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、泥
出現なし							

表５－２－３（14）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－３）

平成19年2月5日

水深（m）	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～13
基質	ケーソン	ケーソン	ケーソン	ケーソン、巨礫	巨礫	巨礫	巨礫、泥
出現なし							

表５－２－３（15）　魚類の目視観察結果　泉大津沖処分場（Ｄ－４）

平成19年2月5日

水深（m）	0～2	2～4	4～6	6～8	8～10	10～12	12～14	14～16
基質	ケーソン、ブロック	ブロック	ブロック	ブロック、巨礫	巨礫	巨礫、大礫	巨礫、大礫	大礫、泥
出現なし								

(2) 枠取り採取及び分析

植物の枠取り分析結果を表５－２－４、動物の枠取り分析結果を表５－２－５に示した。

① 植物

A．神戸沖処分場（A－２）

上層では５種類が出現し、総湿重量 440.95ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のボタンアオサが 358.60ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

中層では 13 種類が出現し、総湿重量 88.25ｇ/0.25 ㎡であり、褐藻綱のタマハハキモクが 83.41ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では 11 種類が出現し、総湿重量 2.68ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のキヌイトフタツガサネが 1.41ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

B．尼崎沖処分場（B－２）

上層では５種類が出現し、総湿重量 0.01ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のアオノリ属が 0.01ｇ/0.25 ㎡であった。

中層では５種類が出現し、総湿重量 0.05ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のシオグサ属が 0.03ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では紅藻綱のキヌイトフタツガサネとイトグサ属の２種類が出現したのみで、総湿重量は 0.01ｇ/0.25 ㎡未満であった。

C．大阪沖処分場（C－２）

上層では４種類が出現し、総湿重量は 543.77ｇ/0.25 ㎡であり、緑藻綱のボタンアオサが 543.75ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

中層では 12 種類が出現し、総湿重量は 144.86ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のフダラクが 72.45ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では 10 種類が出現し、総湿重量は 70.43ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のススカケベニが 46.59ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

D．泉大津沖処分場（D－２）

上層では９種類が出現し、総湿重量は 33.17ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のアマノリ属が 22.28ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

中層では 11 種類が出現し、総湿重量 22.63ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のムカデノリが 11.68ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

下層では８種類が出現し、総湿重量は 9.83ｇ/0.25 ㎡であり、紅藻綱のカバノリが 6.47ｇ/0.25 ㎡と最も多かった。

表５－２－４　枠取り分析結果(植物)

調査地点(調査日)	層		上 (M.W.L.±0.0m)			中 (M.W.L.－2.0m)			下 (M.W.L.－4.0m)		
神戸沖 A－2 (2月4日)	出現種類数		5			13			11		
	総湿重量 (g/0.25m²)		440.95			88.25			2.68		
	優占種	第１位	ﾎﾞﾀﾝｱｵｻ	358.60	(81)	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ	83.41	(95)	ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ	1.41	(53)
		第２位	ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ	60.87	(14)	ｱﾅｱｵｻ	2.69	(3)	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	0.48	(18)
		第３位	ｱｵｻ属	21.40	(5)	ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ	0.54	(1)	ｲﾄｸﾞｻ属	0.36	(13)
尼崎沖 B－2 (2月1日)	出現種類数		5			5			2		
	総湿重量 (g/0.25m²)		0.01			0.05			＋		
	優占種	第１位	ｱｵﾉﾘ属	0.01	(100)	ｼｵｸﾞｻ属	0.03	(60)	ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ ｲﾄｸﾞｻ属	＋	(50)
		第２位	ｱﾏﾉﾘ属 ｲﾄｸﾞｻ属 藍藻綱 珪藻綱	＋	(＋)	ｱｵﾉﾘ属	0.02	(40)	－		
		第３位	－			ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ ｲﾄｸﾞｻ属 *Licomophora* sp.	＋	(＋)	－		
大阪沖 C－2 (2月8日)	出現種類数		4			12			10		
	総湿重量 (g/0.25m²)		543.77			144.86			70.43		
	優占種	第１位	ﾎﾞﾀﾝｱｵｻ	543.75	(100)	ﾌﾀﾞﾗｸ	72.45	(50)	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ	46.59	(66)
		第２位	ｱﾏﾉﾘ属	0.02	(＋)	ｱﾅｱｵｻ	68.28	(47)	ｱﾅｱｵｻ	12.58	(18)
		第３位	ｳｽｶﾔﾓｹｲｷﾞｽ	＋	(＋)	ｼｵｸﾞｻ属	1.35	(1)	ﾌﾀﾞﾗｸ	3.55	(5)
泉大津沖 D－5 (2月5日)	出現種類数		9			11			8		
	総湿重量 (g/0.25m²)		33.17			22.63			9.83		
	優占種	第１位	ｱﾏﾉﾘ属	22.28	(67)	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	11.68	(52)	ｶﾊﾞﾉﾘ	6.47	(66)
		第２位	ｱｵﾉﾘ属	6.08	(18)	ｲﾄｸﾞｻ属	5.76	(25)	ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	2.73	(28)
		第３位	ｼｵｸﾞｻ属	4.52	(14)	ｶﾊﾞﾉﾘ	3.19	(14)	ｲﾄｸﾞｻ属	0.34	(3)

注）優占種名の各数値は湿重量を示し、＋は0.01ｇ未満を示す。
　　また、（ ）内の数値は総量に対する占有率を示し、＋は1％未満を示す。

② 動物

A．神戸沖処分場（A－2）

上層では25種類が出現し、総個体数6,028個体/0.25㎡、総湿重量29.06g/0.25㎡であった。節足動物門のヒゲナガヨコエビ属が個体数、湿重量とも最も多く、3,326 個体/0.25㎡、15.32g/0.25㎡であった。

中層では69種類が出現し、総個体数4,778個体/0.25㎡、総湿重量214.12g/0.25㎡であった。環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが個体数、湿重量ともに最も多く、3,027個体/0.25㎡、111.60g/0.25㎡であった。

下層では53種類が出現し、総個体数3,042個体/0.25㎡、総湿重量380.35g/0.25㎡であった。節足動物門のサンカクフジツボが個体数、湿重量ともに最も多く、1,886個体/0.25㎡、221.94g/0.25㎡であった。

B．尼崎沖処分場（B－2）

上層では27種類が出現し、総個体数3,736個体/0.25㎡、総湿重量1,274.97g/0.25㎡であった。軟体動物門のコウロエンカワヒバリが個体数、湿重量ともに最も多く、2,484個体/0.25㎡、708.64g/0.25㎡であった。

中層では43種類が出現し、総個体数3,651個体/0.25㎡、総湿重量1,038.35g/0.25㎡であった。個体数では軟体動物門のウスカラシオツガイが824個体/0.25㎡、湿重量では節足動物門のアメリカフジツボが600.78g/0.25㎡と最も多かった。

下層では42種類が出現し、総個体数4,627個体/0.25㎡、総湿重量107.29g/0.25㎡であった。個体数では環形動物門の *Polydora* sp. が1,720個体/0.25㎡、湿重量では原索動物門のシロボヤが44.40g/0.25㎡と最も多かった。

C．大阪沖処分場（C－2）

上層では17種類が出現し、総個体数1,652個体/0.25㎡、総湿重量24.98g/0.25㎡であった。個体数では軟体動物門のムラサキイガイが1,576個体/0.25㎡、湿重量では軟体動物門のマガキが19.29g/0.25㎡と最も多かった。

中層では40種類が出現し、総個体数1,512個体/0.25㎡、総湿重量28.00g/0.25㎡であった。個体数では節足動物門のウミミズムシが456個体/0.25㎡、湿重量では軟体動物門のムギガイが8.29g/0.25㎡と最も多かった。

下層では61種類が出現し、総個体数16,469個体/0.25㎡、総湿重量160.99g/0.25㎡であった。環形動物門のエゾカサネカンザシゴカイが個体数、湿重量ともに最も多く、15,613個体/0.25㎡、80.96g/0.25㎡であった。

D．泉大津沖処分場（D－2）

上層では22種類が出現し、総個体数139個体/0.25㎡、総湿重量7.17g/0.25㎡であった。個体数では節足動物門のヒゲナガヨコエビ属が35個体/0.25㎡、湿重量では軟体動物門のコモレビコガモガイが1.37g/0.25㎡と最も多かった。

中層では45種類が出現し、総個体数982個体/0.25㎡、総湿重量25.28g/0.25㎡であっ

た。節足動物門のサンカクフジツボが個体数、湿重量ともに最も多く、332 個体/0.25 ㎡、10.24ｇ/0.25 ㎡であった。

下層では 30 種類が出現し、総個体数 675 個体/0.25 ㎡、総湿重量 119.69ｇ/0.25 ㎡であった。節足動物門のサンカクフジツボが個体数、湿重量ともに最も多く、559 個体/0.25 ㎡、45.09ｇ/0.25 ㎡であった。

表５－２－５　枠取り分析結果(動物)

調査地点(調査日)	層		上 (M.W.L.±0.0m)			中 (M.W.L.－2.0m)			下 (M.W.L.－4.0m)		
神戸沖 Ａ－２ (2月4日)	出現種類数(種類)		25			69			53		
	総個体数 (個体/0.25㎡)		6,028			4,778			3,042		
	総湿重量 (g/0.25㎡)		29.06			214.12			380.35		
	個体数からみた優占種	第１位	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属	3,326	(55)	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	3,027	(63)	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ	1,886	(62)
		第２位	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	805	(13)	ｴﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ属	264	(6)	ｴﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ属	596	(20)
		第３位	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ属	680	(11)	ﾑﾋﾞｶﾞｲ	168	(4)	ﾑｷﾞｶﾞｲ ｵｻﾃﾞﾚｶﾗ	84	(3)
	湿重量からみた優占種	第１位	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属	15.32	(53)	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	111.60	(52)	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ	221.94	(58)
		第２位	ｲﾎﾞﾆｼ	3.35	(12)	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	21.66	(10)	ﾏﾅﾏｺ	81.36	(21)
		第３位	ﾏｶﾞｷ	2.36	(8)	ﾚｲｼｶﾞｲ	17.81	(8)	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	50.21	(13)
尼崎沖 Ｂ－２ (2月1日)	出現種類数(種類)		27			43			42		
	総個体数 (個体/0.25㎡)		3,736			3,651			4,627		
	総湿重量 (g/0.25㎡)		1,274.97			1,038.35			107.29		
	個体数からみた優占種	第１位	ｺｳﾛｴﾝｶﾜﾋﾊﾞﾘ	2,484	(66)	ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ	824	(23)	*Polydora* sp.	1,720	(37)
		第２位	ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ	358	(10)	*Polydora* sp.	594	(16)	ｱﾘｱｹﾞﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	1,536	(33)
		第３位	ｱｼﾅｶﾞｺﾞｶｲ	212	(6)	ｱﾒﾘｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ	537	(15)	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	358	(8)
	湿重量からみた優占種	第１位	ｺｳﾛｴﾝｶﾜﾋﾊﾞﾘ	708.64	(56)	ｱﾒﾘｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ	600.78	(58)	ｼﾛﾎﾞﾔ	44.40	(41)
		第２位	ﾏｶﾞｷ	276.35	(22)	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	151.26	(15)	ｳﾐﾌｸﾛｳ	14.97	(14)
		第３位	ﾐﾄﾞﾘｲｶﾞｲ	217.70	(17)	ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ	61.21	(6)	ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ	8.83	(8)
大阪沖 Ｃ－２ (2月8日)	出現種類数(種類)		17			40			61		
	総個体数 (個体/0.25㎡)		1,652			1,512			16,469		
	総湿重量 (g/0.25㎡)		24.98			28.00			160.99		
	個体数からみた優占種	第１位	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	1,576	(95)	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	456	(30)	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	15,613	(95)
		第２位	ﾏｶﾞｷ	21	(1)	ｴﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ属	344	(23)	ｴﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ属	188	(1)
		第３位	*Typosyllis* sp.	16	(1)	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ	228	(15)	ﾑｷﾞｶﾞｲ	179	(1)
	湿重量からみた優占種	第１位	ﾏｶﾞｷ	19.29	(77)	ﾑｷﾞｶﾞｲ	8.29	(30)	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	80.96	(50)
		第２位	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	2.33	(9)	ﾚｲｼｶﾞｲ	6.21	(22)	ﾚｲｼｶﾞｲ	56.55	(35)
		第３位	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	2.32	(9)	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	1.82	(7)	ﾑｷﾞｶﾞｲ	9.40	(6)
泉大津沖 Ｄ－５ (2月5日)	出現種類数(種類)		22			45			30		
	総個体数 (個体/0.25㎡)		139			982			675		
	総湿重量 (g/0.25㎡)		7.17			25.28			119.69		
	個体数からみた優占種	第１位	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属	35	(25)	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ	332	(34)	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ	559	(83)
		第２位	ｼﾘｹﾝｳﾐｾﾐ	30	(22)	多岐腸目	144	(15)	ﾑｷﾞｶﾞｲ	31	(5)
		第３位	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ属	14	(10)	ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ	75	(8)	*Typosyllis* sp.	8	(1)
	湿重量からみた優占種	第１位	ｺﾓﾚﾋﾞｺｶﾞﾓｶﾞｲ	1.37	(19)	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ	10.24	(41)	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ	45.09	(38)
		第２位	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	1.24	(17)	ﾑｷﾞｶﾞｲ	5.63	(22)	ｺｼﾀﾞｶｶﾞﾝｶﾞﾗ	34.67	(29)
		第３位	ｷｸﾉﾊﾅｶﾞｲ	0.92	(13)	多岐腸目	2.45	(10)	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	34.09	(28)

注）優占種名の各数値は出現した値、（ ）内の数値は総量に対する占有率を示す。

第６章　考察

１．水質と付着生物の分布

水質と付着生物の分布の対応を検討するため、付着生物の分布水深と水質が以下の条件を満たす水深帯を表６－１に整理した。

〔条件〕
海藻：海面到達光量１％以上（杉本・坂本編「海洋環境工学」（1985）の藻類生育条件）
付着動物：ＤＯ６mg/L 以上（水産用水基準「水産用水基準（2000 年版）」の基準値）

(1) 神戸沖

① 藻類の生育可能な光条件を満たした水深帯は、年間を通し、Ａ－２では７m以浅、Ａ－４では５m以浅であり、両地点とも海藻の分布水深と概ね一致した。

② ＤＯにおいて水産用水基準を満たした水深帯は、両地点とも、夏季には存在せず、年間を通して条件を満たす水深帯はなかったが、付着動物は、年間を通し、両地点とも、９mまで分布がみられた。

(2) 尼崎沖

① 藻類の生育可能な光条件を満たした水深帯は、年間を通し、Ｂ－２では４m以浅、Ｂ－４では３m以浅であったが、海藻は、両地点とも、年間を通した分布はなかった。

② ＤＯにおいて水産用水基準を満たした水深帯は、両地点とも、秋季には存在せず、年間を通して条件を満たす水深帯はなかったが、付着動物は、年間を通し、両地点とも、海底付近まで分布がみられた。

(3) 大阪沖

① 藻類の生育可能な光条件を満たした水深帯は、年間を通し、Ｃ－１では９m以浅、Ｃ－２では 11m以浅であり、両地点とも、春季及び冬季の海藻の分布水深と概ね一致した。

② ＤＯにおいて水産用水基準を満たした水深帯は、両地点とも、秋季には存在せず、年間を通して条件を満たす水深帯はなかったが、付着動物は、年間を通し、両地点とも、海底付近まで分布がみられた。

(4) 泉大津沖

① 藻類の生育可能な光条件を満たした水深帯は、年間を通し、Ｄ－２では９m以浅、Ｄ－４では８m以浅であり、両地点とも、海藻の分布水深と概ね一致した。

② ＤＯにおいて水産用水基準を満たした水深帯は、Ｄ－２では２～３mで年間を通じて条件を満たし、Ｄ－４では年間を通じて条件を満たす水深帯はなかったが、付着動物は、年間を通し、両地点とも、11mまで分布がみられた。

表６－１　付着生物の分布条件を満たす水深帯と付着生物の分布水深（m）

調査場所	調査地点	調査時期	海藻		付着動物	
			生育条件[1)]	分布水深	生息条件[2)]	分布水深
神戸沖	A－2	春季	0～8	0～10(海底)	0～4	0～10(海底)
		夏季	0～9	0～8	なし	0～10(海底)
		秋季	0～7	0～8	0～9	0～9
		冬季	0～15(海底)	0～7	0～15(海底)	0～10(海底)
		周年	0～7	0～7	なし	0～9
	A－4	春季	0～5	0～7	0～11	0～9
		夏季	0～9	0～6	なし	0～10(海底)
		秋季	0～6	0～6	0～9	0～10(海底)
		冬季	0～16(海底)	0～7	0～16(海底)	0～10(海底)
		周年	0～5	0～6	なし	0～9
尼崎沖	B－2	春季	0～5(海底)	なし	0～0.5	0～7(海底)
		夏季	0～5(海底)	なし	0～1	0～7(海底)
		秋季	0～6(海底)	1、3	なし	0～7(海底)
		冬季	0～4	0、2～3、6	0～9(海底)	0～7(海底)
		周年	0～4	なし	なし	0～7(海底)
	B－4	春季	0～5(海底)	0、2～3	0～1	0～6(海底)
		夏季	0～5(海底)	なし	0～1	0～6(海底)
		秋季	0～6(海底)	2～3	なし	0～6(海底)
		冬季	0～3	0～3	0～6(海底)	0～6(海底)
		周年	0～3	なし	なし	0～6(海底)
大阪沖	C－1	春季	0～9	0～10(海底)	0～6	0～10(海底)
		夏季	0～10	0～9	0～1	0～10(海底)
		秋季	0～12(海底)	0～4	なし	0～10(海底)
		冬季	0～10	0～10(海底)	0～13(海底)	0～10(海底)
		周年	0～9	0～4	なし	0～10(海底)
	C－2	春季	0～12(海底)	0～10(海底)	0～12(海底)	0～10(海底)
		夏季	0～12	0～7、9	なし	0～10(海底)
		秋季	0～12(海底)	0～8、10	なし	0～10(海底)
		冬季	0～11	0～10(海底)	0～12(海底)	0～10(海底)
		周年	0～11	0～7	なし	0～10(海底)
泉大津沖	D－2	春季	0～11(海底)	0～12	1～3、5～6	0～13(海底)
		夏季	0～11	0～8	2～3、5	0～12
		秋季	0～9	0～9	0～6	0～12
		冬季	0～10	0～11	0～11(海底)	0～12
		周年	0～9	0～8	2～3	0～12
	D－4	春季	0～10	0～11	0～6	0～15
		夏季	0～9	0～6	0、2、4	0～15
		秋季	0～8	0～8	1	0～11
		冬季	0～11	0～9	0～15(海底)	0～15
		周年	0～8	0～6	なし	0～11

※　水質測定の水深は海面基準、目視観察の水深は平均水面基準
　条件１）　海面到達光量が１％以上（杉本・坂本編「海洋環境工学」(1985) の藻類生育条件より）
　　２）　DOの値が6mg以上（水産用水基準(「水産用水基準(2000年版)」の基準値より）

2．生物調査結果に基づく総合評価

当生物調査のうち、定量分析の結果に基づき、各処分場護岸の生物分布について総合評価を行った。

(1) 評価対象

処分場護岸の生物分布を評価するため、海藻及び付着動物の２生物群、並びに両者を合わせた付着生物全体を評価対象とした。

(2) 評価項目

海藻は種類数及び湿重量、付着動物は種類数、個体数及び湿重量、付着生物全体は種類数及び湿重量を評価項目とした。

(3) 評価方法

護岸付近の海域環境が異なることから、総合評価は各処分場毎で行うこととした。

評価方法は、評価対象毎に各評価項目のデータを３つの水深帯（上層：平均水面、中層：平均水面下２m、下層：平均水面下４m）及び４つの調査時期（春季、夏季、秋季、冬季）別に集計（小数第１位を四捨五入）した。また、調査項目毎に水深帯及び調査時期別の平均を算出し、その値の20%以上を示したデータを生物分布が多い状態と判断した。

(4) 評価結果

次頁以降に各処分場護岸毎に評価結果を示した。

① 神戸沖

神戸沖処分場護岸の付着生物定量分析結果総括表を表６－２－１に示した。また、表中の最下欄の「平均」が年間を通じた３水深帯の平均値であり、この値の 20%以上を示すデータに網掛け（海藻は緑色、動物は水色、付着生物全体は桃色）を施した。

海藻では、種類数は中層が多く、湿重量は上層が多く、春季と冬季に多い傾向にあった。付着動物では、種類数及び個体数は中層が多く、湿重量は下層が多く、種類数は秋季、個体数は春季、湿重量は秋季及び冬季に多い傾向にあった。付着生物全体では、種類数は中層が多く、湿重量は春季と冬季に多い傾向にあった。

表６－２－１　神戸沖処分場護岸（Ａ－２）の付着生物定量分析結果総括表

評価対象		海藻		付着動物			付着生物全体	
評価項目		種類数	湿重量	種類数	個体数	湿重量	種類数	湿重量
水深帯	時期	種類	g/0.25㎡	種類	個体/0.25㎡	g/0.25㎡	種類	g/0.25㎡
上層	春季	7	90	20	2,663	23	27	112
	夏季	6	13	11	8,061	53	17	66
	秋季	9	44	46	1,446	115	55	159
	冬季	5	441	25	6,028	29	30	470
	平均	7	147	26	4,550	55	32	202
中層	春季	13	371	50	25,675	104	63	475
	夏季	8	4	41	9,055	51	49	55
	秋季	8	20	75	10,421	207	83	227
	冬季	13	88	69	4,778	214	82	302
	平均	11	121	59	12,482	144	69	265
下層	春季	10	149	49	2,255	157	59	306
	夏季	5	1	54	1,556	32	59	34
	秋季	5	0	41	3,012	316	46	316
	冬季	11	3	53	3,042	380	64	383
	平均	8	38	49	2,466	222	57	260
３層平均	春季	10	203	40	10,198	95	50	298
	夏季	6	6	35	6,224	45	42	51
	秋季	7	21	54	4,960	213	61	234
	冬季	10	177	49	4,616	208	59	385
	平均	8	102	45	6,499	140	53	242

② 尼崎沖

尼崎沖処分場護岸の付着生物定量分析結果総括表を表６－２－２に示した。また、表中の最下欄の「平均」が年間を通じた３水深帯の平均値であり、この値の 20%以上を示すデータに網掛け（海藻は緑色、動物は水色、付着生物全体は桃色）を施した。

海藻では、種類数は上層及び中層がやや多く、湿重量は上層がやや多く、秋季と冬季にやや多い傾向が見られたが、海藻の分布は非常に少なかった。付着動物では、種類数は下層が多く、個体数及び湿重量は中層が多く、夏季に多い傾向にあった。付着生物全体では、付着動物がほとんどを占めるため、その傾向も付着動物と同様であった。

表６－２－２　尼崎沖処分場護岸（Ｂ－２）の付着生物定量分析結果総括表

評価対象		海藻		付着動物			付着生物全体	
評価項目		種類数	湿重量	種類数	個体数	湿重量	種類数	湿重量
水深帯	時期	種類	g/0.25㎡	種類	個体/0.25㎡	g/0.25㎡	種類	g/0.25㎡
上層	春季	1	0.0	29	1,278	2,037	30	2,037
	夏季	0	0.0	17	1,047	1,162	17	1,162
	秋季	5	0.6	38	568	462	43	463
	冬季	5	0.0	27	3,736	1,275	32	1,275
	平均	3	0.2	28	1,657	1,234	31	1,234
中層	春季	2	0.0	35	7,292	4,286	37	4,286
	夏季	1	0.0	23	94,399	22,781	24	22,781
	秋季	3	0.2	32	4,757	614	35	614
	冬季	5	0.1	43	3,651	1,038	48	1,038
	平均	3	0.1	33	27,525	7,180	36	7,180
下層	春季	1	0.0	42	7,430	1,645	43	1,645
	夏季	0	0.0	49	49,597	6,697	49	6,697
	秋季	2	0.0	42	7,348	393	44	393
	冬季	2	0.0	42	4,627	107	44	107
	平均	1	0.0	44	17,251	2,211	45	2,211
3層平均	春季	1	0.0	35	5,333	2,656	37	2,656
	夏季	0	0.0	30	48,348	10,214	30	10,214
	秋季	3	0.3	37	4,224	490	41	490
	冬季	4	0.0	37	4,005	807	41	807
	平均	2	0.1	35	15,478	3,542	37	3,542

③ 大阪沖

大阪沖処分場護岸の付着生物定量分析結果総括表を表６－２－３に示した。また、表中の最下欄の「平均」が年間を通じた３水深帯の平均値であり、この値の 20%以上を示すデータに網掛け（海藻は緑色、動物は水色、付着生物全体は桃色）を施した。

海藻では、種類数は下層が多く、湿重量は上層が多く、冬季に多い傾向が見られた。付着動物では、種類数は下層が多く、個体数及び湿重量は上層及び中層が多く、種類数は秋季、個体数及び湿重量は夏季に多い傾向にあった。付着生物全体では、付着動物が多くを占めるため、その傾向も付着動物と同様であった。

表６－２－３　大阪沖処分場護岸（Ｃ－２）の付着生物定量分析結果総括表

評価対象		海藻		付着動物			付着生物全体	
評価項目		種類数	湿重量	種類数	個体数	湿重量	種類数	湿重量
水深帯	時期	種類	g/0.25㎡	種類	個体/0.25㎡	g/0.25㎡	種類	g/0.25㎡
上層	春季	5	23	9	266	1	14	25
	夏季	5	34	27	75,769	3,465	32	3,499
	秋季	4	26	49	1,722	316	53	342
	冬季	4	544	17	1,652	25	21	569
	平均	5	157	26	19,852	952	30	1,109
中層	春季	4	277	34	11,417	408	38	685
	夏季	3	7	52	66,235	2,539	55	2,547
	秋季	4	1	53	3,224	545	57	546
	冬季	12	145	40	1,512	28	52	173
	平均	6	108	45	20,597	880	51	988
下層	春季	10	84	52	1,576	35	62	119
	夏季	5	187	50	3,206	58	55	244
	秋季	10	15	57	4,882	73	67	88
	冬季	10	70	61	16,469	161	71	231
	平均	9	89	55	6,533	82	64	171
３層平均	春季	6	128	32	4,420	148	38	276
	夏季	4	76	43	48,403	2,021	47	2,097
	秋季	6	14	53	3,276	311	59	325
	冬季	9	253	39	6,544	71	48	324
	平均	6	118	42	15,661	638	48	756

④ 泉大津沖

泉大津沖処分場護岸の付着生物定量分析結果総括表を表６－２－４に示した。また、表中の最下欄の「平均」が年間を通じた３水深帯の平均値であり、この値の 20％以上を示すデータに網掛け（海藻は緑色、動物は水色、付着生物全体は桃色）を施した。

海藻では、湿重量は中層がやや多く、春季に多い傾向にあった。付着動物では、個体数及び湿重量は中層が多く、種類数は秋季、個体数は夏季、湿重量は春季及び夏季に多い傾向にあった。付着生物全体では、付着動物が多くを占めるため、その傾向も付着動物と同様であった。

表６－２－４　泉大津沖処分場護岸（Ｄ－２）の付着生物定量分析結果総括表

評価対象		海藻		付着動物			付着生物全体	
評価項目		種類数	湿重量	種類数	個体数	湿重量	種類数	湿重量
水深帯	時期	種類	g/0.25㎡	種類	個体/0.25㎡	g/0.25㎡	種類	g/0.25㎡
上層	春季	6	1	22	11,602	1,826	28	1,827
	夏季	6	1	34	24,915	872	40	873
	秋季	9	3	49	8,090	54	58	57
	冬季	9	33	22	139	7	31	40
	平均	8	10	32	11,187	690	39	699
中層	春季	8	184	36	18,709	3,390	44	3,574
	夏季	6	2	43	83,136	4,304	49	4,307
	秋季	8	14	67	4,789	91	75	105
	冬季	11	23	45	982	25	56	48
	平均	8	56	48	26,904	1,953	56	2,008
下層	春季	9	71	46	638	3,759	55	3,830
	夏季	4	4	53	5,051	1,178	57	1,182
	秋季	9	0	57	1,405	108	66	108
	冬季	8	10	30	675	120	38	130
	平均	8	21	47	1,942	1,291	54	1,312
３層平均	春季	8	85	35	10,316	2,992	42	3,077
	夏季	5	2	43	37,701	2,118	49	2,121
	秋季	9	6	58	4,761	84	66	90
	冬季	9	22	32	599	51	42	73
	平均	8	29	42	13,344	1,311	50	1,340

3．まとめ

(1) 水質と付着生物

① 水中光量と海藻分布の対応を検討した結果、護岸構造に関係なく、神戸沖及び泉大津沖は水中光量と海藻分布が概ね一致する傾向が見られた。また、大阪沖は護岸造成後の経過時間が短いため、明瞭な関係が得られなかったと考えられる。一方、尼崎沖は水深３m以浅では十分な水中光量があるにも関わらず、海藻分布が非常に少なかった。これは、水中光量以外の因子によるものと考えられる。

② 水産用水基準を参考に、ＤＯと付着動物分布の対応を検討した結果、明瞭な関係は見られなかった。泉大津沖を除き、調査場所及び護岸構造に関係なく、全層にわたり基準を満たさない時期があるにも関わらず、付着動物の分布は年間を通して見られた。水産用水基準には内湾（夏季底層に限定）の基準（4.3mg/L）が提示されていることから、大阪湾の付着動物にとっては、水産用水基準（６mg/L）はやや高めの設定になっている可能性が考えられる。

(2) 総合評価

① 神戸沖（傾斜護岸）の付着生物は、海藻は冬季から春季に増加し、付着動物は春季の個体数が非常に多いが、徐々に減少するが、湿重量は徐々に増加する傾向にあった。全体的には、年間を通じ、種類数がやや多く、海藻の分布量が多いのが特徴と考えられた。

② 尼崎沖（直立護岸）の付着生物は、年間を通じ、海藻は非常に少なく、付着動物は非常に多い傾向にあった。全体的には、年間を通じ、種類数はやや少なく、海藻はほとんどなく、夏季の付着動物の分布量が極めて多いのが特徴と考えられた。

③ 大阪沖（消波ブロック護岸）の付着生物は、海藻は冬季に多く、付着動物は夏季の個体数及び湿重量が極めて多い傾向にあった。全体的には、年間を通じ、種類数がやや多く、海藻の分布量が多いのが特徴と考えられた。

④ 泉大津沖（消波ブロック護岸）の付着生物は、海藻は春季にやや多く、付着動物は春季及び夏季に極めて多い傾向にあった。全体的には、年間を通じ、種類数はやや多いが、海藻は少なく、春季から夏季にかけて付着動物の分布量が極めて多いのが特徴と考えられた。

※（第６章　考察・総合評価）の内容については、学識経験者（大阪市立大学 中西 敬 非常勤講師）の意見を参考に作成したものである。

資　料　編

枠取り分析結果

1．枠取り分析結果（植物）

（1）神戸沖処分場

春季調査（平成18年5月28日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	調査地点 / 種名 / 層	A－2 上	A－2 中	A－2 下
1	緑藻	ｱﾅｱｵｻ		219.83	
2		ｱｵｻ属	3.28		5.95
3		ｱｵﾉﾘ属	86.40		
4		ｼｵｸﾞｻ属	0.09	+	
5	褐藻	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ		98.45	
6	紅藻	ｵｰｼﾞｭｲﾈﾗ属			+
7		ｲｿｳﾒﾓﾄﾞｷ		0.65	
8		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ		11.14	67.89
9		ﾌﾀﾞﾗｸ		16.66	27.72
10		ﾂﾙﾂﾙ		21.01	
11		ｵｷﾂﾉﾘ		0.76	
12		ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ		1.54	16.55
13		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ		0.53	18.47
14		ｲﾜﾉｶﾜ科		－	－
15		ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ	0.02	+	2.96
16		ｼｮｳｼﾞｮｳｹﾉﾘ			8.75
17		ｲﾄｸﾞｻ属	0.05	+	0.22
18	藍藻	*Lyngbya* sp.	0.02		
19	珪藻	珪藻綱	+		
		出現種類数	7	13	10
		総湿重量	89.86	370.57	148.51

注）－は計量不能、+は0.01g未満を示す。

夏季調査（平成18年8月6日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	調査地点 / 種名 / 層	A－2 上	A－2 中	A－2 下
1	緑藻	ｱﾅｱｵｻ		0.66	
2		ｱｵｻ属	0.02		
3		ｱｵﾉﾘ属	0.01	0.04	
4		ｼｵｸﾞｻ属	0.66	0.06	0.01
5	褐藻	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ		1.58	
6	紅藻	ﾂﾉﾏﾀ属		0.54	0.03
7		ｵｷﾂﾉﾘ		0.01	
8		ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ		0.82	1.19
9		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ			0.14
10		ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ			0.00
11		ﾀﾞｼﾞｱ属	0.01		
12		ｲﾄｸﾞｻ属		0.01	
13	藍藻	*Lyngbya* sp.	12.18		
14	珪藻	珪藻綱	+		
		出現種類数	6	8	5
		総湿重量	12.88	3.72	1.37

注）+は0.01g未満を示す。

秋季調査（平成18年11月18日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	種名 ＼ 調査地点 層	A－2 上	A－2 中	A－2 下
1	緑藻	ｱﾅｱｵｻ		0.29	0.03
2		ｱｵｻ属	38.08		
3		ｱｵﾉﾘ属	0.03		
4		ｼｵｸﾞｻ属	0.15	0.06	0.04
5	褐藻	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ		18.78	
6	紅藻	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ		0.03	0.01
7		ﾂﾉﾏﾀ属	0.52	0.06	
8		ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ		0.02	
9		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ		0.09	
10		ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ		0.66	0.12
11		ｲｷﾞｽ属	0.02		
12		ｲｷﾞｽ科	+		
13		ｲﾄｸﾞｻ属	0.08		0.02
14	藍藻	*Lyngbya* sp.	4.92		
15	珪藻	*Licmophora* sp.	+		
		出現種類数	9	8	5
		総湿重量	43.80	19.99	0.22

注）+は0.01g未満を示す。

冬季調査（平成19年2月4日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	種名 ＼ 調査地点 層	A－2 上	A－2 中	A－2 下
1	緑藻	ﾎﾞﾀﾝｱｵｻ	358.60		
2		ｱﾅｱｵｻ		2.69	0.14
3		ｱｵｻ属	21.40		
4		ｱｵﾉﾘ属		+	
5		ｼｵｸﾞｻ属	0.02	0.03	0.01
6	褐藻	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ		83.41	
7	紅藻	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ		0.28	0.19
8		ﾂﾉﾏﾀ属		0.29	
9		ﾌﾀﾞﾗｸ		0.24	
10		ﾕｶﾘ			0.01
11		ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ			
12		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ			0.48
13		ｵｷﾂﾉﾘ			0.08
14		ｺｽｼﾞﾌｼﾂﾅｷﾞ	60.87		
15		ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ		0.54	1.41
16		ｹｲｷﾞｽ		0.04	+
17		ｲｷﾞｽ属		0.36	
18		ｲｷﾞｽ科		+	+
19		ｲﾄｸﾞｻ属	0.06	0.37	0.36
20	珪藻	ﾃﾞｨｱﾄﾏ科		+	+
		出現種類数	5	13	11
		総湿重量	440.95	88.25	2.68

注）+は0.01g未満を示す。

（2）尼崎沖処分場

春季調査（平成18年5月27日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	種名 ＼ 調査地点 層	B－2 上	B－2 中	B－2 下
1	緑藻	ｱｵﾉﾘ属	+		
2	紅藻	ｲｷﾞｽ属		+	
3		ｲﾄｸﾞｻ属		0.01	+
		出現種類数	1	2	1
		総湿重量	+	0.01	+

注）-は計量不能、+は0.01g未満を示す。

夏季調査（平成18年8月3日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	種名 ＼ 調査地点 層	B－2 上	B－2 中	B－2 下
1	緑藻	ｱｵﾉﾘ属		+	
		出現種類数	0	1	0
		総湿重量	0.00	+	0.00

注）+は0.01g未満を示す。

秋季調査（平成18年11月13日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	種名 ＼ 調査地点 層	B－2 上	B－2 中	B－2 下
1	緑藻	ｱｵﾉﾘ属		+	
2		ｼｵｸﾞｻ属	+	0.06	+
3	紅藻	ｷﾇｲﾄﾌｸﾛｶﾞｻﾈ	0.01	0.11	0.01
4		ｲﾄｸﾞｻ属	+		
5	藍藻	*Lyngbya* sp.	0.63		
6	珪藻	珪藻綱	+		
		出現種類数	5	3	2
		総湿重量	0.64	0.17	0.01

注）+は0.01g未満を示す。

冬季調査（平成19年2月1日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	種名 ＼ 調査地点 層	B－2 上	B－2 中	B－2 下
1	緑藻	ｱｵﾉﾘ属	0.01	0.02	
2		ｼｵｸﾞｻ属		0.03	
3	紅藻	ｱﾏﾉﾘ属	+		
4		ｷﾇｲﾄﾌｸﾛｶﾞｻﾈ		+	
5		ﾌｸﾛｶﾞｻﾈ属			+
6		ｲﾄｸﾞｻ属	+	+	+
7	藍藻	藍藻綱	+		
8	珪藻	*Licmophora* sp.		+	
9		珪藻綱	+		
		出現種類数	5	5	2
		総湿重量	0.01	0.05	+

注）+は0.01g未満を示す。

（3）大阪沖処分場（平成18年6月3日）

春季調査（平成18年6月3日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	種名 ＼ 調査地点・層	C－2 上	C－2 中	C－2 下
1	緑藻	ｱﾅｱｵｻ		277.27	67.22
2		ｱｵｻ属	7.01		
3		ｱｵﾉﾘ属	16.34	+	0.03
4		ｼｵｸﾞｻ属			+
5	褐藻	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ			10.06
6	紅藻	ｵｰｼﾞｭｲﾈﾗ属	+		+
7		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ		0.01	
8		ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ			0.01
9		ｹｲｷﾞｽ			3.68
10		ｲｷﾞｽ属			0.41
11		ﾀﾞｼﾞｱ属			2.64
12		ｲﾄｸﾞｻ属		+	0.12
13	藍藻	*Lyngbya* sp.	+		
14	珪藻	珪藻綱	+		
		出現種類数	5	4	10
		総湿重量	23.35	277.28	84.17

注）-は計量不能、+は0.01g未満を示す。

夏季調査（平成18年8月5日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	種名 ＼ 調査地点・層	C－2 上	C－2 中	C－2 下
1	緑藻	ｱﾅｱｵｻ	2.51	7.45	186.42
2		ﾎﾞﾀﾝｱｵｻ	24.96		
3		ｱｵﾉﾘ属	6.24		
4		ｼｵｸﾞｻ属		0.02	0.03
5	褐藻	ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ			0.01
6	紅藻	ｲｷﾞｽ属		+	0.12
7		ｲﾄｸﾞｻ属			0.01
8	藍藻	*Lyngbya* sp.	0.19		
9	珪藻	珪藻綱	0.01		
		出現種類数	5	3	5
		総湿重量	33.91	7.47	186.59

注）+は0.01g未満を示す。

秋季調査（平成18年11月11日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	調査地点 / 種名 / 層	C－2 上	C－2 中	C－2 下
1	緑藻	ｱﾅｱｵｻ	8.64	0.51	1.67
2		ﾎﾞﾀﾝｱｵｻ	17.07		
3		ｱｵﾉﾘ属	0.06	+	
4		ｼｵｸﾞｻ属		0.02	0.16
5	褐藻	ｱｶﾓｸ			0.61
6		ﾀﾏﾊﾊｷﾓｸ			0.07
7	紅藻	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ		0.16	12.12
8		ﾌﾀﾞﾗｸ			0.32
9		ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ	0.01		0.01
10		ｲｷﾞｽ属			0.03
11		ﾀﾞｼﾞｱ属			0.14
12		ｲﾄｸﾞｻ属			+
		出現種類数	4	4	10
		総湿重量	25.78	0.69	15.13

注）+は0.01g未満を示す。

冬季調査（平成19年2月8日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	調査地点 / 種名 / 層	C－2 上	C－2 中	C－2 下
1	緑藻	ｱﾅｱｵｻ		68.28	12.58
2		ﾎﾞﾀﾝｱｵｻ	543.75		
3		ｱｵﾉﾘ属		+	
4		ｼｵｸﾞｻ属		1.35	0.14
5	褐藻	ｳｽｶﾔﾓ	+		
6	紅藻	ｱﾏﾉﾘ属	0.02		
7		ｽｽｶｹﾍﾞﾆ		1.20	46.59
8		ﾂﾉﾏﾀ属		0.37	0.01
9		ﾌﾀﾞﾗｸ		72.45	3.55
10		ｶｴﾙﾃﾞｸﾞｻ			2.66
11		ｷﾇｲﾄｸﾞｻ属		0.01	
12		ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ		0.03	1.32
13		ｹｲｷﾞｽ	+		
14		ｲｷﾞｽ属		0.86	0.43
15		ｲｿﾊｷﾞ			3.14
16		ｲﾄｸﾞｻ属		0.30	
17	珪藻	ﾃﾞｨｱﾄﾏ属		0.01	
18		珪藻綱		+	0.01
		出現種類数	4	12	10
		総湿重量	543.77	144.86	70.43

注）+は0.01g未満を示す。

（4）泉大津沖処分場

春季調査（平成18年6月4日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	調査地点 / 種名 / 層	D－2 上	D－2 中	D－2 下
1	緑藻	ｱｵｻ属	0.16	0.23	
2		ｱｵﾉﾘ属	+		
3	紅藻	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ			3.38
4		ﾂﾙﾂﾙ		17.27	
5		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ		4.85	1.92
6		ﾌﾀﾞﾗｸ			23.01
7		ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ		152.24	28.59
8		ｶﾊﾞﾉﾘ			0.96
9		ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ	0.03	3.41	3.68
10		ﾖﾂｶﾞｻﾈ属			0.35
11		ｲﾄｸﾞｻ属	0.58	1.88	5.27
12		ｲｷﾞｽ科	0.13	4.46	3.55
13	珪藻	珪藻綱	+	0.04	
		出現種類数	6	8	9
		総湿重量	0.90	184.38	70.71

注）-は計量不能、+は0.01g未満を示す。

夏季調査（平成18年8月4日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	調査地点 / 種名 / 層	D－2 上	D－2 中	D－2 下
1	緑藻	ｱｵﾉﾘ属	0.07		
2		ｼｵｸﾞｻ属	0.18	+	
3	紅藻	ﾂﾉﾏﾀ属		0.20	
4		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ		2.06	
5		ﾍﾞﾆｽﾅｺﾞ			3.05
6		ｵｷﾂﾉﾘ	0.84		
7		ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ	+	0.01	0.06
8		ｲｷﾞｽ科		0.02	0.56
9		ｲﾄｸﾞｻ属	0.24	+	+
10	藍藻	*Lyngbya* sp.	+		
		出現種類数	6	6	4
		総湿重量	1.33	2.29	3.67

注）+は0.01g未満を示す。

秋季調査（平成18年11月10日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	調査地点 / 種名 / 層	D－2 上	D－2 中	D－2 下
1	緑藻	ｱｵﾉﾘ属	+		+
2		ｼｵｸﾞｻ属	0.02	0.03	+
3	紅藻	ｽｽｶｹﾍﾞﾆ			0.04
4		ﾂﾉﾏﾀ属	0.06		0.12
5		ｶﾊﾞﾉﾘ		12.94	0.20
6		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ	0.04	0.64	
7		ｲﾜﾉｶﾜ科	-		-
8		ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ	+	0.12	+
9		ﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ		0.02	
10		ｲｷﾞｽ科	1.62	0.16	0.01
11		ｲﾄｸﾞｻ属	1.03	+	0.02
12	珪藻	珪藻綱	+	+	
		出現種類数	9	8	9
		総湿重量	2.77	13.91	0.39

注）+は0.01g未満、-は計測不能を示す。

冬季調査（平成19年2月5日）

単位：g/0.25㎡

No.	綱	調査地点 / 種名 / 層	D－2 上	D－2 中	D－2 下
1	緑藻	ｱｵﾉﾘ属	6.08	0.02	+
2		ｼｵｸﾞｻ属	4.52	0.14	
3	褐藻	ｾｲﾖｳﾊﾊﾞﾉﾘ	0.26		
4	紅藻	ｱﾏﾉﾘ属	22.28		
5		ﾂﾉﾏﾀ属		0.06	
6		ｶﾊﾞﾉﾘ		3.19	6.47
7		ﾀｵﾔｷﾞｿｳ		0.44	
8		ﾑｶﾃﾞﾉﾘ		11.68	2.73
9		ｷﾇｲﾄｸﾞｻ属	+		0.02
10		ｷﾇｲﾄﾌﾀﾂｶﾞｻﾈ		0.36	0.24
11		ｲｷﾞｽ科		0.02	
12		ｲﾄｸﾞｻ属	0.02	5.76	0.34
13	藍藻	*Lyngbya* sp.	+		
14	珪藻	ﾃﾞｨｱﾄﾏ科		0.96	0.03
15		ﾒﾛｼﾗ属	0.01		
16		珪藻綱	+	+	+
		出現種類数	9	11	8
		総湿重量	33.17	22.63	9.83

注）+は0.01g未満、-は計測不能を示す。

2．枠取り分析結果（動物）

（1）神戸沖処分場

春季調査（平成18年5月28日）－1

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	A－2 上層 個体数	A－2 上層 湿重量	A－2 中層 個体数	A－2 中層 湿重量	A－2 下層 個体数	A－2 下層 湿重量
1	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミサカズキガヤ	オベリア属	－	0.05				
2	扁形動物	渦虫	多岐腸	－	多岐腸目			3	0.04	9	0.05
3	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科			16	0.08	10	0.06
4		有針	針紐虫	アンフィボールス	マダラヒモムシ			1	0.01	1	+
5	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	*Lepidonotus* sp.					1	0.01
6					マダラウロコムシ			22	0.15	46	0.16
7					ミロクウロコムシ			6	0.17	3	0.01
8					*Harmothoe sp.*			1	+		
9				サシバゴカイ	*Eulalia* sp.			2	0.02		
10					マダラサシバ					2	0.01
11					*Nipponophyllum* sp.					1	0.01
12				シリス	ムラサキシマシリス			2	0.01		
13					シロマダラシリス	14	0.05	2	0.01	5	0.01
14					*Typosyllis* sp.			30	0.21	13	0.14
15					*Autolytus* sp.			1	0.01		
16				ゴカイ	ツルヒゲゴカイ			6	0.11		
17					ヒトツブゴカイ	8	0.06				
18					マサゴゴカイ			24	0.18		
19				チロリ	*Glycera* sp.					5	0.04
20				イソメ	*Eunice* sp.					1	0.04
21			定在	スピオ	*Polydora* sp.			7	0.06	9	0.04
22				ミズヒキゴカイ	*Dodecaceria* sp.			990	3.76		
23					ミズヒキゴカイ			2	0.04	2	0.05
24				オフェリアゴカイ	*Armandia* sp.					1	0.01
25				イトゴカイ	*Capitella* sp.			2	0.01		
26				カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシゴカイ			174	19.85	74	8.16
27	触手動物	苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ			－	0.01		
28				カゴメコケムシ	カゴメコケムシ科			－	0.02		
29				ヒラコケムシ	チゴケムシ			－	0.02	－	0.01
30					ヒラコケムシ科			－	0.01		
31	軟体動物	ヒザラガイ	新ヒザラガイ	ケハダヒザラガイ	ケハダヒザラガイ属			5	0.44		
32		腹足	古腹足	ニシキウズ	コシタカガンガラ			1	8.68	1	9.79
33			盤足	タマキビガイ	タマキビ	56	0.08				
34				リソツボ	タマツボ			2	+	1	+
35				カリバガサ	シマメノウフネガイ			4	0.03	6	0.32
36			新腹足	アクキガイ	レイシガイ			7	3.01		
37					イボニシ	3	6.29				
38				フトコロガイ	ムギガイ			296	13.48	306	11.43
39					ノミニナ					9	0.08
40			異旋	トウガタガイ	クサズリクチキレ					1	0.01
41					イトマキクチキレモドキ属			12	0.04		
42					イトカケギリ属					2	0.01
43			基眼	カラマツガイ	カラマツガイ	1	0.83				
44		二枚貝	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	2,400	12.12	46	0.09		
45					ヒバリガイ			17	0.08	2	0.06
46					タマエガイ			1	+	1	0.01
47			ミノガイ	ミノガイ	ユキミノ属					2	0.14
48			カキ	イタボガキ	マガキ	3	0.96				
49			マルスダレガイ	マルスダレガイ	アサリ					1	+
50				イワホリガイ	イワホリガイ科			4	0.04	18	0.15
51			オオノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ			144	1.16	153	1.17
52			側鰓	ウミフクロウ	ウミフクロウ					1	2.12
53	節足動物	甲殻	完胸	イワフジツボ	イワフジツボ	23	0.24				
54				フジツボ	ヨーロッパフジツボ	1	+				
55					タテジマフジツボ	1	0.01				
56					サンカクフジツボ					12	0.37
57			タナイス	タナイス	セクウクリ属	1	+	20	0.03	102	0.16
58			等脚	コツブムシ	シリケンウミセミ	18	0.07				
59				ウミミズムシ	ウミミズムシ			6	0.01	1	+

注）個体数の－は計数不能を、湿重量の+は0.01g未満を示す。

（1）神戸沖処分場

春季調査（平成18年5月28日）－2

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	A－2 上層 個体数	A－2 上層 湿重量	A－2 中層 個体数	A－2 中層 湿重量	A－2 下層 個体数	A－2 下層 湿重量
60	節足動物	甲殻	端脚	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ属	12	0.03			3	+
61				ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ属			35	0.07	48	0.06
62				ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属	11	0.05	41	0.21	2	0.01
63				ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ属	5	+	20	0.04	5	0.01
64				ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	ｱﾘｱｹﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ			26	0.04	75	0.13
65				ﾜﾚｶﾗ	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ			7	0.03	52	0.12
66					ｵｻﾃﾜﾚｶﾗ					745	1.32
67					ｸﾋﾞﾅｶﾞﾜﾚｶﾗ	1	+				
68					ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ	1	+	23,680	11.96	505	0.99
69			十脚	ﾃﾅｶﾞｴﾋﾞ	ｽｼﾞｴﾋﾞ属					2	+
70				ﾓｴﾋﾞ	ｲｿﾓｴﾋﾞ			2	0.01	1	+
71				ﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ	ｱｶｼﾏﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ					2	0.07
72					ｲｸﾋﾞﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ			1	0.31		
73					ﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ属			3	0.02		
74				ｶﾆﾀﾞﾏｼ	ｺﾌﾞｶﾆﾀﾞﾏｼ			1	0.06		
75				ｵｳｷﾞｶﾞﾆ	ﾋﾒｹﾌﾞｶｶﾞﾆ			1	0.01		
76		昆虫	双翅	ﾕｽﾘｶ	ﾕｽﾘｶ科幼虫	104	0.40				
77	棘皮動物	海星	有棘	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ			1	39.41	1	34.43
78			叉棘	ｷﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ			1	0.02	11	3.02
79		海鼠	楯手	ｼｶｸﾅﾏｺ	ﾏﾅﾏｺ					1	82.54
80	－	－	－	－	卵塊	－	1.31	－	0.02	－	0.04
					出現種類数	20		50		49	
					総個体数/総湿重量	2,663	22.55	25,675	104.08	2,255	157.37

注）個体数の－は計数不能を、湿重量の+は0.01g未満を示す。

（1）神戸沖処分場

夏季調査（平成18年8月6日）－1

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	A－2 上層 個体数	A－2 上層 湿重量	A－2 中層 個体数	A－2 中層 湿重量	A－2 下層 個体数	A－2 下層 湿重量
1	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミサカズキガヤ	オベリア属			－	0.01	－	0.01
2		花虫	イソギンチャク	－	イソギンチャク目					1	+
3	扁形動物	渦虫	多岐腸	－	多岐腸目					3	0.02
4	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科			1	0.01	15	0.08
5		有針	針紐虫	テトラステマ	メノコヒモムシ			3	0.01	17	0.02
6	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	*Lepidonotus* sp.					1	0.01
7					マダラウロコムシ					2	+
8					ミロクウロコムシ					2	0.04
9					*Harmothoe sp.*					44	0.10
10				サシバゴカイ	サミドリサシバ			55	0.11	5	0.03
11					マダラサシバ					15	0.07
12				オトヒメゴカイ	*Ophiodromus* sp.					1	0.01
13					*Hesione* sp.			1	+		
14				シリス	ムラサキシマシリス					2	+
15					シロマダラシリス					14	0.05
16					*Typosyllis* sp.			3	+	5	0.01
17				ゴカイ	ヒトツブゴカイ	2	0.02				
18					アシナガゴカイ			16	0.15	3	0.02
19					ヒメゴカイ			9	0.04	3	0.01
20					マサゴゴカイ			5	0.07		
21				チロリ	*Glycera* sp.					2	0.02
22				イソメ	*Eunice* sp.					1	0.17
23			定在	スピオ	*Polydora* sp.			13	0.04	146	0.35
24				ミズヒキゴカイ	*Dodecaceria* sp.			1,984	3.20	76	0.09
25					*Tharyx* sp.					1	+
26					チグサミズヒキ					3	0.03
27					ミズヒキゴカイ					5	0.14
28				イトゴカイ	*Capitella* sp.			2	+	2	+
29				フサゴカイ	*Polycirrus* sp.			1	0.08		
30					*Lanice* sp.					1	0.02
31				カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシゴカイ			6,567	33.90	241	9.64
32					*Hydroides* sp.			1	0.03		
33					イバラカンザシゴカイ					2	0.09
34	触手動物	苔虫	苔虫	ホウキムシ	*Phoronis* sp.			1	0.01	48	0.17
35		苔虫	円口	クダゴケムシ	クダゴケムシ科			－	0.02		
36			唇口	ヒラコケムシ	チゴケムシ			－	0.03		
37					ヒラコケムシ科					－	0.01
38	軟体動物	ヒザラガイ	新ヒザラガイ	ヒゲヒザラガイ	ハバガセ			1	0.33		
39				ケハダヒザラガイ	ケハダヒザラガイ属			2	0.30		
40		腹足	古腹足	ツタノハ	マツバガイ	4	0.01				
41				ニシキウズ	コシタカガンガラ			1	7.88	1	8.25
42			盤足	タマキビガイ	タマキビ	4	0.01				
43				カリバガサ	シマメノウフネガイ			1	2.93	2	0.48
44			新腹足	アクキガイ	ヒメヨウラク					1	0.42
45					レイシガイ			1	0.86	3	2.30
46				フトコロガイ	ムギガイ			2	0.09		
47					ノミニナ					44	0.35
48		二枚貝	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	86	0.84	18	0.06	1	0.01
49					ヒバリガイ	3	+	16	0.04		
50					タマエガイ			9	0.02	1	+
51			マルスダレガイ	マルスダレガイ	ハネマツカゼ			1	+		
52				イワホリガイ	ウスカラシオツガイ			36	0.09		
53					イワホリガイ科					3	0.09
54			オオノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ			1	0.02	573	5.15
55	節足動物	甲殻	完胸	イワフジツボ	イワフジツボ	5,925	28.44				
56				フジツボ	ヨーロッパフジツボ	1,676	21.94	18	0.06		
57					タテジマフジツボ	64	1.28				
58			タナイス	タナイス	ゼウクソ属			2	+	22	0.02
59			等脚	コツブムシ	シリケンウミセミ	1	+				
60				ウミミズムシ	ウミミズムシ			1	+	1	+

注）個体数の－は計数不能を，湿重量の＋は0.01g未満を示す。

（1）神戸沖処分場

夏季調査（平成18年8月6日）－2

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	調査地点	A－2					
							上層		中層		下層	
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
61	節足動物	甲殻	端脚	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ属				13	0.03		
62				ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ	ﾄﾞﾛｿｺｴﾋﾞ属						8	0.01
63					ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ属		17	0.04	1	+	14	0.02
64				ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属				46	0.16	6	0.01
65				ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	ﾄﾝｶﾞﾘﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ				2	+	5	+
66					ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ属				80	0.13	157	0.12
67				ﾜﾚｶﾗ	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ				3	+	36	0.03
68					ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ				137	0.11		
69			十脚	ﾔﾄﾞｶﾘ	ｹﾌﾞｶﾋﾒﾖｺﾊﾞｻﾐ						1	1.52
70				ﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ	ｹｱｼﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ						3	1.75
71					ﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ属				1	+	1	0.01
72				ｲﾁｮｳｶﾞﾆ	ｺｲﾁｮｳｶﾞﾆ						1	0.03
73				ｵｳｷﾞｶﾞﾆ	ﾋﾒｹﾌﾞｶｶﾞﾆ						6	0.43
74		昆虫	双翅	ﾕｽﾘｶ	ﾕｽﾘｶ科幼虫		279	0.20				
75	棘皮動物	海星	叉棘	ｷﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ						4	0.06
76	原索動物	尾索	腸性	ｱｽｷｼﾞｱ	ｱｽｷｼﾞｱ科						1	0.01
						出現種類数	11		41		54	
						総個体数/総湿重量	8,061	52.78	9,055	50.82	1,556	32.28

注）個体数の-は計数不能を、湿重量の+は0.01g未満を示す。

（1）神戸沖処分場

秋季調査（平成18年11月18日）－1

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	調査地点	A－2					
							上層		中層		下層	
							個体数	湿重量	個体数	湿重量	個体数	湿重量
1	腔腸動物	ヒドロ虫	花クラゲ	クダウミヒドラ	クダウミヒドラ科				－	0.04		
2			軟クラゲ	ウミサカズキガヤ	オベリア属		－	＋				
3		花虫	イソギンチャク	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク		1	0.69	3	0.62		
4				－	イソギンチャク目		18	0.66	323	8.39		
5	扁形動物	渦虫	多岐腸	－	多岐腸目		30	0.14	333	8.80	29	0.41
6	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科							
7		有針	針紐虫	テトラステマ	メノコヒモムシ		3	＋	72	0.27		
8	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	フサウスウロコムシ		1	0.03				
9					マダラウロコムシ				37	1.48	1	0.02
10					ミロクウロコムシ				69	10.35		
11				サシバゴカイ	アケノサシバ		6	0.11	5	0.11		
12					サミドリサシバ				1	0.05		
13					*Eulalia* sp.		4	0.02				
14					マダラサシバ				1	0.02	2	0.02
15				オトヒメゴカイ	*Ophiodromus* sp.		2	0.01	275	4.95	6	0.04
16				シリス	ムラサキシマシリス				7	0.18		
17					*Typosyllis* sp.		16	0.06	5	0.05		
18				ゴカイ	ツルヒゲゴカイ		33	0.11				
19					イソツルヒゲゴカイ		5	0.13				
20					クマドリゴカイ		6	0.04	2	0.41		
21					アシナガゴカイ		14	0.28	78	3.06		
22					ヒメゴカイ				74	0.96	16	0.07
23					マサゴゴカイ		24	0.12				
24					フツウゴゴカイ				106	9.65		
25				モグロイソメ	*Arabella* sp.				1	0.25		
26			定在	スピオ	*Polydora* sp.				26	0.22	34	0.12
27				ミズヒキゴカイ	*Dodecaceria* sp.		2	＋	1,345	1.28		
28					ミズヒキゴカイ				20	0.89	6	0.10
29				オフェリアゴカイ	カスリオフェリア		4	＋				
30				フサゴカイ	*Polycirrus* sp.				1	0.13		
31					*Thelepus* sp.				139	8.21		
32					*Nicolea* sp.				141	8.60		
33				ケヤリ	*Sabella* sp.				10	0.19		
34					*Branchiomma* sp.				5	1.16		
35				カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシゴカイ		166	3.14	4,116	94.22	61	1.07
36	触手動物	苔虫	円口	クダコケムシ	クダコケムシ科				－	0.03		
37			唇口	フサコケムシ	フサコケムシ		－	0.04	－	0.02		
38				ヒラコケムシ	チゴケムシ		－	0.02	－	0.06		
39				モングチコケムシ	モングチコケムシ科		－	0.01				
40	軟体動物	ヒザラガイ	新ヒザラガイ	ケハダヒザラガイ	ケハダヒザラガイ属				1	0.11		
41		腹足	古腹足	ユキノカサ	ヒメコザラ		1	0.08				
42			盤足	リソツボ	タマツボ						1	＋
43			新腹足	アクキガイ	レイシガイ		3	9.68	6	3.39	1	6.17
44					イボニシ		56	95.11				
45				フトコロガイ	ムギガイ				544	16.32	1	0.04
46					ハミナモドキ						1	0.01
47			翼舌	イトカケガイ	*Epitonium* sp.				1	＋		
48				ナワメグルマ	クリイロナワメグルマ						1	＋
49				ホソアラレキリオレ	ホソアラレキリオレ						1	＋
50			異旋	トウガタガイ	クチキレモドキ属						1	0.02
51					ヨロイクチキレ属				3	＋		
52					イトカケクチキレ属				1	＋		
53					クサズリクチキレ				1	＋	1	0.01
54					イトカケギリ属				3	0.01		
55			頭楯	ブドウガイ	ブドウガイ				1	0.01		
56			裸鰓	－	裸鰓目				1	0.02		
57			基眼	カラマツガイ	カラマツガイ		1	0.05				
58		二枚貝	フネガイ	フネガイ	コベルトフネガイ				1	0.01		
59			イガイ	イガイ	ムラサキイガイ		4	0.02				
60					ヒバリガイ				5	0.11	17	0.15

注）個体数の－は計数不能を、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

（1）神戸沖処分場

秋季調査（平成18年11月18日）－2

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名 \ 調査地点	A－2 上層 個体数	A－2 上層 湿重量	A－2 中層 個体数	A－2 中層 湿重量	A－2 下層 個体数	A－2 下層 湿重量
61	軟体動物	二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	ﾁﾋﾞﾀﾏｴｶﾞｲ	2	+			8	0.06
62					ﾀﾏｴｶﾞｲ			2	0.03	18	0.24
63					ﾎﾄﾄｷﾞｽ						
64			ｶｷ	ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	ｲﾜｶﾞｷ					1	0.06
65			ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｺﾊｸﾉﾂﾕ	ｺﾊｸﾉﾂﾕ属					1	0.01
66				ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｱｻﾘ					2	0.03
67				ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	ﾁﾁﾞﾐｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	5	0.09				
68					ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ	28	0.13	379	9.97	10	0.19
69			ｵｵﾉｶﾞｲ	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ					7	0.12
70	節足動物	甲殻	完胸	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ｱﾒﾘｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ			8	0.24		
71					ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ	5	0.09			6	0.01
72					ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ	64	0.89	212	5.65	2,616	164.16
73					ｱｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ	1	+				
74			ﾀﾅｲｽ	ﾀﾅｲｽ	ｾﾞｳｸｿﾞ属	183	0.09	986	0.35	11	0.02
75			等脚	ｺﾂﾌﾞﾑｼ	ｼﾘﾙﾝｳﾐｾﾐ	4	0.02				
76				ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	8	+	776	0.36	2	+
77			端脚	ﾀﾃﾘｺｴﾋﾞ	ﾀﾃﾘｺｴﾋﾞ属	17	0.02	4	+	1	+
78				ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ属	4	0.02	147	0.85		
79				ｴﾝﾏﾖｺｴﾋﾞ	ﾄｹﾞﾎﾎﾖｺｴﾋﾞ属			2	+		
80				ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ	ﾄﾞﾛｿｺｴﾋﾞ属					6	0.02
81					ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ属			4	+	49	0.04
82				ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属	488	2.24	3	0.01	1	+
83				ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ属	7	0.01				
84				ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	ﾎｿﾖｺｴﾋﾞ			6	0.01	2	+
85					ﾄﾝｶﾞﾘﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ			1	+		
86					ｳｴﾉﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	2	+				
87					ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ属	4	+	13	+	8	+
88				ﾜﾚｶﾗ	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ			5	0.01	51	0.02
89					ｸﾋﾞﾅｶﾞﾜﾚｶﾗ	2	+	1	+		
90					ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ	218	0.22			3	+
91			十脚	ﾃｯﾎﾟｳｴﾋﾞ	ﾃｯﾎﾟｳｴﾋﾞ属			9	0.37		
92				ﾓｴﾋﾞ	ｲｿﾓｴﾋﾞ			1	0.02		
93					ﾎｿﾓｴﾋﾞ属			1	+		
94				ﾛｳｿｸｴﾋﾞ	ﾊﾔｼﾛｳｿｸｴﾋﾞ			22	0.47	7	0.06
95				ﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ	ｲｸﾋﾞﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ			1	0.11		
96				ｶﾆﾀﾞﾏｼ	ｺﾌﾞｶﾆﾀﾞﾏｼ	1	0.02	9	0.05		
97				ｸﾓｶﾞﾆ	ｲｯｶｸｸﾓｶﾞﾆ			1	0.01		
98					ﾖﾂﾊﾓｶﾞﾆ			2	0.51		
99				ﾜﾀﾘｶﾞﾆ	ﾌﾀﾊﾍﾞﾆﾂｹｶﾞﾆ			7	0.15		
100				ｵｳｷﾞｶﾞﾆ	ｽﾍﾞｽﾍﾞｵｳｷﾞｶﾞﾆ	2	0.74	3	1.15		
101					ﾋﾒｹﾌﾞｶｶﾞﾆ	1	+	43	1.25	10	0.05
102				ｶｸﾚｶﾞﾆ	ﾏﾒｶﾞﾆﾀﾞﾏｼ属			1	+		
103				-	ｶﾆ類ﾒｶﾞﾛﾊﾟ期幼生			2	0.01	3	+
104	棘皮動物	海星	有棘	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ					5	140.04
105			叉棘	ｷﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ					4	2.69
106		海鼠	楯手	ｷﾝｺ	ｲｼﾝｺ			2	0.13		
107	原索動物	尾索	腸性	ｷｵﾅ	ｶﾀﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ			1	0.06		
108			壁性	ﾎﾞﾄﾘﾙｽ	ﾎﾞﾄﾘﾙｽ科			-	0.16		
109				ｽﾁｴﾗ	ﾌﾀｽｼﾞﾎﾞﾔ			4	0.15		
					出現種類数	46		75		41	
					総個体数/総湿重量	1,446	115.13	10,421	206.71	3,012	316.07

注）個体数の-は計数不能を、湿重量の+は0.01g未満を示す。

（1）神戸沖処分場

冬季調査（平成19年2月4日）－1

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	A－2 上層 個体数	A－2 上層 湿重量	A－2 中層 個体数	A－2 中層 湿重量	A－2 下層 個体数	A－2 下層 湿重量
1	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミサカズキガヤ	ウミサカズキガヤ			－	0.01		
2		花虫	イソギンチャク	－	イソギンチャク目	2	0.25	126	4.11	1	0.01
3	扁形動物	渦虫	多岐腸	－	多岐腸目	3	0.02	144	2.70	43	0.89
4	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロツリックス	ケファロツリックス科			2	0.05	1	0.07
5			異紐虫	リネウス	リネウス科	6	0.46	8	3.25	2	0.01
6		有針		アンフィボールス	アンフィボールス属	4	0.08			1	0.02
7				テトラステマ	メノコヒモムシ			5	0.05	2	0.01
8	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	マダラウロコムシ			21	0.95	11	0.03
9					*Harmothoe* sp.			9	0.12	3	0.02
10					ミロクウロコムシ			6	1.21		
11				サシバゴカイ	*Anaitides* sp.					1	+
12					アケノサシバ					2	0.03
13					サミドリサシバ			87	2.16	1	+
14					*Eulalia* sp.			6	0.03	1	+
15					マダラサシバ					1	+
16					*Nipponophyllum* sp.			1	+		
17				オトヒメゴカイ	*Ophiodromus* sp.			78	1.23	14	0.07
18				シリス	カキモトシリス			4	0.03		
19					シロマダラシリス	107	1.03	2	0.02		
20					ムラサキシマシリス					1	+
21					*Typosyllis* sp.	2	0.01	21	0.33	7	0.11
22				ゴカイ	ツルヒゲゴカイ	1	+	7	0.18		
23					クマドリゴカイ	14	0.56	4	0.40		
24					アシナガゴカイ	22	1.03	19	0.16		
25					ヒメゴカイ			15	0.12	4	0.02
26					マサゴゴカイ			9	0.42		
27				ギボシイソメ	*Lumbrineris* sp.					1	0.01
28			定在	スピオ	*Polydora* sp.			125	0.66	47	0.12
29				ミズヒキゴカイ	*Dodecaceria* sp.			4	0.32	5	0.02
30					*Tharyx* sp.			3	0.04		
31					チグサミズヒキ			13	0.30	5	0.61
32					ミズヒキゴカイ			41	1.39	2	0.08
33				オフェリアゴカイ	カスリオフェリア			1	+		
34				フサゴカイ	*Thelepus* sp.			17	7.11		
35				ケヤリ	*Sabella* sp.			2	0.14		
36				カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシゴカイ			3,027	111.60	74	3.72
37	触手動物	箒虫	箒虫	ホウキムシ	*Phoronis* sp.			3	0.02		
38		苔虫	唇口	トゲイタコケムシ	*Callopora* sp.			－	0.02		
39				フサコケムシ	フサコケムシ			－	0.05		
40				ヒラコケムシ	チゴケムシ			－	0.18		
41	軟体動物	ヒザラガイ	新ヒザラガイ	ケハダヒザラガイ	ケハダヒザラガイ属	1	0.02	1	0.21		
42		腹足	新腹足	アクキガイ	レイシガイ			5	17.81	1	7.41
43					イボニシ	2	3.35				
44				フトコロガイ	ムギガイ			168	14.58	84	5.97
45					ノミニナモドキ					1	+
46			異腹足	イトカケガイ	ヒメネジガイ			12	0.18		
47				ホソアラレキリオレ	ホソアラレキリオレ					1	0.01
48			異旋	トウガタガイ	クチキレモドキ属			2	0.02	1	+
49			頭楯	ブドウガイ	ブドウガイ			3	0.05		
50			裸鰓	ドーリス	ドーリス科			2	0.18		
51				－	裸鰓目			2	0.08		
52			基眼	カラマツガイ	カラマツガイ	4	0.99				
53		二枚貝	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	805	1.20				
54					ヒバリガイ			1	0.01	17	0.04
55					チビタマエガイ	20	0.15				
56					タマエガイ	15	0.10	2	0.02	1	0.02
57					ホトトギス					4	0.02
58			ウグイスガイ	ミノガイ	ユキミノ属			7	0.04	1	0.03
59				イタボガキ	マガキ	70	2.36				
60			マルスダレガイ	マルスダレガイ	オキナマツカゼ			1	0.01	1	0.01
61				イワホリガイ	ウスカラシオツガイ			105	1.92	3	0.06
62			オオノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ					1	0.02

注）個体数の－は計数不能を、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

（1）神戸沖処分場

冬季調査（平成19年2月4日）－2

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	A－2 上層 個体数	A－2 上層 湿重量	A－2 中層 個体数	A－2 中層 湿重量	A－2 下層 個体数	A－2 下層 湿重量
63	節足動物	甲殻	ｶﾗﾇｽ	－	ｶﾗﾇｽ目	80	0.05				
64			完胸	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ					2	0.07
65					ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ			24	1.14	1,886	221.94
66					ｱｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ	3	0.19				
67			ﾀﾅｲｽ	ﾀﾅｲｽ	ｾﾞｳｸﾘ属	465	0.10	12	0.02	76	0.12
68			等脚	ｺﾂﾌﾞﾑｼ	ｼﾘｹﾝｳﾐｾﾐ	69	0.13				
69				ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ			159	0.09		
70			端脚	ｱｺﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	ｱｺﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属					8	0.03
71				ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ属			115	0.79		
72				ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾁﾋﾞﾓｸｽﾞ	121	0.81	1	+		
73				ｺﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ	ｺﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ属			264	0.72	596	0.36
74				ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属	3,326	15.32				
75				ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ属	680	0.80				
76				ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	ﾎｿﾖｺｴﾋﾞ			9	0.02		
77					ｳｴﾉﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ					4	0.01
78					ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ属					9	0.02
79				ﾜﾚｶﾗ	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ			2	0.03	12	0.03
80					ｵｻﾃﾜﾚｶﾗ					84	0.06
81					ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ			4	0.01	1	+
82			十脚	ﾃｯﾎﾟｳｴﾋﾞ	ﾃｯﾎﾟｳｴﾋﾞ属			16	1.00		
83				ｶﾆﾀﾞﾏｼ	ｺﾌﾞｶﾆﾀﾞﾏｼ			2	0.04		
84				ｲﾁｮｳｶﾞﾆ	ｲﾎﾞｲﾁｮｳｶﾞﾆ					2	0.01
85					ｺｲﾁｮｳｶﾞﾆ					1	0.07
86				ﾜﾀﾘｶﾞﾆ	ﾌﾀﾊﾍﾞﾆﾂｳｶﾞﾆ			2	0.05		
87				ｵｳｷﾞｶﾞﾆ	ｽﾍﾞｽﾍﾞｵｳｷﾞｶﾞﾆ			6	5.42		
88					ﾋﾒｹﾌﾞｶｶﾞﾆ			5	0.11	7	0.02
89				ｲﾜｶﾞﾆ	ﾋﾗｲｿｶﾞﾆ			3	0.56		
90					ﾋﾒﾍﾞﾝｹｲｶﾞﾆ			1	0.03		
91				－	ｶﾆ類ﾒｶﾞﾛﾊﾟ期幼生	1	+			1	+
92		昆虫	双翅	ﾕｽﾘｶ	ﾕｽﾘｶ科幼虫	205	0.05				
93	棘皮動物	海星	有棘	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ			1	21.66	4	50.21
94			叉棘	ｷﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ					2	6.58
95		海鼠	楯手	ｼｶｸﾅﾏｺ	ﾏﾅﾏｺ					1	81.36
96	原索動物	尾索	腸性	ｷｵﾅ	ｶﾀﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ			27	5.43		
97			壁性	ﾎﾞﾄﾘﾙｽ	ﾎﾞﾄﾘﾙｽ科			－	0.42		
98				ｽﾁｴﾗ	ﾌﾀｽｼﾞﾎﾞﾔ			1	0.07		
99				ﾌｸﾛﾎﾞﾔ	ﾏﾝﾊｯﾀﾝﾎﾞﾔ			3	0.21		
100	－	－	－	－	卵塊			－	1.83	－	0.02
					出現種類数	25		69		53	
					総個体数/総湿重量	6,028	29.06	4,778	214.12	3,042	380.35

注）個体数の－は計数不能を、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

（2）尼崎沖処分場

春季調査（平成18年5月27日）－1

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	B－2 上層 個体数	B－2 上層 湿重量	B－2 中層 個体数	B－2 中層 湿重量	B－2 下層 個体数	B－2 下層 湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	－	－	尋常海綿綱			－	1.08	－	0.24
2	腔腸動物	花虫	イソギンチャク	－	イソギンチャク目	31	6.68			3	0.01
3	扁形動物	渦虫	多岐腸	－	多岐腸目			3	0.12		
4	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロヴリックス	ケファロヴリックス科	1	0.09			2	0.01
5			異紐虫	リネウス	リネウス科			2	0.04	5	0.05
6		有針	針紐虫	エムプレクトネマ	エムプレクトネマ科			1	0.03	1	0.03
7				テトラステマ	メノコヒモムシ			8	0.18	30	0.48
8	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	*Lepidonotus* sp.			4	0.08		
9					マダラウロコムシ			1	0.01	10	0.31
10					ミロクウロコムシ	3	0.32	1	0.08		
11					*Harmothoe sp.*			4	0.07	2	0.01
12				サシバゴカイ	サミドリサシバ	2	0.05				
13					*Eulalia* sp.	7	0.34				
14				シリス	シロマダラシリス	138	0.78	1	0.06	1	0.03
15					*Typosyllis* sp.	1	0.01				
16					*Autolytus* sp.					1	+
17				ゴカイ	ヒトツブゴカイ	29	4.02				
18					アシナガゴカイ	51	1.91	17	1.10	7	0.61
19					ヤスリゴカイ			4	0.58	6	0.39
20					マサゴゴカイ	4	0.07	100	9.01	49	6.50
21					フサウゴカイ	4	0.41	4	0.25		
22			定在	スピオ	*Boccardia* sp.					14	0.08
23					*Polydora* sp.			11	0.04	42	0.20
24				ミズヒキゴカイ	*Dodecaceria* sp.					1	0.03
25					ミズヒキゴカイ			2	0.11	2	0.07
26					ミズヒキゴカイ科			5	0.36		
27				イトゴカイ	*Capitella* sp.			2	0.01		
28				フサゴカイ	*Nicolea* sp.					2	0.27
29				カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシゴカイ			12	2.05	12	1.61
30					*Hydroides* sp.			3	0.12	3	0.24
31	触手動物	箒虫	箒虫	ホウキムシ	*Phoronis* sp.			8	0.05	502	3.85
32		苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ					－	0.05
33				モングチコケムシ	モングチコケムシ科			－	0.03	－	0.05
34	軟体動物	腹足	盤足	カリバガサ	シマメノウフネガイ	1	0.01				
35			新腹足	アクキガイ	レイシガイ	12	5.73				
36					イボニシ					1	2.93
37				フトコロガイ	ムギガイ					32	3.52
38		二枚貝	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	43	1.33	6,604	4,206.72	4,608	1,460.48
39					ミドリイガイ	2	0.22				
40					ヨウロエンカワヒバリ	78	19.29				
41					タマエガイ	3	0.06				
42					ホトトギスガイ	61	0.88	1	0.01	1	0.06
43			カキ	イタボガキ	マガキ	163	1,984.24				
44			マルスダレガイ	イワホリガイ	イワホリガイ科	3	0.12	3	0.58	96	1.92
45			オオノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ			422	2.40	1,024	47.36
46	節足動物	甲殻	完胸	イワフジツボ	イワフジツボ	3	0.16				
47				フジツボ	ヨーロッパフジツボ	30	0.66	1	0.05		
48					サンカクフジツボ					1	0.04
49			等脚	コツブムシ	シリケンウミセミ	6	0.09				
50			端脚	タテソコエビ	タテソコエビ属					78	0.18
51				モクズヨコエビ	モクズヨコエビ属	448	2.25	1	+		
52				ヒゲナガヨコエビ	ヒゲナガヨコエビ属	14	0.07				
53				カマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ属	21	0.07			261	1.13
54				ドロクダムシ	アリアケドロクダムシ			3	0.01	448	12.12
55					ウエノドロクダムシ	56	0.14				
56				ワレカラ	クビナガワレカラ			16	0.14	153	0.54
57					マルエラワレカラ			7	0.02		
58			十脚	クモガニ	ヨツハモガニ			1	+	2	0.18
59				イワガニ	イソガニ	42	7.12				
60		昆虫	双翅	ユスリカ	ユスリカ科幼虫	21	0.07				

注）個体数の－は計数不能、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

（2）尼崎沖処分場

春季調査（平成 18 年 5 月 27 日）－2

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名 ＼ 調査地点	B－2 上層 個体数	B－2 上層 湿重量	B－2 中層 個体数	B－2 中層 湿重量	B－2 下層 個体数	B－2 下層 湿重量
61	棘皮動物	海星	叉棘	ｷﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ			38	56.02	12	5.21
62	原索動物	尾索	腸性	ｺﾚﾗ	ｶﾀﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ					2	2.32
63			壁性	ｽﾁｴﾗ	ｼﾛﾎﾞﾔﾓﾄﾞｷ					2	11.75
64					ｼﾛﾎﾞﾔ			1	4.39	2	0.95
65					ﾌﾀｽｼﾞﾎﾞﾔ			1	0.54		
66					ｴﾎﾞﾔ					11	78.05
67				ﾋﾞｳﾗ	ｶﾗｽﾎﾞﾔ					1	0.82
68	－	－	－	－	卵塊					－	0.15
					出現種類数	29		35		42	
					総個体数/総湿重量	1,278	2,037.19	7,292	4,286.34	7,430	1,644.83

注）個体数の－は計数不能、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

(2) 尼崎沖処分場

夏季調査（平成18年8月3日）

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	B－2 上層 個体数	B－2 上層 湿重量	B－2 中層 個体数	B－2 中層 湿重量	B－2 下層 個体数	B－2 下層 湿重量
1	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミサカヅキガヤ	オベリア属					－	0.41
2					ウミサカヅキガヤ科					－	1.89
3				ウミシバ	ウミシバ科					－	0.05
4		花虫	イソギンチャク	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク			1	0.07		
5				－	イソギンチャク目	2	0.21	3,096	21.42	1,548	18.71
6	扁形動物	渦虫	多岐腸	－	多岐腸目	2	0.01	144	0.73	32	0.35
7	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロツリックス	ケファロツリックス科			24	0.45		
8			異紐虫	リネウス	リネウス科			3	0.04	10	0.12
9		有針	針紐虫	テトラステマ	メノコヒモムシ					153	0.75
10					テトラステマ科			12	0.26	81	0.54
11	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	ナガフササキウロコムシ					2	0.30
12					*Lepidonotus* sp.					6	0.34
13					マダラウロコムシ					105	0.80
14					*Harmothoe sp.*					555	3.70
15					ミロクウロコムシ					6	0.58
16				サシバゴカイ	サミドリサシバ			1	0.01		
17				オトヒメゴカイ	*Ophiodromus* sp.					23	0.31
18				シリス	ムラサキシマシリス			1	0.01	14	0.04
19					*Typosyllis* sp.					35	0.26
20					*Autolytus* sp.					20	0.35
21				ゴカイ	アシナガゴカイ	194	5.43	720	12.12	12	0.58
22					マサゴゴカイ			11	0.39	2	0.03
23			定在	スピオ	*Polydora* sp.	1	+	334	0.68	165	1.25
24				ミズヒキゴカイ	ミズヒキゴカイ			12	1.19	181	7.71
25				イトゴカイ	*Capitella* sp.					3	0.01
26				カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシゴカイ					5	0.23
27					*Hydroides* sp.					1	0.02
28	触手動物	箒虫	箒虫	ホウキムシ	*Phoronis* sp.					140	0.80
29		苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ			－	0.02	－	0.36
30	軟体動物	腹足	盤足	カリバガサ	シマメノウフネガイ					6	0.11
31			新腹足	アクキガイ	レイシガイ	5	2.31				
32				フトコロガイ	ムギガイ					917	16.64
33		二枚貝	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ			50,176	22,558.72	44,033	6,502.41
34					ヒバリガイ	34	0.71			1	+
35					コウロエンカワヒバリ	140	8.07				
36					タマエガイ	1	0.01				
37					ホトトギスガイ			270	0.68		
38			カキ	イタボガキ	マガキ	112	1,136.05				
39			マルスダレガイ	イワホリガイ	ウスカラシオツガイ			2	0.02	4	0.04
40					イワホリガイ科			4	0.52	1	0.19
41			オオノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ			1	0.05	781	26.35
42	節足動物	甲殻	完胸	イワフジツボ	イワフジツボ	3	0.02				
43				フジツボ	ヨーロッパフジツボ	113	2.47	33,843	174.73	42	0.45
44					サンカクフジツボ					10	0.24
45			コノハエビ	コノハエビ	コノハエビ					11	0.06
46			端脚	メリタヨコエビ	メリタヨコエビ属	88	0.17	4,861	5.98	44	0.33
47					イソヨコエビ属	4	0.01				
48				モクズヨコエビ	モクズヨコエビ属	320	0.93				
49				ドロクダムシ	アリアケドロクダムシ	21	0.03	871	0.66	562	0.33
50			十脚	テッポウエビ	テッポウエビ属					1	0.22
51				モエビ	イソモエビ					12	0.12
52					アシナガモエビモドキ			11	0.17	3	0.04
53				ホンヤドカリ	ホンヤドカリ属					1	0.04
54				クモガニ	ヨツハモガニ					51	1.84
55				イワガニ	イソガニ	6	1.53	1	2.43	1	0.32
56	棘皮動物	海星	叉棘	キヒトデ	キヒトデ					8	4.53
57	原索動物	尾索	壁性	スチエラ	シロボヤ					2	23.82
58					フタスジボヤ					1	0.64
59					エボヤ					6	77.72
60	脊椎動物	硬骨魚	スズキ	イソギンポ	イソギンポ	1	4.17				
61	－	－	－	－	卵塊					－	0.13
					出現種類数	17		23		49	
					総個体数/総湿重量	1,047	1,162.13	94,399	22,781.35	49,597	6,697.06

注）個体数の－は計数不能、湿重量の+は0.01g未満を示す。

（2）尼崎沖処分場

秋季調査（平成 18 年 11 月 13 日）

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	B－2 上層 個体数	B－2 上層 湿重量	B－2 中層 個体数	B－2 中層 湿重量	B－2 下層 個体数	B－2 下層 湿重量
1	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミサカヅキガヤ	オペリア属	－	0.02				
2				ウミシバ	ウミシバ科			－	0.75	－	0.64
3		花虫	イソギンチャク	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク	51	11.37	3	0.92		
4				－	イソギンチャク目	6	0.08	153	15.02	408	4.00
5	扁形動物	渦虫	多岐腸	－	多岐腸目	4	0.27	60	2.82	88	4.32
6	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	2	+				
7	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	フサウスウロコムシ	4	0.11				
8					マダラウロコムシ					14	0.98
9				サシバゴカイ	サミドリサシバ	2	0.03				
10				オトヒメゴカイ	*Ophiodromus* sp.	6	0.02	5	0.06	432	1.12
11				シリス	*Typosyllis* sp.	1	+			2	0.01
12					*Autolytus* sp.					6	0.16
13				ゴカイ	クマドリゴカイ	4	0.19				
14					アシナガゴカイ	37	0.54	139	1.54	176	1.92
15					マサゴゴカイ	1	0.02			11	0.29
16				イソメ	*Eunice* sp.					5	0.04
17			定在	スピオ	*Polydora* sp.	7	0.01	128	0.29	448	1.28
18				ミズヒキゴカイ	*Dodecaceria* sp.	3	0.01				
19					ミズヒキゴカイ	1	+			448	4.16
20				オフェリアゴカイ	カスリオフェリア			2	+		
21				イトゴカイ	*Capitella* sp.	1	+				
22				ケヤリ	*Sabella* sp.			184	10.66	432	14.24
23					*Branchiomma* sp.					32	2.08
24				カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシゴカイ			32	0.41	1,760	18.24
25					*Hydroides* sp.			5	0.12	128	0.96
26	触手動物	箒虫	箒虫	ホウキムシ	*Phoronis* sp.					224	1.60
27	軟体動物	腹足	盤足	カリバガサ	シマメノウフネガイ					2	0.02
28			新腹足	アクキガイ	イボニシ	8	6.12				
29				フトコロガイ	ムギガイ					67	4.32
30		二枚貝	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	1	0.02	4	16.20	3	20.05
31					ミドリイガイ	1	0.05	9	10.32		
32					コウロエンカワヒバリ	98	3.42	134	11.17	1	0.08
33					チビタマエガイ	4	0.03	8	0.05	7	0.35
34			カキ	イタボガキ	マガキ	43	434.36				
35			マルスダレガイ	イワホリガイ	ウスカラシオツガイ	65	2.90	928	73.96	1,792	55.63
36					イワホリガイ科	1	0.04				
37	節足動物	海蜘蛛	真蔕脚	イソウミグモ	イソウミグモ属			1	+		
38		甲殻	完胸	フジツボ	アメリカフジツボ			771	426.64	104	16.24
39					ヨーロッパフジツボ			832	31.91		
40					サンカクフジツボ					9	0.63
41			タナイス	タナイス	ゼウクリ属	2	+				
42			端脚	タテソコエビ	タテソコエビ属	7	+	288	0.32	10	0.01
43				メリタヨコエビ	メリタヨコエビ属	3	0.01	1	0.02		
44				モクズヨコエビ	モクズヨコエビ属	5	0.04			6	0.03
45				ヒゲナガヨコエビ	ヒゲナガヨコエビ属	17	0.10			9	0.01
46				カマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ属	9	0.02			88	0.32
47				ドロクダムシ	ホソヨコエビ	9	0.01	6	0.01	7	0.01
48					トンガリドロクダムシ	13	0.02	12	0.03	104	0.08
49					アリアケドロクダムシ			8	0.01		
50					ドロクダムシ属	92	0.10	112	0.16	232	0.24
51				ワレカラ	トゲワレカラ			16	0.06	16	0.08
52					クビナガワレカラ	12	0.01	896	1.92	72	0.24
53			十脚	カニダマシ	コブカニダマシ					25	0.34
54				クモガニ	イッカククモガニ					24	1.04
55				ワタリガニ	フタハベニツケガニ					2	0.25
56					ベニツケガニ属					1	0.08
57				オウギガニ	ヒメケブカガニ			2	0.03	8	0.08
58				イワガニ	イソガニ	1	1.02				
59					ヒライソガニ	13	1.05				
60					ヒメヘングリガニ					1	0.01
61				－	カニ類メガロパ期幼生	8	0.01	1	+		
62		昆虫	双翅	ユスリカ	ユスリカ科	26	0.05				
63	原索動物	尾索	腸性	キオナ	カタユウレイボヤ			1	0.67	8	3.00
64			壁性	スチエラ	シロボヤモドキ			1	2.89		
65				フクロボヤ	マンハッタンボヤ			15	4.69	136	233.84
					出現種類数	38		32		42	
					総個体数/総湿重量	568	462.05	4,757	613.65	7,348	393.02

注）個体数の－は計数不能、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

(2) 尼崎沖処分場

冬季調査（平成19年2月1日）－1

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	B－2 上層 個体数	B－2 上層 湿重量	B－2 中層 個体数	B－2 中層 湿重量	B－2 下層 個体数	B－2 下層 湿重量
1	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミシバ	ウミシバ科			－	0.05	－	0.03
2		花虫	イソギンチャク	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク	34	7.08	8	1.40		
3			－	－	イソギンチャク目	129	3.13	125	13.20	75	2.36
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	－	多岐腸目	12	0.95	65	4.66	15	0.48
5	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロツリックス	ケファロツリックス科	1	0.66				
6			異紐虫	リネウス	リネウス科			4	0.15		
7		有針	針紐虫	テトラステマ	メノコヒモムシ					1	0.01
8	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	マダラウロコムシ			2	0.03	11	0.21
9					ナガフサツキウロコムシ			1	0.59		
10				サシバゴカイ	サミドリサシバ	1	0.01				
11				オトヒメゴカイ	*Ophiodromus* sp.	1	+	14	0.11	9	0.11
12				シリス	シロマダラシリス	47	0.56				
13					*Typosyllis* sp.	3	+			2	0.01
14					*Autolytus* sp.					1	0.01
15				ゴカイ	クマドリゴカイ	1	0.34				
16					アシナガゴカイ	212	6.21	125	4.05	5	0.14
17					マサゴゴカイ			145	3.40	9	0.32
18				イソメ	*Eunice* sp.					12	0.41
19			定在	スピオ	*Polydora* sp.	3	0.01	594	2.40	1,720	5.61
20				ミズヒキゴカイ	ミズヒキゴカイ	2	0.01	11	0.83	39	2.39
21				ケヤリ	*Sabella* sp.			57	5.31	29	2.91
22				カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシゴカイ			422	12.50	358	4.46
23	触手動物	苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ					－	0.02
24				モンゴチコケムシ	モンゴチコケムシ					－	0.19
25		腕足	頂殻	盤殻	スズメガイダマシ					2	0.14
26	軟体動物	腹足	盤足	タマキビ	*Lacuna* sp.	1	0.04				
27				カリバガサ	シマメノウフネガイ					2	5.98
28			新腹足	フトコロガイ	ムギガイ			1	0.09	6	0.51
29			側鰓	フシエラガイ	ウミフクロウ					1	14.97
30		二枚貝	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	77	0.87	12	151.26		
31					ミドリイガイ	55	217.70	4	13.86		
32					コウロエンカワヒバリ	2,484	708.64	15	1.40	1	0.17
33					ホトトギス			1	0.09		
34			カキ	イタボガキ	マガキ	20	276.35				
35			マルスダレガイ	マルスダレガイ	オキナマツカゼ					1	0.05
36				イワホリガイ	ウスカラシオツガイ	358	50.13	824	61.21	179	8.83
37					イワホリガイ科			1	0.05		
38	節足動物	甲殻	完胸	フジツボ	アメリカフジツボ	1	0.42	537	600.78	2	1.55
39					ヨーロッパフジツボ	4	0.07	47	19.33		
40					サンカクフジツボ					2	0.24
41			等脚	ウミミズムシ	ウミミズムシ			12	0.04		
42			端脚	タテソコエビ	タテソコエビ属	1	+	94	0.08		
43				メリタヨコエビ	メリタヨコエビ属			13	0.08		
44				モクズヨコエビ	モクズヨコエビ属	174	1.12			1	0.01
45				ヒゲナガヨコエビ	ヒゲナガヨコエビ属	3	+				
46				ドロクダムシ	ホソヨコエビ			9	0.02	225	0.93
47					アリアケドロクダムシ			272	0.24	1,536	3.36
48					ウエノドロクダムシ	63	0.05				
49					ドロクダムシ属	11	0.01			231	0.30
50				ワレカラ	トゲワレカラ			9	0.06	16	0.09
51					オサテワレカラ					5	0.02
52					クヒナガワレカラ			114	0.25	103	0.28
53			十脚	クモガニ	イッカククモガニ			2	0.17	1	0.64
54					ヨツハモガニ			1	0.23		
55				イチョウガニ	イボイチョウガニ					2	0.08
56				オウギガニ	ヒメケブカガニ			4	0.35		
57				イワガニ	ヒライソガニ	34	0.59				
58					ヒメベンケイガニ					2	0.03
59		昆虫	双翅	ユスリカ	ユスリカ科	4	0.02				

注）個体数の－は計数不能、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

（2）尼崎沖処分場

冬季調査（平成19年2月1日）－2

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名 ＼ 調査地点	B－2 上層 個体数	B－2 上層 湿重量	B－2 中層 個体数	B－2 中層 湿重量	B－2 下層 個体数	B－2 下層 湿重量
60	棘皮動物	蛇尾	顎蛇尾	ﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ	ｸｻｲﾛﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ					1	+
61		海胆	拱歯	ｻﾝｼｮｳｳﾆ	ｻﾝｼｮｳｳﾆ			1	0.54		
62	原索動物	尾索	腸性	ｷｵﾅ	ｶﾀﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ			85	50.09	16	3.10
63				ｱｽｷｼﾞｱ	ｽｼﾞｷﾚﾎﾞﾔ			2	0.34		
64			壁性	ｽﾁｴﾗ	ｼﾛﾎﾞﾔﾓﾄﾞｷ			4	12.72		
65					ｼﾛﾎﾞﾔ			5	58.80	2	44.40
66					ﾌﾀｽｼﾞﾎﾞﾔ			3	3.45		
67					ｴﾎﾞﾔ			1	12.36		
68				ﾋﾟｳﾗ	ｶﾗｽﾎﾞﾔ					1	0.89
69				ﾌｸﾛﾎﾞﾔ	ﾏﾝﾊｯﾀﾝﾎﾞﾔ			3	1.40	3	0.10
70	脊椎動物	硬骨魚	ｽｽﾞｷ	ｲｿｷﾞﾝﾎﾞ	ｲｿｷﾞﾝﾎﾞ			2	0.28		
71	－	－	－	－	卵塊			－	0.10	－	0.95
					出現種類数	27		43		42	
					総個体数/総湿重量	3,736	1,274.97	3,651	1,038.35	4,627	107.29

注）個体数の－は計数不能、湿重量の+は0.01g未満を示す。

(3) 大阪沖処分場

春季調査（平成18年6月3日）

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	C－2 上層 個体数	C－2 上層 湿重量	C－2 中層 個体数	C－2 中層 湿重量	C－2 下層 個体数	C－2 下層 湿重量
1	扁形動物	渦虫	多岐腸	－	多岐腸目					2	0.05
2	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科			13	0.07	4	0.01
3		有針	針紐虫	アンフィボールス	アンフィボールス属					1	0.11
4				テトラステマ	メノコヒモムシ					6	0.02
5	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	マダラウロコムシ			7	0.01	6	0.03
6					*Harmothoe sp.*			11	0.12	4	0.02
7					ミロクウロコムシ			2	0.03		
8				サシバゴカイ	*Eulalia* sp.					3	0.03
9					マダラサシバ					2	0.06
10				シリス	シロマダラシリス			4	0.01		
11					*Typosyllis* sp.			1	+	1	0.02
12					*Autolytus* sp.			1	+		
13				ゴカイ	イソツルヒゲゴカイ			3	0.11		
14					ヤスリゴカイ					3	0.05
15					マサゴゴカイ			30	1.78	59	1.22
16			定在	スピオ	*Polydora* sp.					8	0.05
17				ミズヒキゴカイ	チダサミズヒキ					1	0.01
18				オフェリアゴカイ	カスリオフェリア			1	0.01		
19				フサゴカイ	*Nicolea* sp.					232	28.07
20				カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシゴカイ					1	0.01
21				ウズマキゴカイ	*Dexiospira* sp.					4	0.01
22	触手動物	苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ					－	0.11
23				ヒラコケムシ	チゴケムシ					－	0.02
24					ヒラコケムシ科					－	0.12
25				イタコブコケムシ	イタコブコケムシ科					－	0.05
26				コブコケムシ	コブコケムシ科			－	0.09	－	0.02
27	軟体動物	腹足	盤足	リソツボ	タマツボ					10	0.04
28				カリバガサ	シマメノウフネガイ			4	0.04	1	0.03
29			新腹足	アクキガイ	レイシガイ					4	0.60
30				フトコロガイ	ムギガイ	2	0.08	432	20.96	18	0.74
31					ノミニナ					1	0.01
32			異旋	トウガタガイ	イトカケギリ属					2	0.01
33		二枚貝	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	31	0.33	9,281	367.36	3	0.05
34					ヒバリガイ					2	0.65
35					タマエガイ			11	0.10	2	0.06
36			マルスダレガイ	イワホリガイ	ウスカラシオツガイ			1	+	2	0.02
37					イワホリガイ科			2	0.04	8	0.10
38			オオノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ			976	7.20	29	0.24
39	節足動物	甲殻	完胸	イワフジツボ	イワフジツボ	4	0.01				
40				フジツボ	ヨーロッパフジツボ			1	0.04		
41					サンカクフジツボ			3	0.11	8	0.19
42			タナイス	タナイス	ゼウクソ属	1	+	11	0.01	78	0.06
43			等脚	ウミミズムシ	ウミミズムシ			15	0.02	21	0.02
44			端脚	モクズヨコエビ	モクズヨコエビ属	1	+				
45				ユンボソコエビ	ユンボソコエビ属			87	0.09	159	0.13
46				ヒゲナガヨコエビ	ヒゲナガヨコエビ属			3	0.01	7	0.01
47				カマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ属	7	0.03	92	0.19	141	0.17
48				ドロクダムシ	ホソヨコエビ			1	+	10	0.05
49					アリアケドロクダムシ			87	0.18	314	0.54
50				ワレカラ	トゲワレカラ	1	0.01	18	0.13	44	0.08
51					オサテワレカラ					8	0.01
52					クビナガワレカラ					8	0.01
53					マルエラワレカラ	35	0.30	309	3.23	316	0.48
54			十脚	テナガエビ	スジエビ属						
55				モエビ	イソモエビ					2	0.01
56					アシナガモエビモドキ					1	+
57				カイカムリ	カイカムリ科			1	0.02		
58				クモガニ	ヨツハモガニ					18	0.04
59				オウギガニ	ヒメケブカガニ					15	0.21
60		昆虫	双翅	ユスリカ	ユスリカ科幼虫	184	0.55	2	+		
61	棘皮動物	蛇尾	顎蛇尾	トゲクモヒトデ	ナガトゲクモヒトデ					1	0.01
62		海星	叉棘	キヒトデ	キヒトデ			5	5.75	6	0.25
63		海胆	拱歯	オオバフンウニ	バフンウニ			2	0.18		
64	－	－	－	－	卵塊			－	0.01	－	0.12
					出現種類数	9		34		52	
					総個体数/総湿重量	266	1.31	11,417	407.90	1,576	35.03

注）個体数の－は計数不能、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

（3）大阪沖処分場

夏季調査（平成18年8月5日）－1

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	C－2 上層 個体数	C－2 上層 湿重量	C－2 中層 個体数	C－2 中層 湿重量	C－2 下層 個体数	C－2 下層 湿重量
1	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミサカヅキガヤ	オベリア属					-	0.91
2	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	11	0.04	318	3.05	22	0.12
3	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロツリックス	ケファロツリックス科	21	0.42				
4			異紐虫	リネウス	リネウス科	2	0.01	2	0.02		
5		有針	針紐虫	アンフィボールス	アンフィボールス属	16	0.15				
6				テトラステマ	メソコヒモムシ			99	0.41	144	0.32
7	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	マダラウロコムシ					32	0.32
8					*Harmothoe sp.*	8	0.02	129	0.91	97	0.64
9					ミロクウロコムシ			3	0.04	16	0.80
10				サシバゴカイ	*Eulalia* sp.			1	+	8	0.10
11					マダラサシバ			1	+	6	0.03	
12				オトヒメゴカイ	オトヒメゴカイ科			66	0.17	4	0.02
13				シリス	ムラサキシマシリス					3	0.02
14					シロマダラシリス	263	0.81	6	0.07		
15					*Typosyllis* sp.	64	0.18	71	0.18	32	0.16
16				ゴカイ	イソツルヒゲゴカイ			13	0.13		
17					クマドリゴカイ			1	0.03	64	3.04
18					アシナガゴカイ	38	1.16	13	0.85	241	3.36
19					ヒメゴカイ			11	0.37		
20					マサゴゴカイ	1	0.01	24	0.56	177	5.61
21					フツウゴカイ			8	0.47		
22					*Nereis* sp.			1	0.01		
23				チロリ	*Glycera* sp.			2	0.05		
24			定在	スピオ	*Polydora* sp.					705	1.60
25				ミズヒキゴカイ	*Dodecaceria* sp.					2	+
26					ミズヒキゴカイ					32	0.32
27				イトゴカイ	*Capitella* sp.			97	0.19		
28				フサゴカイ	*Thelepus* sp.					9	3.33
29					*Nicolea* sp.					4	0.02
30				カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシゴカイ					811	20.92
31					イバラカンザシゴカイ					8	0.48
32				ウズマキゴカイ	*Dexiospira* sp.			11	0.01	35	0.04
33	触手動物	苔虫	唇口	ヒラコケムシ	チゴケムシ			-	0.02		
34				コブコケムシ	コブコケムシ科			-	0.08	-	0.21
35	軟体動物	ヒザラガイ	新ヒザラガイ	ヒゲヒザラガイ	ヒゲヒザラガイ					3	0.05
36					ババガセ					1	0.02
37		腹足	盤足	カリバガサ	シマメウフネガイ					4	3.87
38			新腹足	アクキガイ	レイシガイ					1	3.50
39				フトコロガイ	ムギガイ			145	1.44	119	0.78
40					ノミニナ					3	0.02
41			翼舌	ホソアラレキリオレ	クロタリイロキリオレ					4	0.11
42			異旋	クルマガイ	*Heliacus* sp.			1	0.01		
43				トウガタガイ	ヨロイクチキレ属					1	+
44		二枚貝	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	72,193	3,440.64	64,035	2,524.34	9	2.81
45					ヒバリガイ	69	0.36	2	0.01		
46					タマエガイ	32	0.11	16	0.29	1	+
47					ホトトギスガイ			6	0.12		
48			カキ	ナミマガシワ	シマナミマガシワモドキ					1	1.53
49			マルスダレガイ	イワホリガイ	ウスカラシオツガイ	1	+				
50					イワホリガイ科					4	0.05
51			オオノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ			367	3.05	32	0.52
52	節足動物	甲殻	完胸	イワフジツボ	イワフジツボ	1,501	12.52				
53				フジツボ	タテジマフジツボ	11	1.87				
54					アメリカフジツボ	1	0.23				
55					ヨーロッパフジツボ	150	2.71	5	0.02		
56					サンカクフジツボ			3	0.09	19	0.19
57			アミ	アミ	アミ科			2	+		
58			タナイス	タナイス	ゼウクソ属	1	+	18	0.03	8	0.02
59			等脚	ウミミズムシ	ウミミズムシ			26	0.02		

注）個体数の-は計数不能、湿重量の+は0.01g未満を示す。

（3）大阪沖処分場

夏季調査（平成18年8月5日）－2

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	C－2 上層 個体数	C－2 上層 湿重量	C－2 中層 個体数	C－2 中層 湿重量	C－2 下層 個体数	C－2 下層 湿重量
60	節足動物	甲殻	端脚	ﾀﾃｿｺｴﾋﾞ	ﾀﾃｿｺｴﾋﾞ属	4	+				
61				ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ属	138	0.32	557	0.92	2	0.01
62				ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ属	61	0.07	4	0.01	3	+
63				ｺﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ	ﾄﾞﾛｿｺｴﾋﾞ属			3	0.01		
64				ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属	4	0.01	73	0.38		
65				ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ属	33	0.09				
66				ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	ﾎｿﾖｺｴﾋﾞ			38	0.03	48	0.03
67					ｱﾘｱｹﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	2	+	3	+	267	0.12
68				ﾜﾚｶﾗ	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ	5	0.01	15	0.03	163	0.18
69					ｵｻﾃﾜﾚｶﾗ			1	+		
70					ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ	21	0.01	14	0.02	8	0.01
71			十脚	ﾓｴﾋﾞ	ｱｼﾅｶﾞﾓｴﾋﾞﾓﾄﾞｷ			5	0.09	1	0.02
72				ﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ	ｹｱｼﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ			1	0.02		
73				ｸﾓｶﾞﾆ	ﾖﾂﾊﾓｶﾞﾆ			7	0.32	21	0.35
74				ｲﾁｮｳｶﾞﾆ	ｺｲﾁｮｳｶﾞﾆ			2	0.18		
75				ｵｳｷﾞｶﾞﾆ	ﾋﾒｹﾌﾞｶｶﾞﾆ			3	0.14	15	0.55
76				－	ｶﾆ類ﾒｶﾞﾛﾊﾟ期幼生			1	+		
77		昆虫	双翅	ﾕｽﾘｶ	ﾕｽﾘｶ科幼虫	1,118	3.11	3	0.01	1	+
78	棘皮動物	海星	冬棘	ｷﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ					15	0.66
79		海鼠	樹手	ｷﾝｺ	ｷﾝｺ科			2	0.04		
80	－	－	－	－	卵塊			－	+	－	0.02
					出現種類数	27		52		50	
					総個体数/総湿重量	75,769	3,464.86	66,235	2,539.24	3,206	57.79

注）個体数の－は計数不能を、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

（3）大阪沖処分場

秋季調査（平成18年11月11日）－1

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	C－2 上層 個体数	C－2 上層 湿重量	C－2 中層 個体数	C－2 中層 湿重量	C－2 下層 個体数	C－2 下層 湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	-	-	尋常海綿綱			-	0.56	-	0.36
2	腔腸動物	花虫	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	ﾀﾃｼﾞﾏｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	10	2.30	1	0.22		
3				-	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目	2	0.52	61	4.23	32	0.39
4	扁形動物	渦虫	多岐腸	-	多岐腸目	17	0.41	129	7.03	19	0.19
5	紐形動物	無針	原始紐虫	ｹﾌｧﾛﾌﾘｯｸｽ	ｹﾌｧﾛﾌﾘｯｸｽ科	5	0.24	3	0.14		
6			異紐虫	ﾘﾈｳｽ	ﾘﾈｳｽ科			1	0.01		
7		有針	針紐虫	ｱﾝﾌｨﾎﾞｰﾙｽ	ﾏﾀﾞﾗﾋﾓﾑｼ			5	0.03		
8					ｱﾝﾌｨﾎﾞｰﾙｽ属			1	0.03		
9				ﾃﾄﾗｽﾃﾏ	ﾒﾉｺﾋﾓﾑｼ	4	0.02				
10	環形動物	多毛	遊在	ｳﾛｺﾑｼ	ﾌｻｳｽｳﾛｺﾑｼ	1	0.04			1	0.03
11					ﾏﾀﾞﾗｳﾛｺﾑｼ			10	0.44	3	0.08
12					*Harmothoe sp.*					1	0.05
13					ﾐﾛｸｳﾛｺﾑｼ			6	1.55	2	0.10
14				ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｱｹﾉｻｼﾊﾞ	3	0.03	25	0.49	1	+
15					ｻﾐﾄﾞﾘｻｼﾊﾞ	4	0.04			2	0.06
16					*Eulalia sp.*			2	+		
17					ﾏﾀﾞﾗｻｼﾊﾞ					1	0.02
18				ｵﾄﾋﾒｺﾞｶｲ	*Ophiodromus sp.*	9	0.05	48	0.12	20	0.18
19				ｼﾘｽ	ﾑﾗｻｷｼﾏｼﾘｽ					2	0.05
20					ｼﾛﾏﾀﾞﾗｼﾘｽ	23	0.11	2	0.01	1	0.01
21					*Typosyllis sp.*	5	0.02	1	0.01		
22					*Autolytus sp.*					1	+
23				ｺﾞｶｲ	ﾂﾙﾋｹﾞｺﾞｶｲ	2	0.02			1	0.13
24					ｲｿﾂﾙﾋｹﾞｺﾞｶｲ					1	0.07
25					ｸﾏﾄﾞﾘｺﾞｶｲ	11	0.78			9	0.33
26					ｱｼﾅｶﾞｺﾞｶｲ	5	0.11	3	0.31	3	0.08
27					ﾋﾒｺﾞｶｲ			3	0.01		
28					ﾔｽﾘｺﾞｶｲ			4	0.22		
29					ﾏｻﾞｺﾞｺﾞｶｲ	12	0.07	8	0.10	2	0.02
30					ﾌｻｳｺﾞｶｲ					11	0.09
31				ｾｸﾞﾛｲｿﾒ	*Arabella sp.*	4	0.11	1	0.02		
32			定在	ｽﾋﾟｵ	*Polydora sp.*	1	+			576	0.96
33				ﾐｽﾞﾋｷﾞｶｲ	*Dodecaceria sp.*	3	+				
34					ﾐｽﾞﾋｷﾞｶｲ			7	0.34	6	0.59
35				ﾌｻﾞｺﾞｶｲ	*Nicolea sp.*			5	1.01	26	4.11
36				ｹﾔﾘ	*Branchiomma sp.*					3	0.29
37				ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ			2,048	48.16	2,592	24.00
38					*Hydroides sp.*					48	1.15
39	触手動物	苔虫	唇口	ﾌｻｺｹﾑｼ	ﾌｻｺｹﾑｼ			-	0.03		
40				ﾋﾗｺｹﾑｼ	ﾁｺﾞｹﾑｼ			-	0.75	-	0.02
41				ｺﾌﾞｺｹﾑｼ	ｺﾌﾞｺｹﾑｼ科			-	0.04	-	0.03
42	軟体動物	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ﾋｹﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ﾋｹﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ					1	0.07
43		腹足	盤足	ｶﾘﾊﾞｶﾞｻ	ｼﾏﾒﾉｳﾌﾈｶﾞｲ			1	0.25	8	4.23
44			新腹足	ｱｶｷｶﾞｲ	ﾚｲｼｶﾞｲ	9	2.69	1	1.64	3	0.03
45				ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	ﾑｷﾞｶﾞｲ					32	1.72
46			異旋	ﾄｳｶﾞﾀｶﾞｲ	ﾖﾛｲｸﾁｷﾚ属					1	+
47			基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	10	2.27	1	0.43		
48		二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	49	45.90	372	464.92		
49					ﾋﾊﾞﾘｶﾞｲ	1	0.01	1	0.02	13	0.41
50					ｺｳﾛｴﾝｶﾜﾋﾊﾞﾘｶﾞｲ	388	25.23				
51					ﾁﾋﾞﾀﾏｴｶﾞｲ	1	0.01	2	0.07	20	0.35
52			カキ	ﾅﾐﾏｶﾞｼﾜ	ﾅﾐﾏｶﾞｼﾜ					1	1.04
53				ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	ﾏｶﾞｷ	181	168.26				
54			ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	ｳｽｶﾗｼｵﾂｶﾞｲ	12	0.62			28	0.60
55			ｵｵﾉｶﾞｲ	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ					52	1.12
56	節足動物	甲殻	完胸	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ｲﾜﾌｼﾞﾂﾎﾞ	37	0.55				
57				ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ	290	61.20				
58					ｱﾒﾘｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ	1	1.20				
59					ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ	3	0.42	9	0.31		
60					ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ			1	0.01	1,056	25.92
61					ｱｶﾌｼﾞﾂﾎﾞ	3	1.23				

注）個体数の-は計数不能，湿重量の+は0.01g未満を示す。

(3)大阪沖処分場

秋季調査（平成18年11月11日）－2

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	C－2 上層 個体数	C－2 上層 湿重量	C－2 中層 個体数	C－2 中層 湿重量	C－2 下層 個体数	C－2 下層 湿重量
62	節足動物	甲殻	タナイス	タナイス	ｾﾞｳｸｿ属	21	0.01	12	0.01	19	0.02
63			等脚	ウミミズﾑｼ	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	12	+	82	0.04	12	0.01
64				コツブﾑｼ	ｼﾘｹﾝｳﾐﾐｾﾐ	391	1.02				
65			端脚	タテソコエビ	ﾀﾃｿｺｴﾋﾞ属	2	+	4	0.01	3	0.01
66				メリタヨコエビ	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ属	8	0.03	158	0.75	4	0.02
67					ｲｿﾖｺｴﾋﾞ属	5	0.02	94	0.62		
68				モクズヨコエビ	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ属	19	0.23	1	+		
69				ユンボソコエビ	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ属					1	+
70				ヒゲナガヨコエビ	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属	10	0.03				
71				カマキリヨコエビ	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ属			6	0.01	15	0.03
72				ドロクダムシ	ﾎｿﾖｺｴﾋﾞ	8	0.01	1	+	26	0.04
73					ｱﾘｱｹﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	52	0.04				
74					ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ属	7	0.01	7	+	40	0.08
75				ワレカラ	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ			14	0.02	104	0.18
76					ｵｻﾃﾜﾚｶﾗ						
77					ｸﾋﾞﾅｶﾞﾜﾚｶﾗ	8	0.01	9	+		
78					ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ	6	0.01	63	0.12	16	0.03
79			十脚	テッポウエビ	ﾃｯﾎﾟｳｴﾋﾞ属					3	0.09
80				ロウソクエビ	ﾊﾔｼﾛｳｿｸｴﾋﾞ					7	0.16
81				カニダマシ	ｺﾌﾞｶﾆﾀﾞﾏｼ	8	0.03				
82				クモガニ	ｲｯｶｸｸﾓｶﾞﾆ					3	0.44
83				オウギガニ	ｽﾍﾞｽﾍﾞｵｳｷﾞｶﾞﾆ			1	0.46		
84					ﾋﾒｹﾌﾞｶｶﾞﾆ	3	0.02	4	0.01	37	0.36
85				イワガニ	ﾋﾗｲｿｶﾞﾆ	36	0.16				
86				－	カニ類メガロパ期幼生	4	0.01				
87		昆虫	双翅	ユスリカ	ユスリカ科幼虫	16	0.04			3	+
88	棘皮動物	蛇尾	顎蛇尾	トゲクモヒトデ	ﾅｶﾞﾄｹﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ			1	0.08		
89		海星	叉棘	キヒトデ	ｷﾋﾄﾃﾞ			1	1.23	9	2.19
90		海鼠	樹手	キンコ	ｷﾝｺ科					1	0.07
91	原索動物	尾索	壁性	ユチエラ	ｼﾛﾎﾞﾔﾓﾄﾞｷ			1	7.89		
92					ｼﾛﾎﾞﾔ			3	0.55		
93	－	－	－	－	卵塊			－	+	－	0.05
					出現種類数	49		53		57	
					総個体数/総湿重量	1,722	316.14	3,224	545.31	4,882	72.66

注）個体数の－は計数不能を、湿重量の+は0.01g未満を示す。

（3）大阪沖処分場

冬季調査（平成19年2月8日）－1

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	C－2 上層 個体数	C－2 上層 湿重量	C－2 中層 個体数	C－2 中層 湿重量	C－2 下層 個体数	C－2 下層 湿重量
1	海綿動物	尋常海綿	－	－	尋常海綿綱					－	0.16
2	腔腸動物	花虫	イソギンチャク	－	イソギンチャク目			2	0.02	11	0.17
3	扁形動物	渦虫	多岐腸	－	多岐腸目			36	0.46	2	0.02
4	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロヴリックス	ケファロヴリックス科	1	0.01			1	0.08
5			異紐虫	リネウス	リネウス科					1	0.02
6		有針	針紐虫	アンフィボールス	マダラヒモムシ			1	0.01	19	0.24
7					アンフィボールス属	5	0.08				
8				テトラステマ	メノコヒモムシ			10	0.04	1	0.02
9	環形動物	多毛	遊在	オトヒメゴカイ	*Ophiodromus* sp.					24	0.40
10				シリス	ムラサキシマシリス			6	0.05		
11					シロマダラシリス	8	0.14				
12					*Typosyllis* sp.	16	0.01	13	0.05		
13				ゴカイ	ツルヒゲゴカイ			4	0.74	4	0.11
14					イソツルヒゲゴカイ					4	0.22
15					クマドリゴカイ	3	0.31				
16					ヒメゴカイ					3	0.02
17					マサゴゴカイ			52	0.97	21	0.46
18					フツウゴカイ	3	0.46				
19				イソメ	*Eunice* sp.					5	0.28
20			定在	スピオ	*Polydora* sp.			3	0.02	25	0.15
21				ミズヒキゴカイ	*Dodecaceria* sp.					4	0.02
22					ミズヒキゴカイ					21	1.20
23				オフェリアゴカイ	カスリオフェリア					5	0.03
24				フサゴカイ	*Thelepus* sp.					32	1.59
25					*Nicolea* sp.					7	1.38
26				ケヤリ	*Sabella* sp.			1	0.01	1	0.19
27					*Branchiomma* sp.					1	0.07
28				カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシゴカイ			54	1.49	15,613	80.96
29					*Hydroides* sp.					1	+
30					*Spirobranchus* sp.					1	0.21
31	触手動物	苔虫	唇口	ヒラコケムシ	チゴケムシ			－	1.12		
32				コブコケムシ	コブコケムシ科			－	0.08		
33	軟体動物	ヒザラガイ	新ヒザラガイ	ヒゲヒザラガイ	ヒゲヒザラガイ			1	0.04	1	0.07
34				ケハダヒザラガイ	ケハダヒザラガイ属	1	0.01				
35		腹足	盤足	タマキビ	コビトウラウズガイ	1	+				
36				リソツボ	タマツボ					6	0.01
37				カリバガサ	シマメノウフネガイ					2	0.23
38			新腹足	アクキガイ	カゴメガイ					4	3.06
39					レイシガイ			1	6.21	9	56.55
40				フトコロガイ	ムギガイ			97	8.29	179	9.40
41			異腹足	ホリアラレキリオレ	ホリアラレキリオレ科					3	0.06
42			異旋	トウガタガイ	クチキレモドキ属					2	0.03
43					イトカケクチキレ属					4	0.02
44					クサズリクチキレ					1	+
45			頭楯	ブドウガイ	ブドウガイ					9	0.32
46			裸鰓	－	裸鰓目					1	0.01
47			基眼	カラマツガイ	カラマツガイ	3	2.32				
48		二枚貝	フネガイ	フネガイ	コベルトフネガイ					1	0.53
49			イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	1,576	2.33	42	0.08	1	+
50					ヒバリガイ					1	0.07
51					コウロエンカワヒバリガイ	1	+				
52			カキ	イタボガキ	マガキ	21	19.29	2	1.16		
53			マルスダレガイ	イワホリガイ	ウスカラシオツガイ					3	0.03
54					イワホリガイ科	1	+	1	0.03		
55			オオノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ					6	0.16
56	節足動物	甲殻	カラヌス	－	カラヌス目	3	+	46	0.02		
57			完胸	フジツボ	サンカクフジツボ			47	1.81	4	0.13
58			タナイス	タナイス	ゼウクツ属	4	+	22	0.02	13	0.01
59			等脚	ウミナナフシ	ウミナナフシ属			1	+		
60				ウミミズムシ	ウミミズムシ			456	0.40	77	0.06
61				コツブムシ	シリケンウミセミ			1	+		

注）個体数の－は計数不能、湿重量の+は0.01g未満を示す。

（3）大阪沖処分場

冬季調査（平成19年2月8日）－2

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	調査地点 C－2 上層 個体数	上層 湿重量	中層 個体数	中層 湿重量	下層 個体数	下層 湿重量
62	節足動物	甲殻	端脚	ﾀﾃｿｺｴﾋﾞ	ﾀﾃｿｺｴﾋﾞ属			6	+	5	0.01
63				ｱｺﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	ｱｺﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属						
64				ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	ｲｿﾖｺｴﾋﾞ属			20	0.09	1	0.01
65				ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ属	3	0.01			1	+
66				ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ	ﾕﾝﾎﾞｿｺｴﾋﾞ属			344	0.32	188	0.16
67				ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属			1	0.03		
68				ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ属			1	0.01		
69				ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	ﾎｿﾖｺｴﾋﾞ			1	0.01	4	0.01
70					ｳｴﾉﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ			4	0.01	2	+
71					ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ属					44	0.06
72				ﾜﾚｶﾗ	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ			3	0.01	12	0.06
73					ｵｻﾃﾜﾚｶﾗ					47	0.06
74					ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ			228	0.90	2	0.01
75			十脚	ﾃｯﾎﾟｳｴﾋﾞ	ﾃｯﾎﾟｳｴﾋﾞ属					3	0.10
76				ﾔﾜﾗｶﾞﾆ	ﾔﾜﾗｶﾞﾆ					1	+
77				ｸﾓｶﾞﾆ	ﾖﾂﾊﾓｶﾞﾆ			1	0.59		
78				ﾜﾀﾘｶﾞﾆ	ﾌﾀﾊﾞﾍﾞﾆﾂｹｶﾞﾆ					2	0.04
79				ｵｳｷﾞｶﾞﾆ	ｼﾜｵｳｷﾞｶﾞﾆ					3	0.15
80					ﾋﾒｹﾌﾞｶｶﾞﾆ					18	0.15
81					ｵｳｷﾞｶﾞﾆ科					2	1.01
82				ｲﾜｶﾞﾆ	ﾋﾒﾍﾟﾝｹｲｶﾞﾆ			2	0.01		
83		昆虫	双翅	ﾕｽﾘｶ	ﾕｽﾘｶ科幼虫	2	0.01				
84	棘皮動物	海星	有棘	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ			1	1.82		
85	原索動物	尾索	腸性	ｼﾞﾃﾞﾑﾆ	ﾈﾝｴｷﾎﾞﾔ			－	0.92		
86			壁性	ｽﾁｴﾗ	ｸﾛﾎﾞﾔ属			1	0.09		
87	－	－	－	－	卵塊			－	0.07	－	0.41
					出現種類数	17		40		61	
					総個体数/総湿重量	1,652	24.98	1,512	28.00	16,469	160.99

注）個体数の－は計数不能を、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

（4）泉大津沖処分場

春季調査（平成18年6月4日）－1

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	調査地点 D－2 上層 個体数	上層 湿重量	中層 個体数	中層 湿重量	下層 個体数	下層 湿重量
1	腔腸動物	花虫	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ	－	ｲｿｷﾞﾝﾁｬｸ目			1	0.02	2	0.36
2	扁形動物	渦虫	多岐腸	－	多岐腸目			5	0.23		
3	紐形動物	無針	異紐虫	ﾘﾈｳｽ	ﾘﾈｳｽ科	3	0.03	5	0.12	5	0.02
4		有針	針紐虫	ｱﾝﾌｨﾎﾞｰﾙｽ	ﾏﾀﾞﾗﾋﾓﾑｼ			1	0.01		
5				ﾃﾄﾗｽﾃﾏ	ﾒﾉｺﾋﾓﾑｼ			13	0.15		
6	環形動物	多毛	遊在	ｳﾛｺﾑｼ	*Lepidonotus* sp.	4	0.10	3	0.06		
7					ﾏﾀﾞﾗｳﾛｺﾑｼ					2	0.03
8					ﾐﾛｸｳﾛｺﾑｼ			16	0.14		
9					*Harmothoe sp.*			1	0.01	15	0.09
10				ｻｼﾊﾞｺﾞｶｲ	ｱｹﾉｻｼﾊﾞ					2	0.04
11					ﾏﾀﾞﾗｻｼﾊﾞ					2	0.01
12				ｼﾘｽ	ﾑﾗｻｷｼﾏｼﾘｽ					1	0.01
13					ｼﾛﾏﾀﾞﾗｼﾘｽ	25	0.31				
14					*Typosyllis* sp.	2	0.10	1	0.01	21	0.67
15					*Autolytus* sp.	1	+				
16				ｺﾞｶｲ	ｲｿﾂﾙﾋｹﾞｺﾞｶｲ			1	0.02		
17					ｸﾏﾄﾞﾘｺﾞｶｲ			1	0.08	1	0.44
18					ﾋﾄﾂﾌﾞｺﾞｶｲ	14	2.89				
19					ﾋﾒｺﾞｶｲ					8	0.42
20					ﾏｻｺﾞｺﾞｶｲ	4	0.05	85	0.14	1	0.01
21					ﾌｻｳｺﾞｶｲ			1	0.01		
22				ｾｸﾞﾛｲｿﾒ	*Arabella* sp.	1	0.04				
23				ﾉﾘｺｲｿﾒ	*Schistomeringos* sp.	1	0.01				
24			定在	ｽﾋﾟｵ	*Polydora* sp.			4	0.01	3	+
25					*Prionospio* sp.					1	+
26				ﾐｽﾞﾋｷﾞｺﾞｶｲ	*Dodecaceria* sp.					1	0.01
27					ﾁｸﾞｻﾐｽﾞﾋｷ					2	0.10
28					ﾐｽﾞﾋｷﾞｺﾞｶｲ					58	8.21
29				ｵﾌｪﾘｱｺﾞｶｲ	*Armandia* sp.						
30				ｲﾄｺﾞｶｲ	*Capitella* sp.					19	0.12
31				ﾀﾏｼｷｺﾞｶｲ	*Arenicola* sp.					10	2.10
32				ｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ	ｴｿﾞｶｻﾈｶﾝｻﾞｼｺﾞｶｲ			9	0.44		
33	触手動物	苔虫	唇口	ﾋﾗｺｹﾑｼ	ﾋﾗｺｹﾑｼ科			－	0.06		
34				ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ	ﾓﾝｸﾞﾁｺｹﾑｼ科			－	0.01		
35				ｲﾀｺﾌﾞｺｹﾑｼ	ｲﾀｺﾌﾞｺｹﾑｼ科			－	0.05		
36				ｺﾌﾞｺｹﾑｼ	ｺﾌﾞｺｹﾑｼ科			－	0.02	－	+
37	軟体動物	ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	新ﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ	ｹﾊﾀﾞﾋｻﾞﾗｶﾞｲ属	2	1.51				
38		腹足	古腹足	ﾆｼｷｳｽﾞ	ｺｼﾀｶｶﾞﾝｶﾞﾗ			1	6.64	3	12.32
39			盤足	ﾘｿﾂﾎﾞ	ﾀﾏﾂﾎﾞ					3	+
40				ｶﾘﾊﾞｶﾞｻ	ｼﾏﾒﾉｳﾌﾈｶﾞｲ					23	7.05
41			新腹足	ｱｹｷｶﾞｲ	ﾚｲｼｶﾞｲ	1	0.21			2	0.10
42				ﾌﾄｺﾛｶﾞｲ	ﾑｷﾞｶﾞｲ			3	0.13	88	3.52
43			頭楯	ﾌﾞﾄﾞｳｶﾞｲ	ﾌﾞﾄﾞｳｶﾞｲ					2	0.10
44			側鰓	ｳﾐﾌｸﾛｳ	ｳﾐﾌｸﾛｳ					3	6.22
45			基眼	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	ｶﾗﾏﾂｶﾞｲ	4	5.15				
46		二枚貝	ｲｶﾞｲ	ｲｶﾞｲ	ﾑﾗｻｷｲｶﾞｲ	9,168	1,758.72	14,669	3,165.69	245	3,576.01
47					ﾐﾄﾞﾘｲｶﾞｲ					1	2.01
48					ﾀﾏｴｶﾞｲ			3	0.07	3	0.03
49				ｲﾀﾎﾞｶﾞｷ	ﾏｶﾞｷ			1	0.03		
50			ﾏﾙｽﾀﾞﾚｶﾞｲ	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ	ｲﾜﾎﾘｶﾞｲ科			3	0.26		
51			ｵｵﾉｶﾞｲ	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ	ｷﾇﾏﾄｲｶﾞｲ	2,208	52.80	3,754	100.32	38	0.96
52	節足動物	甲殻	完胸	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ			4	1.58		
53			軟甲	ｺﾉﾊｴﾋﾞ	ｺﾉﾊｴﾋﾞ					10	0.09
54			端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ属	1	0.01	2	0.01	1	0.01
55				ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ属	1	+			1	+
56				ﾕﾝﾎﾞﾘｺｴﾋﾞ	ﾕﾝﾎﾞﾘｺｴﾋﾞ属					1	+
57				ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属	4	0.08	2	0.05	2	0.01
58				ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ属	2	0.01			1	+
59				ﾄﾞﾛｸﾞﾑｼ	ｱﾘｱｹﾄﾞﾛｸﾞﾑｼ			1	+	5	+
60				ﾜﾚｶﾗ	ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ	154	0.82	94	0.64	5	0.01

注）個体数の－は計数不能、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

（4）泉大津沖処分場

春季調査（平成18年6月4日）－2

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	調査地点 D－2 上層 個体数	上層 湿重量	中層 個体数	中層 湿重量	下層 個体数	下層 湿重量
61	節足動物	甲殻	十脚	ﾓｴﾋﾞ	ｱｼﾅｶﾞﾓｴﾋﾞﾓﾄﾞｷ					3	0.01
62				ﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ	ｹｱｼﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ			1	0.01		
63					ﾎﾝﾔﾄﾞｶﾘ属					3	0.01
64				ｸﾓｶﾞﾆ	ﾖﾂﾊﾓｶﾞﾆ			3	0.02	1	0.25
65				ｵｳｷﾞｶﾞﾆ	ﾋﾒｹﾌﾞｶｶﾞﾆ			5	0.08	7	0.19
66		昆虫	双翅	ﾕｽﾘｶ	ﾕｽﾘｶ科幼虫	1	+				
67	棘皮動物	海星	有棘	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ			6	99.47	11	135.62
68			叉棘	ｷﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ	1	2.35	10	13.19	21	1.48
69		海鼠	樹手	ｷﾝｺ	ｲｼｺ属					1	0.03
70	－	－	－	－	卵塊	－	0.93			－	0.23
					出現種類数	22		36		46	
					総個体数/総湿重量	11,602	1,826.12	18,709	3,389.78	638	3,758.90

注）個体数の－は計数不能、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

（4）泉大津沖処分場

夏季調査（平成18年8月4日）－1

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	D－2 上層 個体数	D－2 上層 湿重量	D－2 中層 個体数	D－2 中層 湿重量	D－2 下層 個体数	D－2 下層 湿重量
1	腔腸動物	ヒドロ虫	軟クラゲ	ウミシバ	ウミシバ科			－	0.01	－	0.02
2		花虫	イソギンチャク	－	イソギンチャク目			268	1.85	62	0.70
3	扁形動物	渦虫	多岐腸	－	多岐腸目	8	0.23	662	2.51	55	0.23
4	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロヴリックス	ケファロヴリックス科					2	0.19
5			異紐虫	リネウス	リネウス科	39	0.30			4	0.01
6		有針	針紐虫	アンフィポールス	マダラヒモムシ	3	0.02				
7					アンフィポールス属					2	0.03
8				テトラステマ	メノコヒモムシ	3	0.02	6	0.03	3	0.02
9	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	*Lepidonotus* sp.			4	0.02		
10					サンハチウロコムシ					3	0.30
11					ミロクウロコムシ					2	0.16
12					*Harmothoe* sp.			7	0.03	60	0.98
13				サシバゴカイ	*Anaitides* sp.			4	0.02		
14					*Eulalia* sp.	2	0.01				
15				オトヒメゴカイ	*Ophiodromus* sp.			29	0.14	30	0.22
16				シリス	カキモトシリス			2	+		
17					ムラサキシマシリス			1	+		
18					シロマダラシリス	58	0.33				
19					*Typosyllis* sp.	39	0.09	47	0.15	14	0.04
20				ゴカイ	イソツルヒゲゴカイ	1	+	1	0.01		
21					クマドリゴカイ	3	0.42			1	0.58
22					ヒトツブゴカイ	3	0.30	3	0.37		
23					アシナガゴカイ	94	1.18	64	1.82	3	0.31
24					ヒメゴカイ			154	1.36	16	0.20
25					マサゴゴカイ	31	0.45	84	2.24	5	0.28
26				チロリ	*Glycera* sp.					5	0.26
27				イソメ	*Eunice* sp.					1	0.07
28				セグロイソメ	*Arabella* sp.	1	0.18				
29			定在	スピオ	*Polydora* sp.			2	0.01	2	0.01
30				ミズヒキゴカイ	チグサミズヒキ			34	0.07	5	0.13
31					ミズヒキゴカイ	36	0.09	686	1.06	12	0.97
32				オフェリアゴカイ	カスリオフェリア	3	0.01	11	0.05		
33				イトゴカイ	*Capitella* sp.			3	0.01		
34				タマシキゴカイ	*Arenicola* sp.					2	0.27
35				フサゴカイ	*Lanice* sp.					1	0.07
36				カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシゴカイ	15	0.02	10	0.04	25	0.06
37	触手動物	苔虫	唇口	トゲイタコケムシ	*Callopora* sp.					－	0.01
38				フサコケムシ	フサコケムシ					－	0.02
39				ヒラコケムシ	ヒラコケムシ科	－	0.19	－	0.01	－	0.05
40				コブコケムシ	コブコケムシ科			－	0.01	－	0.08
41	軟体動物	腹足	古腹足	ニシキウズ	コシタカガンガラ					1	6.35
42			盤足	カリバガサ	シマメノウフネガイ					9	2.08
43			新腹足	アクキガイ	レイシガイ	1	8.08			1	0.29
44				フトコロガイ	ムギガイ	1	+	5	0.06	99	3.64
45		二枚貝	イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	22,016	855.04	78,848	4,259.84	4,443	1,026.88
46					コウロエンカワヒバリガイ	15	0.23				
47					タマエガイ			3	0.04	18	0.68
48					ホトトギスガイ	17	0.08	1	+	1	0.02
49			ミノガイ	ミノガイ	ユキミノ属					1	0.35
50			カキ	ナミマガシワ	シマナミマガシワモドキ			1	0.40		
51			マルスダレガイ	マルスダレガイ	*Callista* sp.					21	2.38
52				イワホリガイ	チジミイワホリガイ					1	0.15
53					ウスカラシオツガイ	184	0.46	569	3.03	31	0.23
54					イワホリガイ科	37	0.70			2	1.33
55			オオノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ	16	0.15	1,061	26.73	33	1.91
56	節足動物	甲殻	完胸	フジツボ	ヨーロッパフジツボ	163	0.75	19	0.16		
57					サンカクフジツボ	96	0.32			3	0.14
58			コノハエビ	コノハエビ	コノハエビ					1	+
59			タナイス	タナイス	ゼウクツ属	1	+	2	+	22	0.01
60			等脚	ウミミズムシ	ウミミズムシ	1	+	77	0.02		

注）個体数の－は計数不能、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

（4）泉大津沖処分場

夏季調査（平成18年8月4日）－2

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	D－2 上層 個体数	D－2 上層 湿重量	D－2 中層 個体数	D－2 中層 湿重量	D－2 下層 個体数	D－2 下層 湿重量
61	節足動物	甲殻	端脚	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ属	1	+	42	0.05	21	0.06
62				ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ属	74	0.06	8	0.01		
63				ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属	933	1.58				
64				ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ属	2	0.01				
65				ﾄﾞﾛｸﾞﾑｼ	ﾎｿﾖｺｴﾋﾞ					1	+
66					ｱﾘｱｹﾄﾞﾛｸﾞﾑｼ			19	0.01	1	+
67				ﾜﾚｶﾗ	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ			1	+		
68					ｸﾋﾞﾅｶﾞﾜﾚｶﾗ			3	0.01		
69					ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ	1,018	0.73	392	0.43		
70			十脚	ﾓｴﾋﾞ	ｲｿﾓｴﾋﾞ					1	0.02
71				ｸﾓｶﾞﾆ	ﾖﾂﾊﾓｶﾞﾆ			2	0.03	9	0.23
72				ｲﾁｮｳｶﾞﾆ	ｺｲﾁｮｳｶﾞﾆ					2	0.17
73				ｶｸﾚｶﾞﾆ	ｵｵｼﾛﾋﾟﾝﾉ					1	0.51
74	棘皮動物	海星	有棘	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ					7	95.06
75			叉棘	ｷﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ					6	29.71
76	原索動物	尾索	壁性	ｽﾁｴﾗ	ｴﾎﾞﾔ			1	1.21		
77	－	－	－	－	卵塊			－	0.36		
					出現種類数	34		43		53	
					総個体数/総湿重量	24,915	872.03	83,136	4,304.21	5,051	1,178.47

注）個体数の－は計数不能、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

(4) 泉大津沖処分場

秋季調査（平成18年11月10日）－1

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	D－2 上層 個体数	D－2 上層 湿重量	D－2 中層 個体数	D－2 中層 湿重量	D－2 下層 個体数	D－2 下層 湿重量
1	腔腸動物	ヒドロ虫	花クラゲ	クダウミヒドラ	クダウミヒドラ科	－	0.01	－	0.04		
2			軟クラゲ	ウミサカヅキガヤ	ウミサカヅキガヤ科			－	0.08	－	0.03
3				ウミシバ	ウミシバ科			－	0.01	－	0.02
4		花虫	イソギンチャク	タテジマイソギンチャク	タテジマイソギンチャク	12	1.16				
5				－	イソギンチャク目	174	3.31	1,097	18.69	71	0.90
6	扁形動物	渦虫	多岐腸	－	多岐腸目	2	0.02	32	0.36	2	0.01
7	紐形動物	無針	原始紐虫	ケファロヴリックス	ケファロヴリックス科			1	0.02		
8			異紐虫	リネウス	リネウス科	12	0.04				
9		有針	針紐虫	アンフィボールス	マダラヒモムシ	4	0.03			2	0.11
10	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	マダラウロコムシ			56	1.87		
11					*Harmothoe sp.*			8	1.60		
12					ミロクウロコムシ	16	0.24	14	3.15		
13				サシバゴカイ	アケノサシバ			2	0.03		
14					サミドリサシバ	15	0.07				
15					マダサシバ	5	0.04				
16				オトヒメゴカイ	*Ophiodromus sp.*	75	0.32	85	1.10	46	0.40
17				シリス	*Typosyllis sp.*	16	0.08				
18					*Autolytus sp.*			15	0.15	8	0.07
19					*Typosyllis sp.*			5	0.02		
20				ゴカイ	イソツルヒゲゴカイ			3	0.15		
21					クマドリゴカイ	17	0.64	6	0.09		
22					アシナガゴカイ	15	0.04			2	0.01
23					ヒメゴカイ	11	0.10	17	0.04		
24					マサゴゴカイ	123	2.80	32	1.12	2	0.01
25				イソメ	*Eunice sp.*			1	0.02		
26				セグロイソメ	*Arabella sp.*	2	0.01				
27			定在	スピオ	*Polydora sp.*	1,728	3.04	136	0.64	576	1.76
28				ミズヒキゴカイ	*Dodecaceria sp.*	384	0.64			4	0.01
29					チグサミズヒキ					9	0.05
30					ミズヒキゴカイ	17	0.16	16	0.24	14	0.17
31				オフェリアゴカイ	カスリオフェリア						
32				イトゴカイ	*Capitella sp.*	3	0.01			1	+
33				ケヤリ	*Sabella sp.*	445	6.55	1	3.32	3	0.05
34				カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシゴカイ	24	0.15	224	2.24		
35	触手動物	苔虫	唇口	フサコケムシ	フサコケムシ			－	0.13		
36				ヒラコケムシ	チゴケムシ			－	0.15	－	0.03
37					ヒラコケムシ科					－	0.02
38				コブコケムシ	コブコケムシ科			－	0.02		
39	軟体動物	腹足	盤足	リシツボ	タマツボ			124	0.21	3	0.01
40				カリバガサ	シマメノウフネガイ			2	0.31	9	14.32
41			新腹足	アクキガイ	カゴメガイ			21	0.43		
42					レイシガイ	2	0.08	5	1.06		
43				フトコロガイ	ムギガイ			157	2.97	11	0.91
44					ノミニナモドキ			76	0.17		
45			異旋	ナワメグルマ	クリイロナワメグルマ			1	+	2	0.02
46				トウガタガイ	ヨロイクチキレ属			4	+		
47					イトカケクチキレ属			3	+		
48			裸鰓	－	裸鰓目			3	0.04		
49		二枚貝	フネガイ	フネガイ	エガイ					1	0.03
50			イガイ	イガイ	ムラサキイガイ	8	0.11	2	0.35		
51					ミドリイガイ	1	0.10			11	0.37
52					ヒバリガイ	3	0.04	5	0.02	3	0.02
53					コウロエンカワヒバリガイ	2	0.03				
54					チビタマエガイ	9	0.13				
55					タマエガイ	18	0.22	46	0.27	51	1.41
56					ヤマトトギス	3	0.04				
57			マルスダレガイ	コハクノツユ	コハクノツユ属			1	+		
58				マルスダレガイ	アサリ					2	0.01
59				イワホリガイ	ウスカラシオツガイ	1,065	25.45	246	2.89	131	1.95
60					イワホリガイ科	4	0.20				
61			オオノガイ	キヌマトイガイ	キヌマトイガイ					1	+

注）個体数の－は計数不能、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

（4）泉大津沖処分場

秋季調査（平成18年11月10日）－2

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	D－2 上層 個体数	D－2 上層 湿重量	D－2 中層 個体数	D－2 中層 湿重量	D－2 下層 個体数	D－2 下層 湿重量
62	節足動物	海蜘蛛	真皆脚	ｲｿｳﾐｸﾞﾓ	ｲｿｳﾐｸﾞﾓ属	1	+	6	0.01	2	+
63		甲殻	完胸	ﾌｼﾞﾂﾎﾞ	ﾖｰﾛｯﾊﾟﾌｼﾞﾂﾎﾞ			1	0.02		
64					ﾀﾃｼﾞﾏﾌｼﾞﾂﾎﾞ	5	0.02				
65					ｻﾝｶｸﾌｼﾞﾂﾎﾞ	14	0.56	1,958	30.91	261	6.30
66			ﾀﾅｲｽ	ﾀﾅｲｽ	ｾﾞｳｸﾘ属	23	0.04	7	0.01	5	+
67			等脚	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	ｳﾐﾐｽﾞﾑｼ	2	+	8	0.01	4	+
68			端脚	ﾀﾃﾘｺｴﾋﾞ	ﾀﾃﾘｺｴﾋﾞ属	192	0.16	3	0.01	8	+
69				ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ	ﾒﾘﾀﾖｺｴﾋﾞ属			4	0.01	2	+
70					ｲｿﾖｺｴﾋﾞ属	15	0.14	11	0.05	5	+
71				ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾓｸｽﾞﾖｺｴﾋﾞ属					2	+
72				ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ	ﾋｹﾞﾅｶﾞﾖｺｴﾋﾞ属	192	1.45	3	0.01	4	0.01
73				ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ	ｶﾏｷﾘﾖｺｴﾋﾞ属	160	0.32			41	0.07
74				ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	ﾎｿﾖｺｴﾋﾞ	18	0.03	117	0.15		
75					ﾄﾝｶﾞﾘﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ	11	0.01	1	+	3	+
76					ﾄﾞﾛｸﾀﾞﾑｼ属	52	0.17	22	0.03	10	0.01
77				ﾜﾚｶﾗ	ﾄｹﾞﾜﾚｶﾗ	32	0.16	16	0.03	7	0.01
78					ｸﾋﾞﾅｶﾞﾜﾚｶﾗ	2,336	2.88	37	0.05	5	0.01
79					ﾏﾙｴﾗﾜﾚｶﾗ	816	1.28	2	+		
80			十脚	ﾛｳｿｸｴﾋﾞ	ﾊﾔｼﾛｳｿｸｴﾋﾞ					9	0.12
81				ｶﾆﾀﾞﾏｼ	ｺﾌﾞｶﾆﾀﾞﾏｼ			6	0.03	3	0.02
82				ｶｲｶﾑﾘ	ｶｲｶﾑﾘ科			1	0.03	1	0.01
83				ｸﾓｶﾞﾆ	ｲｯｶｸｸﾓｶﾞﾆ			22	0.61	22	0.13
84				ﾋｼｶﾞﾆ	ｾｽｼﾞﾋｼｶﾞﾆ					1	0.02
85				ﾜﾀﾘｶﾞﾆ	ｶﾞｻﾞﾐ属					1	0.01
86				ｵｳｷﾞｶﾞﾆ	ﾋﾒｹﾌﾞｶｶﾞﾆ			92	0.31	10	0.04
87				ｲｿｶﾞﾆ	ﾋﾗｲｿｶﾞﾆ			2	0.02	13	0.10
88				－	力ニ類ﾒｶﾞﾛﾊﾟ期幼生	1	+	9	0.02	2	0.01
89		昆虫	双翅	ﾕｽﾘｶ	ﾕｽﾘｶ科					2	+
90	棘皮動物	海胆	拱歯	ｻﾝｼｮｳｳﾆ	ｻﾝｼｮｳｳﾆ					2	0.03
91		蛇尾	顎蛇尾	ﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ	ｸｻｲﾛﾁﾋﾞｸﾓﾋﾄﾃﾞ			1	+	5	0.03
92		海星	有棘	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ	ｲﾄﾏｷﾋﾄﾃﾞ					7	77.37
93			叉棘	ｷﾋﾄﾃﾞ	ｷﾋﾄﾃﾞ			1	14.04		
94	原索動物	尾索	腸性	ｷｵﾅ	ｶﾀﾕｳﾚｲﾎﾞﾔ			8	0.81	2	0.30
95			壁性	ｽﾁｴﾗ	ｼﾛﾎﾞﾔ	5	0.68				
96				ﾋﾟｳﾗ	ｶﾗｽﾎﾞﾔ			2	0.03	1	0.28
97				ﾌｸﾛﾎﾞﾔ	ﾏﾝﾊｯﾀﾝﾎﾞﾔ			1	0.20		
98	脊椎動物	硬骨魚	ｽｽﾞｷ	ｲｿｷﾞﾝﾎﾞ	ｲｿｷﾞﾝﾎﾞ科			1	0.07		
					出現種類数	49		67		57	
					総個体数/総湿重量	8,090	53.76	4,789	91.47	1,405	107.58

注）個体数の－は計数不能、湿重量の＋は0.01g未満を示す。

（4）泉大津沖処分場

冬季調査（平成19年2月5日）－1

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	D－2 上層 個体数	D－2 上層 湿重量	D－2 中層 個体数	D－2 中層 湿重量	D－2 下層 個体数	D－2 下層 湿重量
1	腔腸動物	花虫	イソギンチャク	－	イソギンチャク目	3	0.33	1	0.01		
2	扁形動物	渦虫	多岐腸	－	多岐腸目			144	2.45	6	0.15
3	紐形動物	無針	異紐虫	リネウス	リネウス科	2	0.02				
4	環形動物	多毛	遊在	ウロコムシ	マダラウロコムシ			9	0.03	3	0.07
5					*Harmothoe sp.*			2	0.02		
6				サシバゴカイ	サミドリサシバ			6	0.04		
7				シリス	*Trypanosyllis sp.*					1	+
8					シロマダラシリス	11	0.07				
9					*Typosyllis sp.*			12	0.07	8	0.05
10				ゴカイ	ツルヒゲゴカイ			2	0.10		
11					クマドリゴカイ	4	0.07				
12					アシナガゴカイ	7	0.35				
13					ヒメゴカイ			7	0.02		
14					マサゴゴカイ	2	0.02	45	0.37	2	0.02
15			定在	オフェリアゴカイ	カスリオフェリア			1	+		
16				ケヤリ	*Sabella sp.*			4	0.05		
17				カンザシゴカイ	エゾカサネカンザシゴカイ			48	0.65		
18				ウズマキゴカイ	*Dexiospira sp.*					5	+
19	軟体動物	ヒザラガイ	新ヒザラガイ	ウスヒザラガイ	ウスヒザラガイ科	1	0.49				
20				ケハダヒザラガイ	ケハダヒザラガイ属	1	0.06				
21		腹足	古腹足	ツタノハ	ヨメガカサ	2	0.71				
22					マツバガイ	2	0.75				
23				ユキノカサ	コモレビコガモガイ	2	1.37				
24				ニシキウズ	コシダカガンガラ					7	34.67
25			新腹足	アクキガイ	イボニシ	4	0.30				
26				フトコロガイ	ムギガイ			43	5.63	31	3.13
27			異腹足	ナワメグルマ	クリイロナワメグルマ					1	0.03
28			基眼	カラマツガイ	カラマツガイ	4	1.24				
29					キクノハナガイ	1	0.92				
30		二枚貝	フネガイ	フネガイ	コベルトフネガイ					1	+
31			イガイ	イガイ	ムラサキイガイ			8	0.02		
32					ヒバリガイ			1	0.04	3	0.13
33					タマエガイ			36	0.78	4	0.11
34					ホトトギス			1	+	5	0.15
35			マルスダレガイ	イワホリガイ	チヂミイワホリガイ			1	0.05		
36					ウスカラシオツガイ			75	2.03	7	0.23
37					イワホリガイ科			1	0.02		
38	節足動物	海蜘蛛	真皆脚	イソウミグモ	イソウミグモ科			2	0.04		
39		甲殻	カラヌス	－	カラヌス目	3	+				
40			完胸	フジツボ	ヨーロッパフジツボ			16	0.20	1	0.12
41					サンカクフジツボ			332	10.24	559	45.09
42					アカフジツボ			1	0.01		
43			タナイス	タナイス	ピウクリ属			3	0.01	3	+
44			等脚	ウミミズムシ	ウミミズムシ	1	+	11	0.10	2	+
45				コツブムシ	シリケンウミセミ	30	0.16	1	0.03		
46					ツノオウミセミ属			1	0.07		
47					コツブムシ科			1	+		
48			端脚	タテソコエビ	タテソコエビ属			3	+		
49				アゴナガヨコエビ	アゴナガヨコエビ属	3	+	3	+		
50				メリタヨコエビ	イソヨコエビ属			23	0.12		
51				モクズヨコエビ	モクズヨコエビ属	14	0.03				
52				ヒゲナガヨコエビ	ヒゲナガヨコエビ属	35	0.25	32	0.38	1	+
53				カマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ属			16	0.05	4	0.01
54				ドロクダムシ	ホリヨコエビ			5	0.01		
55					アリアケドロクダムシ			7	0.02		
56					ウエノドロクダムシ			1	+		
57					ドロクダムシ属			3	0.01	2	+
58				ワレカラ	トゲワレカラ			1	+	3	0.01
59					クビナガワレカラ			7	0.01		
60					マルエラワレカラ	2	+	37	0.11	6	0.01

注）個体数の－は計数不能、湿重量の+は0.01g未満を示す。

(4)泉大津沖処分場

冬季調査（平成19年2月5日）－2

単位：個体/0.25㎡、g/0.25㎡

番号	門	綱	目	科	種名	D－2 上層 個体数	D－2 上層 湿重量	D－2 中層 個体数	D－2 中層 湿重量	D－2 下層 個体数	D－2 下層 湿重量
61	節足動物	甲殻	十脚	ホンヤドカリ	ケアシホンヤドカリ					2	1.56
62					ユビナガホンヤドカリ			1	0.99		
63				ヤワラガニ	ヤワラガニ					1	+
64				クモガニ	イッカククモガニ					1	+
65				イチョウガニ	イボイチョウガニ					3	0.02
66				オウギガニ	ヒメケブカガニ			27	0.37	1	+
67					オウギガニ科			1	0.01		
68		昆虫	双翅	ユスリカ	ユスリカ科	5	0.03				
69	棘皮動物	海星	有棘	イトマキヒトデ	イトマキヒトデ					2	34.09
70	－	－	－	－	卵塊			－	0.12	－	0.04
					出現種類数	22		45		30	
					総個体数/総湿重量	139	7.17	982	25.28	675	119.69

注）個体数の－は計数不能、湿重量の＋は0.01g未満を示す。